新幹線文化財調查事務所調查報告書 第5集

九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)建設工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

V

竹松遺跡Ⅱ

2017

長崎県教育委員会

新幹線文化財調查事務所調查報告書 第5集

九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)建設工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

V

竹松遺跡Ⅱ



遺跡遠景(南から)

TAK201208 調査区(手前~中央)。TAK201202 調査区(中央左奥、ブルーシートを剥いで調査中)。 奥に大村湾と彼杵方面が見える。調査区左に JR 大村線が走り、右に郡川が流れる。



遺跡遠景(北から)

TAK201202 調査区(手前~中央)。TAK201208 調査区(中央奥。仮設駐車場左横付近)。 調査区右に JR 大村線が走り、左に郡川が流れる。



TAK201202調査区遠景(東から)

中央を横切る道路は国道 34 号線。その先は黒丸遺跡。 大村湾を挟み石鍋の生産地が集中する西彼杵半島が見える。



湖州六花鏡 (クリーニングおよび処理後の状況) 茶色の錆状の塊は木質が付着したものである。 TAK201202⑧調査区 ST4 より出土。

発刊にあたって

本書は、九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)建設工事に伴って実施された、大村市竹松遺跡の発掘調査報告書です。

竹松遺跡は、以前より埋蔵文化財の包蔵地として知られておりましたが、九州新幹線の車両整備のための保守基地(後に車両基地に拡大)建設予定地に該当したことから、やむなく発掘調査を行ったものです。

併せて車両基地に隣接する新幹線の車両が走ります路線部の発掘調査も行っております。

調査対象面積は、約10万㎡に及び、これほど広い土地を短期間で発掘調査 することは、本県でも初めてのことでした。

同遺跡の発掘調査は、平成23年度から着手し、同28年度に終了しましたが、これほどまでに広大な土地を原始時代から近世初期まで、定点的に見ることができる遺跡は、本県では、壱岐市にある国の特別史跡である原の辻遺跡ぐらいでしたので、本土部では初めての遺跡になります。

本書は、そのうちの平成24年度の発掘調査成果を掲載しております。平成25年度以降の調査成果も随時報告書を作成し、今後、公にいたします。

竹松遺跡の調査成果を基に、周辺遺跡の再検討が行われ、大村市ひいては本 県の原始・古代・中世の歴史が新たな研究段階にはいることが期待されます。

最後になりましたが、発掘調査を支援していただいた大成エンジニアリング株式会社および株式会社創建の共同企業体の皆様、扇精光株式会社および株式会社三基の共同企業体の皆様、暑さ寒さの厳しいなか、発掘調査に従事された外業作業員の方々をはじめ、さまざまな形でご協力いただいた大村市教育委員会や独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構の皆様など、関係者の皆様に御礼申し上げまして、刊行のあいさつといたします。

平成29年11月30日

長崎県教育委員会教育長 池松 誠二

例 言

- 1. 本書は、九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)建設(事業主体:独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構)に伴って実施した長崎県大村市に所在する竹松遺跡のTAK201202調査区(大村市竹松町1021番地ほか所在、調査面積10,000㎡)とTAK201208調査区(大村市竹松町1037番地ほか所在、調査面積6,300㎡)の埋蔵文化財発掘調査報告書である。なお、TAK201202調査区の弥生時代後期の集団墓は『竹松Ⅲ』で報告する。
- 2. 調査は、長崎県教育庁新幹線文化財調査事務所が主体となり、TAK201202調査区は大成エンジニアリング株式会社と株式会社創建の共同企業体の支援を得た。また、TAK201208調査区は扇精光株式会社と株式会社三基の共同企業体の支援を得て行った。調査期間は以下のとおりである。
 - (1) 範囲確認調査

TAK201202調査区:平成23年 7月 4日(月)~同年 9月8日(木) TAK201208調査区:平成24年10月30日(火)~同年11月9日(金)

(2) 本調査

TAK201202調查区:平成24年5月18日(金)~平成25年3月15日(金) TAK201208調查区:平成24年8月31日(金)~平成25年3月14日(木)

- 3. 遺物写真撮影は縄文時代の遺物を新久保恒和が撮影し、それ以外を東郷一子が撮影した。
- 4. 湖州六花鏡の鏡面の鉛同位体比分析を国立歴史民俗博物館の齋藤努教授に依頼した。また、 湖州六花鏡鏡面の分析を長崎県埋蔵文化財センターに依頼した。さらにTAK201202調査区の リン・カルシウム分析を株式会社古環境研究所に委託した。
- 5. 本報告書の執筆担当者は本文目次に () で示している。編集は中尾、中川、川畑が分担し、総編集を古門が行い、杉原がそれを助けた。
- 6. 本書で用いた座標は、すべて世界測地系を用い、方位はすべて座標北である。
- 7. 記録類および出土遺物は、長崎県教育庁新幹線文化財調査事務所に保管している。
- 8. 遺跡調査番号はTAK201202とTAK201208である。
- 9. 本書で使用した遺構番号は以下のとおりである。

SD:溝 SK:土坑 SP:柱穴 SC:竪穴建物跡 TP:試掘坑

ST:埋葬施設 SA:柵 SL:炉、カマド、焼土、鍛冶遺構 SX:不明遺構

10. 本書の作成にあたり以下の文献を土器編年の基礎資料とした。

縄文土器:水ノ江和同『九州縄文文化の研究』雄山閣2012

弥生土器:柳田康雄『九州弥生文化の研究』学生社2002

甕棺 :橋口達也『甕棺と弥生時代年代論』雄山閣2005

土師器 : 柳田康雄「九州土師器の編年」『九州弥生文化の研究』学生社2002

須恵器 : 舟山良一編『牛頸窯跡 総括報告書』大野城市文化財報告書第77集2008

貿易陶磁:山本信夫『大宰府条坊XV』(大宰府市の文化財第49集)大宰府市教育委員会2000

石鍋 : 木戸雅寿「石鍋の生産と流通について」1993(中世土器研究会編1993『中近世土

器の基礎研究 9 』 所収)

竹松遺跡Ⅱ

		本	文	目	}	欠	(1)						*	()	内	は執	筆者
т		·												,,,,						
Ι	調査の経過(古門、堀内)・																			1
	1 調査に至る経緯・・・・・・																			1
	(1) 九州新幹線西九州ルート(1
	(2) 調査の経緯・・・・・・																			5
	2 調査組織・・・・・・・・																			8
	3 調査方法・・・・・・・・	• •	• •	• •	• •	•	•	• •	•	•	• •	•	•	• •	•	•	•	•	•	9
Π	地理的・歴史的環境(浦田	3、坼	(内)			•			•											10
	 地理的環境・・・・・・・ 																			10
	2 歴史的環境・・・・・・・																			11
																				
\prod																				13
	1 共通土層・・・・・・・・																			13
	2 TAK201202調査区の基本層序																			13
	3 TAK201208調査区の基本層序	• •	• •	• •	• •	•	•	• •	•	•	• •	•	•	• •	•	•	•	•	•	17
IV	遺構と遺物・・・・・・・					•	•		•	•		•	•		•	•	•		•	19
	1 縄文時代(中尾)・・・・・						•		•			•				•	•	•		19
	-																			19
	(2)包含層出土の遺物・・・・																			19
	①TAK201202調査区の包含層出土道																			19
	a. 土器 · · · · · ·																			19
	b. 石器 ・・・・・・																			27
																				33
	②TAK201208調査区の縄文時代包含	全層出	1+0	遺物	J •															35
	a. 土器 • • • • • • •																			35
	b. 石器 · · · · · · ·																			35
	2 弥生時代(中川)・・・・・																			47
	(1) 遺構・・・・・・・・・・																			47
	①TAK201202⑦区SP300 · · · ·																			47
	②TAK201202⑥区SK115 · · · ·																			47
	③TAK201202⑥区SS04 · · · ·																			48
	④TAK201202④区SD14 · · · ·																			49
	⑤TAK201202④区SD15 · · · ·																			52
	⑥TAK201208 4区北SD1 · · · ·																			59
	⑦TAK201208 4区南ST1 · · · ·																			62
	®TAK201208 4 区北ST2 · · · ·																			63
	9TAK201208 4区南ST3 ・・・・																			63
	⑩TAK201208 4区南ST4 · · · ·																			66
	①TAK201208 4区南ST5 · · · ·																			67
	(2) TAK201202調査区弥生時代包								•	•			•		•	•	•			68
	(3) TAK201208調査区弥生時代包								•						•	•				75
	(3) TAK201200調査区が主時代已 3 古墳時代(中川)・・・・・									•							•			87
										•									•	87
	①TAK201202①区SK35 · · · ·									•							•			87
	②TAK201202①\\\SK36 \cdot					•			•	•			•		•	•	•			88
	③TAK201202⑤区SK84 · · · ·					•			•			•			•	•				89

		本	文	目	次	(2)					*	()	内	は幸	執筆者
④TAK201202⑤区SK99 · · ·											•							92
⑤TAK201202⑤区SK101 · · ·											•							92
⑥TAK201202⑥区SK113 · · ·											•							93
⑦TAK201202⑥区SK114 · · ·											•							93
®TAK201202⑦⊠SK117 · · ·											•							95
											•							95
①TAK201202①⊠SP62 · · ·											•							96
①TAK201202②⊠SP180 · · ·											•							96
①TAK201202⑤⊠SP201 · · ·											•							97
①3TAK201202⑤区SP207 · · ·											•							98
(∰TAK201202② ≤SP559 · · ·											•							98
⑤TAK201202⑥区SX11 · · ·											•							99
(2) TAK201202調査区古墳時											•							100
(3) TAK201208調査区古墳時代											•							111
小結・・・・・・・・・・											•							111
4 古代・中世(川畑)・・・											•							129
(1)検出遺構と遺構内出土遺											•							129
①柵列 • • • • • • •											•							129
②掘立柱建物 · · · · · ·											•							129
③竪穴建物 · · · · · ·											•							142
④溝・河川 ・・・・・・											•							158
⑤鍛冶遺構 · · · · · ·											•							184
⑥土坑 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·											•							187
⑦焼土・炉・カマド・・・・											•							207
⑧集石遺構 ・・・・・・											•							207
⑨不明遺構 ・・・・・・・											•							208
⑩墓 • • • • • • • •											•							209
① ⑪柱穴 ・・・・・・・・											•							215
(2) 包含層出土の遺物・・・											•							245
①共通土層2層出土遺物 ••											•							245
②共通土層3層出土遺物 • •																		254
③共通土層第2・第3層より出																		262
(3) 文字資料と石帯(巡方)																		264
①文字資料 • • • • • •	• •	• •	• •	• • •		• •	•				•							264
②石帯 (巡方)・・・・・・											•							267
③石製煙管火皿 · · · · ·											•							277
④金属製品X線写真資料 · ·																		281
(4) まとめ・・・・・・															•			284
①竪穴建物跡からの遺物出土料															•		•	284
②201202調査区における遺跡の																		285
③201202調査区における水の	き理り	につ	いて						 •		•		•	•	•			286
④石製キセル煙管について・															•	•	•	288
V 範囲確認調査・・・・・							•	•	 •	•	•		•	•	•	•	•	290
VI 附編(自然科学分析結	果)						•	•			•		•			•	•	293

挿 図 目 次(1)

第 1 図	九州新幹線西九州ルート概要図 ・・・・・・・・・・	1	第55図	TAK201202調査区古墳時代遺構配置図(S=1/1,000) ・・・・・	80
第 2 図	試掘・範囲確認調査対象地位置図 ・・・・・・・・・	4	第56図	TAK201202調査区第①区古墳時代遺構配置図(S=1/300)・・・	81
第 3 図	保守・車両基地概略図(1/5,000) ・・・・・・・・・・	9	第57図	TAK201202調査区第②区古墳時代遺構配置図(S=1/300)・・・	82
第 4 図	竹松遺跡周辺地形および遺跡分布(1/25,000)・・・・・・・	10	第58図	TAK201202調査区第④区古墳時代遺構配置図(S=1/300)・・・	83
第 5 図	竹松遺跡201202調査区グリッド配置図(1/2,500) ・・・・・	12	第59図	TAK201202調査区第⑤区古墳時代遺構配置図(S=1/300)・・・	84
第 6 図	TAK201202調査区土層図-1(S=1/80) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14	第60図	TAK201202調査区第⑥区古墳時代遺構配置図(S=1/300)・・・	85
第7図	TAK201202調査区土層図-2(S=1/80) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15	第61図	TAK201202調査区第⑦区古墳時代遺構配置図(S=1/300)・・・	86
第 8 図	TAK201202調査区土層図-3(S=1/80) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16	第62図	SK35実測図(S=1/40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	87
第 9 図	TAK201208調査区グリッド配置図(1/2,000)・・・・・・・・	17	第63図	SK35出土遺物実測図(S=1/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	87
第10図	TAK201208調査区土層図(S=1/80) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18	第64図	SK36実測図(S=1/40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	88
第11図	欠番		第65図	SK36出土遺物実測図(S=1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	89
第12図	TAK201202調査区の縄文時代包含層出土土器実測図①(S=1/3)・	20	第66図	SK84実測図(S=1/40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	90
	TAK201202調査区の縄文時代包含層出土土器実測図②(S=1/3)・	22		SK84出土遺物実測図(S=1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	91
	TAK201202調査区の縄文時代包含層出土土器実測図③(S=1/3)・	24		SK99実測図(S=1/20)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	92
	TAK201202調査区の縄文時代包含層出土石器実測図①(S=1/3)・	28		SK99出土遺物実測図(S=1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	92
	TAK201202調査区の縄文時代包含層出土石器実測図②(S=1/3)・	30		SK101実測図(S=1/40) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	92
	TAK201202調査区の縄文時代包含層出土石器実測図③(S=1/3、1/2)・	32		SK101出土遺物実測図(S=1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	93
	TAK201208調査区の縄文時代包含層出土土器実測図(S=1/3)・・	36		SK113実測図(S=1/40) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	93
	TAK201208調査区の縄文時代包含層出土石器実測図①(S=2/3、1/2)・	38		SK113出土遺物実測図(S=1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	93
	TAK201208調査区の縄文時代包含層出土石器実測図②(S=1/3)・	40		SK114実測図(S=1/40) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	94
	TAK201202調査区弥生時代遺構配置図(S=1/1,000)・・・・・	43		SK114出土遺物実測図(S=1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	94
	TAK201202調査区第④区弥生時代遺構配置図(S=1/300)・・・	44		SK117実測図(S=1/40) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	95
	TAK201202調査区第⑥区弥牛時代遺構配置図(S=1/300)・・・	45		SK117出土遺物実測図(S=1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	95
	TAK201202調査区第⑦区弥生時代遺構配置図(S=1/300)・・・	46		SP36実測図(S=1/20)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	95
	SP300実測図 (S=1/20) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	47		SP36出土遺物実測図(S=1/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	95
	SP300出土遺物実測図 (S=1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	47		SP62実測図(S=1/20)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	96
	SK115実測図 (S=1/40) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	47		SP62出土遺物実測図(S=1/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	96
	SK115出土遺物実測図(S=1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	47		SP180実測図(S=1/20) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	96
	SS04実測図(S=1/20) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	48		SP180出土遺物実測図(S=1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	97
	SS04出土遺物実測図(S=1/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	49		SP201実測図(S=1/20) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	97
	SD14実測図その1 (S=1/100) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	50		SP201出土遺物実測図(S=1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	98
	SD14実測図その2(S=1/100) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	51		SP207実測図(S=1/20) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	98
	SD14出土遺物実測図(S=1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	52		SP207出土遺物実測図 (S=1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	98
第34図	SD15実測図その1(S=1/100) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	53	第88図	SP559実測図(S=1/20) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	99
第35図	SD15実測図その2(S=1/100) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	54	第89図	SP559出土遺物実測図(S=1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	99
第36図	SD15出土遺物実測図(S=1/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	55		SX11出土遺物実測図(S=1/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	100
第37図	TAK201208小調査区弥生時代遺構配置図 (1/1,000)・・・・	57		TAK201202⑥SX11実測図(S=1/80) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
第38図	欠番			TAK201202調査区古墳時代包含層出土遺物実測図その1(S=1/3) ・・	
	SD1実測図(S=1/80)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	59		TAK201202調査区古墳時代包含層出土遺物実測図その2(S=1/3) ・・	
	SD1出土遺物実測図その1(S=1/3) ・・・・・・・・・・	60		TAK201202調査区古墳時代包含層出土遺物実測図その3(S=1/3)・・	
	SD1出土遺物実測図その2(S=1/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	61		TAK201208調査区古墳時代包含層出土遺物実測図(S=1/3)・・	
	ST1実測図(S=1/20) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	62		TAK201208調査区弥生墓域遺構配置図(S=1/600)・・・・・・	
	ST2実測図(S=1/40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	64		TAK201202古代中世遺構配置図(S=1/1000) ・・・・・・・・・	
	ST3実測図(S=1/20) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	65		TAK201202調査区第①区古代中世遺構配置図(S=1/300)・・・	
	ST3出土管玉実測図(S=2/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	65		TAK201202調査区第②区古代中世遺構配置図(S=1/300)・・・	
	ST4実測図(S=1/20) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	66		TAK201202調査区第③区古代中世遺構配置図(S=1/300)・・・	
	ST5実測図(S=1/40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	67		TAK201202調査区第④区古代中世遺構配置図(S=1/300)・・・	
	ST5出土管玉実測図(S=2/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	67		TAK201202調査区第③区古代中世遺構配置図(S=1/300)・・・	
	TAK201202調査区弥生時代包含層出土遺物実測図その1(S=1/3) ・・・	69		TAK201202調査区第⑦区古代中世遺構配置図(S=1/300)・・・	
	TAK201202調査区弥生時代包含層出土遺物実測図その2(S=1/3)・・・・	70		TAK201202調査区第⑧区古代中世遺構配置図(S=1/300)・・・	
	TAK201202調査区弥生時代包含層出土遺物実測図その3(S=1/3)・・・・	71		SA7平・断面図 (1/80)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	TAK201208調査区弥生時代包含層出土遺物実測図その1(S=1/3) ・・・	76		SB1平・断面図 (1/80)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	TAK201208調査区弥生時代包含層出土遺物実測図その2(S=1/3)・・・・	77		SB1出土遺物 (1/3) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	TAK201208調査区弥牛時代包含層出十石包丁実測図(3層)(S=1/3)・・・			SB2平·断面図 (1/80)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	

挿 図 目 次(2)

第109図	SB2出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・ 132	第163図 SD31出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・ 182
第110図	SB3平・断面図 (1/80)・・・・・・・・・・ 133	第164図 SD35平・断面図 (1/200、1/40)・・・・・・・・・ 183
第111図	SB3出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・ 134	第165図 SI1平・断面図 (1/20) ・・・・・・・・・・ 184
第112図	SB4平・断面図 (1/80) ・・・・・・・・・・ 135	第166図 SI1出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・ 185
第113図	SB4出土遺物 (1/3)・・・・・・・・・・・・ 135	第167図 SI2平・断面図 (1/20) ・・・・・・・・・・ 186
第114図	SB5平・断面図 (1/80) ・・・・・・・・・・ 136	第168図 SK5平・断面図 (1/40) ・・・・・・・・・・ 187
第115図	SB5出土遺物 (1/3)・・・・・・・・・・・・ 137	第169図 SK5出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・ 187
第116図	SB6平・断面図 (1/80) ・・・・・・・・・・ 137	第170図 SK8平・断面図 (1/40) ・・・・・・・・・・ 188
第117図	SB7、SD17、SD18 平・断面図 (1/80)・・・・・・・ 138	第171図 SK8出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・ 188
第118図	SB10平・断面図 (1/80) ・・・・・・・・・ 139	第172図 SK16平・断面図 (1/40)・・・・・・・・・・ 189
第119図	SB10出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・ 139	第173図 SK16出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・ 190
第120図	SB11平・断面図 (1/80) ・・・・・・・・・ 140	第174図 SK23平・断面図 (1/40)・・・・・・・・・・ 191
第121図	SB11出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・ 140	第175図 SK23出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・ 191
第122図	SB12平・断面図 (1/80) ・・・・・・・・・ 141	第176図 SK31平・断面図 (1/40)・・・・・・・・・・ 191
第123図	SB13平・断面図 (1/80) ・・・・・・・・・・ 142	第177図 SK31出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・ 192
第124図	SB13出土遺物 (1/3)・・・・・・・・・・・ 142	第178図 SK34平・断面図 (1/40)・・・・・・・・・・ 192
	SC1平・断面図 (1/60) ・・・・・・・・・・ 143	第179図 SK34出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・ 192
	SC3平・断面図 (1/60) ・・・・・・・・・ 144	第180図 SK39平・断面図 (1/40)・・・・・・・・・ 193
	SC3出土遺物-1 (1/3)・・・・・・・・・・ 145	第181図 SK39出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・ 194
	SC3出土遺物-2 (1/3) ・・・・・・・・・・ 147	第182図 SK42平・断面図 (1/40)・・・・・・・・・・ 195
	SC4平・断面図 (1/60・1/30) ・・・・・・・・ 149	第183図 SK42出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・ 195
	SC4出土遺物 (1/3)・・・・・・・・・ 150	第184図 SK77平・断面図 (1/20)・・・・・・・・・ 195
	SC5平・断面図 (1/60・1/30) ・・・・・・・・ 152	第185図 SK77出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・ 196
	SC5出土遺物 (1/3) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	第186図 SK79平・断面図 (1/40)・・・・・・・・・・・・ 196
	SC6平・断面図 (1/60) ・・・・・・・・・・ 155	第187図 SK79出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・ 197
	SC6出土遺物 (1/3) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	第188図 SK82平・断面図 (1/40)・・・・・・・・・ 197
	SC7平・断面図 (1/60) · · · · · · · · · · · · · · · 156	第189図 SK82出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・ 197
	SC7出土遺物 (1/3) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	第190図 SK87平・断面図 (1/40)・・・・・・・・・・ 198
	SC8平・断面図 (1/60) · · · · · · · · · · · · · · · · · · 157	第191図 SK87出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・ 199
	SC8出土遺物 (1/3) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	第192図 SK89平・断面図 (1/40)・・・・・・・・・・・ 200
	SD1平·斯面図 (1/80) · · · · · · · · · · · · · · · 159	第193図 SK89出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・ 200
	SD1出土遺物 (1/3)······ 160	第194図 SK92平・断面図 (1/40)・・・・・・・・・・・ 201
	SD2平·斯面図 (1/40) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	第195図 SK92出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・・・・・ 202
	SD6、SD7、SD8、SD9断面図(1/80)・・・・・・・ 161	第196図 SK93平・断面図(1/40)・・・・・・・・・・・ 202
	SD7斯面図 (1/50) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	第197図 SK93出土遺物 (1/3) · · · · · · · · · · · · · · · 203
	SD7出土遺物 (1/3) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	第198図 SK95平・断面図 (1/40) ・・・・・・・・・・ 204
	小調査区③区、⑧区のSD平面図(1/200)※折り込み・・・ 163	第199図 SK95出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・・・ 204
	SD8出土遺物 (1/3) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	第200図 SK96平・断面図 (1/40) ・・・・・・・・・・ 208
	SD9出土遺物 (1/3) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	第201図 SK96出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・・・・ 208
	SD10斯面図 (1/80) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	第202図 SK121平・断面図 (1/40)・・・・・・・・・・・ 206
	SD10出土遺物 (1/3・1/1)・・・・・・・・・・ 168	第203図 SK121出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・・・ 206
	SD11、SD12断面図(1/80)・・・・・・・ 169	第204図 SL3平・断面図 (1/20) · · · · · · · · · · · · · · · · 207
	SD11出土遺物 (1/3)・・・・・・・・・・ 169	第205図 SS2平・断面図 (1/20) ・・・・・・・・・・・・・ 207
	SD12断面図 (1/50) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	第206図 SS5平・断面図 (1/40) · · · · · · · · · · · · 208
	SD12出土遺物-1 (1/3) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	第207図 SX1平・断面図 (1/20) ・・・・・・・・・・ 208
	SD12出土遺物 I (1/3) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	第208図 SX2平・断面図 (1/40) · · · · · · · · · · · · · 208
	SD13斯面図 (1/50) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	第209図 ST1平・断面図 (1/40) ・・・・・・・・・・・ 209
	, , <u> </u>	第210図 ST1出土遺物(1/3)・・・・・・・・・・ 210
		第211図 ST2平・断面図(1/40)・・・・・・・・・ 210
	SD16出土遺物 (1/3)	第212図 ST2出土遺物(1/3)・・・・・・・・・・・ 211
	SD17出土遺物 (1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	第213図 ST4平・斯面図 (1/20) ・・・・・・・・・ 215
		第214図 ST4出土遺物(1/3)・・・・・・・・・・・215
	SD29出土遺物 (1/3)・・・・・・・・・181 CD21版西図 (1/50)・・・・・・・・・182	第215図 SP①23平・断面図(1/10)・・・・・・・・ 215
为107区	SD31断面図 (1/50)・・・・・・・・・・・ 182	第216図 SP①23出土遺物(1/3)・・・・・・・・・・・ 216

挿 図 目 次(3)

第217図	SP①92平・断面図 (1/40) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	217	第272図	SP①1494出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・ 2	233
第218図	SP①92出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	217	第273図	SP②438平・断面図 (1/40) ・・・・・・・・・ 2	234
第219図	SP①95平・断面図 (1/20) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	217	第274図	SP②438出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・ 2	234
第220図	SP①95出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	218	第275図	SP②527平・断面図 (1/40)・・・・・・・・・ 2	:34
第221図	SP①107平・断面図 (1/40) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	218	第276図	SP②527出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・ 2	:34
第222図	SP①107出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	218	第277図	SP②627平・断面図 (1/40)・・・・・・・・・ 2	:35
第223図	SP①214平・断面図 (1/40) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	219	第278図	SP②627出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・ 2	:35
第224図	SP①214出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	219	第279図	SP②656平・断面図 (1/40)・・・・・・・・・ 2	:35
第225図	SP①245平・断面図 (1/20) ・・・・・・・・・・・・・・・	219	第280図	SP②656出土遺物 (1/3)・・・・・・・・・・ 2	:36
第226図	SP①245出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	220	第281図	SP⑤1平・断面図 (1/40) ・・・・・・・・・ 2	:36
第227図	SP①246平・断面図 (1/40) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	220	第282図	SP⑤1出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・ 2	:36
第228図	SP①246出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	220	第283図	SP⑤12平・断面図 (1/40)・・・・・・・・・・ 2	236
第229図	SP①333平・断面図 (1/20) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	221	第284図		237
第230図	SP①333出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	221	第285図	SP⑤17平・断面図 (1/40)・・・・・・・・・・ 2	238
第231図	SP①342平・断面図 (1/40) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	221	第286図	SP⑤17出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・ 2	238
	SP①342出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	221	第287図	SP⑤57平・断面図 (1/20)・・・・・・・・・・ 2	238
	SP①365平・断面図 (1/40) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	222	第288図		238
	SP①365出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	222	第289図		239
	SP①457平·断面図(1/20) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	223			239
	SP①457出土遺物(1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	223			239
	SP①627平・断面図 (1/40) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	223			239
	SP①627出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	223			240
	SP①746平・断面図 (1/40) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	224			240
	SP①746出土遺物 (1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	224			241
	SP①750平・断面図 (1/20) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	224			241
	SP①750出土遺物 (1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	225			241
	SP①757平・断面図 (1/40) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	225			242
	SP①757出土遺物 (1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	225			242
	SP①807平・断面図 (1/40) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	226			242
	SP①807出土遺物 (1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	226		SP⑦186平·斯面図(1/10)・・・・・・・・2	
	SP①855平・断面図(1/40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	226	第302図		
	SP①855出土遺物 (1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	226		SP⑦194平・断面図 (1/20) ・・・・・・・・・ 2	
		227			
	SPT 988平・断面図 (1/40) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				
	SP①988出土遺物 (1/3) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	227			
	SP①1032平・断面図(1/40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	227		SP⑦224出土遺物(1/3)・・・・・・・・・・・・ 2 SP⑦222平、地元河(1/20)	
	SP①1032出土遺物(1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	227		SP(7)333平・断面図 (1/20) ・・・・・・・・ 2	
	SP①1102平・断面図(1/40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	228	第308図	5 , . <u>—</u> , ,	
	SP①1102出土遺物 (1/3) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	228			246
	SP①1197平・断面図 (1/40) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	228		2層出土ミニチュア土器・坩堝 (1/2)・・・・・・・ 2	
	SP①1197出土遺物(1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	228		2層出土石鍋(1/4)・・・・・・・・・・・・・・・ 2	
	SP①1252平・断面図(1/40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			2層出土石製品 (1/3)・・・・・・・・・・・・・・2	
	SP①1252出土遺物 (1/3) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		第313図		
	SP①1274平・断面図 (1/40) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		第314図		
	SP①1274出土遺物 (1/3) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			3層出土ミニチュア土器 (1/2) ・・・・・・・・ 2	
	SP①1277平・断面図(1/20)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	230	第316凶		
	SP①1277出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	230		3層出土石製品 (1/3)・・・・・・・・・・・・ 2	
	SP①1299平・断面図(1/40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	231		3層出土金属製品 (1/3)・・・・・・・・・・・・ 2	
	SP①1299出土遺物(1/3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			2層・3層その他の土器・土製品 (1/3) ・・・・・・・ 2	
	SP①1327平・断面図(1/40)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			文字資料 (1/3) ・・・・・・・・・・ 2	
	SP①1327出土遺物 (1/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			石帯 (巡方) (1/2) ・・・・・・・・・ 2	
	SP①1338平・断面図(1/20)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			九州内石帯出土遺跡分布図 ・・・・・・・・・ 2	
	SP①1338出土遺物(1/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	232		石製煙管実測図 (2/3) ・・・・・・・・ 2	
	SP①1462平・断面図 (1/40) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	233		キセルの部分名称 ・・・・・・・・・・・ 2	
	SP①1462出土遺物(1/3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		第325図	煙管実測図(追加分)(2/3)・・・・・・・・・ 2	80
第271図	SP①1494平・断面図 (1/40) ・・・・・・・・・・・・・・	233			

表 目 次(1)

第 1 表	竹松遺跡土層対応表 ・・・・・・・・・・・ 17	第55表 SC4出土土器観察表・・・・・・・・・・・ 151
第 2 表	欠番 -	第56表 SC4出土金属製品観察表・・・・・・・・・ 151
第 3 表	TAK201202調査区の縄文時代包含層出土土器観察表 ・・・・ 26	第57表 SC5出土土器観察表・・・・・・・・・・ 155
第 4 表	TAK201202調査区の縄文時代包含層出土石器観察表 ・・・・ 34	第58表 SC5出土石鍋観察表・・・・・・・・・・ 155
第 5 表	TAK201208調査区の縄文時代包含層出土土器観察表 ・・・・ 36	第59表 SC6出土土器観察表・・・・・・・・・・ 156
第 6 表	TAK201208調査区の縄文時代包含層出土石器観察表 ・・・・ 42	第60表 SC7出土土器観察表・・・・・・・・・・ 157
第 7 表	SP300出土石製品観察表・・・・・・・・・ 114	第61表 SC8出土土器観察表・・・・・・・・・・ 158
第 8 表	SK115出土土器観察表・・・・・・・・・ 114	第62表 SC8出土土錘観察表・・・・・・・・・・ 158
第 9 表	SS04出土土器観察表 ・・・・・・・・・ 114	第63表 SC (竪穴建物跡) 計測表 ・・・・・・・・・ 158
第10表	SD14出土石製品観察表 ・・・・・・・・・ 114	第64表 SD1出土土器観察表・・・・・・・・・・ 160
第11表	SD15出土土器観察表 ・・・・・・・・・ 114	第65表 SD1出土石鍋観察表・・・・・・・・・・ 161
第12表	SD1出土土器観察表・・・・・・・・・ 114	第66表 SD7出土土器観察表・・・・・・・・・・ 162
第13表	ST3出土管玉観察表・・・・・・・・・ 115	第67表 SD8出土土器観察表・・・・・・・・・・ 165
	ST5出土管玉観察表・・・・・・・・ 115	第68表 SD9出土土器観察表・・・・・・・・・ 166
	TAK201202調査区弥生時代包含層出土土器観察表 ・・・・・ 115	第69表 SD10出土土器観察表 ・・・・・・・・ 168
	TAK201202調査区弥生時代包含層出土石製品観察表 ・・・・ 115	第70表 SD10出土土製品観察表 ・・・・・・・・ 168
	TAK201208調査区弥生時代包含層出土土器観察表 ・・・・ 116	第71表 SD10出土石製品観察表 ・・・・・・・・ 169
	TAK201208調査区弥生時代包含層出土石製品観察表 ・・・・ 116	第72表 SD10出土金属製品観察表 ••••• 168
	SK35出土土器観察表 ・・・・・・・・・ 117	第73表 SD11出土土器観察表 · · · · · · · · · · · · · · · · 169
	SK35出土石製品観察表 ・・・・・・・・ 117	第74表 SD12出土土器観察表 · · · · · · · · · · · · · · · 178
	SK36出土土器観察表 ・・・・・・・・・ 117	第75表 SD12出土土製品観察表 · · · · · · · · · · · · 178
	SK84出土土器観察表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	第76表 SD12出土金属製品観察表 · · · · · · · · · · · · 178
	SK99出土土器観察表 ・・・・・・・・・ 117	第77表 SD13出土土器観察表 · · · · · · · · · · · · · 177
	SK101出土土器観察表・・・・・・・・ 117	第78表 SD16出土土器観察表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · 178
	SK113出土土器観察表・・・・・・・・・ 117	第79表 SD17出土土器観察表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	SK114出土土器観察表・・・・・・・・・ 117	第80表 SD29出土土器観察表 • • • • • • • • 181
	SK117出土土器観察表・・・・・・・・ 118	第81表 SD29出土土錘観察表 · · · · · · · · · · · 181
	SP36出土土器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・118	第82表 SD29出土石鍋観察表 • • • • • • • • 182
	SP62出土石製品観察表・・・・・・・・・・118	第83表 SD29出土石製品観察表 ・・・・・・・・ 182
	SP180出土土器観察表・・・・・・・・ 118	第84表 SD31出土土器観察表 • • • • • • • • • 182
	SP201出土土器観察表・・・・・・・・・ 118	第85表 SI1出土鞴羽口観察表・・・・・・・・・ 185
	SP207出土土器観察表・・・・・・・・・・ 118	第86表 SK5出土土器観察表・・・・・・・・・・ 188
	SP559出土土器観察表・・・・・・・・・ 118	第87表 SK8出土土器観察表・・・・・・・・・ 188
	SP559出土鉄滓観察表・・・・・・・・・・・ 118	第88表 SK16出土土器観察表 ・・・・・・・・・・ 190
	SX11出土土器観察表 ・・・・・・・・・ 118	第89表 SK16出土石鍋観察表 ・・・・・・・・・・ 190
	TAK201202調査区古墳時代包含層出土土器観察表 ・・・・・ 119	第90表 SK16出土石鍋補修具観察表 ・・・・・・・・ 190
	TAK201202調査区古墳時代包含層出土土器観察表 ・・・・・ 120	第91表 SK16出土金属製品観察表 ・・・・・・・・・ 190
第38表	TAK201202調査区古墳時代包含層出土石製品観察表 ・・・・ 120	第92表 SK23出土石鍋補修具観察表 ・・・・・・・・・ 191
第39表	TAK201202調査区古墳時代包含層出土土製品観察表 ・・・・ 120	第93表 SK31出土土器観察表 ・・・・・・・・・・ 192
第40表	TAK201208調査区古墳時代包含層出土土器観察表 ・・・・・ 120	第94表 SK34出土土器観察表 ・・・・・・・・・ 193
第41表	SA (柵列) 計測表 · · · · · · · · · · · · · · · · · · 129	第95表 SK39出土石製品観察表 ・・・・・・・・・ 194
第42表	SB1出土土器観察表・・・・・・・・・・ 131	第96表 SK39出土土器観察表 ・・・・・・・・・ 194
第43表	SB2出土土器観察表・・・・・・・・・ 132	第97表 SK42出土土器観察表 ・・・・・・・・・・ 195
第44表	SB2出土器観察表・・・・・・・・・ 132	第98表 SK77出土土器観察表 ・・・・・・・・・ 196
第45表	SB3出土土器観察表・・・・・・・・・ 134	第99表 SK79出土土器観察表 ・・・・・・・・・ 197
第46表	SB4出土土器観察表・・・・・・・・・ 136	第100表 SK82出土土器観察表 ・・・・・・・・・ 198
第47表	SB5出土土器観察表・・・・・・・・・ 137	第101表 SK87出土土器観察表 ・・・・・・・・・ 200
第48表	SB10出土土器観察表 ・・・・・・・・・ 139	第102表 SK87出土石器観察表 ・・・・・・・・・ 200
第49表	SB11出土石鍋観察表 ・・・・・・・・・ 141	第103表 SK89出土土器観察表 ・・・・・・・・・ 200
第50表	SB13出土土器観察表 ・・・・・・・・・ 142	第104表 SK92出土土器観察表 ・・・・・・・・・ 202
第51表	SB (掘立柱建物跡) 計測表 ・・・・・・・・・ 142	第105表 SK93出土土器観察表 ・・・・・・・・・ 203
第52表	SC3出土土器観察表・・・・・・・・ 147	第106表 SK95出土土器観察表 ・・・・・・・・・ 204
第53表	SC3出土石器観察表・・・・・・・・ 148	第107表 SK96出土土器観察表 ・・・・・・・・・ 205
第54表	SC3出土金属製品観察表・・・・・・・・・ 148	第108表 SK121出土土器観察表・・・・・・・・・ 206

表 目 次(2)

第109表	ST1出土土器観察表・・・・・・・・ 21	10 第163表	SP⑦194出土土器観察表 ・・・・・・・・ 24	14
第110表	ST2出土土器観察表・・・・・・・・・ 21	12 第164表	SP⑦224出土土器観察表・・・・・・・・ 24	14
第111表	ST2出土石鍋観察表・・・・・・・・・ 21	12 第165表	SP⑦333出土土器観察表・・・・・・・・ 24	45
第112表	ST2出土石器観察表・・・・・・・・・ 21	12 第166表	2層出土貿易陶磁観察表・・・・・・・・・・ 24	45
第113表	ST2出土金属製品観察表・・・・・・・・ 21	12 第167表	2層出土ミニチュア土器・坩堝観察表 ・・・・・・・ 24	17
第114表	ST4出土土器観察表・・・・・・・・ 21	13 第168表	2層出土石鍋観察表・・・・・・・・・・ 24	19
第115表	ST4出土金属製品観察表・・・・・・・・ 21	13 第169表	2層出土ミニチュア石鍋観察表・・・・・・・・ 24	19
第116表	SP①23出土土器観察表 ・・・・・・・・ 21	15 第170表	2層出土石製品観察表・・・・・・・・・ 24	19
第117表	SP①92出土土器観察表 ・・・・・・・・ 21	17 第171表	2層出土石鍋補修具観察表・・・・・・・・・ 25	52
第118表	SP①95出土土器観察表 ・・・・・・・・ 21	18 第172表	2層出土金属製品観察表・・・・・・・・・ 25	52
第119表	SP①107出土土製品観察表 ・・・・・・・・ 21	19 第173表	3層出土貿易陶磁観察表・・・・・・・・・ 25	54
第120表	SP①214出土石製品観察表 ・・・・・・・ 21	19 第174表	3層出土ミニチュア土器観察表・・・・・・・・ 25	57
第121表	SP①245出土土器観察表・・・・・・・・ 22	20 第175表	3層出土石鍋観察表・・・・・・・・・・ 25	58
第122表	SP①246出土石製品観察表 ・・・・・・・・ 22	20 第176表	3層出土ミニチュア滑石製容器観察表 ・・・・・・ 25	59
第123表	SP①333出土土器観察表・・・・・・・・ 22	21 第177表	3層出土石鍋補修具観察表・・・・・・・・・ 25	59
第124表	SP①342出土土製品観察表・・・・・・・・ 22	22 第178表	3層出土石製品観察表・・・・・・・・・ 26	60
第125表	SP①365出土土器観察表・・・・・・・・・ 22	22 第179表	3層出土金属製品観察表・・・・・・・・・ 26	31
第126表	SP①365出土土製品観察表・・・・・・・・ 22	22 第180表	2層・3層その他の土器観察表 ・・・・・・・・ 26	53
第127表	SP①457出土土器観察表・・・・・・・・ 22	23 第181表	2層・3層その他の土製品観察表 ・・・・・・・ 26	33
第128表	SP①627出土石鍋観察表・・・・・・・・・ 22	24 第182表	文字資料観察表 1 ・・・・・・・・・・・・ 26	35
第129表	SP①746出土石製品観察表・・・・・・・・ 22	24 第183表	文字資料観察表 2 ・・・・・・・・・・・ 26	35
第130表	SP①750出土土器観察表・・・・・・・・ 22	25 第184表	石帯 (巡方) 観察表 ・・・・・・・・・ 26	68
第131表	SP①757出土石鍋観察表・・・・・・・・・ 22	25 第185表	九州内石帯出土遺跡一覧 ・・・・・・・・・ 27	71
第132表	SP①807出土ミニチュア石鍋観察表 ・・・・・・・ 22	26 第186表	県内石製煙管火皿出土一覧表 ・・・・・・・・ 27	77
第133表	SP①855出土石製品観察表・・・・・・・・・ 22	26 第187表	煙管観察表 ・・・・・・・・・・・・ 27	79
第134表	SP①988出土土器観察表・・・・・・・・・ 22	27 第188表	県内出土石製煙管火皿一覧(浦田作成「第186表」に追加)・ 28	30
姓10 F 丰	(20年1000月1111日報安吉	00 ##100=	Profession and appropriate to the first of t	
弗130衣	SP①1032出土土器観察表 ・・・・・・・・・ 22	28 第189表	長崎県および周辺出土陶製・土製煙管火皿表 ・・・・・ 28	30
	SP①1032出土土器観察表 22 SP①1102出土土器観察表 22		長崎県および周辺出土陶製・土製煙管火皿表 ・・・・・ 28 煙管観察表 (追加) ・・・・・・ 28	
第136表		28 第190表		
第136表 第137表	- SP①1102出土土器観察表 ・・・・・・・・ 22	28 第190表 29		
第136表 第137表 第138表	SP①1102出土土器観察表	28 第190表 29 29		
第136表 第137表 第138表 第139表 第140表	SP①1102出土土器観察表 22 SP①1197出土石鍋観察表 22 SP①1252出土土器観察表 22 SP①1274出土石製品観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23	28 第190表 29 29 30 30	煙管観察表 (追加) ・・・・・・・・・・・・・ 28	
第136表 第137表 第138表 第139表 第140表 第141表	SP①1102出土土器観察表 22 SP①1197出土石鍋観察表 22 SP①1252出土土器観察表 22 SP①1274出土石製品観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1299出土石鍋観察表 23	28 第190表 29 29 30 30 31 第1図	煙管観察表 (追加) ・・・・・・・・・・・・・28 「まとめ」挿図 SC4内出土地点 (1/60) ・・・・・・・・28	30
第136表 第137表 第138表 第139表 第140表 第141表	SP①1102出土土器観察表 22 SP①1197出土石鍋観察表 22 SP①1252出土土器観察表 22 SP①1274出土石製品観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1299出土石鍋観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23	28 第190表 29 29 30 30 31 第 1 図 32 第 2 図	煙管観察表 (追加) ・・・・・・・・・・・・・28 「まとめ」挿図 SC4内出土地点 (1/60) ・・・・・・・・28 時期 (世紀) ごとの小調査区別遺構数 ・・・・・28	30 34 35
第136表 第137表 第138表 第139表 第140表 第141表 第142表	SP①1102出土土器観察表 22 SP①1197出土石鍋観察表 22 SP①1252出土土器観察表 22 SP①1274出土石製品観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1299出土石鍋観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23 SP①1338出土土器観察表 23 SP①1338出土土器観察表 23	28 第190表 29 29 30 30 31 第1図 32 第2図 32 第3図	煙管観察表(追加) 28 「まとめ」挿図 SC4内出土地点(1/60) 28 時期(世紀)ごとの小調査区別遺構数 28 古代・中世の河川・溝と現代の水路(1/1,000) 28	34 35 37
第136表 第137表 第138表 第139表 第140表 第141表 第142表 第143表	SP①1102出土土器観察表 22 SP①1197出土石鍋観察表 22 SP①1252出土土器観察表 22 SP①1274出土石製品観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1299出土石鍋観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23 SP①1338出土土器観察表 23 SP①1462出土石鍋補修具観察表 23 SP①1462出土石鍋補修具観察表 23	28 第190表 29 29 30 31 第1図 32 第2図 33 第4図	煙管観察表(追加) 28	34 35 37
第136表 第137表 第138表 第140表 第141表 第142表 第144表 第144表	SP①1102出土土器観察表 22 SP①1197出土石鍋観察表 22 SP①1252出土土器観察表 22 SP①1274出土石製品観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1299出土石鍋観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23 SP①1338出土土器観察表 23 SP①1462出土石鍋補修具観察表 23 SP①1494出土石鍋補修具観察表 23 SP①1494出土石鍋補修具観察表 23	28 第190表 29 30 30 31 第 1 図 32 第 2 図 32 第 3 図 33 第 4 図 34 第 5 図	煙管観察表(追加) 28 「まとめ」挿図 SC4内出土地点(1/60) 28 時期(世紀)ごとの小調査区別遺構数 28 古代・中世の河川・溝と現代の水路(1/1,000) 28	34 35 37
第136表 第137表 第138表 第140表 第142表 第142表 第144表 第144表 第146表	SP①1102出土土器観察表 22 SP①1197出土石鍋観察表 22 SP①1252出土土器観察表 22 SP①1274出土石製品観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1299出土石鍋観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23 SP①1338出土土器観察表 23 SP①1462出土石鍋補修具観察表 23 SP①1494出土石鍋補修具観察表 23 SP②438出土土器観察表 23 SP②438出土土器観察表 23	28 第190表 29 30 30 31 第 1 図 32 第 2 図 32 第 3 図 33 第 4 図 34 第 5 図	煙管観察表(追加) 28	34 35 37
第136表 第137表 第138表 第140表 第141表 第142表 第144表 第144表 第145表 第146表	SP①1102出土土器観察表 22 SP①1197出土石鍋観察表 22 SP①1252出土土器観察表 22 SP①1274出土石製品観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1299出土石鍋観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23 SP①1338出土土器観察表 23 SP①1462出土石鍋補修具観察表 23 SP①1494出土石鍋補修具観察表 23 SP②438出土土器観察表 23 SP②527出土土器観察表 23	28 第190表 29 30 30 31 第 1 図 32 第 2 図 32 第 3 図 33 第 4 図 34 第 5 図	煙管観察表(追加) 28	34 35 37
第136表 第137表 第138表 第140表 第141表 第142表 第145表 第146表 第146表 第147表	SP①1102出土土器観察表 22 SP①1197出土石鍋観察表 22 SP①1252出土土器観察表 22 SP①1274出土石製品観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1399出土石鍋観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23 SP①1338出土土器観察表 23 SP①1462出土石鍋補修具観察表 23 SP①1494出土石鍋補修具観察表 23 SP②438出土土器観察表 23 SP②527出土土器観察表 23 SP②627出土土器観察表 23 SP②627出土土器観察表 23	28 第190表 29 30 30 31 第1図 32 第2図 32 第3図 33 第4図 34 第5図 34	煙管観察表(追加) 28	34 35 37
第136表 第137表 第138表 第140表 第141表 第142表 第145表 第146表 第146表 第147表 第148表	SP①1102出土土器観察表 22 SP①1197出土石鍋観察表 22 SP①1252出土土器観察表 22 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23 SP①1338出土土器観察表 23 SP①1462出土石鍋補修具観察表 23 SP②1494出土石鍋補修具観察表 23 SP②438出土土器観察表 23 SP②527出土土器観察表 23 SP②627出土土器観察表 23 SP②656出土土器観察表 23 SP②656出土土器観察表 23 SP②656出土土器観察表 23	28 第190表 29 29 30 31 第1図 32 第2図 33 第4図 34 第5図 34	煙管観察表(追加) 28	34 35 37
第136表 第137表 第138表 第140表 第144表 第142表 第145表 第146表 第146表 第147表 第148表 第148表 第148表	SP①1102出土土器観察表 22 SP①1197出土石鍋観察表 22 SP①1252出土土器観察表 22 SP①1274出土石製品観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23 SP①1338出土土器観察表 23 SP①1462出土石鍋補修具観察表 23 SP②1494出土石鍋補修具観察表 23 SP②438出土土器観察表 23 SP②527出土土器観察表 23 SP②627出土土器観察表 23 SP②656出土土器観察表 23 SP③1出土土器観察表 23 SP③1出土土器観察表 23	28 第190表 29 29 30 31 第 1 図 32 第 2 図 33 第 4 図 34 第 5 図 34 35 36 36	煙管観察表(追加) 28	34 35 37
第136表 第137表 第138表 第140表 第144表 第145表 第145表 第146表 第146表 第148表 第148表 第150表	SP①1102出土土器観察表 22 SP①1197出土石鍋観察表 22 SP①1252出土土器観察表 22 SP①1274出土石製品観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23 SP①1338出土土器観察表 23 SP①1462出土石鍋補修具観察表 23 SP①1494出土石鍋補修具観察表 23 SP②438出土土器観察表 23 SP②527出土土器観察表 23 SP②627出土土器観察表 23 SP②656出土土器観察表 23 SP③12出土土器観察表 23 SP③12出土土器観察表 23 SP③12出土土器観察表 23	28 第190表 29 29 30 30 31 第 1 図 32 第 2 図 33 第 4 図 34 第 5 図 34 35 36 36 36 37	煙管観察表(追加) 28	34 35 37
第136表 第137表 第138表 第140表 第142表 第144表 第145表 第145表 第145表 第145表 第150表 第150表	SP①1102出土土器観察表 22 SP①1197出土石鍋観察表 22 SP①1252出土土器観察表 22 SP①1274出土石製品観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23 SP①1338出土土器観察表 23 SP①1462出土石鍋補修具観察表 23 SP①1494出土石鍋補修具観察表 23 SP②438出土土器観察表 23 SP②527出土土器観察表 23 SP②627出土土器観察表 23 SP②627出土土器観察表 23 SP②51出土土器観察表 23 SP③12出土土器観察表 23 SP③17出土土器観察表 23 SP⑤17出土土器観察表 23 SP⑤17出土土器観察表 23 SP⑥17出土土器観察表 23 SP⑥17出土土器観察表 23 SP⑥17出土土器観察表 23 SP⑥17出土土器観察表 23	28 第190表 29 29 30 30 31 第 1 図 31 第 2 図 32 第 3 図 33 第 4 図 34 第 5 図 34 35 35 36 36 36 37 38	煙管観察表(追加) 28	34 35 37
第136表 第137表 第138表 第140表 第144表 第144表 第144表 第146表 第146表 第147表 第148表 第151表 第152表	SP①1102出土土器観察表 22 SP①1197出土石鍋観察表 22 SP①1252出土土器観察表 22 SP①1274出土石製品観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23 SP①1338出土土器観察表 23 SP①1462出土石鍋補修具観察表 23 SP①1494出土石鍋補修具観察表 23 SP②438出土土器観察表 23 SP②527出土土器観察表 23 SP②627出土土器観察表 23 SP③12出土土器観察表 23 SP⑤11出土土器観察表 23 SP⑤17出土土器観察表 23 SP⑤17出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 23	28 第190表 29 29 30 30 31 第 1 図 31 第 2 図 32 第 3 図 33 第 4 図 34 第 5 図 34 35 35 36 36 37 38 39	煙管観察表(追加) 28	34 35 37
第136表 第137表 第138表 第149表 第144表 第142表 第145表 第145表 第145表 第145表 第152表 第152表 第153表	SP①1102出土土器観察表 22 SP①1197出土石鍋観察表 22 SP①1252出土土器観察表 22 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1299出土石鍋観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23 SP①1338出土土器観察表 23 SP①1462出土石鍋補修具観察表 23 SP②1494出土石鍋補修具観察表 23 SP②438出土土器観察表 23 SP②627出土土器観察表 23 SP②657出土土器観察表 23 SP③1出土土器観察表 23 SP③12出土土器観察表 23 SP③57出土土器観察表 23 SP③57出土土器観察表 23 SP③57出土土器観察表 23 SP⑤56出土土器観察表 23 SP⑤56出土土器観察表 23 SP⑤56出土土器観察表 23 SP⑥56出土土器観察表 23 SP⑥56出土土器観察表 23	28 第190表 29 29 30 30 31 第 1 図 32 第 2 図 32 第 3 図 34 第 5 図 34 35 36 36 37 38 39 39 39	煙管観察表(追加) 28	34 35 37
第136表 第137表 第138表 第140表 第144表 第144表 第145表 第145表 第145表 第155表 第155表 第155表	SP①1102出土土器観察表 22 SP①1197出土石鍋観察表 22 SP①1252出土土器観察表 22 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23 SP①1338出土土器観察表 23 SP①1462出土石鍋補修具観察表 23 SP②1494出土石鍋補修具観察表 23 SP②438出土土器観察表 23 SP②627出土土器観察表 23 SP②656出土土器観察表 23 SP③1出土土器観察表 23 SP③1出土土器観察表 23 SP⑤57出土土器観察表 23 SP③66出土土器観察表 23 SP③57出土土器観察表 23 SP⑤57出土土器観察表 23 SP⑤57出土土器観察表 23 SP⑥5211出土土器観察表 23 SP⑥5211出土土器観察表 24	28 第190表 29 29 30 30 31 第 1 図 32 第 2 図 33 第 4 図 34 第 5 図 34 35 36 36 37 38 39 39 440	煙管観察表(追加) 28	34 35 37
第136表 第137表 第138表 第144表 第144表 第144表 第144表 第144表 第145表 第145表 第155表 第155表 第155表 第156表	SP①1102出土土器観察表 22 SP①1197出土石鍋観察表 22 SP①1252出土土器観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1299出土石鍋観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23 SP①1338出土土器観察表 23 SP①1462出土石鍋補修具観察表 23 SP②1494出土石鍋補修具観察表 23 SP②438出土土器観察表 23 SP②527出土土器観察表 23 SP②627出土土器観察表 23 SP②61出土土器観察表 23 SP③11出土土器観察表 23 SP⑤57出土土器観察表 23 SP⑤57出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 24 SP⑥57出土土器観察表 24 SP⑥57出土土器観察表 24 SP⑥57出土土器観察表 24 SP⑥57出土土器観察表 24	28 第190表 29 29 30 30 31 第 1 図 32 第 2 図 33 第 4 図 34 第 5 図 34 35 36 36 36 37 38 39 39 39 40 41	煙管観察表(追加) 28	34 35 37
第136表表 第137表 第138表 第144表 第144表 第144表 第144表 第144表 第145表 第155表 第155表 第155表 第155表 第155表 第156表 第156表 第156表 第156表 第156表	SP①1102出土土器観察表 22 SP①1197出土石鍋観察表 22 SP①1252出土土器観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23 SP①1338出土土器観察表 23 SP①1462出土石鍋補修具観察表 23 SP②1494出土石鍋補修具観察表 23 SP②438出土土器観察表 23 SP②527出土土器観察表 23 SP②627出土土器観察表 23 SP②627出土土器観察表 23 SP③11出土土器観察表 23 SP⑤17出土土器観察表 23 SP⑤57出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 23 SP⑥501出土土器観察表 23 SP⑥501出土土器観察表 24 SP⑥501出土土器観察表 24 SP⑥501出土土器観察表 24 SP⑦601出土土器観察表 24 SP⑦705出土土器観察表 24 SP⑦705出土土器観察表 24	28 第190表 29 29 30 30 31 第 1 図 32 第 2 図 33 第 4 図 34 第 5 図 34 35 36 36 36 37 38 39 39 40 41 41	煙管観察表(追加) 28	34 35 37
第136表 第137表 第138表 第140表 第144表 第144表 第144表 第145表 第145表 第145表 第155表	SP①1102出土土器観察表 22 SP①1197出土石鍋観察表 22 SP①1252出土土器観察表 22 SP①1274出土石製品観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23 SP①1338出土土器観察表 23 SP①1462出土石鍋補修具観察表 23 SP①1494出土石鍋補修具観察表 23 SP②2438出土土器観察表 23 SP②527出土土器観察表 23 SP②627出土土器観察表 23 SP②627出土土器観察表 23 SP③12出土土器観察表 23 SP③12出土土器観察表 23 SP⑤57出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 24 SP⑦105出土土器観察表 24 SP⑦105出土土器観察表 24 SP⑦105出土土器観察表 24 SP⑦105出土土器観察表 24 SP⑦106出土土器観察表 24 SP⑦106出土土器観察表 24	28 第190表 29 29 30 30 31 第 1 図 32 第 2 図 33 第 4 図 34 第 5 図 34 35 36 36 36 37 38 39 39 40 41 41 44 44 44 44 44 44 44 44 44 44 44	煙管観察表(追加) 28	34 35 37
第136表 第137表 第138表 第144表 第144表 第144表 第144表 第144表 第144表 第145表 第145表 第155表 第155	SP①1102出土土器観察表 22 SP①1197出土石鍋観察表 22 SP①1252出土土器観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1299出土石鍋観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23 SP①1338出土土器観察表 23 SP①1462出土石鍋補修具観察表 23 SP②1494出土石鍋補修具観察表 23 SP②438出土土器観察表 23 SP②527出土土器観察表 23 SP②627出土土器観察表 23 SP③1出土土器観察表 23 SP⑤12出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 24 SP⑦105出土土器観察表 24 SP⑦106出土石鍋網察表 24 SP⑦116出土器観察表 24 SP⑦118出土土器観察表 24 SP⑦1181出土土器観察表 24 SP⑦1181出土土器観察表 24	28 第190表 29 29 30 30 31 第 1 図 31 第 2 図 32 第 3 図 33 第 4 図 34 第 5 図 34 35 35 36 36 37 38 39 39 40 41 41 41 42 42	煙管観察表(追加) 28	34 35 37
第136表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表	SP①1102出土土器観察表 22 SP①1197出土石鍋観察表 22 SP①1252出土土器観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1277出土土器観察表 23 SP①1327出土土器観察表 23 SP①1338出土土器観察表 23 SP①1462出土石鍋補修具観察表 23 SP①1494出土石鍋補修具観察表 23 SP②438出土土器観察表 23 SP②527出土土器観察表 23 SP②627出土土器観察表 23 SP③1出土土器観察表 23 SP③1出土土器観察表 23 SP⑤12出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 23 SP⑥57出土土器観察表 24 SP⑥57出土土器観察表 24 SP⑦105出土土器観察表 24 SP⑦116出土工器観察表 24 SP⑦1181出土土器観察表 24 SP⑦181出土土器観察表 24 SP⑦181批土工器観察表 24	28 第190表 29 29 30 30 31 第 1 図 32 第 2 図 32 第 3 図 33 第 4 図 34 第 5 図 34 35 36 36 37 38 39 39 40 41 41 41 42 42 42 42	煙管観察表(追加) 28	34 35 37

写 真 目 次(1)

写真 1	TAK201202調査区の縄文時代包含層出土土器① ・・・・・	21	写真55	SK99出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	92
写真 2	TAK201202調査区の縄文時代包含層出土土器② ・・・・・・	23	写真56	SK101検出状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	92
写真3	TAK201202調査区の縄文時代包含層出土土器③ ・・・・・・	25	写真57	SK101半截状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	92
写真 4	TAK201202調査区の縄文時代包含層出土石器① ・・・・・・	29	写真58	SK101完掘状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	92
写真 5	TAK201202調査区の縄文時代包含層出土石器② ・・・・・・	31	写真59	SK101出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	93
写真 6	TAK201202調査区の縄文時代包含層出土石器③ ・・・・・・	33	写真60	SK113遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	93
写真 7	TAK201208調査区の縄文時代包含層出土土器① ・・・・・・	37	写真61	SK113完掘状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	93
写真8	TAK201208調査区の縄文時代包含層出土石器① ・・・・・・	39	写真62	SK113出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	93
写真 9	TAK201208調査区の縄文時代包含層出土石器② ・・・・・	41	写真63	SK114半截状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	94
写真10	SP300出土石錘・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	47	写真64	SK114完掘状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	94
写真11	SK115出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	47		SK114出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	94
	SS04遺構検出状況 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	48		SK117半截状況 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	95
	SS04半截状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	48		SK117出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	95
	SS04完掘状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	48		SP36遺物出土状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	95
	SS04出土遺物 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	49		SP36出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	95
	SD14・15検出状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	49		SP62出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	96
	SD14完掘状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	49		SP180半截状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	96
	SD14上層断面 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	49		SP180遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	96
	SD14出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	52		SP180出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	97
	SD15土層断面 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	52		SP201遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	97
	SD15完掘状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	52		SP201出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	98
	SD15出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	56		SP207遺物出土状況その1 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	98
	SD1完掘状况 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	59		SP207遺物出土状況その2 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	98
	SD1出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	61		SP207出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	98
	STI遺構検出状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	63		SP559検出状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	99
	ST1完掘状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	63		SP559半截状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	99
	ST2遺構検出状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	63		SP559完掘状況 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	99
写真28	ST2石棺検出状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	63	写真82	SP559出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	99
	ST2完掘状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	63		SP559出土鉄滓・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	99
写真30	ST3検出状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	65	写真84	SX11遺構検出状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	100
写真31	ST3側石検出状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	65	写真85	SX11断面検出状況その1・・・・・・・・・・・・・・・・・	100
写真32	ST3完掘状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	65	写真86	SX11断面検出状況その2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	100
写真33	ST3出土管玉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	65	写真87	SX11出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	100
写真34	ST4完掘状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	66	写真88	TAK201202調査区古墳時代包含層出土遺物その1・・・・・・	108
写真35	ST5管玉検出状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	67	写真89	TAK201202調査区古墳時代包含層出土遺物その2・・・・・・	109
写真36	ST5遺構検出状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	67	写真90	TAK201202調査区古墳時代包含層出土遺物その3・・・・・・	110
写真37	ST5完掘状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	67	写真91	TAK201208調査区古墳時代包含層出土遺物 ・・・・・・・	111
写真38	ST5出土管玉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	67	写真92	SB1 (東から) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	130
写真39	TAK201202調査区弥生時代包含層出土遺物その1・・・・・・	72	写真93	SB1出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	131
写真40	TAK201202調査区弥生時代包含層出土遺物その2・・・・・・	73	写真94	SB2 (東から) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	132
写真41	TAK201202調査区弥生時代包含層出土遺物その3・・・・・・	74	写真95	SB2出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	132
写真42	TAK201208調査区弥生時代包含層出土遺物 ・・・・・・・	78	写真96	SB3 (東から) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	133
写真43	TAK201208調査区弥生時代包含層出土石包丁(3層)・・・・・	79	写真97	SB3出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	134
写真44	SK35半截状況 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	87	写真98	SB4 (北から) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	134
写真45	SK35完掘状況 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	87	写真99	SB4出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	135
写真46	SK35出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	88	写真100	SB5 (東から) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	136
写真47	SK36半截状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	88	写真101	SB5出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	137
写真48	SK36完掘状況 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	88	写真102	SB6 (東から) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	137
	SK36出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	89	写真103	SB7 (北から) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	138
	SK84遺構検出状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	90		SB10 (北から)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	SK84完掘状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	90		SB10出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
		91		SB11 (右)、SB12 (中)、SB13 (左) (北から) ・・・・・・	
		92		SB11出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
		92		SB13出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
· >< 0 t	> = NM-1/ XI/ II		2 24100		_ 14

写 真 目 次(2)

写真109	SC1 (北から) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	写真164 SK8出土遺物・・・・・・・・・・・・ 188
写真110	SC3 (北から) ・・・・・・・・・・・・ 143	写真165 SK16 (東から)・・・・・・・・・・ 190
写真111	SC3出土遺物-1 ・・・・・・・・・・・・ 146	写真166 SK16出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 190
写真112	SC3出土遺物-2 ・・・・・・・・・・・・ 147	写真167 SK23 (東から)・・・・・・・・・・・ 191
写真113	SC4 (東から) ・・・・・・・・・・・・ 148	写真168 SK23出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 191
写真114	SC4-SL1 (南から) ・・・・・・・・・・ 148	写真169 SK31 (北から)・・・・・・・・・・・ 191
写真115	SC4-SP1 (東から) ・・・・・・・・・・ 148	写真170 SK31出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 192
写真116	SC4出土遺物 ・・・・・・・・ 150	写真171 SK34 (東から)・・・・・・・・・・ 192
写真117	SC5床面検出状況 (東から) ・・・・・・・・ 153	写真172 SK34出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 192
写真118	SC5遺物出土状況 (東から) ・・・・・・・・ 153	写真173 SK39 (北から)・・・・・・・・・・ 193
写真119	SC5出土遺物 ・・・・・・・・・・ 154	写真174 SK39出土遺物 ・・・・・・・・・・・・ 194
写真120	SC6床面検出状況 (東から) ・・・・・・・・ 156	写真175 SK42 (北から)・・・・・・・・・・・ 195
写真121	SC6出土遺物 ・・・・・・・・・ 156	写真176 SK42出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 195
	SC7床面検出状況 (東から) ・・・・・・・・・ 156	写真177 SK77 (南東から)・・・・・・・・・・ 195
	SC7出土遺物 ・・・・・・・・・ 157	写真178 SK77出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · 196
	SC8遺物出土状況 (東から) ・・・・・・・・・ 158	写真179 SK79 (東から)・・・・・・・・・・ 196
	SC8出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	写真180 SK79出土遺物 ・・・・・・・・・ 197
	SD1完掘状況 (東から) ・・・・・・・・・ 159	写真181 SK82 (北から)・・・・・・・・・・ 197
	SD1出土遺物 ・・・・・・・・・・・ 160	写真182 SK82出土遺物 ・・・・・・・・・ 198
	SD2完掘状況 (東から) ・・・・・・・・・・ 161	写真183 SK87 (北から)・・・・・・・・・・ 199
	SD7完掘状況 (北から) ・・・・・・・・・・ 162	写真184 SK87出土遺物 ・・・・・・・ 199
	SD7出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	写真185 SK89 (東から)・・・・・・・・・・ 200
	SD8 (左)、SD9 (右)・・・・・・・・・・・ 165	写真186 SK89出土遺物 ・・・・・・・・・ 200
	SD8出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	写真187 SK92検出状況 (北から)・・・・・・・・ 202
	SD9出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
		写真188 SK92壁沿いに貼られた粘土 (東から)・・・・・・ 202
	SD10検出状況⑧区(東から)・・・・・・・・ 167	写真189 SK92出土遺物・・・・・・・・・・・・・202
	SD10断面⑧区 (東から)・・・・・・・・・ 167	写真190 SK93 (西から)・・・・・・・・・ 203
	SD10出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	写真191 SK93出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · 203
	SD11、SD12断面®区 (東から)・・・・・・・ 169	写真192 SK95完掘 · · · · · · · · · · · · · · · ·
	SD11出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	写真193 SK95出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · 204
	SD12完掘®区 (東から)・・・・・・・・・・ 170	写真194 SK96断面 (北から)・・・・・・・・・・205
	SD12出土遺物-1 ・・・・・・・・・・・・ 173	写真195 SK96完掘 (北から)・・・・・・・・・・ 205
	SD12出土遺物-2 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	写真196 SK96出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · 205
	SD13断面 (東から)・・・・・・・・・・・ 176	写真197 SK121 (東から) ・・・・・・・・・ 206
	SD13出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	写真198 SK121出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · 206
	SD16断面 (北から)・・・・・・・・・・・・ 177	写真199 SL3 (東から) ・・・・・・・・・・ 207
	SD16完掘状況 (東から)・・・・・・・・・・・ 178	写真200 SS2 (東から) ・・・・・・・・・ 207
	SD16出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	写真201 SS5 (北から) ・・・・・・・・・ 208
	SD17遺物出土状況 (北から)・・・・・・・・・・ 179	写真202 SX1 (西から) ・・・・・・・・ 208
	SD17出土遺物 ・・・・・・・・ 179	写真203 ST1検出状況 (北から) ・・・・・・・・・ 209
	SD18完掘状況 (西から)・・・・・・・・・・ 180	写真204 ST1完掘状況 (北から) ・・・・・・・・・ 209
	SD29完掘状況 (東から)・・・・・・・・・・ 180	写真205 ST1出土遺物・・・・・・・・・・・・ 210
	SD29出土遺物 ・・・・・・・・・・ 181	写真206 ST2 (北から) ・・・・・・・・・・・ 210
	SD31断面 (西から)・・・・・・・・・・ 182	写真207 ST2砥石と金属製品(546)出土状況(北から)・・・・・・ 210
写真154	SD31出土遺物 ・・・・・・・・ 182	写真208 ST2出土遺物・・・・・・・・・・・ 211
写真155	SD35 (西から)・・・・・・・・・・ 183	写真209 ST4 (南から) ・・・・・・・・・・・ 213
写真156	SD35断面 (西から)・・・・・・・・・ 183	写真210 ST4出土遺物・・・・・・・・・・・ 214
	SII (南から) ・・・・・・・・・・ 184	写真211 ST4出土鏡透過X線 ・・・・・・・・・ 214
写真158	SII遺物出土状況(西から)・・・・・・・・・ 184	写真212 ST4出土鏡背面処理前・・・・・・・・・ 214
写真159	SI1出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 185	写真213 ST4出土鏡鏡面処理前・・・・・・・・・ 214
写真160	SI2 (南から) ・・・・・・・・・・ 186	写真214 ST4出土鏡鏡面に残る繊維・・・・・・・・ 214
写真161	SK5 (南から) ・・・・・・・・・・ 187	写真215 同 拡大・・・・・・・・・・・・・ 214
写真162	SK5出土遺物 ・・・・・・・ 187	写真216 ST4出土鏡背面に残る木質編み込み・・・・・・・ 214
写真163	SK8半截状況 (北から) ・・・・・・・・・ 188	写真217 同 拡大・・・・・・・・・・・・・・ 214

写 真 目 次(3)

写真218	SP①23(北から) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	215 写真272	SP⑦166出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真219	SP①23 完掘状況 (北から)・・・・・・・・・・・・・	215 写真273	SP⑦181出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真220	SP①23出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	216 写真274	SP⑦186(東から)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真221	SP①92出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	217 写真275	SP⑦186出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真222	SP①95 (北から)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	217 写真276	SP⑦194出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真223	SP①95出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	218 写真277	SP⑦224出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真224	SP①107出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	218 写真278	SP⑦333出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真225	SP①214出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	219 写真279	2層出土貿易陶磁 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真226	SP①245 (北から)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	219 写真280	2層出土ミニチュア土器・坩堝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真227	SP①245出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	220 写真281	2層出土石鍋 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	SP①246出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		2層出土石製品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	SP①333(南から)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		2層出土金属製品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	SP①333出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		3層出土貿易陶磁 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	SP①342出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		3層出土ミニチュア土器 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	SP①365(南から)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		3層出土石鍋 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	SP①365出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		3層出土石製品 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	SPI 457出土遺物······		3層出土金属製品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	SP①627出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		2層・3層出土のその他の土器・土製品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	SP①746出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		文字資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	SP①750(南から)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		石帯(巡方)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	SP①750出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		石製煙管火皿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	SP①757出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		金属製品X線写真-1 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •
	SP①807出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		金属製品X線写真-2 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
写真241	SP①855出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	226 写真295	金属製品X線写真-3・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真242	SP①988出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	227 写真296	遺跡内を流れる水路 ・・・・・・・・・・・・・・
CONTROL O			
与具243	SP①1032出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	227	
	SP①1032出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	227 228	
写真244			図版目次
写真244 写真245	SP①1102出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	228	図版目次
写真244 写真245 写真246	SP①1102出土遺物 SP①1197出土遺物	228 228 229	図版目次
写真244 写真245 写真246 写真247	SP①1102出土遺物	228 228 229 230 TAK20120	
写真244 写真245 写真246 写真247 写真248	SP①1102出土遺物	228 228 229 230 TAK20120	8調査区作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真244 写真245 写真246 写真247 写真248 写真249	SP①1102出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1274出土遺物 SP①1277(東から)	228 228 229 230 TAK20120 230 TAK20120	8調査区作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真244 写真245 写真246 写真247 写真248 写真249 写真250	SP①1102出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1274出土遺物 SP①1277(東から) SP①1277出土遺物	228 228 229 230 TAK20120 230 TAK20120	8調査区作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真244 写真245 写真246 写真247 写真248 写真249 写真250 写真251	SP①1102出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1274出土遺物 SP①1277(東から) SP①1277出土遺物 SP①1299出土遺物	228 229 230 TAK20120 230 TAK2120 230 231	8調査区作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真244 写真246 写真247 写真247 写真248 写真249 写真250 写真251 写真252	SP①1102出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1274出土遺物 SP①1277(東から) SP①1277出土遺物 SP①1299出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1327出土遺物	228 229 230 TAK20120 230 TAK20120 231 231	8調査区作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真244 写真245 写真246 写真247 写真248 写真250 写真251 写真252 写真253	SP①1102出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1274出土遺物 SP①1277日土遺物 SP①1299出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1338(東から)	228 229 230 TAK20120 230 230 231 231 231 232 232	8調査区作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真244 写真245 写真246 写真247 写真248 写真250 写真251 写真252 写真253 写真253	SP①1102出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1274出土遺物 SP①1277口土土遺物 SP①1277出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1337出土遺物 SP①1338(東から) SP①1338出土遺物	228 229 230 TAK20120 230 230 231 231 231 232 232	8調査区作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真244 写真245 写真246 写真247 写真248 写真250 写真251 写真252 写真253 写真254 写真255	SP①1102出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1274出土遺物 SP①1277(東から) SP①1277出土遺物 SP①1299出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1338(東から) SP①1338出土遺物 SP①1462出土遺物 SP①1462出土遺物	228 229 230 TAK20120 230 231 231 231 232 232 233	8調査区作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真244 写真245 写真246 写真247 写真248 写真250 写真251 写真252 写真253 写真254 写真254 写真255	SP①1102出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1274出土遺物 SP①1277(東から) SP①1277出土遺物 SP①1277出土遺物 SP①1277出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1338(東から) SP①1338出土遺物 SP①1338出土遺物 SP①1462出土遺物 SP①1462出土遺物	228 229 230 TAK20120 230 231 231 231 232 232 233 233	8調査区作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真244 写真245 写真246 写真247 写真248 写真250 写真251 写真252 写真253 写真254 写真256 写真256 写真257	SP①1102出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1274出土遺物 SP①1277(東から) SP①1277出土遺物 SP①1299出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1338(東から) SP①1338出土遺物 SP①1462出土遺物 SP①14462出土遺物 SP②138出土遺物 SP②1438出土遺物	228 229 230 TAK20120 230 TAK20120 231 231 231 232 232 233 233 234	8調査区作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真244 写真245 写真246 写真247 写真248 写真250 写真251 写真252 写真253 写真254 写真255 写真256 写真257 写真257	SP①1102出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1274出土遺物 SP①1277(東から) SP①1277出土遺物 SP①1277出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1338(東から) SP①1338出土遺物 SP①1462出土遺物 SP①1494出土遺物 SP②438出土遺物 SP②438出土遺物 SP②2527出土遺物	228 229 230 TAK20120 230 TAK20120 231 231 231 232 232 233 233 234 234	8調査区作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真244 写真245 写真246 写真247 写真250 写真250 写真251 写真252 写真255 写真256 写真256 写真257 写真258 写真258	SP①1102出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1274出土遺物 SP①1277(東から) SP①1277出土遺物 SP①1299出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1381共遺物 SP①138出土遺物 SP①138出土遺物 SP①1462出土遺物 SP②148出土遺物 SP②1494出土遺物 SP②2438出土遺物 SP②527出土遺物 SP②627出土遺物 SP②627出土遺物	228 229 230 TAK20120 230 TAK20120 231 231 232 232 233 233 233 234 234 235	8調査区作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真244 写真245 写真246 写真247 写真250 写真250 写真251 写真252 写真255 写真256 写真256 写真257 写真258 写真258 写真258 写真259 写真259	SP①1102出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1274出土遺物 SP①1277(東から) SP①1277出土遺物 SP①1299出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1338(東から) SP①1338出土遺物 SP①1462出土遺物 SP②148出土遺物 SP②1494出土遺物 SP②4527出土遺物 SP②627出土遺物 SP②627出土遺物 SP②656(西から)	228 229 230 TAK20120 230 TAK20120 231 231 231 232 232 233 233 234 234 235 235	8調査区作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真244 写真245 写真246 写真247 写真248 写真250 写真251 写真252 写真253 写真254 写真255 写真256 写真257 写真258 写真258 写真259 写真260 写真260	SP①1102出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1274出土遺物 SP①1277(東から) SP①1277出土遺物 SP①1277出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1338(東から) SP①1338出土遺物 SP①1462出土遺物 SP②148出土遺物 SP②1527出土遺物 SP②1656出土遺物 SP②656(西から) SP②656出土遺物 SP②656出土遺物	228 229 230 TAK20120 230 TAK20120 231 231 231 232 232 233 233 234 234 235 235 236	8調査区作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真244 写真245 写真246 写真247 写真248 写真250 写真251 写真252 写真253 写真254 写真256 写真256 写真257 写真258 写真259 写真260 写真261 写真261	SP①1102出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1277(東から) SP①1277出土遺物 SP①1277出土遺物 SP①1299出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1338出土遺物 SP①138出土遺物 SP①1462出土遺物 SP①1462出土遺物 SP②1462出土遺物 SP②1462出土遺物 SP②438出土遺物 SP②457出土遺物 SP②656(西から) SP②656出土遺物 SP②656出土遺物 SP②651出土遺物	228 229 230 TAK20120 230 TAK20120 231 231 231 232 232 233 233 234 234 235 235 236	8調査区作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真244 写真245 写真246 写真247 写真250 写真251 写真252 写真253 写真254 写真255 写真256 写真257 写真258 写真259 写真260 写真261 写真262	SP①1102出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①11252出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1277(東から) SP①1277(東から) SP①1277出土遺物 SP①1299出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1338(東から) SP①1338出土遺物 SP①1482出土遺物 SP①1482出土遺物 SP②438出土遺物 SP②438出土遺物 SP②457出土遺物 SP②656(西から) SP②656(西から) SP②656出土遺物 SP③1出土遺物 SP③11出土遺物 SP③12(南から)	228 229 230 TAK20120 230 TAK20120 231 231 231 232 232 233 233 234 234 235 235 236 236	8調査区作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真244 写真245 写真246 写真247 写真250 写真251 写真252 写真253 写真254 写真255 写真256 写真256 写真260 写真260 写真261 写真262 写真263 写真263	SP①1102出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1274出土遺物 SP①1277(東から) SP①1277出土遺物 SP①1299出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1338は東から) SP①1338出土遺物 SP①1462出土遺物 SP②148出土遺物 SP②1462出土遺物 SP②2438出土遺物 SP②457出土遺物 SP②657出土遺物 SP②657出土遺物 SP②657出土遺物 SP②656(西から) SP②656出土遺物 SP③11出土遺物 SP③11出土遺物 SP③11出土遺物 SP③11出土遺物 SP⑤11出土遺物 SP⑤11出土遺物	228 229 230 TAK20120 230 TAK20120 231 231 231 232 232 233 233 234 234 235 235 236 236 236 237	8調査区作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真244 写真245 写真246 写真247 写真250 写真251 写真252 写真253 写真254 写真255 写真256 写真256 写真256 写真260 写真261 写真262 写真263 写真264 写真264	SP①1102出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1274出土遺物 SP①1277(東から) SP①1277出土遺物 SP①1277出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1338(東から) SP①1338出土遺物 SP①1462出土遺物 SP①1484出土遺物 SP②1527出土遺物 SP②16527出土遺物 SP②657出土遺物 SP②657出土遺物 SP②656(西から) SP③11出土遺物 SP③12(南から) SP③12出土遺物 SP⑤12出土遺物 SP⑤17出土遺物 SP⑥57出土遺物 SP⑥57出土遺物	228 229 230 TAK20120 230 TAK20120 231 231 232 232 233 233 234 234 235 235 236 236 236 237 238	8調査区作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真244 写真245 写真246 写真247 写真250 写真251 写真252 写真253 写真254 写真256 写真256 写真257 写真258 写真260 写真261 写真262 写真263 写真264 写真263 写真264 写真265 写真266	SP①1102出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1274出土遺物 SP①1277(東から) SP①1277出土遺物 SP①1277出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1338(東から) SP①1338出土遺物 SP①1462出土遺物 SP①148出土遺物 SP②1527出土遺物 SP②527出土遺物 SP②657出土遺物 SP②657出土遺物 SP②656(西から) SP②656出土遺物 SP③12出土遺物 SP③12出土遺物 SP③12出土遺物 SP③11出土遺物 SP③11出土遺物 SP③11出土遺物 SP③11出土遺物 SP⑤11出土遺物 SP⑥11出土遺物 SP⑥11出土遺物 SP⑥11出土遺物 SP⑥11出土遺物 SP⑥11出土遺物 SP⑥11出土遺物 SP⑥11日土遺物 SP⑥11日土遺物 SP⑥11日土遺物 SP⑥11日土遺物 SP⑥11日土遺物 SP⑥11日土遺物 SP⑥11日土遺物	228 229 230 TAK20120 230 TAK20120 231 231 231 232 232 233 234 234 234 235 236 236 236 237 238 238 239	8調査区作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真244 写真245 写真246 写真247 写真250 写真251 写真252 写真253 写真254 写真256 写真256 写真256 写真260 写真261 写真262 写真263 写真264 写真264 写真266 写真266 写真266	SP①1102出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1274出土遺物 SP①1277(東から) SP①1277出土遺物 SP①1277出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1338(東から) SP①1338出土遺物 SP①1462出土遺物 SP①148出土遺物 SP②1527出土遺物 SP②527出土遺物 SP②656(西から) SP②656出土遺物 SP②656出土遺物 SP③11出土遺物 SP③11出土遺物 SP③11出土遺物 SP③11出土遺物 SP③11出土遺物 SP③11出土遺物 SP③11出土遺物 SP③11出土遺物 SP③11出土遺物 SP⑤11出土遺物 SP⑥11出土遺物 SP⑥11出土遺物 SP⑥11出土遺物 SP⑥11出土遺物 SP⑥57出土遺物 SP⑥57出土遺物 SP⑥57出土遺物	228 229 230 TAK20120 230 TAK20120 231 231 231 232 232 233 233 234 234 235 235 236 236 236 237 238 238 239 239	8調査区作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真244 写真245 写真246 写真247 写真250 写真251 写真252 写真253 写真254 写真256 写真256 写真260 写真261 写真262 写真264 写真265 写真264 写真265 写真266 写真267 写真268	SP①1102出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1277(東から) SP①1277出土遺物 SP①1277出土遺物 SP①1299出土遺物 SP①1299出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1338(東から) SP①1338出土遺物 SP①1482出土遺物 SP①1482出土遺物 SP②438出土遺物 SP②438出土遺物 SP②457出土遺物 SP②657出土遺物 SP②656出土遺物 SP②656出土遺物 SP③12出土遺物 SP③17出土遺物 SP③11出土遺物	228 229 230 TAK20120 230 TAK20120 231 231 231 232 233 233 233 234 234 235 235 236 236 236 237 238 238 239 239 240	8調査区作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
写真244 写真245 写真246 写真247 写真250 写真251 写真252 写真253 写真256 写真256 写真256 写真260 写真261 写真262 写真262 写真263 写真264 写真265 写真266 写真266 写真266 写真266 写真266 写真266 写真266 写真267	SP①1102出土遺物 SP①1197出土遺物 SP①1252出土遺物 SP①1274出土遺物 SP①1277(東から) SP①1277出土遺物 SP①1277出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1327出土遺物 SP①1338(東から) SP①1338出土遺物 SP①1462出土遺物 SP①148出土遺物 SP②1527出土遺物 SP②527出土遺物 SP②656(西から) SP②656出土遺物 SP②656出土遺物 SP③11出土遺物 SP③11出土遺物 SP③11出土遺物 SP③11出土遺物 SP③11出土遺物 SP③11出土遺物 SP③11出土遺物 SP③11出土遺物 SP③11出土遺物 SP⑤11出土遺物 SP⑥11出土遺物 SP⑥11出土遺物 SP⑥11出土遺物 SP⑥11出土遺物 SP⑥57出土遺物 SP⑥57出土遺物 SP⑥57出土遺物	228 229 230 TAK20120 230 TAK20120 231 231 231 232 232 233 233 234 234 235 235 236 236 236 237 238 238 239 239	8調査区作業風景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

写真271 SP⑦166(南から)・・・・・・・・・・・ 241

I 調査の経過

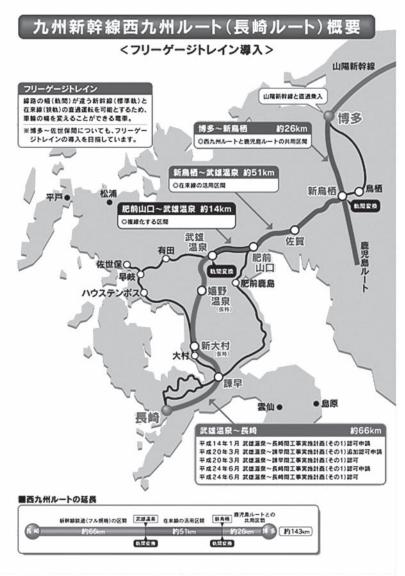
1 調査に至る経緯

(1) 九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)の概要

1) 概要

九州新幹線西九州ルート (長崎ルート)は、福岡市と 鹿児島市ならびに長崎市を結 ぶ整備新幹線計画(九州新幹 線)のうち、福岡市と長崎市 を結ぶルートを指す。整備新 幹線としては佐賀県内を含め た区間が含まれるが、詳細な ルート案は未定であり、未着 工である。

現在の計画としては、博多駅 ~ 新鳥栖駅間 (約26km) は 鹿児島ルートと路線を共有し、新鳥栖駅 ~ 武雄温泉駅間 (約51km) は在来線を活用する。武雄温泉駅 ~ 長崎間(約66km) はフル規格の新線である。使用車両として、車輪の幅を走行中に変更できるフリーゲージトレインを導入する計画だったが、フリーゲージトレインの開発が遅れ、2022年度までの量産化が間に合わないことから、博多駅~武雄温



第1図 九州新幹線西九州ルート概要図(長崎県HPより)

泉駅間の在来線と武雄温泉駅〜長崎駅間の新幹線を武雄温泉駅で乗り継ぐ「リレー方式」で2022 年度内に暫定開業することとなった。現在の在来線特急「かもめ」と比べて、乗り継ぎ時間を含め、30~45分程度の時間短縮が図られる。

既に開業した整備新幹線区間の場合と同じく、上下分離方式を取る。建設主体は鉄道建設・運輸施設整備支援機構(鉄道・運輸機構)である。平成8年(1996)に決定した新スキームに従い、開業後も鉄道・運輸機構が駅・路線・車両基地などの設備を保有して、受益額の限度内で営業主体の九州旅客鉄道(JR九州)から貸付料の支払いを受ける制度である。不足する工事費用については3分の2を国が、3分の1を沿線自治体(県・市町村)が負担する。国負担分には既

設新幹線(東海道・山陽・東北・上越)の設備を旧新幹線保有機構からJR各社へ譲渡した支払い 額が含まれ、沿線自治体の起債には地方交付税交付金による補助が行われる。

車両基地は長崎県大村市の竹松町・沖田町付近に建設され、県内駅は長崎、諫早、新大村(仮称)である。車両基地予定地は竹松遺跡と重なり、ほとんどの範囲が埋蔵文化財調査対象となった。平成23年度は長崎県埋蔵文化財センターが発掘調査主体となり、長崎県教育庁新幹線文化財調査事務所が平成24年度(2012)から28年度(2016)にかけては約10万㎡(路線部分を含む)の調査を行い、平成28年度から発掘調査報告書の刊行を継続して実施している。

② 沿革

整備新幹線とは昭和45年(1970)に成立した全国新幹線鉄道整備法に基づいて、国鉄民営化後に施工・開業された路線を指す。昭和39年(1964)開業の東海道新幹線に次いで、1970年代初頭までに着工した山陽・東北(東京~盛岡)・上越新幹線は含まれない。

九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)、いわゆる長崎新幹線は、昭和47年7月(1972)に「建設を開始すべき新幹線鉄道の路線を定める基本計画」(基本計画新幹線)に北海道・北陸・九州新幹線(鹿児島ルート)から半年遅れて追加され、昭和48年11月13日(1973)に整備計画が決定した。しかし東北・上越新幹線の高騰する工事費と首都圏の線増工事に伴う大投資、ヤード方式の貨物輸送の赤字、過剰人員や人件費の高騰や国会認可の運賃値上げ抑制などの理由から国鉄財政が悪化の一途をたどる中で、新幹線建設と地方ローカル線運行の赤字、労使対立が社会問題化し、国鉄分割民営化まで新幹線の新規着工は見送られることとなった。

整備計画が決定した後も、九州新幹線長崎ルートの詳細なルート案は未定の面が大きかった。 昭和60年(1985)に、開業時の長崎本線のルートに準じた早岐周りのルート案が公表されたもの の、長崎までの距離が遠回りになることの費用対効果の分析や、JR九州が事業者となる時の採算 性の問題が浮上した。国鉄の経営の失敗に鑑み、運営主体となるJR各社の同意なしに着工させな いとの整備新幹線の合意形成システムを前提としていたためである。平成4年11月(1992)に武 雄温泉から東彼杵町方面へ短絡する新ルート案を長崎県・佐賀県の地元案として提示した。長崎 自動車道や古代官道ルートに准じたものである。

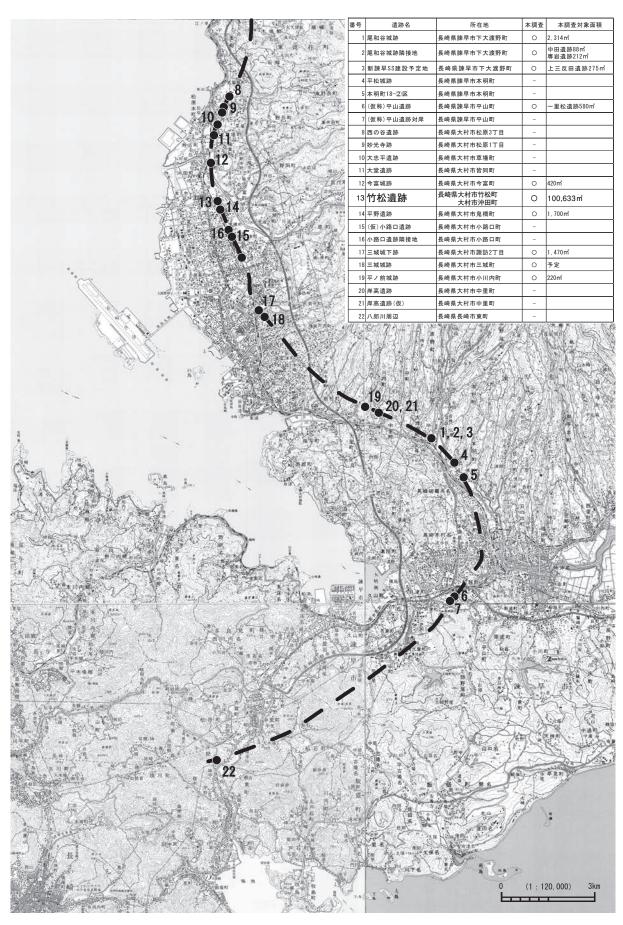
輸送量が大きく、採算性の高い区間から整備新幹線の着工が行われた結果、未着工の区間についても、開業した後の採算性が問題となった。平成8年12月(1996)にJRが建設費用を負担する範囲を定率ではなく、新幹線が開業した後と在来線時代の利益の差による受益額の範囲に限る建設費負担の新スキームが決定し、未着工区間の着工が進んだ。長崎ルートについては、新幹線の通らない肥前山口〜肥前鹿島〜諫早駅間の第三セクター鉄道への移管に際して利害の対立する沿線自治体の慎重論が障壁となった。が、平成19年(2007)12月に新幹線開業後も20年はJR九州が上下分離方式で営業を継続することでJR九州・佐賀県・長崎県が三者合意し、翌年3月の国土交通省の工事認可、4月の着工に至ることとなった。工事は、工期のかかる長大トンネル区間から優先して進められた。

この段階では、在来線区間に挟まれた武雄温泉~諫早駅間については新幹線(軌間1435mm)の 線形の元に在来線(軌間1067mm)の線路を敷設し、160km以上の高速で走行するスーパー特急方 式による運行が前提であった。しかし長崎駅までの区間を含む長崎県内の着工が問題となる中 で、新幹線と在来線区間を直通運行できる軌間可変電車(フリーゲージトレイン)への期待がスペイン(カタランタルゴ・Alvia S120系)での成功事例の参照もあって高まった。

スペイン・ポルトガルの鉄道は1648mmの広軌であるため、標準軌1435mmを持つ隣国フランスの鉄道との直通運転が不可能であった。1968年に車輪幅を走行中に変更できるTalgoIII-RD客車が独自の1軸台車連接方式の国内特急Talgo車両を改良して登場し、国境での乗り換えが不要な国際直通運転が実現した。軌間可変構造のタルゴ客車は後に最高200kmにまで高速化される。更に2006年には日本の軌間可変電車のモデルたるべき4両編成の電車方式の高速列車S120系が実用化された。最高速度250kmを誇る。マドリッド・バルセロナの2大都市を結ぶAVE高速新線が2003年(マドリッド〜リャイダ)・2006年(リャイダ〜タラゴーナ)の段階的な部分開業を経て2008年7月に全線開業に至る中間段階で、同区間に暫定的に投入されたのが最初である。欧州各国との共通規格を見据えて標準軌を採用した高速新線と広軌の在来線を直通し、中間駅での乗り換え抵抗を打破するためである。輸送力の大きなタルゴ方式のS103系が追って投入され、2008年バルセロナまでAVEフル規格新線が全通すると、輸送量の少ない地方都市間の路線に転用され、部分開通が重なる高速新線と在来線を自在に行き来し、全国各地の移動時間の短縮に大きく貢献している。「コンクリートから人へ」を唱える民主党による平成21年(2009)の政権交代により整備新幹線計画や高速道路整備計画は大きく再検討されることとなり、未着工区間の着工優先順位や費用対効果の高い方法への模索などの検討が総合的に行われることとなった。

平成23年10月(2011)に国土交通省が設置した鉄道技術の専門家による軌間可変技術評価委員会により、フリーゲージトレインの基本的な走行可能性に関する技術が確立しているとの評価が下された。それを踏まえ、翌11月に整備新幹線問題検討会議(国土交通省政務三役・財務大臣政務官・総務大臣政務官)で未着工区間の諫早〜長崎駅間を武雄温泉〜諫早駅間を一体的な区間として標準軌によるフル規格路線として整備し、軌間可変電車(フリーゲージトレイン)を導入するとの方針が示された。武雄温泉駅に設けられた軌間変更設備を用いて車輪幅を替え、武雄温泉〜新鳥栖駅間は在来線(複線化された長崎本線・佐世保線)を走行し、新鳥栖からは既に開業している九州新幹線鹿児島ルートに再び車輪幅を変えて乗り入れ、博多から山陽新幹線に直通することで、整備新幹線建設に伴う費用対効果を高める。平成24年6月(2012)に国土交通大臣が鉄道運輸機構に対して武雄温泉〜長崎駅の全区間のフル規格での着工認可が行われた。十年後の平成34年度(2022)の開業が予定される。列車運行が増大するJR佐世保線の肥前山口〜武雄温泉間については複線化工事が行われる。

平成26年10月以降にフリーゲージトレイン(3次試験車両)の台車部の高速走行時の摩滅などが問題化し、安定した営業運転が可能な技術開発が2022年度の開業に間に合わないことが明らかとなった。平成28年3月に与党検討委員会や沿線自治体など6者は、武雄温泉駅で在来線と新幹線区間を乗り換えるリレー方式で新幹線を暫定開業させることで合意した。新鳥栖における新在接続の軌間変更設備と連絡線については建設が保留され、博多~長崎間で二度の乗り換えを回避するため、在来線特急は博多~武雄温泉間を直通運転することとなった。(『今富城跡』長崎県教委2017より再掲)



- 第2図- 試掘・範囲確認調査対象地位置図(『上三反田遺跡』長崎県教委2017―部改変)

(2)調査の経緯

①概要

本県における新幹線車両基地(当初は保守基地)の用地としては、地形が険しく、平地に乏しい県内の新幹線沿線で、適地は竹松付近と長崎港周辺(新県庁・MICE施設用地に充当)のみであったが、検討の結果、大村市の竹松地区が選ばれた。

車両基地の予定地となった竹松地区の多くが竹松遺跡として周知された遺跡範囲に属し、県教 委による範囲確認調査の結果、10万㎡以上の面積の全面発掘調査が必要となった。

近年の九州の大規模遺跡調査では吉野ヶ里遺跡(約30万㎡)には及ばないが、工業団地造成に伴う上岩田遺跡(福岡県小郡市・11万㎡)に準じ、西九州自動車道建設に伴う中原遺跡(佐賀県唐津市・約8万㎡)を上回る規模であった。

長崎県教育委員会は大規模な発掘調査を円滑に進めるために民間調査組織の支援を得るとともに、平成22年(2010年)1月に壱岐市の原の辻遺跡のそばに、壱岐市立一支国博物館と合築の形で長崎県埋蔵文化財センターが設立されていたが、平成23年度(2011)の試掘(TAK201105)、部分的な本調査(TAK201108)の同センターの調査を経て、調査の効率化のために本土部での新幹線関係の埋蔵文化財調査には別機関を置くこととなった。それが平成24年度(2012年度)に地方機関として設立された新幹線文化財調査事務所である。

2経緯

2009年(平成21年)3月:鉄道建設・運輸施設整備支援機構は、センター杭測量を終了。

同年7月:鉄道・運輸機構の測量図に基づき協議をし、10月末に分布調査を実施。23ヶ所において、試掘及び範囲確認調査の必要があることを確認。

同年12月:鉄道・運輸機構及び県の新幹線事業対策室へ分布調査報告を送付。

2010年(平成22年)7月:「新大村駅」の試掘調査を実施。埋蔵文化財は確認されず、工事に支障なしと判断。

同年10月:鈴田トンネル工事の出口部分の工事用取付道路建設に伴い尾和谷城跡の範囲確認調査 を実施したが、埋蔵文化財は確認されなかった。

2011年(平成23)年1月:鈴田トンネル出口部分の工事に伴う尾和谷城跡本調査を実施(約720 ㎡)。

同年3月:鉄道・運輸機構と用地買収の進捗状況について協議。また今後のスケジュールについ て確認。

同年4月:鈴田トンネル入口部分の工事に伴う岸高遺跡の範囲確認調査の結果、工事に支障なし と判断。

同年4月~6月:鈴田トンネル出口部分の工事に伴う尾和谷城跡本調査を実施(約1,594m²)。

同年7月~6月: 竹松地区保守基地建設及び路線部(対象地区約90,000㎡の一部を対象)の工事に伴う範囲確認調査を実施。調査の結果約18,000㎡について本調査が必要となった。

同年11月~翌年3月: 竹松遺跡 (竹松地区保守基地建設予定地) TAK201108調査区の本調査を実施 (約1,500㎡)。 2012年(平成24)3月:尾和谷城跡発掘調査報告書作成。

同年4月1日:大村市に長崎県教育庁新幹線文化財調査事務所を設置し、本格的に発掘調査を実施。

同年5月~翌年3月: 竹松遺跡(保守基地) TAK201202調査区の発掘調査を実施。

同年5月:鈴田トンネル出口部分の工事に伴う尾和谷城跡隣接地試掘確認調査の結果、本調査が

必要となり、約300m²(中田・専岩遺跡)について緊急発掘調査を実施した。

同年6月:平松城跡範囲確認調査を実施。

同年7月:竹松遺跡(路線部) (TAK201204) 範囲確認及び試掘調査を実施。

同年8月~3月:竹松遺跡(路線部)TAK201208調査区の発掘調査を実施。

同年9月:新諫早SS建設に伴う試掘調査を実施。

同年10月:平野遺跡範囲確認及び試掘調査を実施。

同年10月~11月: 竹松遺跡 (路線部) (TAK201213) の範囲確認及び試掘調査を実施。

同年11~12月:小路口遺跡隣接地試掘調査を実施。

2013年(平成25)1月以降:竹松遺跡(車両基地)(TAK201217)の範囲確認及び試掘調査を実施。

同年5月~1月: 竹松遺跡(車両基地・11,500㎡) TAK201301調査区の発掘調査を実施。

同年5月~3月: 竹松遺跡(車両基地・13,557㎡)TAK201302調査区の発掘調査を実施。

同年6月~3月: 竹松遺跡(路線部・5,340㎡) TAK201303調査区の発掘調査を実施。

同年6月~2月: 竹松遺跡(車両基地・9,900㎡)TAK201304調査区の発掘調査を実施。

同年7月~10月:平野遺跡(路線部・1,700㎡)の発掘調査を実施。

同年7月:尾和谷城跡の範囲確認調査を実施。

同年10月~12月: 竹松遺跡(車両基地) (TAK201309) の範囲確認調査及び試掘調査を実施。

同年12月:竹松遺跡(市道拡幅) (TAK201312) の範囲確認調査を実施。

同年12月:平野遺跡の試掘調査を実施。

同年8月:諫早~長崎間分布調査実施。

2014年(平成26)5月:大堂遺跡試掘・範囲確認調査を実施。

同年6月~10月: 竹松遺跡(車両基地6,320㎡) TAK201403調査区の発掘調査を実施。

同年6月~翌年2月:竹松遺跡(車両基地7,720㎡) TAK201404調査区の発掘調査を実施。

同年6月~翌年2月:竹松遺跡(車両基地9,487㎡)TAK201405調査区の発掘調査を実施。

同年7月~翌年2月:竹松遺跡(車両基地4,920㎡) TAK201406調査区の発掘調査を実施。

同年7月~翌年3月:竹松遺跡(車両基地6,876㎡) TAK201407調査区の発掘調査を実施。

同年7月~8月:今富城跡、小路口遺跡(路線)、三城城下跡の試掘・範囲確認調査を実施。

同年9月:妙光寺跡、大忠平遺跡の試掘・範囲確認調査を実施。

同年11月~12月:竹松遺跡(道路拡幅106㎡)TAK201419調査区の発掘調査を実施。

同年11月~翌年1月: 竹松遺跡(車両基地) (TAK201416) 、西の谷遺跡の試掘・範囲確認調査を 実施。

2015年(平成27)2月~3月:平ノ前遺跡(仮称)、岸高遺跡(仮称)の試掘・範囲確認調査実施。 同年5月~翌年1月:竹松遺跡(車両基地4,400㎡) TAK201501調査区の発掘調査実施。 同年6月:竹松遺跡(TAK201503)の範囲確認調査実施。

同年6月~7月:56Km地点遺跡(仮称)試掘調査実施。

同年6月~12月: 竹松遺跡 (2,800㎡) TAK201502調査区の発掘調査実施。

同年8月~翌年2月: 竹松遺跡 (2,180㎡) TAK201506調査区の発掘調査実施。

同年9月:平山遺跡の試掘調査実施。

同年11月:三城城下跡の試掘調査実施。

同年11月~12月:竹松遺跡他(TAK201516)試掘調査実施。

2016年(平成28)1月~2月:上三反田遺跡(275㎡)発掘調査実施。

同年2月:平山遺跡対岸遺跡(仮称)の試掘調査実施。

2016年(平成28)4月~6月:一里松遺跡(580㎡)発掘調査実施。

同年5月~8月:三城城下跡(1,470㎡)発掘調査実施。

同年6月~10月: 竹松遺跡 (2,300㎡) TAK201604調査区の発掘調査実施。

同年10月~11月:今富城跡(420㎡)の発掘調査実施。

同年10月~11月:三城城跡の試掘調査実施。

同年12月~翌年2月:平ノ前城跡(220㎡)の発掘調査実施。

(堀内和宏)

2 調査組織

竹松遺跡のTAK201202調査区とTAK201208調査区の本調査は長崎県教育庁新幹線文化財調査事務所が担当し、作業員の雇用・労務管理・現場の安全管理および地形測量・遺構実測・空中写真撮影などを竹松遺跡特定埋蔵文化財発掘調査共同企業体に委託した。共同企業体の構成員は、TAK201202調査区が大成エンジニアリング株式会社と株式会社創建の共同企業体、TAK201208調査区は扇精光株式会社と株式会社三基の共同企業体である。

(1)新幹線文化財調查事務所

所長 副島和明(平成24年度~25年度)、古門雅高(平成26年度~)

課長 田尻清秀(平成24年度~27年度)、小島克孝(平成28年度~)、 杉原敦史(平成26年度~)

係長 村川逸朗(平成24年度~27年度)、中尾篤志(平成28年度~)

主任主事 浜口広史(平成25年度~28年度)、主事 水口真理子(平成28年度~)

(2) TAK201202調査区

①範囲確認調査担当 川畑敏則(長崎県埋蔵文化財センター文化財保護主事)、林隆広(同)、 宮武直人(同文化財調査員)、今西亮太(同)

②本調査担当

川畑敏則(文化財保護主事)、宮武直人(文化財保護主事)、山梨千晶(文化財保護主事)、松崎光伸(文化財調査員)、川淵雅行(同)、濵村一成(同)、田島陽子(同)、吉川陽一郎(同)

【大成エンジニアリング株式会社】

現場代理人:渡辺宏司、9月10日より浅見克己

調査員 : 堀苑孝志、村上孝司、松本周作、柳田利明、吉田好孝、岩瀬雄史、土沼章一

【株式会社創建】調査員:平田貴正

③報告書担当

川畑敏則(主任文化財保護主事)、中尾篤志(係長)、中川潤次(文化財調査員)、一瀬勇士(同)、 新久保恒和(同)、東郷一子(同)、久田ひとみ(同)、柿田佳央理(同)、久保田由佳(同)、 松屋祥子(同)、堀内和宏(同)、安楽勉(同)

(3) TAK201208調査区

- ①範囲確認調查担当 村川逸朗(係長)、山梨千晶(文化財保護主事)
- ②本調査担当

宮武直人(文化財保護主事)、吉川陽一郎(文化財調査員)、徳弘隆之(同)、佐藤理恵(同)、 苧坪祐樹(同)

【扇精光株式会社】

現場代理人:池井栄次

調查員 : 井立尚、織田健吾

【株式会社三基】調査員:梅木信宏

③報告書担当

川畑敏則(主任文化財保護主事)、中尾篤志(係長)、浦田和彦(文化財保護主事)、本田秀樹(同)、中川潤次(文化財調査員)、新久保恒和(同)、東郷一子(同)、久田ひとみ(同)、柿田佳央理(同)、久保田由佳(同)、松屋祥子(同)、堀内和宏(同)、川淵雅行(同)、江口喬裕(同)、安楽勉(同)

3 調査方法

発掘調査区は、平面直角座標第 I 系を使用し、4級基準点測量を 世界測地系で実施した。グリッドは20mピッチで設定し、北西交点(グリッドの左上)を基準にX 座標の百の位、十の位の数字を組み合わせて4桁のグリッド番号を付して順に並べ、グリッド名とした。

例えばX座標-6262.000、Y座標42536.000の場合は「2653」グリッドとした。(第5,9図参照)

調査区が広いので、TAK201202 調査区は、地割に合わせて①区か ら⑧区の小調査区を設けた。

TAK201208調査区は0から④区の小調査区を設定した。

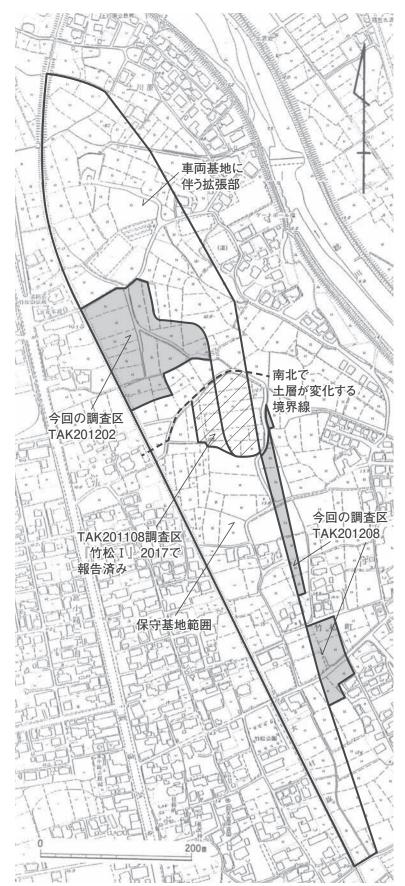
掘削は表土を重機で除去した後 に人力で行った。

遺物の取り上げは、遺構に伴う ものや原位置を保っていると思わ れるものについては、出土状況を 写真記録するとともに、座標を記 録しながら取り上げを行った。

遺構実測は基本的に手実測で行い、基準点には座標を落とした。 溝などの規模が大きい遺構は、

デジタル実測で対応した。

なお、平成24年(2012)6 月、諫早・長崎間の着工認可に伴い、大村市に建設予定であった保 守基地が車両基地へと拡大変更された。



第3図 保守·車両基地概略図 (1/5,000) (『竹松I』長崎県教委2017一部改変)

Ⅱ 地理的・歴史的環境

1 地理的環境

大村市は県本土部の中央に位置し、西に大村湾、東に多良山系と接する。市内には多良山系を源として大村湾に注ぐ市内最大の二級河川郡川が流れ、この郡川と大上戸川が運搬した土砂によって東西約2.5km、南北約6kmの広がりを持つ県内最大の河成扇状地である大村扇状地が形成されている。

大村扇状地は矢次橋付近から郡川河口に向けて広がる完新世の新規扇状地と郡川下流部の黒丸・沖田・寿古に発達した三角州からなる。竹松遺跡は大村扇状地の扇端付近、郡川が山間部から扇状地に流れ出す谷口から2.5kmほどの場所に位置する(第4図)。標高は10m~15m前後を測り、東西約450m、南北約650mの範囲を有する。現在周辺は宅地、田畑として利用される。遺跡は縄文時代から中世の包蔵地として周知されており、本調査区はその中央部に位置する。

(『竹松 I』長崎県教委2017年より再掲)



第4図 竹松遺跡周辺地形および遺跡分布図(1/25,000)(『竹松 I』長崎県教委2017一部改変)

2 歴史的環境

郡川中下流域には、縄文時代から現代に至るまでの生活の痕跡を残す多くの遺跡が分布し、恒常的に生活圏が形成されてきた。当遺跡の近隣の遺跡としてはまず、郡川の下流左岸には、縄文時代晩期から弥生・古墳・中世までの大規模複合遺跡であり、古代の沖田条里遺跡を含む黒丸遺跡が展開する。その南方には石棺墓や甕棺墓による墓域を伴う弥生時代中期の環濠集落である富の原遺跡がある。

右岸には、弥生時代終末期から古墳時代初頭の石棺墓を検出した冷泉遺跡、それに隣接して5世紀初頃から中頃に築造されたと考えられる竪穴系横口式石室を持つ黄金山古墳が存在する。その北側の低湿地の水田域の周りに、地堂古墳・石走古墳など小規模な古墳を多くめぐらせることも注目される。

古墳時代には大村湾の海水が入り込む入海であったことが想定されている。

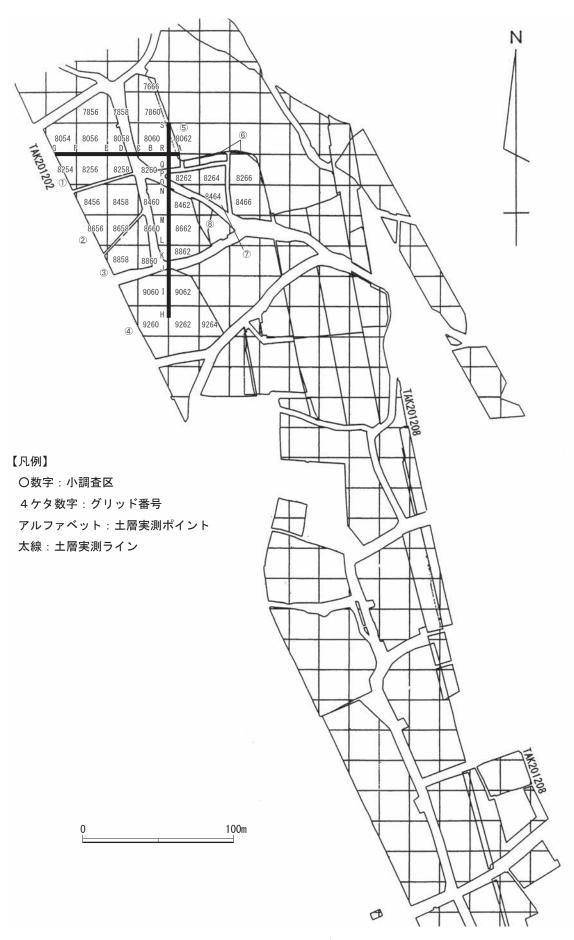
郡川中流域は「こおり」の地名や沖田条里遺構から、古代には「彼杵郡」の郡家の比定地である。彼杵郡は8世紀前半の『肥前国風土記』編纂段階で4郡、平安期の『倭名類聚抄』には併合されて2郡からなり、そのうちの大村郷に属していたと考えられる。中世後半には地方豪族として大村氏は頭角を現し、郡川河口域に好武城、隣接して今富城を築き、大上戸川流域の大村館・三城城と並ぶ政治・軍事的拠点とした。

竹松遺跡では九州新幹線西九州ルートの路線・車両基地の建設に伴い、長崎県教育委員会によって平成23年度から10万㎡を越える範囲で発掘調査が行われている。南部の流路付近を中心に縄文早期、前期の石器・土器や狩猟に伴う落とし穴、北部で弥生の竪穴建物跡やガラス玉、32基の箱式石棺墓・甕棺墓・土坑墓からなる墓域・祭祀遺構、古墳時代の円墳、祭祀関係の外来系土器、集落域、古代の墨書・刻書土器、彼杵郡家・郡津との関係が想定される「木都」刻書紡錘車、中世の一町区画溝からなる居館跡などが出土している。遺物遺構年代は縄文から連綿と続くが、14世紀に断絶し、近世の陶磁器、各種土製品などの出土品に年代が飛ぶ。竹松遺跡と周囲の集落の伸張と関係するものと思われる。

竹松遺跡の南方の平野遺跡は古墳時代の遺物散布地として周知されており、個人住宅などの建設に伴って大村市による小規模な発掘調査が行われている。その東側には弥生時代の環濠の存在が推定されている川端遺跡があり、地形的な境界は無いことから一体的に遺跡が続いており、二つの遺跡は接続するものと考えられる。その南方に立小路遺跡(縄文後期~弥生)が存在する。平野遺跡では九州新幹線西九州ルートの路線建設に伴い、平成25年度にJR大村線の東側で本調査(1,700㎡)が行われた。遺構は郡川の氾濫による土石流などで失われていたが、縄文後期の扁平打製石斧、古墳時代の土師器・高杯・放頭式有茎鉄鏃、中近世の貿易陶磁などが包含層から出土した。

中世には大村市域は摂関家領荘園の彼杵荘に含まれ、荘官として大村氏の人名が散見される。 戦国期の大村氏との関係は定かではなく、藤原純友を祖先とする大村氏の祖先系譜も元禄期の架上による。

15世紀後半以降、大村氏は、郡川河口域に好武城跡、隣接して今富城跡を築き、やや南方の 大上戸川の扇状地に大村館と周辺の武家居住地(三城城下跡)を形成することになる。(『今富 城跡』長崎県教委2017年より再掲)



第5図 竹松遺跡201202調査区グリッド配置図 (1/2,500)

Ⅲ 層序

1 共通土層

竹松遺跡の発掘調査においては、年度ごと、調査区ごとに認定する土層において、共通して分布・堆積する土層を「共通土層」と呼び、調査員が認識を共有した。

竹松遺跡の「共通土層」は遺跡の北と南では様相が異なる(第3図)。調査区でいうと、TAK201404調査区内の北部からTAK201108調査区とTAK201302調査区の間を走る市道を境とする。

北側の共通土層を「北部共通土層」南側の共通土層を「南部共通土層」と呼称した。

TAK2012調査区は北部共通土層の堆積地域であり、TAK201208調査区は南部共通土層の堆積地域である。

(1) 北部共通土層

- ・第 I 層 表土 (耕作土)
- ・第Ⅱa層 鉄、マンガン集積層。明黄橙色を呈する。床土、客土。
- ・第II b層 中世の包含層。鉄、マンガンの集積により、明黄橙色を呈する。色調から床土、 客土と判断し、当初は遺物包含層とは認めない調査員もいたが、現場での検討の 結果、中世の包含層と判断した。
- ・第Ⅲ層 粘質土。古代・古墳の包含層。
- ・第IV層 砂質土。弥生時代の包含層。
- ・第V層 古土層(西側には存在しない)「古土層」は通称。強く硬く締まる黄褐色の砂質 土である。2万年前から3万年前に形成された土層との見解もある。
- ・第VI層 旧河川起源の礫層

(2) 南部共通土層

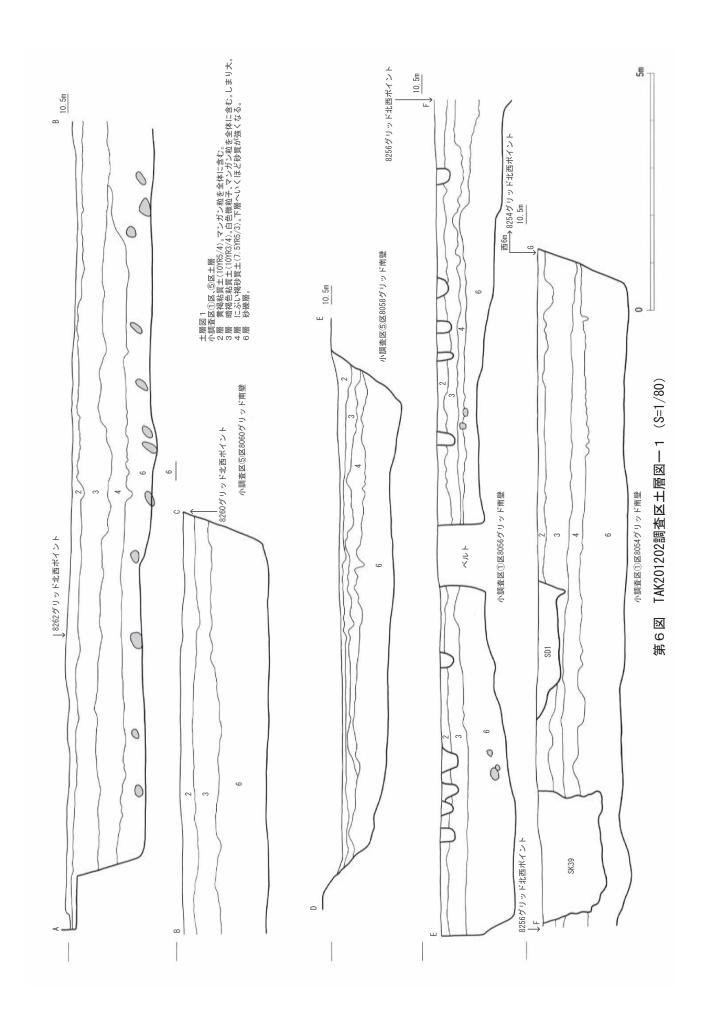
- ・第 I 層 表土(耕作土)
- ・第Ⅱ層 鉄、マンガンの集積層。明黄橙色。床土、客土。
- ・第Ⅲ層 いわゆる黒ボク土の腐植が多い部分である。火山性の黒ボク土で、黒色または黒 褐色を呈す。
- ・第IV層 いわゆる黒ボク土の下層部分である。褐色を呈する。「黄(きな)ボク」と俗称 した。
- ・第V層 「古土層」
- ・第VI層 扇状地礫層。大村扇状地の基盤となる砂礫層である。

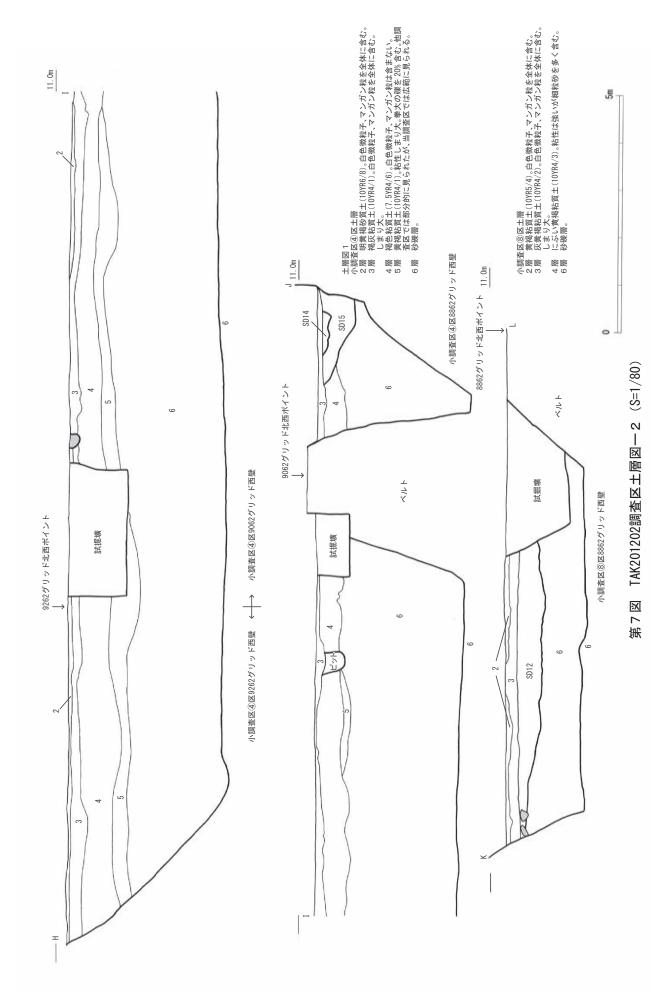
2 TAK201202調査区の基本層序

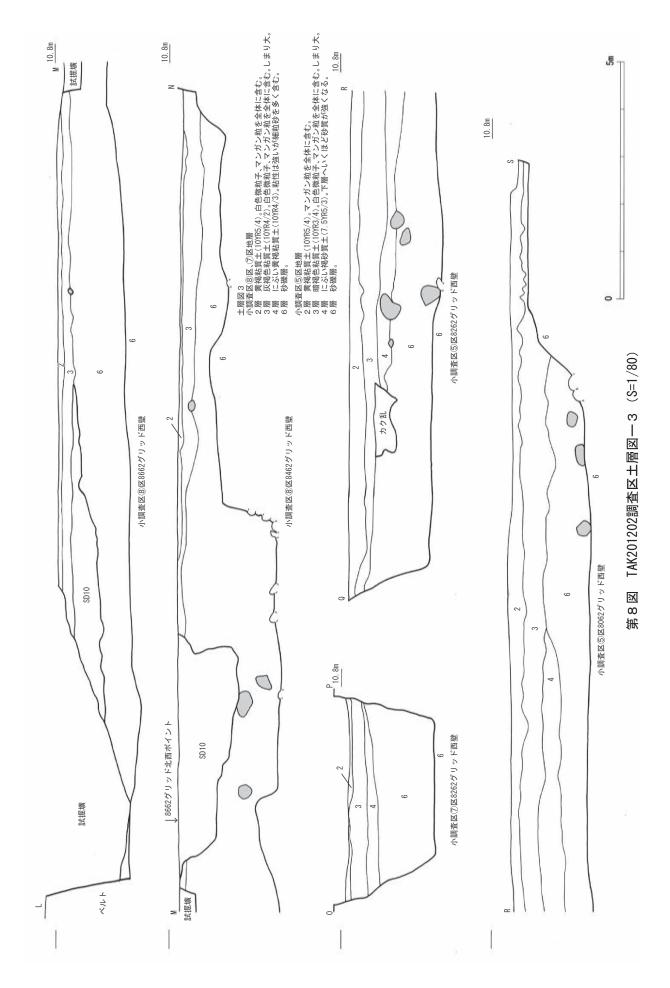
1層は表土・耕作土である。竹松遺跡北部の共通土層の I 層と対応する。 2層は明黄褐色の粘質土で、白色砂粒、マンガン粒を全体に含む。北部共通土層の II a 層である。 3層は褐色の粘質土で、北部共通土層のIII層と対応する。 4層は褐色の砂質土で、北部共通土層のIV層に相当する。

5層は黄褐色の粘質土で、TAK201202調査区を中心に堆積する。特に小調査区の④では広範囲に堆積する。それ以外の小調査区では部分的にしか見られない。

6層は砂礫層で、北部共通土層のVI層に相当する。





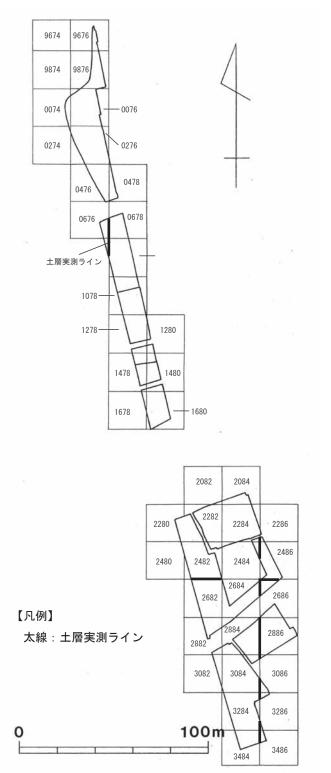


3 TAK201208調査区の基本層序

1層は表土・耕作土である。竹松遺跡 南部の共通土層の I 層と対応する。 2 層 は黒褐色土で旧耕作土・床土である。南 部共通土層のⅡ a 層とすると黒色が強い のは3層の影響が強いものと思われる。 3層は黒色腐植土層で、南部共通土層の Ⅲ層と対応する。出土遺物は縄文時代か ら近世初頭の遺物を包含するが、4層上 面から弥生時代後期から古墳時代前期の ものと思われる石棺が検出されているの で、縄文時代から弥生時代の遺物は2次 堆積したものであり、古墳時代から近世 初期にかけて郡川の流れによりつくられ た湿地帯で湿と地帯で形成された腐植土 層と考えられる。4層はにぶい黄褐色土 で共通土層のIV層と対応する。縄文時代 から弥生時代の生活面と考えられる。5 層は黄褐色砂礫層である。郡川の氾濫で 形成された扇状地礫層である。共通土層 のVI層に対応する。



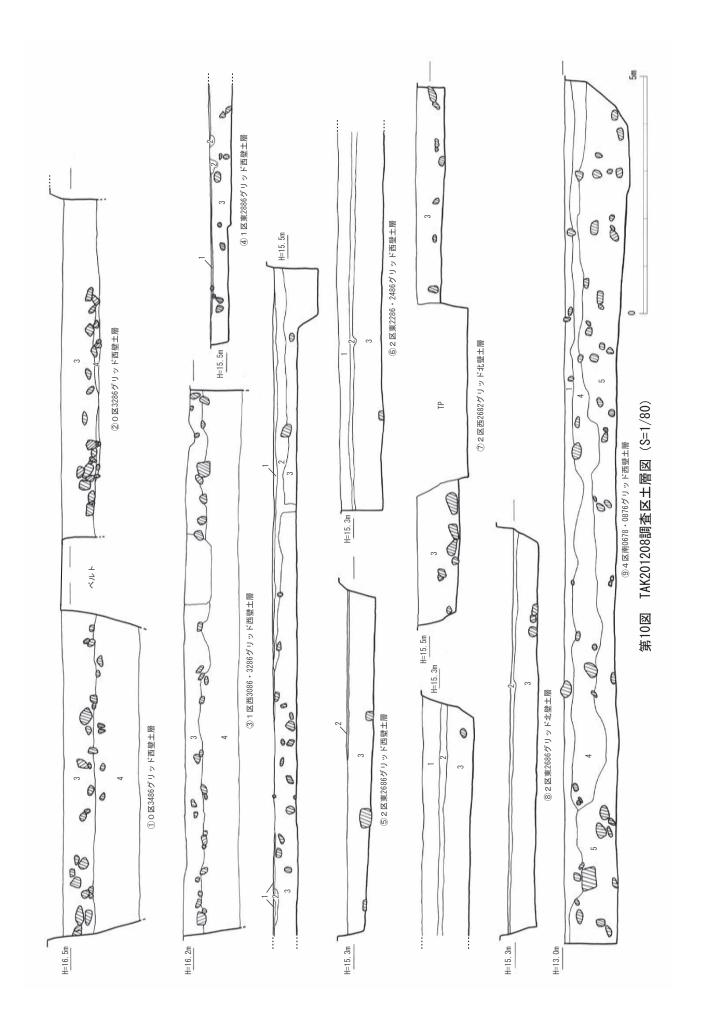
写真 2486グリッド西壁



第9図 TAK201208調査区グリッド配置図 (1/2,000)

表 1 竹松遺跡土層対応表

竹松遺跡基	基本層序(南部)	TAK201208土層						
I層	耕作土・表土	1層	耕作土・表土					
Ⅱa層	床土・明黄橙色土 鉄・マンガン集積層	2層	黒褐色土(7.5YR2/2) 床土·旧耕作土					
Ⅲ層	黒ボク土・腐植土層	3層	黒色腐食土(10YR1.7/1)					
Ⅳ層	黄褐色砂質土層	4層	にぶい黄褐色土(10YR4/3)					
V層	古土層							
VI層	扇状地礫層	5層	黄褐色土·地山(10YR4/3)					



IV 遺構と遺物

1. 縄文時代

(1) 遺構

TAK201202調査区およびTAK201208調査区からは縄文時代の遺構は発見されなかった。

(2)包含層出土の遺物

①TAK201202調査区の包含層出土遺物

縄文時代の遺物は、縄文時代後期から晩期の遺物が出土した。出土状況は、共通土層のⅡ層相当からIV層相当にかけて満遍なく出土し、弥生時代以降の遺物と混在する状態で、縄文時代の中でも層位によって時期的な偏りは確認できなかった。そのため、以下、土器と石器に分けて器種ごとに記述を行う。また、同じ層位から出土した弥生時代早期から前期の刻目突帯文土器も併せて報告する。

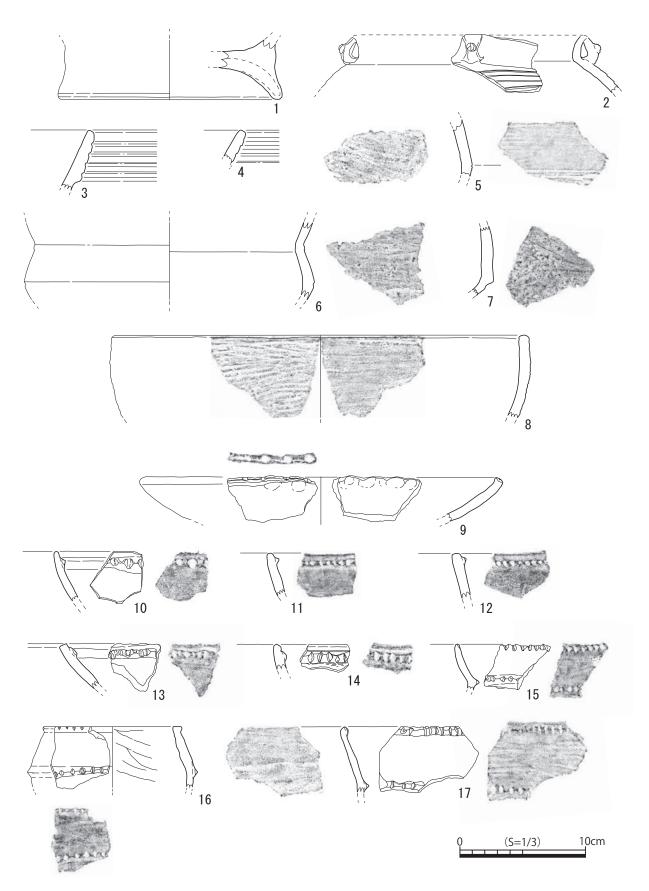
a.土器

深鉢 (第12図・第13図)

第12図 1 は深鉢底部で、上げ底を呈す。色調は内外ともにぶい橙色で、胎土には滑石を主体に 雲母や角閃石を多く含み、調整は丁寧ななで調整で仕上げている。後期初頭坂の下式であろう。 2 は鉢形土器で、口縁部に向けて胴部がすぼまり、頸部が外反して立ち上がる。口縁部と胴部を つなぐ橋状把手がつき、円形浮文を貼り付けている。胴部外面には横走する段状の浅い沈線が3 条確認できる。後期中葉鐘崎式と考えられる。

3・4は縄文時代晩期前半の古閑式併行期の深鉢口縁部である。口縁部はやや肥厚し、外傾して直線的に伸び、外面には多条沈線をめぐらせる。5~9は晩期後半の黒川式併行期の深鉢である。5は屈曲する胴部片で、条痕後にナデ調整を行う。特に屈曲部から上位は丁寧になで消している。6は屈曲する胴部から頸部が長く伸びる深鉢で、条痕後にナデ調整を行う。特に内面は丁寧な調整で、平滑に整える。7は組織痕土器である。口縁部が屈曲して立ち上がる浅い皿状の器形と考えられる。胴部と口縁部の境に段を有し、摩滅して不明瞭であるが胴部に僅かにスダレ状圧痕が確認できる。8は口縁部が内湾気味に立ち上がる深鉢である。内外面ともに条痕が残る。9は浅い皿状を呈す。口唇部に間隔をあけて指頭で刻み、さらに沈線でつないでいる。内外面ともナデ調整であるが、口唇部付近は指頭圧痕が顕著である。

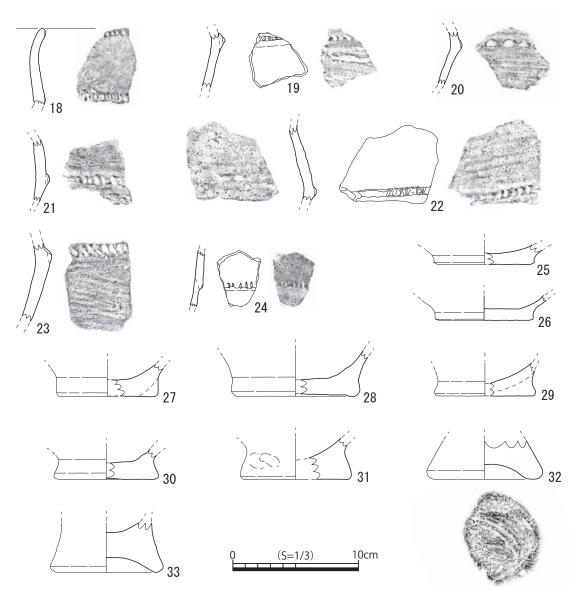
10~23は刻目突帯文土器および関連する土器群である。屈曲二条突帯深鉢が主体であるが、屈曲胴部一条突帯で口唇部外面を直接刻むものもある(15・18)。11・12は胎土や色調、突帯の特徴が共通しており、同一個体と考えられる。18は口縁部が緩やかに外反していて、屈曲する突帯文深鉢に板付式の口縁部がついた折衷土器と考えられる。口縁部突帯の位置は、口唇部のやや下位に突帯を貼り付けるもの(10~14)、口唇部に接して突帯を貼り付けるもの(16・17)があるが、特に16は口唇部と突帯上辺が水平に面取りされていて、新しい傾向を示す。刻みはヘラ状工具によるシャープな刻みが主体で、棒状もしくは指頭による刻みは少ない。23は胴部を条痕調整し、屈曲部に貼り付けた突帯の上面に爪形の刻みを連続して施文する。24は胴部片で、胴部上半を肥厚させて段を形成し、端部にヘラによる浅い刻みをやや間隔をあけて施文する。板付I



第12図 TAK201202調査区の縄文時代包含層出土土器実測図① (S=1/3)



写真 1 TAK201202調査区の縄文時代包含層出土土器①



第13図 TAK201202調査区の縄文時代包含層出土土器実測図② (S=1/3)

式~Ⅱ式古段階に特徴的な甕である(吉留1994)。

25~33は深鉢底部である。底部が薄く底面から直立気味に立ち上がるもの(**26~28**)、やや厚く底部外面が外側に張り出すもの(**29~31**)、底部外面が外側に大きく張り出し、底面が上底になるもの(**32・33**)がある。**32**は底面に条痕を残す。

浅鉢ほか(第14図)

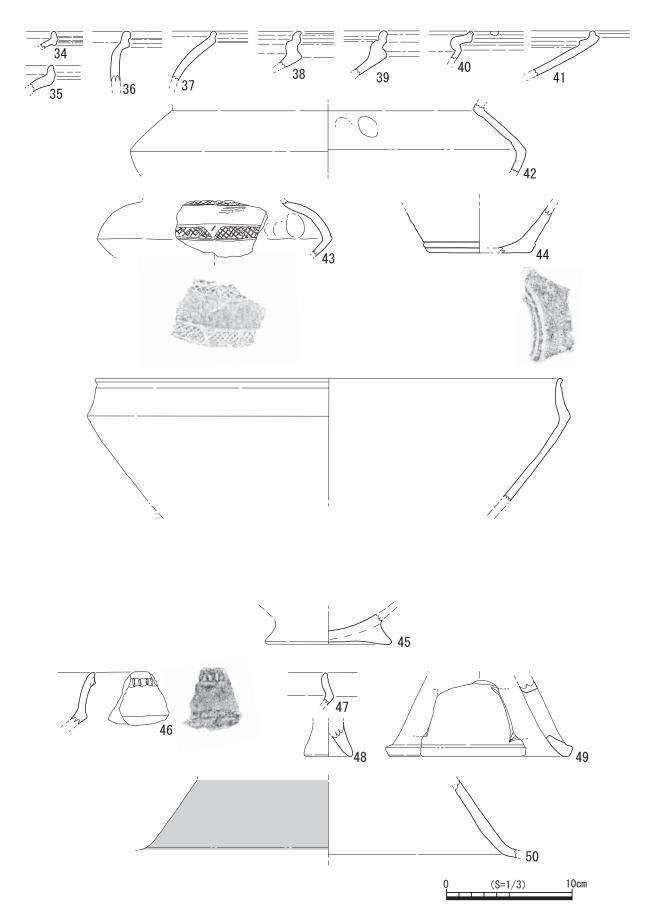
34~37は長頸の浅鉢である。34~35は口縁部が短く屈曲して直立気味に立ち上がり、外面に 浅い沈線を1~2条確認できる。35は口縁部が屈曲して短く立ち上がるが、外面は浅く抉れる。 38~40は頸部および口縁部が短い一群である。38・39は胴部から頸部が短く外反し、口縁部が 直立気味に立ち上がる。40は頸部の外反がきついタイプで、直立気味に立ち上がる口縁端部には 抉りが確認できる。41は浅い皿状を呈し、口縁部内面に突帯を2条貼り付けている。

42は頸部が内屈し口縁部が直立気味に外反する浅鉢である。内外面ともに丁寧ななで調整で、 頸部内面には指頭圧痕が残る。**43**は胴部が屈曲する浅鉢もしくは壺と考えられる。内屈する胴部



写真 2 TAK201202調査区の縄文時代包含層出土土器②

外面には、2本の横走沈線内に格子目状の沈線文を充填し、部分的に格子目文を三角形に削り取って三角形刳込文とする。胴部最大径付近と頸部の付け根付近の2箇所に施文しているが、頸部付け根付近では下の沈線を底辺として上の沈線に向けて三角形に刳り込むのに対し、胴部最大径付近では上の沈線を底辺として下の沈線に向かって逆三角形に刳り込んでいる。格子目文を帯状に施文する浅鉢は、島原市肥賀太郎遺跡で出土していて、胴部が張る形態も同様である。また、三角形刳込文を持つ浅鉢は、南島原市権現脇遺跡で出土している。44は平底の浅鉢底部で、下端部付近に2条の沈線を施文する。南島原市権現脇遺跡に類例があり、三角形刳込文が伴うものも



第 14 図 TAK201202 調査区の縄文時代包含層出土土器実測図③(S=1/3)



写真3 TAK201202調査区の縄文時代包含層出土土器③

TAK201202調査区の縄文時代包含層出土土器観察表

# #	重						底部に組織痕あり			12と同一個体	11と同一個体																										一 在 咒 如 3 中 4 二	三角形刳込文あり	底部に沈線文あり					
+ 71	十里	赤色粒子、石英、雲母、結晶片岩 元並	石央、水石、川内石、ボ内町内 金町石 東京 田町石 東北	(1) (1) (1) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	石英、長石、雲母(多く含む)	結晶片岩、長石	石英、角閃石 電舟 禁昌 片岩 万数 砂粒	ます、記書/1句、コス、ジタ 結晶 T 治(過石)	雲母、砂粒、黒色粒子	角閃石、雲母、砂粒	雲母、砂粒 三二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	雲母、角閃石、砂粒 元井	位央、板石、崇符 一個形式 弘新	要 4、九亿万十、万有丰本 4 年 4 年 5 年 5 年 5 年 5 年 5 年 5 年 5 年 5 年	石英、長石、角閃石、雲母	雲母、砂粒	角閃石、長石	雲母、角閃石、砂粒	角閃石、雲母、砂粒	白夹、块白 每開7 7 A	石石されて発	罗伯 動物	(1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	砂粒、赤色粒子	砂粒、角閃石、雲母	砂粒、角閃石、雲母、赤色粒子 科粒 電月	砂粒、獸母	会は、ロス、砂セ(タ/ 角閃石、石英、長石	石英、金雲母、角閃石、砂粒(多)	砂粒、雲母(少) 4 間 エ	用闪石、砂型 角閉石, 雪母, 石英, 砂粒	角閃石、雲母、砂粒	雲母、長石、角閃石	雲母、角閃石、長石	雲母、角閃石、長石 三井 久闘三 高周	右央、用闪右、崇芍 結晶片岩、雩母、砂粒	2、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1	砂粒		雲母(少)、角闪石(少)、砂粒 以非 4 間上 庸 E	砂粒、角闪石、要母 結晶片岩、雪母、砂粒	50.2000年である。 19.10年の19	角閃石、結晶片岩、砂粒	ログ・ローロー・アクロ
1	光	おや甘い	なな中に	良好	良好	やや甘い	良好	良好	出に	良好		ر ا	良好		わや甘い			やや甘い	良好	なな中に	. 2日 가 리	良好	良好	良好	やや甘い	良好	良好	良好		良好	<u>ک</u>	ı			良好			艮外	わや甘い	良好	おお井に	良好	良好	۲,
調整	日日	十 十 十 十	ト ト ト ナ	\ \ \ +	トナ	ナギ		\ \ \ +	トナ	ナギ	ナデ	+ 1 1	ト ト ト	・トト	条痕→ナデ	ナデ	トナ	<u>ነ</u> ተ	十十 1 1 1 1 1	似 八 二 号、 ア ナ 十 デ	\ \\ + +	\ \ \ \ +	・ナイ	ナイ	ナギ	十 ! !	ナナ ホギキ・ + i	18.7 シエ、 / / 条痕	ナデ	十十 1	トドト	ミガキ	ナギ	ナギ	ト ト	ナナ 指オサエ, ナデ, 条痕	コン・ハン・ス・大分 サーキー・ 十二 十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	指オサエ、ナテ	ナチュ	├	ト ト ト ナ	\ \ \ \ \ \ \	· \\ \+	, ,
	外面	十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 1 1 1 1 1 1 1	光黎大子 华德女 十十	ル	トナ		条痕→ナデ						ト ト ト +	ド		ナデ	ナイ	条痕	条痕→ナデ	来报 目勘 念 追	ス ド ジ ド ジ ド	\	・ドナ	ナボ	ナボ	ا ا ا	ト 	・ド・ナ	ナデ	十 十 1	トルト	ミガキ	ナデ	ナギ	ト ・	ナナ ミガキ	大学に	沈禄、≒カキ	ナボ 梅温 	茶過→ナイ	トルト	\ \ \ +	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	•
色調	内面	にぶい楢色(Hue7.5YR6/4)	こかい 東位 巴(101K//4) 25年 (7 5/24/3)	14日(バンコハイ/ソ) にぶい櫓色(Hue7.5YR6/4)	明褐色(7.5YR5/6)	灰褐色(Hue7.5YR6/2)	に ぶい褐色(Hue7.5YR6/3) 単短色(10VD2/1)	無過じ(1011(2)17) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	にぶい黄橙色(10YR6/4)	に ぶい 黄橙(10YR7/3)	に ぶい黄橙(10YR7/3) # # # # # # # # # #	黄灰色(2.576/1)	橙色(/.5YK6/6) 里色(10VR2/1)	無し(151/5/1/7) (He2/5/K6/4)		に ぶい 黄橙色(Hue10YR7/4)		JYR6/4)		個次巴(Hue101Kb/1) - 11		È				(9)	火黄褐色(10YR4/2) 阳赤岩色(His10ND7/6)		1 1	に ぶい黄橙色(10YR7/4) 		褐灰色(10YR4/1)	橙色(Hue5YR6/8)	橙色(Hue7.5YR6/6)	にぶい橙色(Hue7.5YR6/4)	橙色(7.5YR6/6) 赤褐色(5YR4/6)	こことは、一般などのこのである。	にふい東橙色(10YR6/3)	黒褐色(10YR3/1) 法主格名(2005/0)	3)	素物色(101K3/1) 苗褐色(25Y5/3)	R7/4)		
	外面	に ぶい 橙色(Hue7.5YR6/4)	ころい 1 男 1 個 世 (I O T K3/3) 製 色 (7 5 V D A / 3)	は () () () () () () () () () (明赤褐色(5YR5/6)	明赤褐色 (Hue5YR3/6)	黒褐色(Hue7.5YR3/2) I- ミハギ 24 (10VD6/1)	に必じる 国 (Hoe7.5/4)	褐色(10YR4/4)	に ぶい 黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	火黄褐色 (10YR4/2) 壊なっこに。(3)	橙色(/.5YK6/6) 里婦色(10YR3/1)	※周し(10113) 1/1 にぶい褐色(Hue7.5YR5/3)	灰黄褐色(10YR4/2)	に ぶい 黄橙色(Hue10YR6/3)	明赤褐色(Hue5YR5/6)	黒褐色(2.5Y3/1)	灰黄褐色 (10YR4/2) 等井塔(11)	法奥检(Hue101K8/4) [- 式11	< I	20以19(10)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)	值(Hue7.5YR6/6)	に ぶい 橙色(Hue7.5YR6/4)	橙色(5YR6/6)	明示褐色 (Hue5YR5/6)	極色(7.5YR6/8) 注禁檢(H.c10VD8/4)	次域性(Tige 10 11/0/4) にぶい櫓色(Hue5/R6/4)	にぶい黄橙色(10YR7/4)	にぶい黄橙色(10YR7/4)	ころいり 衛色(Hue IOY K5/3) 黒褐色(10Y K3/2)	<u></u>	橙色(Hue5YR6/8)	橙色(Hue5YR6/6)	にぶい橙色(Hue7.5YR6/4)	位色(7.5 YR6/6) こぶい赤褐色(5 YR4/4)	1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.	に ふい 寅褐色(10YR5/3)	に ぶい 黄橙色(10YR6/4)	にふい寅橙色(107尺//4)	こふい 東位で(101Kb/4) 単褐色(10YR3/1)	無過[(1.57R7/6)	黑褐色(Hue10YR3/1)	1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1
77 44	교	底部口经部二周部	口縁即~間即口の発展	口類部	胴部	胴部	胴部口绿蛇	口縁部	口縁部	口縁部			口縁部	口縁部~胴部	口縁部	口縁部	胴部	胴部	胴部	明朝	間部	原部	底部	底部	底部	底部	麻明	成部		口縁部		口縁部	口縁部	口縁部	口縁部	口稼む調	品本品	胴部	底部 二氢物 医粉	口稼部、馬部口海那一時期	日縁記~間部口縁部		西部	
#	型佐	数数	以本	然数数数	光鉄	深鉢	鉢。	***	松鉄	深鉢	光軟	数	*************************************	然	淡鉄	深鉢	松林	淡軟	林林	* * * * * * * * * * * * * * * * * * *	+	影響	浅林	深軟	松林	然	然	林	淡軟	※	米	浅軟	浅鉢	浅鉢	消費	光常数	浅鉢or	間	浅	光點	光	ニーチュア	咖啡	i
1	고 를	2層	2層3	2厘	3屋	4層	2層	4層	5層	2層	2層	2層	り温	2層	2厘	2層	2屋	2層	2層	4厝屋位不明	11 四回 0 回回	3 图	2層	3層	2層	2厘	四型	3・4層	3・4層	3厘	4 配	2厘5	2屋	2層	國9	5層		2層	2層	四のこの	2.33眉	2厘	2厘	1
1 1	H H H	8-8462	4-9062	8-8864	4-9058	4-9062	(4)-9062	(4)-9058	4-9062	4-9062	4-9062	(4)-9062	4-9260	3-8858	4-9060	4)-9062	4-9062	4-9062	4-9062	(4)-9060 (6)-8266	Ø 9200 Ø-9062	4)-9058	4-9064	4-9058	4-9062	(4)-9258	4-9260	2)-8658	2)-8656	4-9058	(4)-9062	4-9062	4-9062	4)-9064	6-8466	(6)-8466 (4)-9262	90060	(4)-9058	4-9058	(4)-9060 ©	4906-(4)	4)-9262	4-9062	1
図版		- 0	7 6	0 4	2	9	r «	0	10	11	12	13	4 7	91	17	18	19	20	21	27	23	25	26	27	28	29	30	32	33	34	36	37	38	39	9 :	41	į	43	\vdash	45	+	48	49	2

確認できる。43とともに晩期後半黒川式と弥生時代早期刻目突帯文土器の間に設定された、いわゆる「干河原段階」の土器である(東2009・宮地2017)。45は「く」の字口縁浅鉢である。同一個体の破片がまとまって出土しているが、接合はごく少数に留まるため、口縁部から胴部の大型破片と底部資料を図上で復元した。口縁部外面には浅い沈線がめぐり、底部は平底となる。刻目突帯文土器に伴う浅鉢である。46は45と同様に口縁部が「く」の字をなすが、口縁部が外傾気味に立ち上がる点や刻目突帯文が伴う点が異なる。高坏の口縁部と考えられる。47は「く」の字口縁浅鉢だが、小型である。48もミニチュア土器の底部と考えられる。49は高坏脚部である。底辺端部が外側に「コ」の字形に張りだし、矩形の透かしが2箇所確認できる。内外面共に黒褐色を呈し、胎土には雲母や角閃石を多く含む。脚部の形態としては古い段階の須恵器の高坏に類似するが、胎土は縄文時代晩期ごろの土器に類似する。類例としては、南島原市権現脇遺跡で、坏部と脚部の間に突帯を有し、透かしのある脚部の破片が出土している。底辺端部の段状の張り出しから、板付I式以降の高坏の影響を受けたものであろうか。50は壺の頸部片である。内傾する頸部から胴部が大きく張り出す器形で、胴部最大径は上位にあると推測される。外面に丹塗りを施す。弥生時代早期の刻目突帯文土器に伴う壺であろう。

b.石器

石鏃(第15図51~76)

基部の抉りが深いもの(51~66)と浅いもの(67~76)に大別した。51~53は基部の抉りが特に深い一群で、先端部から体部に比べて脚部の外形線が大きく外側に張り出す特徴を有する。いわゆる鍬形鏃で、縄文時代早期の押型文土器期のものか。55は幅広でU字形の深い抉りを入れたもので、類例は南島原市下末宝遺跡で押型文土器に伴ってまとまって出土している。54は側縁が丸みを帯びるものの、幅広でU字形の深い抉りを入れる点は55と共通しており、同時期の可能性がある。56・59・60は側縁が内湾する一群である。62・63は幅狭で細長い形態で、両側縁から丁寧な調整を加えている。64~66は主要剥離面および作業面をとどめるものである。64・65は打面側を基部とし、縁辺を中心に調整を加えて整形しているのに対し、66は打面側を先端部とする。

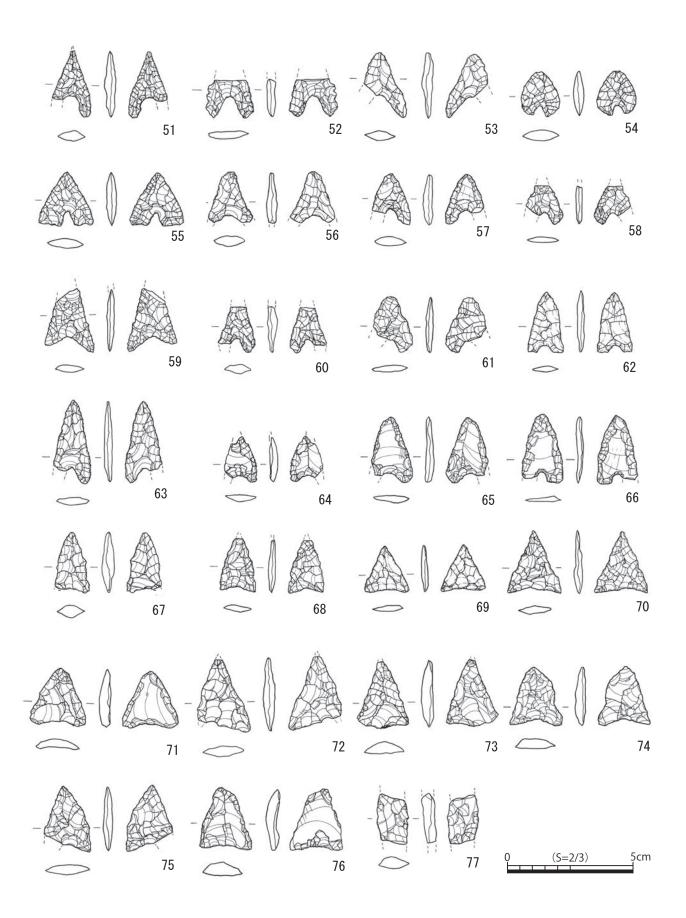
67・68は基部の抉りが浅く、幅狭で細長い形状をなす。62・63と同様、縁辺から丁寧な調整 剥離を加えて整形している。69~71は幅が広く正三角形に近い形態である。基部の抉りが浅く、側縁もわずかに内湾する。72・73はやや大型の石鏃である。側縁の一辺が内湾するのに対してもう一辺は外湾しており、ややいびつな形状を成す。調整は比較的丁寧である。76は主要剥離面を残すもので、打面側を基部とし、縁辺を中心に調整剥離を加えて整形している。

サイドブレイド(第15図77)

77は横長剥片を素材とし、縁辺に調整を加えて薄い長方形に整形する。上下は欠損する。

打製石斧(第16図78~第17図86)

78~82は中型の打製石斧である。平面形態は両側面が平行になる短冊形 (80・82) のほか、やや丸みを帯びるもの (78・79・81) がある。刃部は直線的なもの (80) のほか、丸みを帯びるもの (81) 、やや尖り気味もの (78) がある。板状の自然礫を利用するもの (78~80) 、剥片素材のもの (81~82) がある。82~86は大型の打製石斧である。安山岩製で厚手の板状自然



第15図 TAK201202調査区の縄文時代包含層出土石器実測図① (S=2/3)

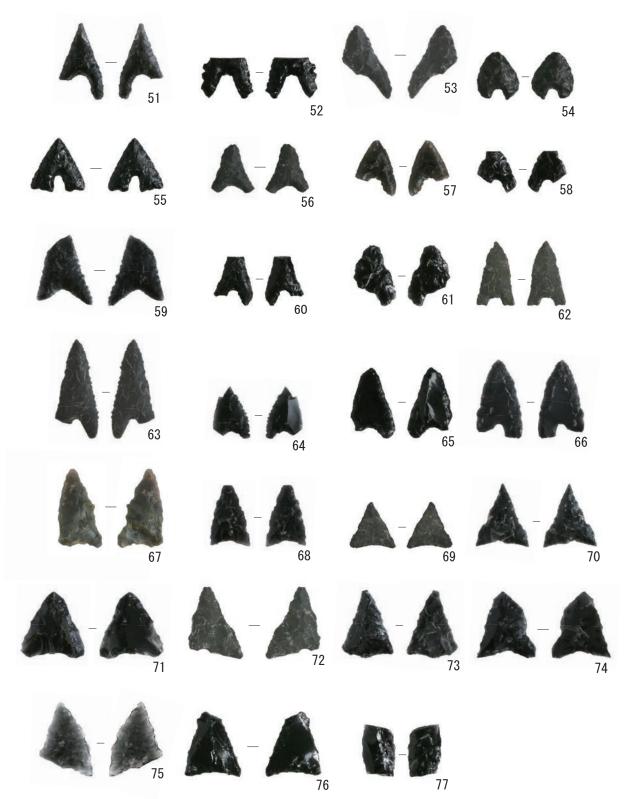
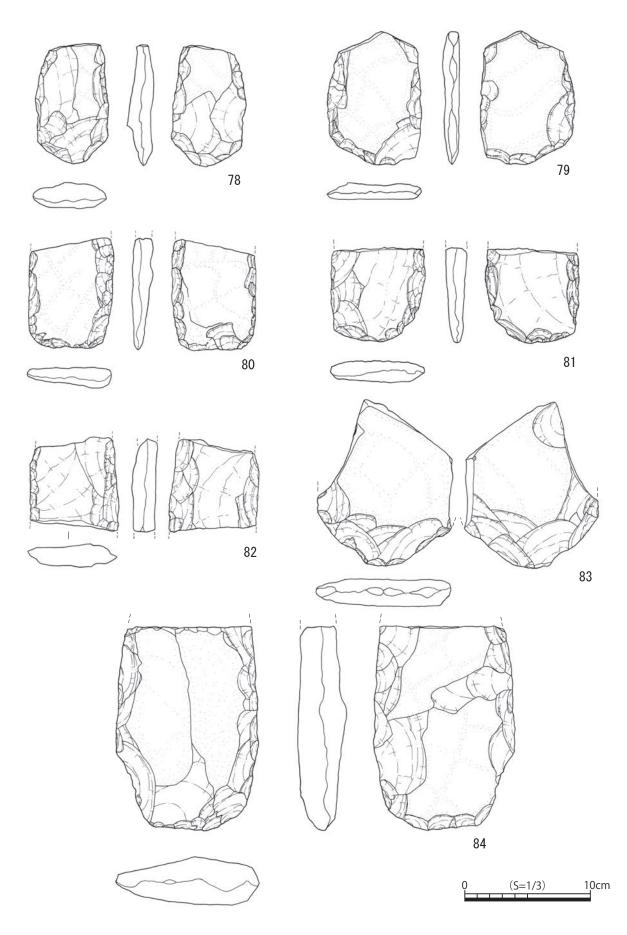


写真 4 TAK201202調査区の縄文時代包含層出土石器①

礫を素材とするものが多いが(83~85)、剥片素材のものもある(86)。刃部は中型と同様、直線的なもの(86)、丸みを帯びるもの($84\cdot85$)、やや尖り気味のもの(83)がある。使用痕や着柄痕は確認できなかった。

磨製石斧 (第17図87・88)

87は蛇紋岩製で、刃部を欠損する。基部は尖り気味で、両側縁がほぼ平行となる形態である。



第16図 TAK201202調査区の縄文時代包含層出土石器実測図② (S=1/3)

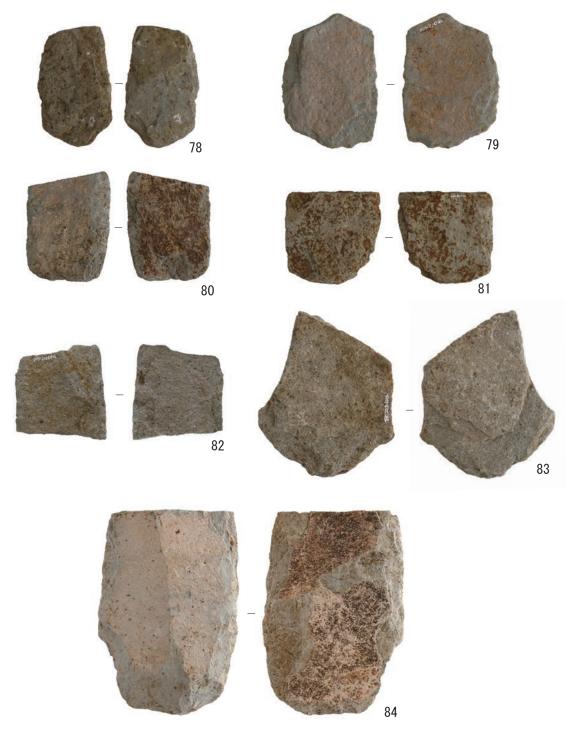
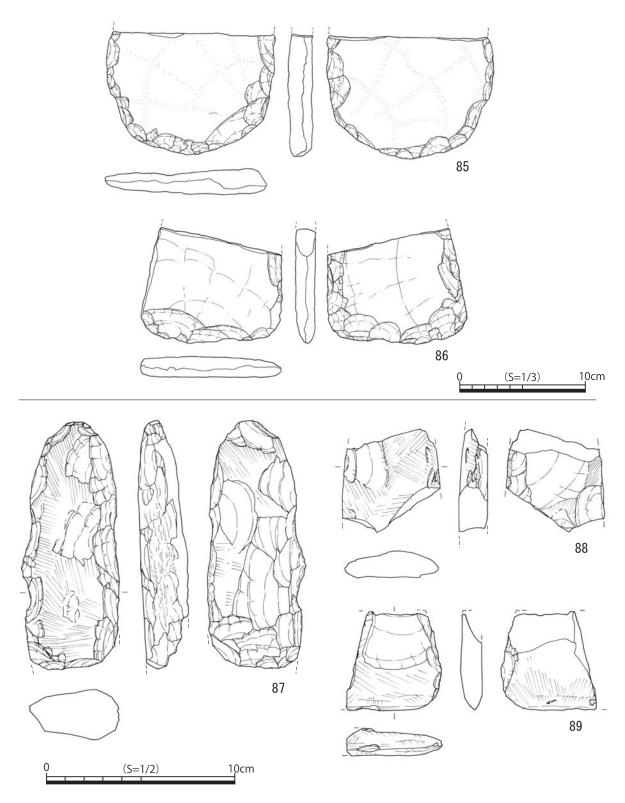


写真5 TAK201202調査区の縄文時代包含層出土石器②

体部中央に研磨面が確認できるが、側縁からの剥離痕で切られている。側縁には細かい剥離痕が集中するほか、大きな抉りが2箇所確認でき、刃部の折損後に敲打具や敲石として転用されたことが分かる。88は薄手で、基部から刃部にかけて幅広になる形態である。体部には大ぶりの調整剥離とこれを切るように丁寧な研磨が施され、側縁にも調整剥離後の研磨面が確認できる。

磨製石包丁(第17図89)

89は刃部から側縁にかけての破片である。刃部から体部には丁寧な研磨が施されているが、側



第17図 TAK201202調査区の縄文時代包含層出土石器実測図③ (S=1/3·1/2)

縁には研磨面を切るように細かい剥離が入る。刃部は両刃であるが、よく観察すると複数の研磨面で構成され、横方向に薄い稜線が確認できる。刃部縁辺は非常に鋭く、丁寧に刃部を作り出していることが分かる。石斧の可能性も考えたが、刃部の特徴や側縁の調整から、厚手の石包丁と考えられる。

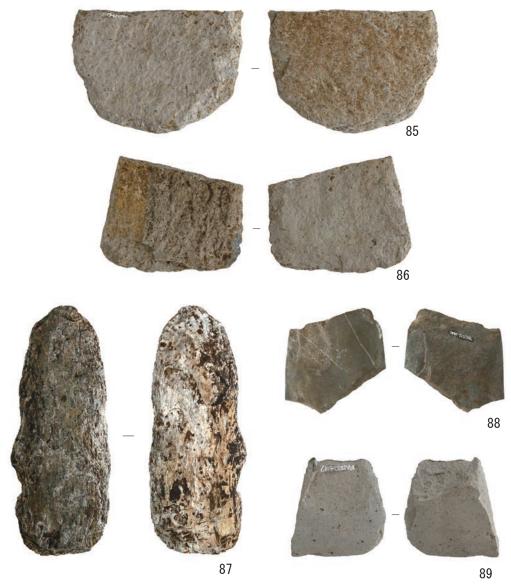


写真 6 TAK201202調査区の縄文時代包含層出土石器③

c.小結

包含層出土の縄文土器は、主体は縄文時代晩期から弥生時代前期である。晩期では、晩期前半の古閑式併行期と刻目突帯文土器がまとまっていて、黒川式土器は少ない。刻目突帯文土器には、口唇部のやや下位に突帯を貼り付ける一群で、「く」の字口縁浅鉢とセットをなす弥生時代早期のものと、突帯が口唇部に接する一群で、板付甕との折衷土器や(第13図18)、胴部上半を肥厚させ段を有する板付甕(第13図24)とセットをなす弥生時代前期併行期のものがある。このほか、干河原段階の三角形刳込文と格子目文を有する浅鉢もしくは壺(第14図43)や、底部に沈線文を持つ浅鉢(第14図44)、透かしを有する高坏(第14図49)などは類例が少なく、今後の資料の増加を待ちたい。

石器では、中型や大型の打製石斧が主体となる点は、土器の出土傾向と一致するものの、石鏃では基部がU字形に深く抉れるいわゆる鍬形鏃(第15図51~53)や、正三角形に近い幅広でU字形の深い抉りをもつもの(第15図55)があり、縄文時代早期の遺物も含まれている。土器は出土しなかったものの、付近には同時期の包含層が存在することが予想される。 (中尾)

第4表 TAK201202調査区の縄文時代包含層出土石器観察表

図版 番号	器種	出土地区	層位	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量
	- ~			B 137	(mm)	(mm)	(mm)	(g)
51	石鏃	4-9060	5層	黒曜石	27.0	15.0	4.5	0.8
52	石鏃	4-9062	5層	黒曜石	15.0	19.0	3.5	0.7
53	石鏃	5-8060	3層直上	黒曜石	26.0	17.0	4.0	0.9
54	石鏃	4-8860	上層	黒曜石	18.0	15.0	4.5	0.9
55	石鏃	<u>4</u> -9062	2層	黒曜石	21.0	22.0	4.0	1.1
56	石鏃	<u>6</u> -8668	2層	黒曜石	20.0	18.0	4.5	0.9
57	石鏃	2-8656	2層	黒曜石	20.0	15.0	3.8	0.8
58	石鏃	<u>4</u> –9262	2層	黒曜石	15.0	15.0	2.5	0.4
59	石鏃	<u>4</u> –9062	2層	黒曜石	25.0	19.5	3.0	1.0
60	石鏃	4 -9260	5層	黒曜石	18.0	14.0	4.0	0.7
61	石鏃	<u>4</u> -9258	3層	黒曜石	22.0	16.0	3.0	0.7
62	石鏃	4 -9060	3層	安山岩	24.0	14.0	3.0	0.7
63	石鏃	4 -9060	3層	黒曜石	33.0	15.0	3.0	1.2
64	石鏃	4 -9060	5層	黒曜石	18.0	13.0	3.0	0.5
65	石鏃	4 -9258	3層	黒曜石	26.0	16.0	3.5	1.1
66	石鏃	4 -9062	2層	黒曜石	28.0	16.0	2.0	0.8
67	石鏃	3-8860	層位不明	黒曜石	24.0	14.0	5.0	1.3
68	石鏃	4 -9060	5層	黒曜石	21.0	14.0	3.0	0.7
69	石鏃	2-8456	3層	安山岩	18.0	18.0	2.5	0.6
70	石鏃	4 -9060	5層	黒曜石	25.0	21.0	3.5	1.0
71	石鏃	4 -9062	4層	黒曜石	23.0	22.0	4.5	1.6
72	石鏃	4 -9062	2層	黒曜石	29.0	21.0	5.0	1.6
73	石鏃	4 -9062	4層	黒曜石	27.0	21.0	5.0	1.5
74	石鏃	4 -9060	3層	黒曜石	23.0	21.0	4.0	1.4
75	石鏃	4 -9062	2層	黒曜石	26.0	18.5	4.0	1.2
76	石鏃	4)-9062	2層	黒曜石	24.0	21.0	6.0	2.0
77	サイドブレイド	4 -9062	4層	黒曜石	20.0	12.5	6.0	1.2
78	打製石斧	4 -9058	5層	安山岩	95.0	58.0	20.0	130.0
79	打製石斧	4 -9060	4層	安山岩	104.0	74.0	13.0	125.0
80	打製石斧	4 -9058	5層	安山岩	86.5	65.5	17.5	110.0
81	打製石斧	4)-9058	5層	安山岩	75.0	75.0	17.0	125.0
82	打製石斧	4)-9060	5層	安山岩	74.0	70.0	19.0	135.0
83	打製石斧	4)-9058	5層	安山岩	130.0	105.0	21.0	385.0
84	打製石斧	4)-9058	5層	安山岩	160.0	112.0	38.0	875.0
85	打製石斧	4)-9260	5層	安山岩	96.0	132.0	21.0	375.0
86	打製石斧	4)-9058	5層	安山岩	90.0	110.0	16.0	240.0
87	磨製石斧	4)-9260	5層	蛇紋岩	130.0	53.0	27.0	205.0
88	磨製石斧	4)-9058	3層	硬質砂岩	54.1	51.5	15.0	52.6
89	磨製石包丁	4)-9260	3層	安山岩	52.0	50.0	11.0	41.5

【参考・引用文献】

中尾篤志編2006『肥賀太郎遺跡』長崎県文化財調査報告書第189集 長崎県教育委員会

東 和幸2009「干河原段階の土器」『南の縄文・地域文化論考』上巻 南九州縄文研究会・新東晃一代表還暦 記念論文集刊行会 233-242頁

本多和典編2005『下末宝遺跡・上畦津遺跡』深江町文化財調査報告書第1集 長崎県深江町教育委員会

本多和典編2006『権現脇遺跡』深江町文化財調査報告書第2集 長崎県深江町教育委員会

宮地聡一郎2017「西日本縄文晩期土器文様保存論―九州地方の有文土器からの問題提起―」『考古学雑誌』第 99巻第2号 1-50頁

吉留秀敏1994「板付式土器成立期の土器編年」『古文化談叢』第32号 九州古文化研究会 29-44頁

②TAK201208調査区の縄文時代包含層出土の遺物

包含層から出土した縄文時代の遺物は、晩期を中心に出土したが、後述するように弥生時代以降の遺物が多量に混在する状態であり、プライマリーな出土状況にないことは明らかである。そのため、層位別ではなく、各包含層を一括して時期別・器種別に報告する。

a. 土器 (第18図)

90は波状口縁をなし、胴部から頸部にかけて屈曲する深鉢口縁部の大型破片である。表面は横方向の条痕調整、裏面は横方向のミガキである。波頂部をわずかに欠損するが、波頂部を中心に頸部にかけて条痕調整を切るように放射状に伸びる沈線を3条確認できる。91は砲弾形の深鉢口縁部である。口縁端部は丸みを帯びる。内面に条痕調整を残すが、外面は条痕後なで調整により平滑に整える。胎土に角閃石や雲母を多く含む。92も砲弾形の深鉢口縁部であるが、口縁端部がやや内傾する。93は外反気味に立ち上がる深鉢口縁部で、条痕を切るように横方向に伸びるやや幅広の沈線を2条確認できる。94~97は深鉢底部である。94は大型で、底面端部が外側に張り出す。胎土は空隙が多く、焼成はあまい印象を受ける。95・96も底面端部がしっかり外側に張り出し、底面は安定した平底である。97はやや小型で、底面から直立気味に胴部が立ち上がって外反する。

98・99は浅鉢である。98は、胴部が外側に丸く張り出し、短い口縁部が立ち上がる器形をなす。口縁部外面には沈線1条、内面には段を形成し、口縁部は玉縁状となる。外面にミガキ調整が顕著である。99は98と同じ器形をなすが、やや小型である。風化により表面が剥落し、調整は確認できない。100は不明土器である。やや平坦面を有し、底部と考えた。底面には3条の沈線による半円形の重弧文が確認できる。胎土は緻密で焼成も堅緻であることから、弥生時代以降の土器の可能性もある。

これらの土器は、100を除くと、縄文時代晩期黒川式土器を構成する土器群と考えられる。

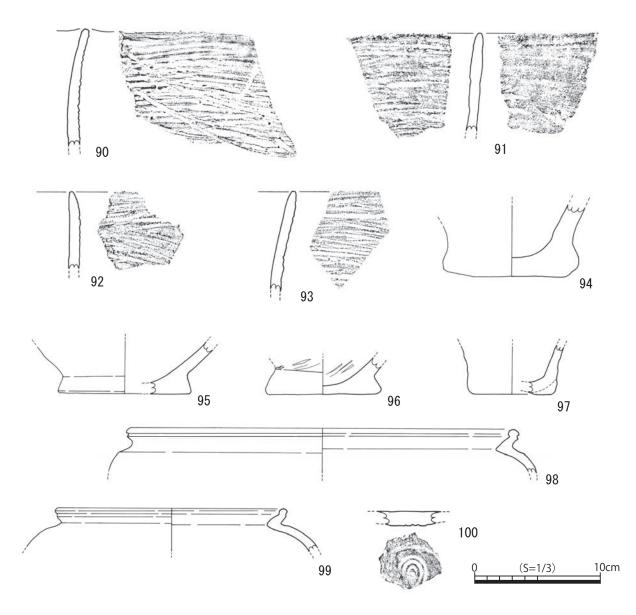
b.石器 (第19図)

剥片(第19図101・102)

101は縦長剥片で、長軸の両側縁に微細剥離が連続する。打面は自然面である。102は安山岩製の縦長剥片である。幅広の大型剥片を切断し、切断面から表裏面にわずかに調整を加えている。打面付近には両側縁を抉るような二次加工を施すが、打面およびバルブはそのまま残る。

石鏃(第19図103~120)

103・104は小型の石鏃である。基部を大きく抉り、いずれも調整は丁寧である。105~107は 基部側縁がやや外湾する石鏃である。105・106は縁辺からの調整が体部中央まで十分及ばず、 横断面は横長六角形に近い。107にある横方向からの大きな剥離面は、素材面の可能性がある。 109は平面形が縦長五角形に近い石鏃である。108・110~114は側縁が直線的な凹基鏃である。 108は両側縁から丁寧に調整を加え、体部中央に稜が通る。112には側縁に抉りがあるが、複数 の剥離面が確認できることから、欠損ではなく意図的な調整と考えられる。113の側縁にも段が あるが、同じ打点から表裏に調整剥離を加えたことによるもので、これも欠損やリダクションで はない。114は左右の脚部の長さがアンバランスであるが、図化していない方の側面下部に欠損



第18図 TAK201208調査区の縄文時代包含層出土土器実測図 (S=1/3)

第5表 TAK201208調査区の縄文時代包含層出土土器観察表

図版 番号	出土地区	層位	器種	部位	色	調	諶	整	焼成	胎土
番号	田工地区	厝址		라1보	外面	内面	外面	内面	洗风	后工
90	1区	5層	深鉢	口縁部	にぷい橙色(Hue7.5YR6/4)	にぷい橙色(Hue7.5YR7/4)	条痕	ナデ	良好	長石、雲母
91	2区東	4層	深鉢	口縁部	赤褐色(5YR4/6)	赤褐色(5YR4/6)	ナデ	条痕	やや甘い	石英、角閃石、長石、雲母
92	1区3284	4層	深鉢	口縁部	橙色(Hue5YR6/8)	橙色(Hue5YR6/8)	条痕	ナデ	良好	赤色粒子、長石、石英、角閃石
93	4区北3 9876	4層	深鉢	口縁部	橙色(7.5YR7/6)	にぶい黄褐色(10YR5/3)	条痕	ナデ	良好	石英、長石、角閃石、雲母
94	2区東 D-9	5層	深鉢	底部	明黄褐色(Hue10YR6/6)	黄褐色(Hue2.5YR5/3)	ナデ	指オサエ	良好	雲母、砂粒
95	4区北2 9876	3層	深鉢	底部	赤褐色(2.5YR4/8)	褐色(7.5YR4/6)	ナデ	ナデ	良好	角閃石、長石、雲母、赤色粒子
96	4区北3 9876	4層	深鉢	底部	橙色(7.5YR6/6)	橙色(7.5YR6/6)	貝殻条痕、ナデ	ナデ	良好	雲母、赤色粒子、結晶片岩
97	4区北2 9876 拡張部	5層上面	深鉢	底部	褐色(7.5YR4/3)	暗褐色(7.5YR3/2)	条痕	条痕、ナデ消し	やや甘い	長石、角閃石、石英、赤色粒子
98	4区北3 9876	4層	浅鉢	口縁部	黒褐色(10YR3/1)	黒褐色(10YR3/1)	ナデ	ナデ	良好	長石、角閃石、雲母
99	4区北2 9876	4~4′層	浅鉢	口縁部	橙色(7.5YR7/6)	橙色(7.5YR7/6)	ナデ	ナデ	やや甘い	長石
100	1区 サプトレンチ6	5層	不明	底部	浅黄橙色(10YR8/3)	浅黄橙色(10YR8/3)	ナデ	ナデ	良好	石英

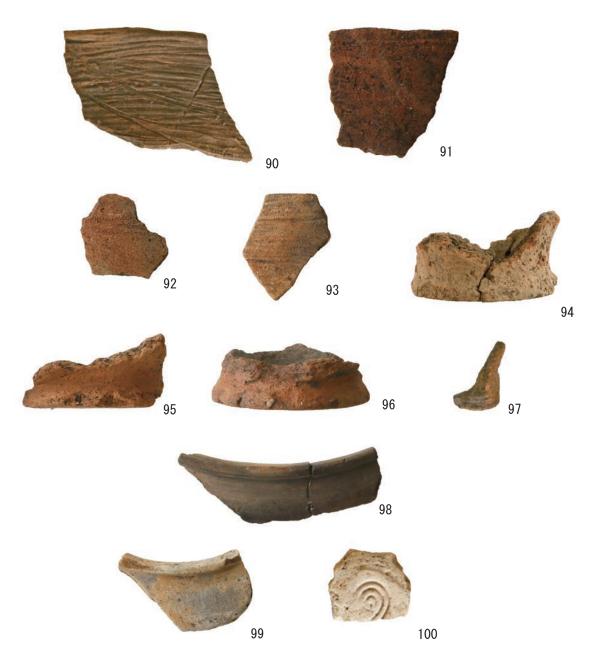
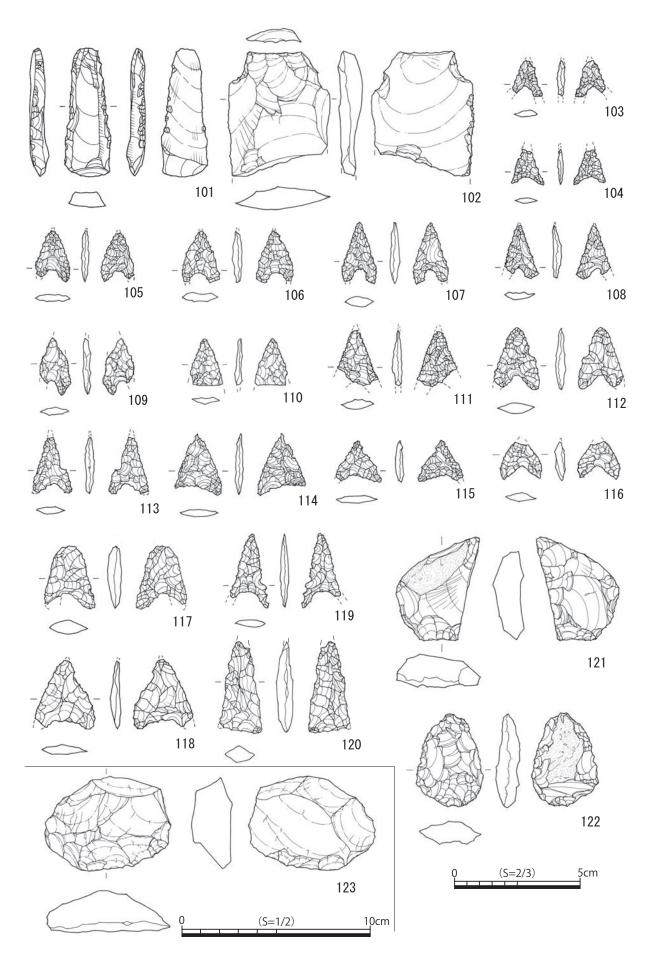


写真7 TAK201208調査区の縄文時代包含層出土土器①

面が残ることから、再加工品と考えられる。115・116は横長の石鏃である。いずれも基部側縁が丸みを帯びて外湾し、基部はV字に抉る。117・118はやや大型の石鏃である。117はやや厚手で、先端部欠損後に二次加工を加えたため、先端部が丸味を帯びている。118は灰色黒曜石製で、薄手の剥片に大振りな調整剥離を荒く施して整形している。119・120は縦長の石鏃である。119は基部側縁が鋸歯状を呈す。体部の調整は丁寧で、中央に稜が通る。120は非常に厚手で、基部は平基だが左右の長さはアンバランスである。横断面菱形に整えるものの、やや粗い調整が目立つ。先端部はわずかに欠損か。サイドブレイドの可能性もあるが、断面形状から石鏃に含めた。

スクレイパー(第19図121~123)

121は厚手の縦長剥片を斜めに切断し、切断面から作業面を中心に二次加工を加える。縁辺に



第19図 TAK201208調査区の縄文時代包含層出土石器実測図① (S=2/3、123はS=1/2)



写真8 TAK201208調査区の縄文時代包含層出土石器①

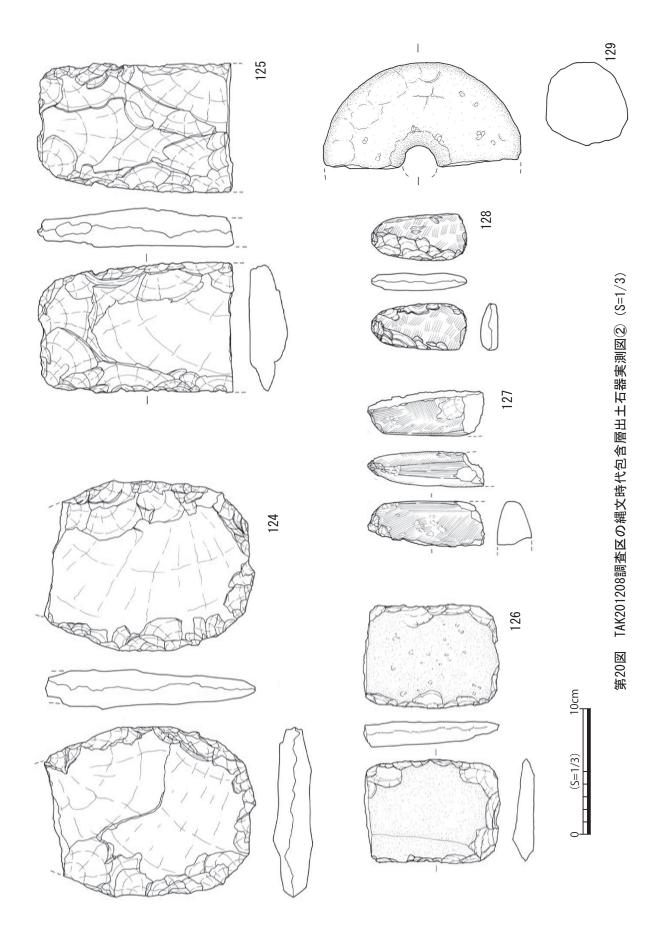




写真9 TAK201208調査区の縄文時代包含層出土石器②

は表裏からの二次加工で直線的な刃部を形成する。主要剥離面側には自然面が残る。**122**は平面 紡錘形をなし、側縁から入念に調整を加えている。石鏃の可能性も考えたが、全体に大ぶりの剥離で先端部や基部の加工があまい点や、裏面に自然面を残すことから、両側縁を刃部とするスクレイパーと考えた。**123**は厚手の安山岩製で、平面楕円形の側縁に表裏両面から調整を加えて刃部とする。

打製石斧 (第20図124~126)

124・125は大型の打製石斧である。124は刃部から両側縁にかけて丸味を帯びるのに対し、125は短冊形である。いずれも安山岩製の厚手の剥片素材で、縁辺を中心に入念に二次加工を加えている。なお、使用や着柄に伴う線状痕や摩滅痕はどちらも確認できなかった。126は小型の打製石斧である。扁平な礫素材で、平面短冊形である。側縁から刃部にかけて浅い調整を加えている。ローリング等による摩滅が著しい。

磨製石斧(第20図127・128)

127は蛇紋岩製で、基部から側面の破片である。研磨面は全体に及び、特に側面は研磨による面取りが明瞭で、長軸方向の研磨痕も明瞭に観察できる。基部端部は微細な剥離痕が集中しており、欠損後の敲石等への転用が想定される。128は小型の磨製石斧で、ほぼ完形品である。刃部は両刃をなし、研磨はいったん全面に入念に加えた後、側縁を中心に新たに調整剥離を加えている。縦方向に折損後に再加工したものであろうか。研磨による面取りが残る欠損していない側面

第6表 TAK201208調査区の縄文時代包含層出土石器観察表

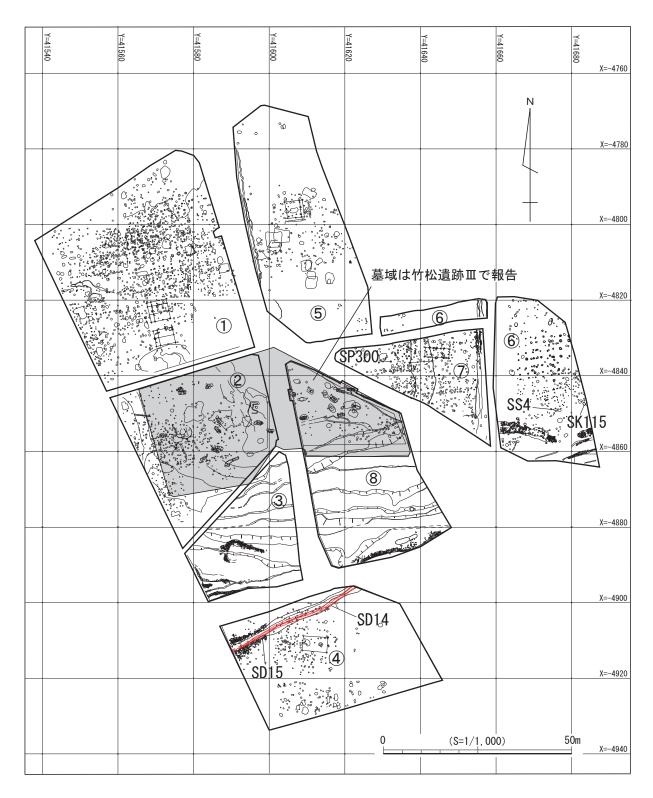
図版 番号	器種	出土 地区	層位	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)
101	使用痕ある 剥片	4区北3 9876	3層	黒曜石	50.0	18.0	7.5	6.3
102	二次加工ある 剥片	1区西 3084	4層	安山岩	65.5	54.0	12.0	45.5
103	石鏃	4区北2 0076	3層	黒曜石	14.0	9.0	3.0	0.4
104	石鏃	1区中央	3層	黒曜石	15.0	13.0	2.0	0.3
105	石鏃	2区西	3層	黒曜石	19.5	13.5	2.5	0.5
106	石鏃	4区北2 0076	4´層	黒曜石	20.0	15.0	3.5	0.9
107	石鏃	0区3484	3′層	黒曜石	23.8	13.5	4.0	0.7
108	石鏃	2区 2682	3層	黒曜石	21.0	13.5	3.0	0.6
109	石鏃	1区東 上面精査	ı	黒曜石	22.0	13.0	3.0	0.7
110	石鏃	1区	2層	黒曜石	18.0	12.5	3.0	0.5
111	石鏃	2区西	3層	黒曜石	21.5	16.0	4.0	8.0
112	石鏃	0区3284	3′層	黒曜石	24.0	18.0	4.0	1.1
113	石鏃	2区2682	3層	黒曜石	17.0	16.0	3.0	0.9
114	石鏃	2区西	3層	黒曜石	24.5	18.5	3.0	4.4
115	石鏃	1区 3084	3´層	黒曜石	16.0	18.0	0.3	0.7
116	石鏃	2区2682	3層	黒曜石	15.0	16.5	4.0	0.6
117	石鏃	1区3084	3´層	黒曜石	25.0	20.0	5.5	1.9
118	石鏃	4区9676	3´層	安山岩	27.0	24.0	4.0	1.6
119	石鏃	1区	2~3層	黒曜石	29.0	15.0	3.0	0.9
120	石鏃	0区×34 ベルト	3層	黒曜石	36.0	17.0	6.5	2.9
121	スクレイパー	1区3284	4′層	黒曜石	41.0	33.0	13.0	15.0
122	スクレイパー	4区北1	2層	黒曜石	37.0	27.0	9.0	8.5
123	スクレイパー	4区北3 9676	5層上面	安山岩	50.0	67.0	21.0	67.6
124	打製石斧	4区北	表採	安山岩	165.0	134.0	31.0	805.0
125	打製石斧	5区 サブトレ16	4′層(3層)	安山岩	153.5	101.5	31.0	635.0
126	打製石斧	1区東	表土剥ぎ	安山岩	108.0	82.0	19.5	220.0
127	磨製石斧	4区0076	3′層	蛇紋岩	91.0	36.0	27.0	115.0
128	磨製石斧	_	表採	蛇紋岩	74.0	37.0	14.0	56.6
129	有孔円盤状 石製品	4区北3 9876	4層~4′層	安山岩	154.0	_	64.0	985.0

にも調整剥離が及んでいるが、再加工後に厚みの調整を行った可能性がある。

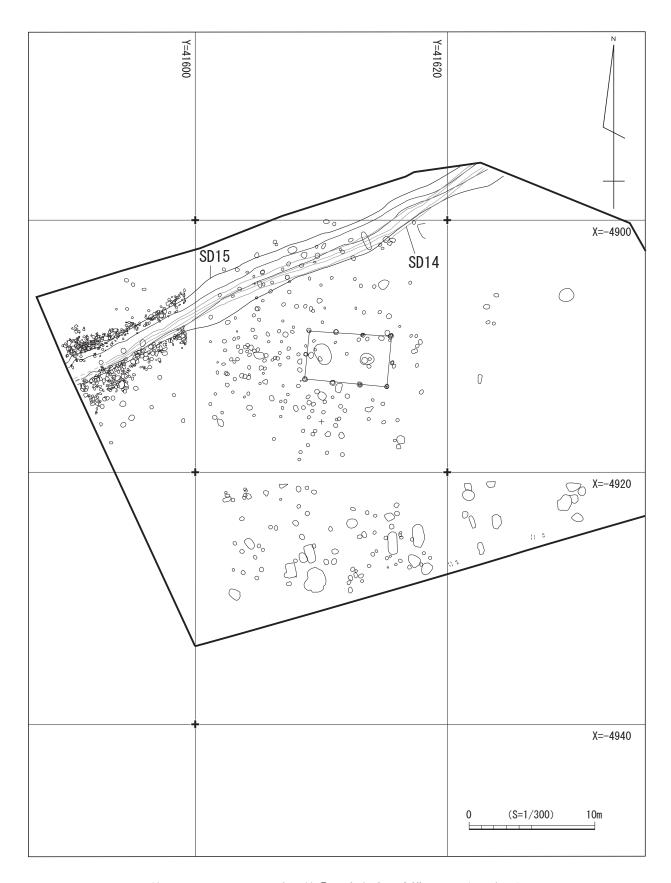
有孔円盤状石製品(第20図129)

大型の安山岩製で、中央部に直径2.8cmほどの穿孔を施す。穿孔は表裏両面からの回転運動によるものである。側縁は丸みを帯びて稜はない。穿孔部周辺は表裏とも平坦だが、側縁部を中心に剥落痕が残り、穿孔部やその周囲には赤化や煤の付着が認められることから、被熱の痕跡かもしれない。類似した石器としては、縄文時代早期や弥生時代の環状石斧があるが、側縁に刃部を形成しない点で異なる。また、弥生時代以降の九州型石錘に伴う錘具の可能性もあるが、これらは滑石製が主体であり、石材が異なる。被熱痕が伴う点から、竈の支脚の可能性を考えておく。

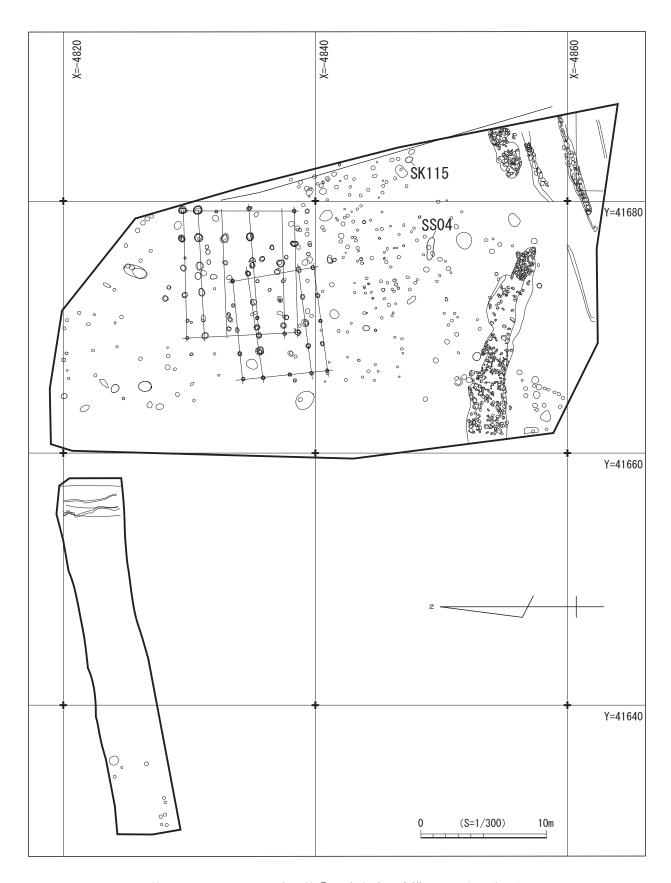
(中尾・江口・東郷)



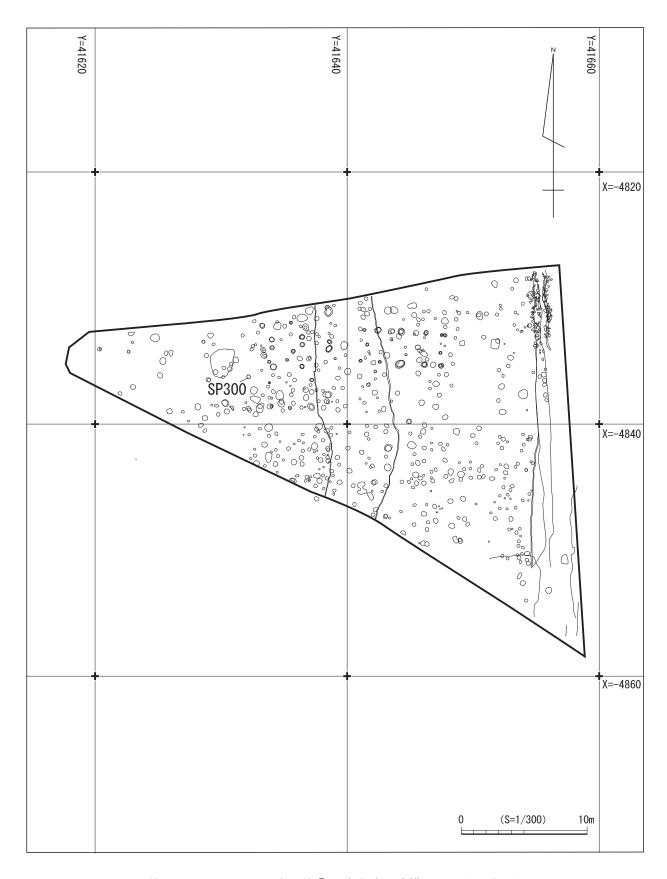
第21図 TAK201202調査区 弥生時代遺構配置図 (S=1/1,000) ○囲みの数字は小調査区の番号



第22図 TAK201202調査区第④区弥生時代遺構配置図(S=1/300)



第23図 TAK201202調査区第⑥区弥生時代遺構配置図(S=1/300)



第24図 TAK201202調査区第⑦区弥生時代遺構配置図(S=1/300)

2 弥生時代

(1) 遺構

TAK201202調査区の弥生時代の遺構は①. TAK201202⑦区SP300、②. TAK201202⑥区SK115、③. TAK201202⑥区SS04、④. TAK201202④区SD14、⑤. TAK201202④区SD15。

TAK201208調査区では⑥. TAK201208 4区北SD1、⑦. TAK201208 4区南ST1、⑧. TAK201208 4区市ST2、⑨. TAK201208 4区南ST3、⑩. TAK201208 4区南ST4、⑪. TAK201208 4区南ST5である。以下遺構、遺物の説明を記す。

①TAK201202⑦区SP300 (第25図・26図、写真10、第7表)

SP300は⑦区の8262グリットに位置し、長軸0.32m、短軸0.26m、深さ0.27mを測る。平面形状は 楕円形である。覆土は単層で暗褐色粘質土である。覆土から滑石製の棒状石錘が1点出土した。 130は棒状の石錘である。端部の一部が欠損する。長軸方向に1条の溝を有する。石材は滑石製で 重さは23.7gである。



第26図 SP300出土遺物実測図(S=1/3)

(S=1/3)

130

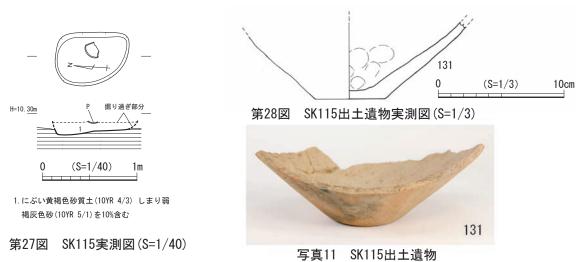
10cm

②TAK201202⑥区SK115 (第27図·28図、写真11、第8表)

第25図 SP300実測図(S=1/20)

SK115は⑥区の8468グリットに位置し、遺構の中心で長軸0.76m、短軸0.56m、深さ0.08mを測る 楕円形の平面プランを呈する。全体的に上部は削平気味である。遺物は覆土上層から弥生時代の 甕底部片が出土した。131は弥生時代甕の胴部~底部片である。底部径は5.6cmと小さく平底であ る。底部から胴部への立ち上がりは斜め方向に直線的である。内面は指圧痕が僅かに残る。外面 は丁寧なナデ調整を行っている。底部の状況から時期は後期前半頃であろう。

写真10 SP300出土石錘



③TAK201202⑥区SS04 (第29図・30図、写真12・13・14・15、第9表)

SS04は⑥区の8466グリットに位置し、長軸1.66m、短軸0.46m、深さ0.14mを測る横長楕円の主体部である。覆土上部に人頭大から拳大の円礫が遺構全体を覆う集石遺構と考えられる。覆土は褐灰色土粘質土でしまりのある土質でその上に円礫が位置する。出土遺物は高杯脚部片、台付甕脚部片が出土している。132は高杯脚部片である。胎土に粗砂を多く含み、焼成は軟質である。133は台付甕の脚部片である。



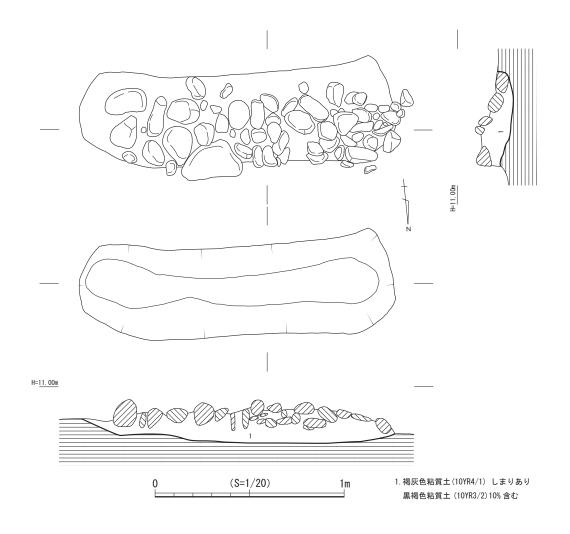
写真12 SS04遺構検出状況



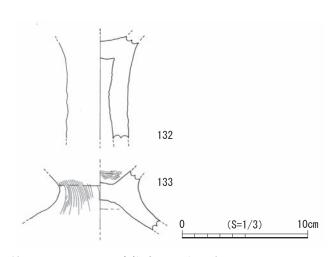
写真13 SS04半截状況



写真14 SS04完掘状況



第29図 SS04実測図(S=1/20)



第30図 SS04出土遺物実測図(S=1/3)





写真15 SS04出土遺物

④TAK201202④区SD14 (第31図・32図・33図、写真16・17・18・19、第10表)

④区の8860、8862、9058、9060グリットに位置する。流れは北東から南西に緩やかなS字カーブを描く。長さ約32.0m、幅1.00m、深さ0.22mを測る。遺物は弥生土器、古墳時代土師器等が出土した。134は、両端が欠損する石製品である。全面が丁寧に磨かれている。砥石かもしれない。石材は安山岩である。



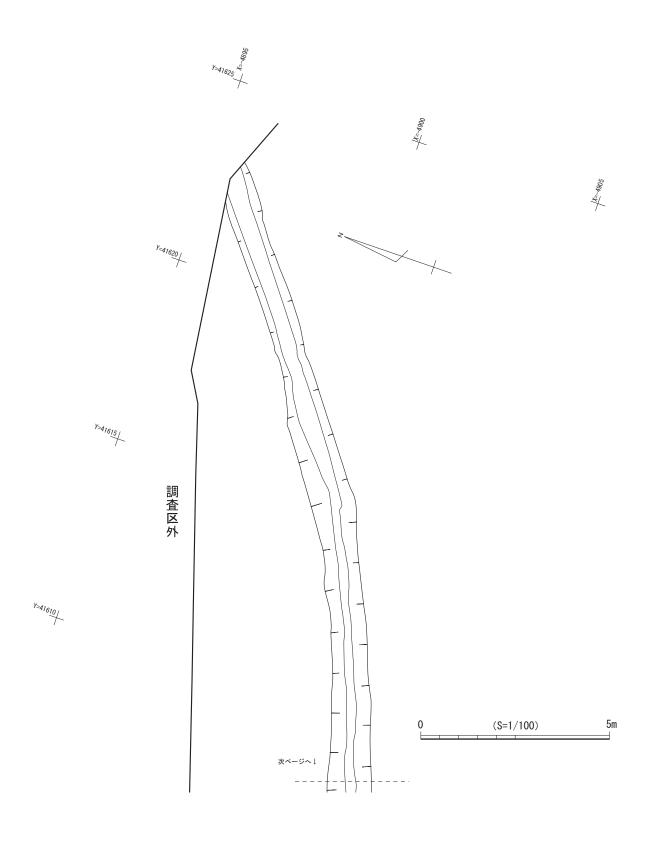
写真16 SD14·SD15検出状況



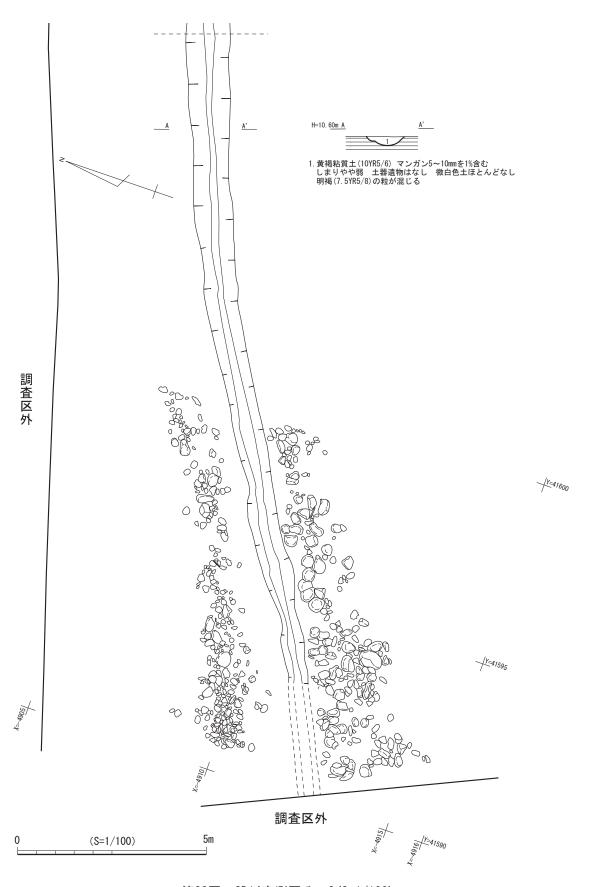
写真17 SD14完掘状況



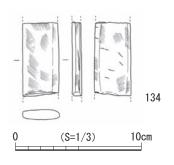
写真18 SD14土層断面



第31図 SD14実測図その1(S=1/100)



第32図 SD14実測図その2(S=1/100)



第33図 SD14出土遺物実測図(S=1/3)



写真19 SD14出土遺物

⑤TAK201202④区SD15 (第34図・35図・36図、写真20・21・22、第11表)

④区の8860、8862、9058、9060グリットに位置する。流れは北東から南西にやや直線的に進む。長さ約36.0m、幅2.8m、深さ0.6mを測る。遺物は土器が出土している。

135は弥生土器甕口縁部~胴部片である。復元口径22.4cmを測る。口縁部は緩やかに外反する「く」の字口縁で端部は丸い。内外面は斜め方向にハケメ調整を施している。136は土師器椀片である。復元口径15.4cm、器高6.7cmを測る。口縁部は内湾し端部は丸い。外面は削り痕、内面はナデ調整を施す。137は弥生土器の甕口縁部片である。口縁部は平坦面をつくる逆L字を呈し、端部は丸い。138は弥生土器の高杯杯部片である。139は土師器手づくね土器である。140は弥生土器台付甕脚部片である。復元底径7.4cmを測る。内外面はハケメ調整を施す。141は弥生土器高杯脚部片である。外面は細かな丁寧なヘラケズリを施す。外面全体に丹塗りを施す。142、143は器台片である。いずれも胴部~脚部の破片で、胴部中央部に横方向のヘラ描き沈線文が6条入り、縦方向に方形透かしを施す。宮崎貴夫氏の編年ではⅡ~Ⅲ期、弥生後期後葉~終末に相当する。(宮崎2015)

【参考文献】

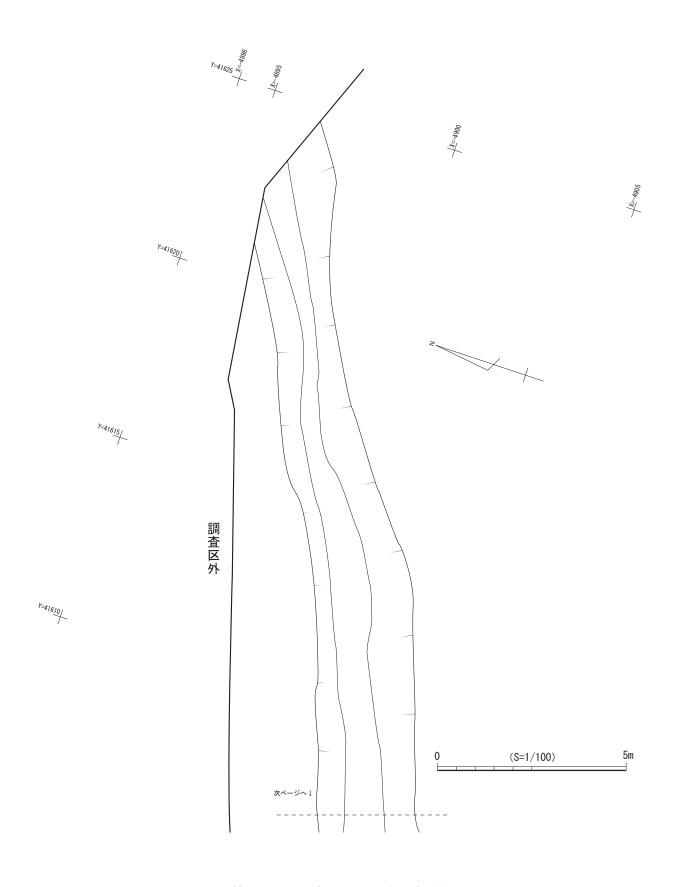
宮﨑貴夫2015「長崎県本土地域の状況について」長崎県考古学会・九州考古学会合同資料集



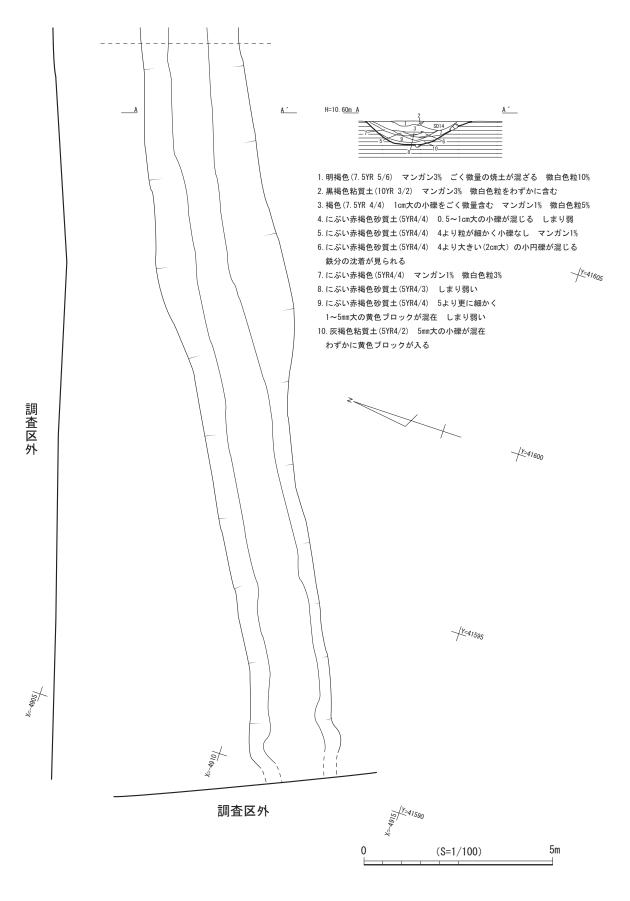
写真20 SD15土層断面



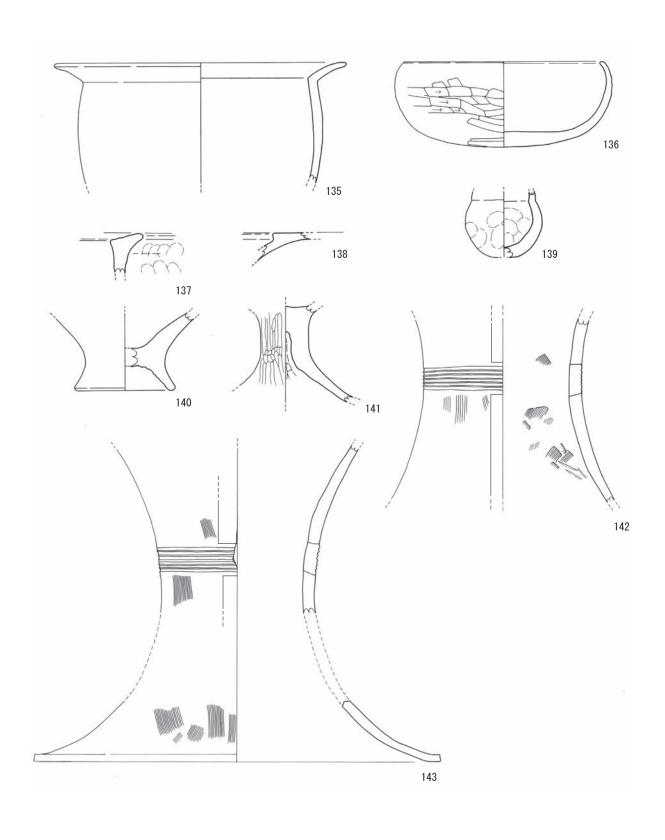
写真21 SD15完掘状況

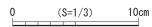


第34図 SD15実測図その1(S=1/100)



第35図 SD15実測図その2(S=1/100)

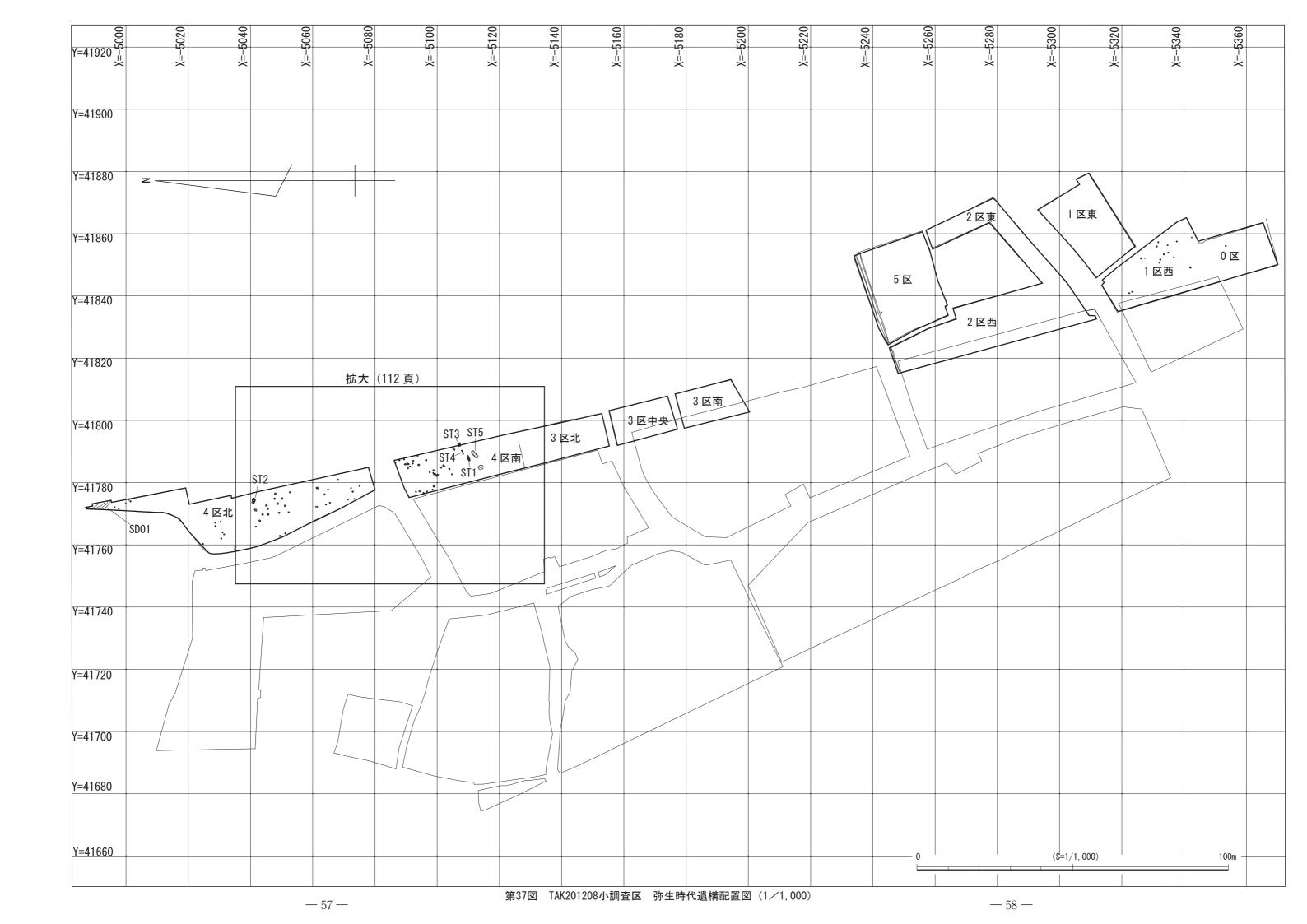




第36図 SD15出土遺物実測図(S=1/3)



写真22 SD15出土遺物

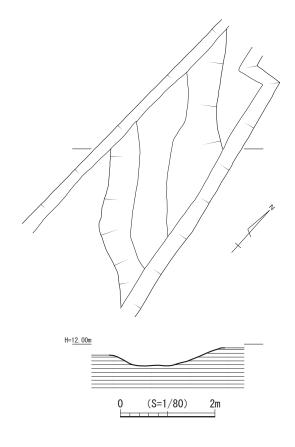


⑥TAK201208 4区北SD1(第39図・40図・41図、写真23・24、第12表)

SD1は4区北9676グリッドの最北端に位置し、北西-南東方向に延びる。

長さ(北西-南東方向)は3.23m+、最大幅(北東-南西方向)は2.34m、深さは最大0.40mを測る。弥生 土器が多く、南側の斜面部に特に密集して出土した。土器の時期は後期後半頃の所産であろう。

144は壺、145~147は甕の口縁部~胴部片である。144は壺の口縁部片で直立気味に外反し、端部は丸い。外面中央部で僅かに屈曲し緩やかな凸部を設ける。その凸部に刻目を施す。内外面はハケメ調整を施す。山陰系土器であろう。145~147は「く」の字口縁の甕である。内外面に多方向のハケメ調整を施す。148は壺の口縁部~胴部片である。口縁部はやや垂直気味で短い。胴部内面は指オサエの調整がなされている。表面は摩耗している。149は甕底部片である。尖り気味丸底である。150は壷底部片で平底である。内外面共に摩滅している。151は小形高杯脚部片である。内外面に丹が塗布された痕が見られる。152は台付甕の脚部片である。接合部は少し楕円形になっている。153は直口壷の口縁部片である。内外面にハケメ調整を施し、全体的にかなり摩耗している。154は壷胴部片である。刻目凸帯を有す。155は壺の口縁部~頸部片である。頸部に刻目を施す。



第39図 SD1実測図(S=1/80)

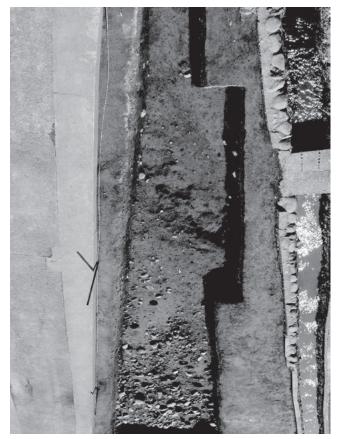
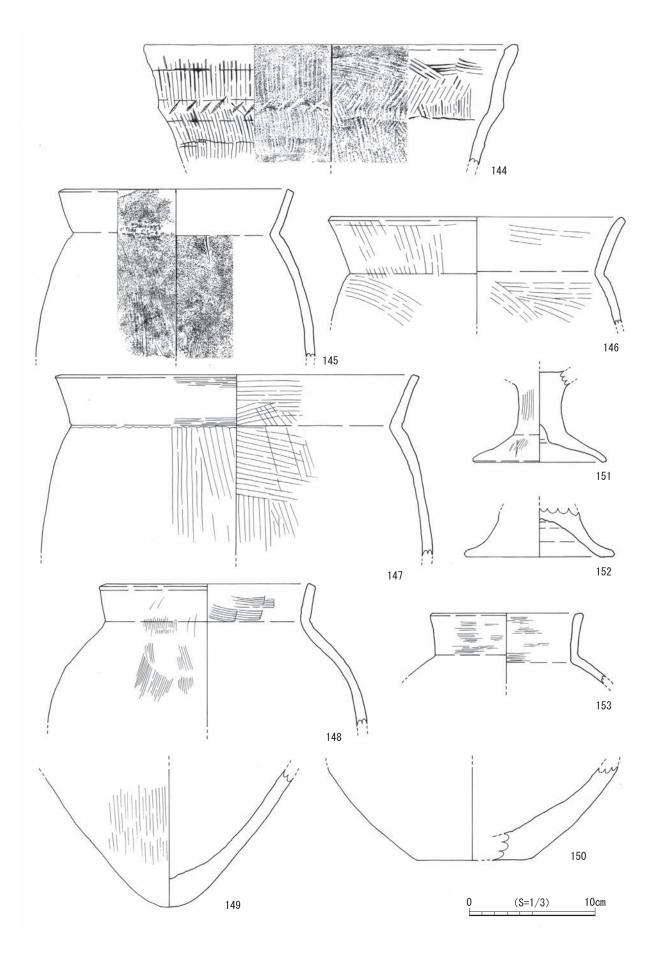


写真23 SD1完掘状況



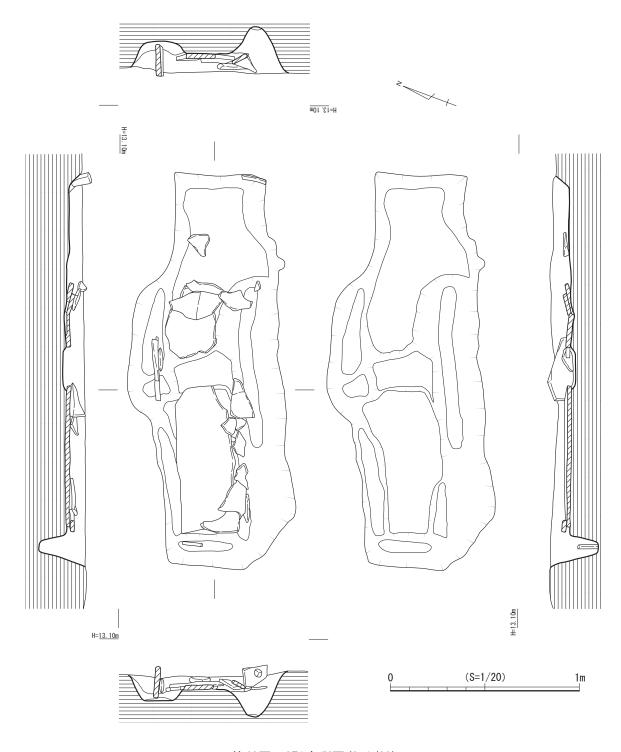
第40図 SD1出土遺物実測図その1(S=1/3)



写真24 SD1出土遺物

⑦TAK201208 4区南ST1(第42図、写真25・26)

ST1は0878グリッドの4層から検出した。石棺の内法は石材が殆ど破損していて無く、掘り方は長軸1.80m、短軸0.4mで縦長の長方形となる。深さは不明である。主軸方向は東西となる。埋土、床面からの遺物の出土はない。 (浦田)



第42図 ST1実測図(S=1/20)



写真25 ST1遺構検出状況



写真26 ST1完掘状況

⑧TAK201208 4区北ST2(第43図、写真27·28·29)

ST2は0276グリッドの3層下層から検出された。蓋石の約半分がなくなっているが、側壁・小口とも良好に残存している。床面に敷石などの施設はない。石棺の内法は横0.50m、縦1.45m、深さ0.6mで、縦長の長方形となる。主軸方向は北西から南東となる。埋土・床面からの遺物の出土はない。

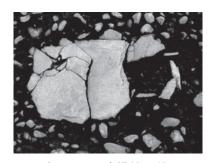


写真27 ST2遺構検出状況



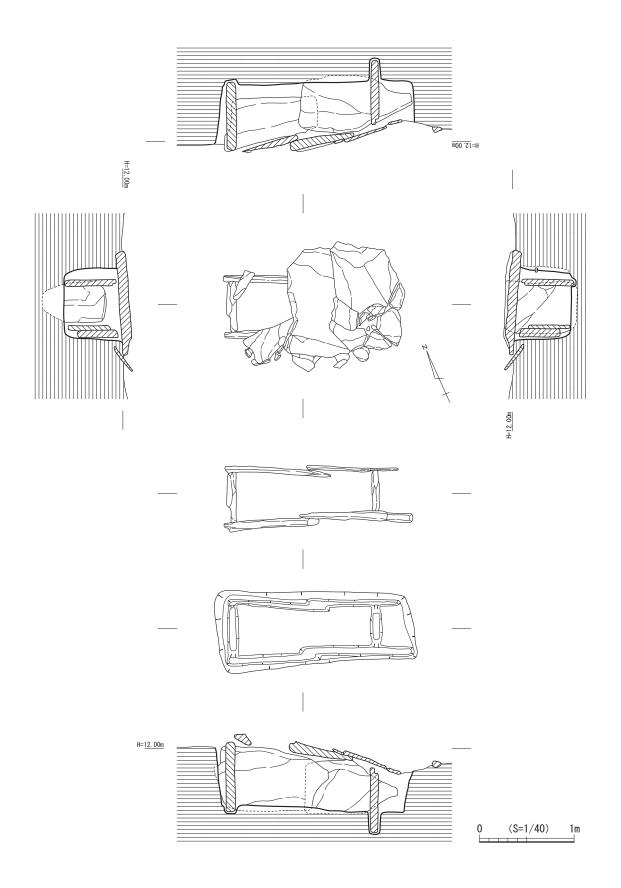
写真28 ST2石棺検出状況



写真29 ST2完掘状況

⑨TAK201208 4区南ST3(第44図・45図、写真30・31・32・33、第13表)

ST3は0878グリッドの4層から検出された。調査区の制約で半分のみの検出となった。破損が進んでおり、残存する石材と掘り方から石棺の内法は横が約0.60mである。縦、深さは不明である。縦長の長方形のプランと思われる。埋土中から緑色凝灰岩製の管玉が1点出土している。長さが13.50mm、径が3.14mm、孔径が1.48mmと0.82mmである。弥生時代を通じて九州では径が3mm前後の細身のものが多い。穿孔は両端から行っているが穿孔の径が細いほうからの穿孔が浅い。玉類の生産地である山陰や北陸では管玉の穿孔具は弥生時代後期後葉には石針から針状鉄製品(穿孔用鉄錐)が使われるようになっている。石針(石錐)による穿孔では穿孔方向に直交する回転擦痕ができ、鉄針による穿孔では研磨材の併用が不可欠なため孔内の表面には回転痕は残らずに平滑となる。ST3埋土より出土した管玉の孔内はやや凹凸はあるが回転痕はみられず滑らかである。このことから、この管玉は弥生時代後期以降のものと考えられる。 (浦田)



第43図 ST2実測図(S=1/40)

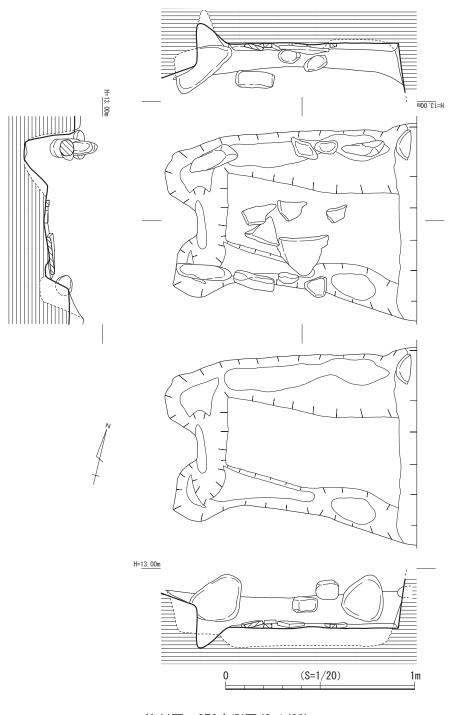


写真30 ST3検出状況

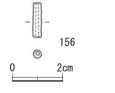


写真31 ST3側石検出状況



写真32 ST3完掘状況

第44図 ST3実測図(S=1/20)



第45図 ST3出土管玉実測図(S=2/3)



写真33 ST3出土管玉

①TAK201208 4区南ST4(第46図、写真34)

ST4は0878グリッドの4層から主軸方向に縦半分だけ石棺の掘り方が検出された。石棺材や遺物の出土は無い。石棺内法は推定、縦が1.30mである。横・深さは不明である。主軸方向は東西となる。今回0878グリッドの4層上面から検出されたST1、3、4の3基の石棺は主軸方向も検出面もほぼ同一であるのでほぼ同時期のものと思われる。石棺のプランが縦長の長方形であること、ST3の埋土から出土した管玉から弥生時代後期以降のものと考えられる。また、この3基の石棺の主軸方向は真北からやや西にずれる。これを古代の古磁気でみてみると現在確定されている最古の5世紀初頭で西に7.8度ほど傾いている。これで見ると主軸はきれいに東西となる。星や太陽から方位を求めるとほぼ真北になる。当時、磁北を測定できる道具や方法は無かったと考えられているが、磁北に合うのは不思議である。0276グリッドから検出されたST2は検出層位も他の3基より新しい3層下層であること、主軸方位もまったく違うことからやや時代が新しくなるものと思われる。

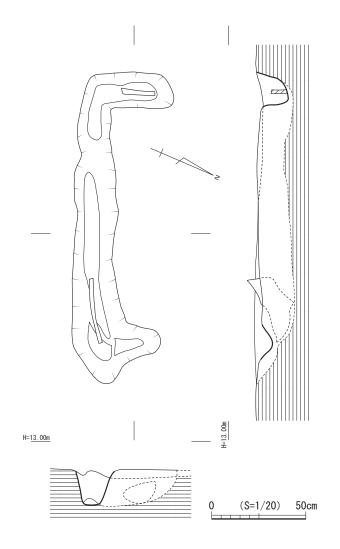


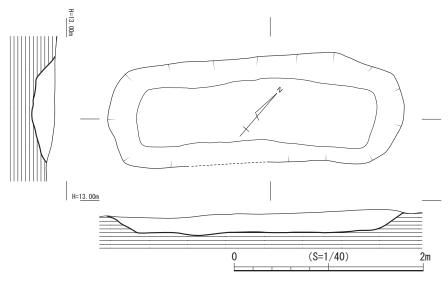


写真34 ST4完掘状況

第46図 ST4実測図(S=1/20)

①TAK201208 4区南ST5(第47図・48図、写真35・36・37・38、第14表)

ST5は4区南0878グリットから検出された土坑である。周囲の石棺墓と方位をほぼ同じくしており、土壙墓と考えられる。元来の掘り込みは更に深かったものと見られるが、耕作などによって削平を受けている。礫層に掘り込む形で、床土下に40cmほどの深さのみが残存している。上端の最大長が3.23m、幅1.1m、下端で約2.5m、0.64mを測る。主軸は真北から約50度東へ傾く。土壙内からは副葬品として管玉3点(図48、写真38)が出土した。うち2点については座標記録を行った。出土位置は床直上ではなく、床面10cm余り上の埋土内である。大型の158が土壙の中央近く、157が土壙南西側から出土している。石材は同一で、いずれも山陰系の濃緑色(5G3/7)の碧玉である。北部九州の弥生後期の遺跡に出土が多く見られる松江市玉湯町花仙山産の石材かと思われる。 (堀内)



第47図 ST5実測図(S=1/40)



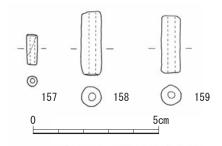
写真35 ST5管玉検出状況



写真36 ST5遺構検出状況



写真37 ST5完掘状況



第48図 ST5出土管玉実測図(S=2/3)

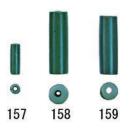


写真38 ST5出土管玉

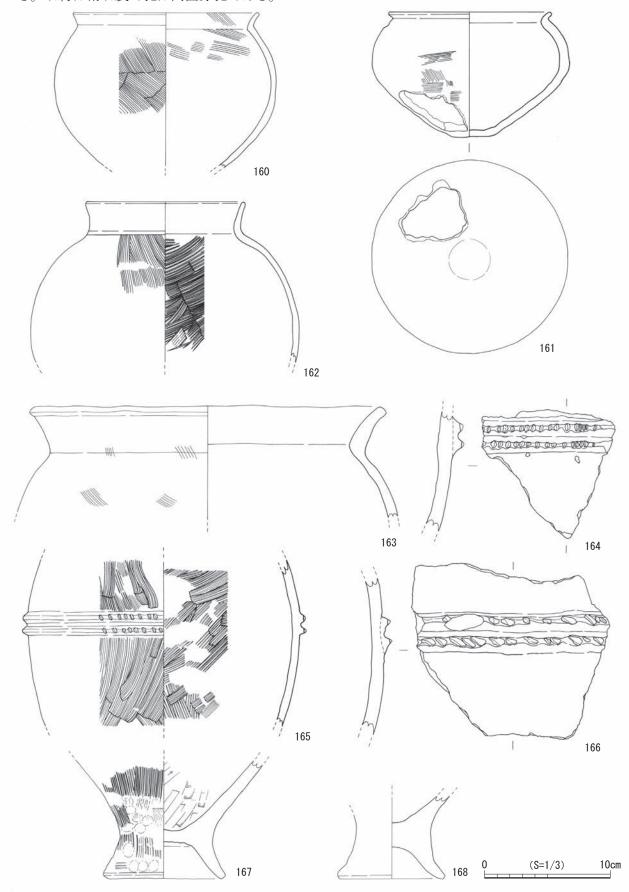
(2) TAK201202調查区弥生時代包含層出土遺物

(第49図・50図・51図、写真39・40・41、第15表、16表)

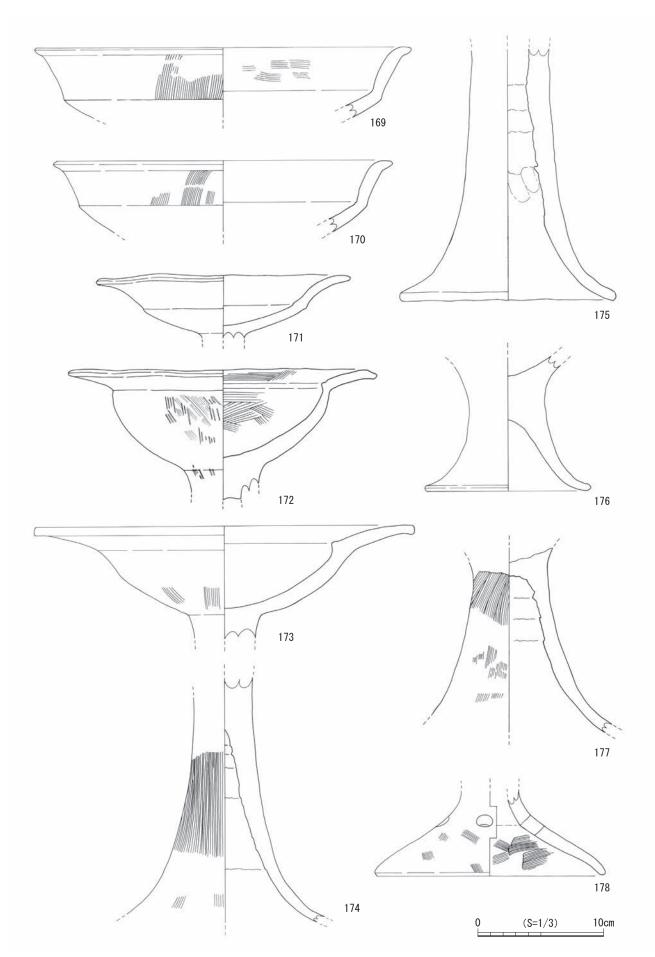
弥生時代の包含層遺物は2層~4層で出土した遺物である。器種は甕、壺、高杯、短頸壺、椀等 が石器では石錘、石包丁片が出土した。以下器種ごとに説明する。

160、161は短頸の小形壺である。**160**は「く」の字口縁で端部は丸い。底部は欠損している。 内外面はハケメ調整を施し、器壁は薄い。161は完形品で口縁部は短く外反し端部は丸い。胴部 下部、底部に近い所に5cm×4.5cmの台形状を呈する孔を開けている。口径12.8cm、器高9.9cm、底 径2.8cmを測る。162、163は甕の口縁部から胴部にかけての破片である。**162**は口縁部がやや外反 し端部は丸い。内外面は縦、斜め方向にハケメ調整を行い全体的に器壁は薄い。163は「く」の 字口縁で端部は丸い。外面はハケメ調整を施す。164~166は複合口縁壺の胴部片である。164、 166は2条の断面三角形凸帯をめぐらし、165は2条の台形凸帯をめぐらす。いずれも刻目を有 し、間隔、形は不統一である。164、165の外面は丹塗りである。3点とも外面はハケメ調整を施 す。後期後半頃であろうか。167、168は台付甕脚部である。**167**は底径9.6cm、脚部高2.9cmを測 る。**168**は底径8.0cmを測る。全体的に摩滅している。169~178は高杯杯部~脚部片である。 169、170は杯部片である。**169**は復元口径29.6cm、**170**は復元口径26.4cmを測る。いずれも口縁部 はやや外反し、端部は外方向に僅かに突き出る。口縁部上面は平坦である。土器の時期は後期後 半頃で東瀬戸内系か。171は杯部片である。杯体部はやや内湾し口縁部は外反し端部は丸い。時 期は終末頃か。172は杯部片である。杯部は深く、口縁部は鋤先口縁で端部は丸く、短く下が る。173、174は杯部、脚部がセットである。杯部は浅く、口縁部は鋤先口縁状を呈しやや斜め 方向に直線的に伸び、端部は方形を呈し僅かな稜がある。脚部は長脚で裾部は欠損している。外 面は縦方向に細かいハケメ調整を施す。175~178までは高杯脚部である。**178**は開脚高杯脚部片 で1.2cmの円形の孔を有し、脚部は復元底径18.0cmを測る。端部は丸い。内外面は細かなハケメ 調整を施す。179~184は甕の底部~胴部片である。**179**は底部~胴部の破片である。外面ハケメ 調整の後、斜め及び横方向に削り整形を行い、内面は縦、斜め方向に粗いハケメ調整を施してい る。底部形状は尖り気味丸底である。180は底部~胴部の破片である。底部は平底で胴部へはや や内湾気味に立ち上がる。外面はハケメ調整の後削り整形を施している。内面は縦方向に削りを 施している。181は底部〜胴部の破片である。底部は平底で僅かに窪む。内外面ハケメ調整を行 っている。182は僅かな高台を作り底部を形成している。内外面は粗いハケメ調整を施してい る。183の底部形状はやや凸レンズ状を呈する。184は底部平底で僅かに窪む。185は口縁部~体 部の破片である。復元口径32.2cmで浅い鉢又は高杯杯部であろうか。口縁部内側は鳥の短い嘴状 を呈する。外面に僅かにハケメが残り、全体的に凹凸のない丁寧な作りで、器壁は薄い。東瀬戸 内系土器か。186は円形粘土帯土器の甕口縁部小片である。口縁部はナデ調整を施し丁寧な仕上 げである。砂粒を多く含み焼成は良好である。時期は前期末~中期前半頃の所産か。187は底部 ~胴部片で底部はやや尖る。内面はナデ調整を施し、丹塗りを施している。器種は不明である。 188は長頸壺の口縁部~口頸部片である。口径8.2cmを測る。189は線刻土器で、甕か壺の胴部片 である。線刻の内容は判然としない。190、191は石錘で完形品である。いずれも長軸方向に1条 の溝を有す。190は23.8g、191は33.8gで石材は滑石である。192は石包丁片で1/2程が残存す

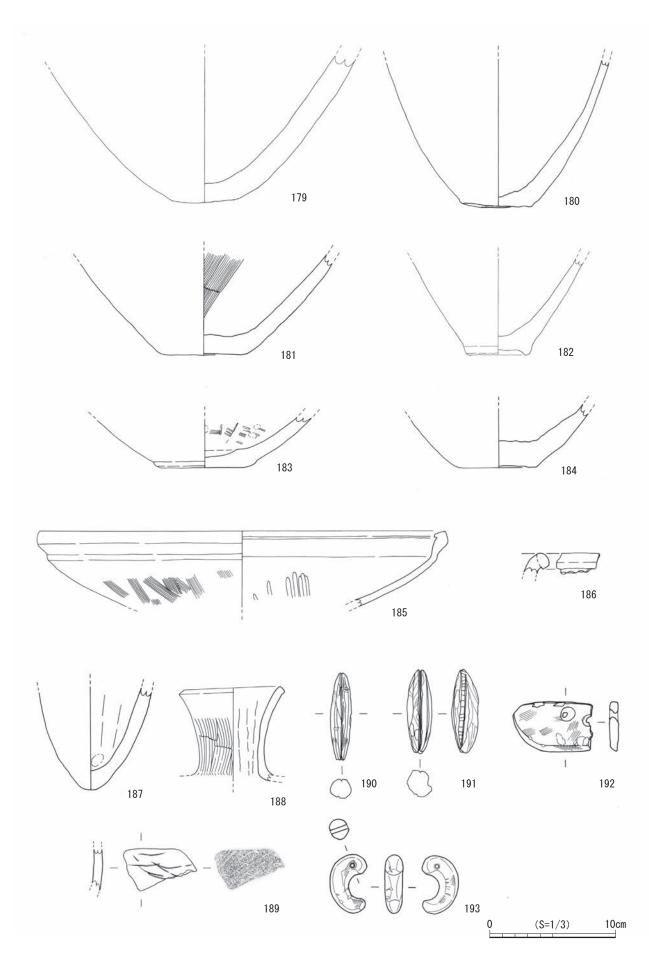
- る。穿孔は2孔確認できる。刃部は片刃で石材はデイサイトである。193は定形式勾玉で完形であ
- る。石材は滑石製で孔は両面穿孔である。



第49図 TAK201202調査区弥生時代包含層出土遺物実測図その1(S=1/3)



第50図 TAK201202調査区弥生時代包含層出土遺物実測図その2(S=1/3)



第51図 TAK201202調査区弥生時代包含層出土遺物実測図その3 (S=1/3)



写真39 TAK201202調査区弥生時代包含層出土遺物その1



写真40 TAK201202調査区弥生時代包含層出土遺物その2

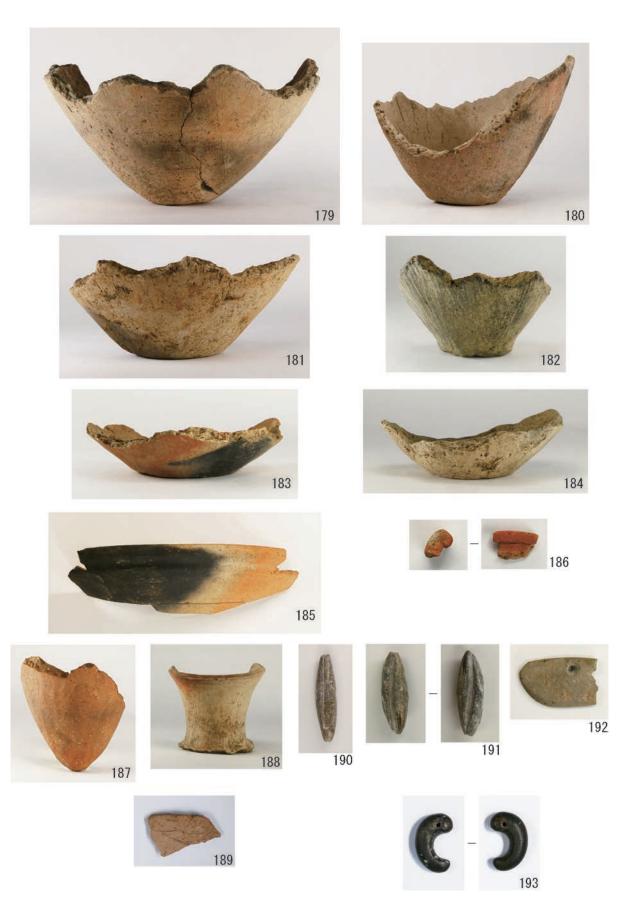
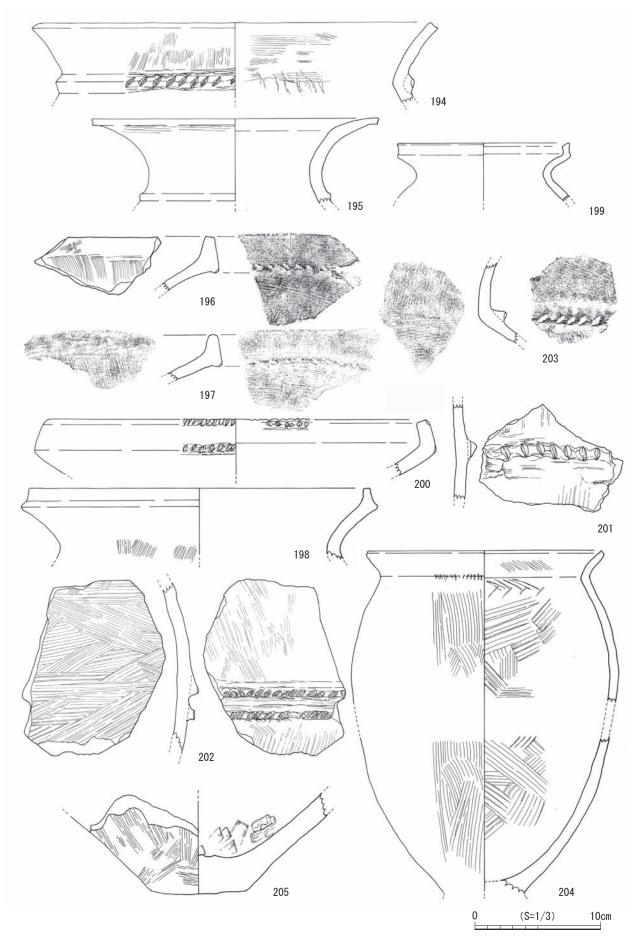


写真41 TAK201202調査区弥生時代包含層出土遺物その3

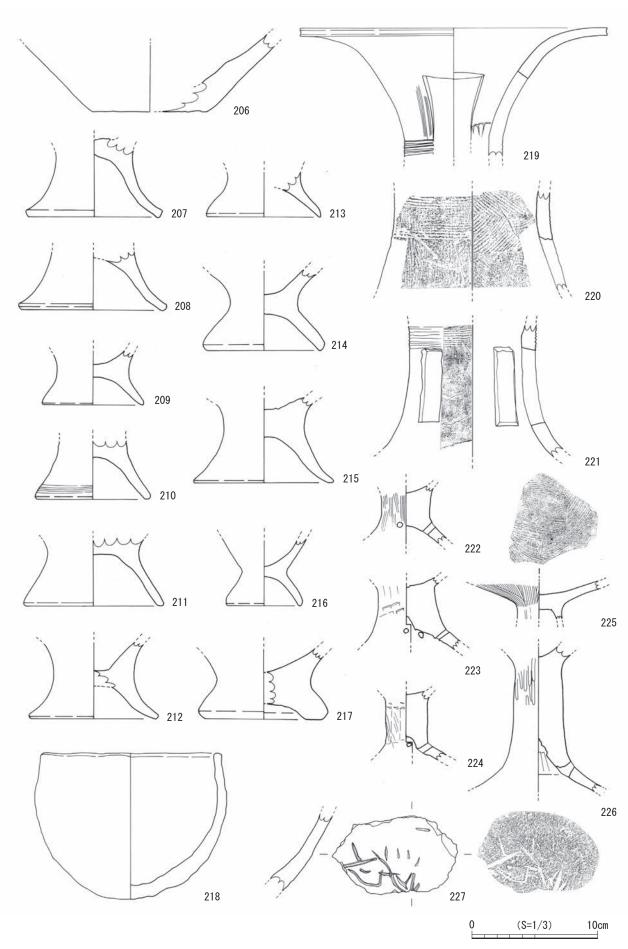
(3) TAK201208調査区弥生時代包含層出土遺物(第52図·53図、写真42、第17表)

194は弥生時代後期中葉、下大隈式古段階の長胴部の広口壷の口頸部である。口径32.0cmを測 る。胴部との境の屈曲部外面に刻目凸帯を施す。刻目は工具により、右上がり斜めに施す。器高 は50cm強と想定される。195は中期の須玖II式古段階の壺の口頸部で、胴部境の外面に凸帯を施 す。ハケメ調整は丹念で、内面には丹塗り痕がわずかに残る。196、197は後期中葉の北九州の 複合口縁壺の口縁部であり、下端部に刻目を施す。口径は復元できない。外側への張り出し部は 水平に近く、下大隈新段階に近い時期を想定でき、木製の蓋を被せた海上交易のコンテナとして の利用が想定されている器種(伊藤実2015)である。198~200は袋状口縁の壺である。**198**は西新 式古段階の壺の口縁部で、口縁に弱い沈線が残り、下端に刻目が見える。口径26.8cmを測る。 199は立ち上がりが垂直で口縁端部がやや内湾し、後期前葉高三瀦古段階に位置づけられる。口 径13.6cmと小振りである。200は張り出した口縁部の上下端に刻目を施す。201は台形の刻目凸帯 を施す甕の胴部片であり、いずれも凸帯部は胴部中央に復原される。中期初頭の城の越式段階と 考えられるが、ローリングが激しい。202も中期初頭の壺の胴部片であり、二条の凸帯を持ち、 内面に多方向のハケメ、外面に縦方向のハケメを有す。203は後期の高三潴式から下大隈式にか けての時期の壺の頸部で、屈曲部の胴部側に三角凸帯を持つ。口縁部は鋤先状に開くものと想定 する。204は弥生終末期の在地系の台付甕で、図上復元を行った。口径は18.6cm、器径は20cm、 復元器高は30cm強と推定される細身のプロポーションである。**205**は甕の底部で凸レンズ状を示 す。底径は7.5cmを測る。206は甕または壺の底部で平底である。207~217は台付甕の脚部であ る。整形の詳細、ローリング状況は観察表に譲る。218は口径13.4cm、器高11.5cmの鉢である。 北部九州では後期前葉の高三潴式段階に見られる器形だが、器厚は、やや平底の底部で1.3cmほ どと大きく、口縁に向かって薄くなり、口縁部の外反は見られない。胎土調整は荒く、ひび割れ や崩れも見られる。近隣に類例を見ない。219~221は弥生後期~終末期に見られる方形透かし付 の肥前型器台である。近隣地域の出土例と編年については、別報告書に詳述した(堀内2017)。出 土地点はいずれも4区南の墓域付近である。竹松遺跡保守基地(TAK201202)の2区・8区(※1)の下層 流路際で見つかった弥生後期~終末期の墓域の場合と同様に、墓前祭祀が行われたことが想定さ れる。219は4方向におおぶりな方形透かしを持ち、胴部中位の文様帯には櫛目文を施す。220は 文様帯付近のみが残存し、文様帯は櫛目である。内面には規則的に文様帯中央で垂直に交差する 斜めのハケメを施す。221はやや太めの櫛目文で、透かしはスリット状に細長く、内面調整はへ ラナデでやや粗い。222~226は高杯である。**222**は脚柱部が長く、丹塗り、摩研が施されてい る。脚柱部に縦方向に丁寧なハケメ調整が施され、裾部との境に穿孔を施す。223は丹塗りで、 杯部に放射状に暗文のような波状文を施し、加飾性が高い。224、225は裾部4方向に穿孔を施 す。225、226の脚柱部は中実である。227は線刻土器で、甕か壺の胴部片である。線刻の内容は 判然としない。

Ⅲ層の弥生土器はいずれも4区から出土した。4区北の石棺墓やピット群付近と4区南の墓域周囲から集中して出土している。多くの土器はこれらの遺構に伴うものとも考えられるが、ローリングの激しいものは、洪水による流れ込みが想定される。今回の細長い調査区には複数の流路跡が縦断していたことが確認される。流路の上流の調査区東側の竹松遺跡未調査地域には、弥生時代の集落域が広がるものと思われる。 (堀内)



第52図 TAK201208調査区弥生時代包含層出土遺物実測図その1(S=1/3)



第53図 TAK201208調査区弥生時代包含層出土遺物実測図その2(S=1/3)

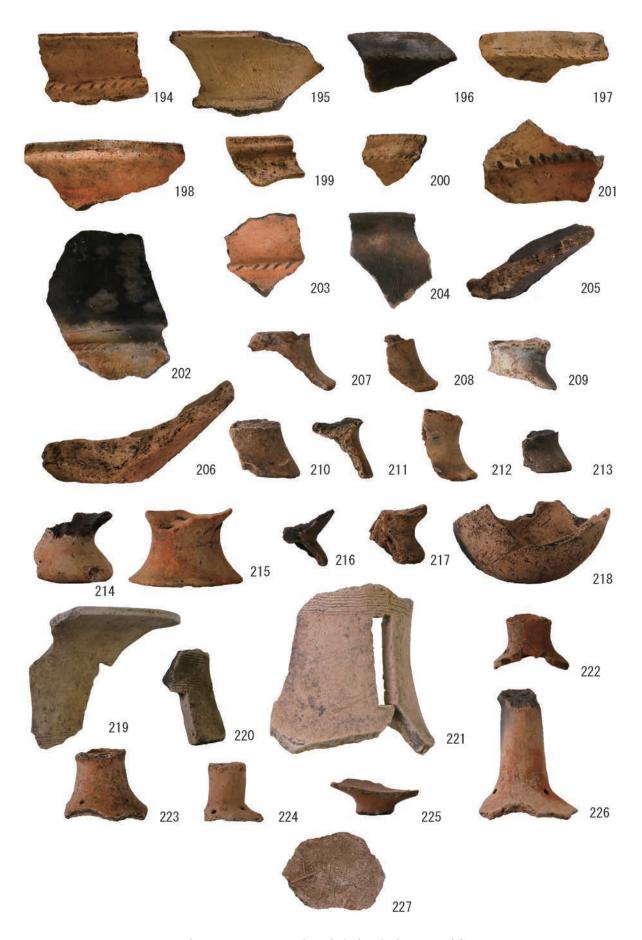
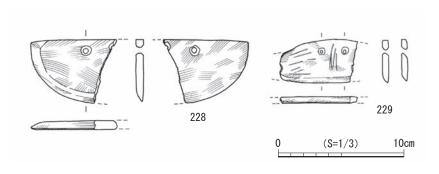


写真42 TAK201208調査区弥生時代包含層出土遺物

石器(第54図、写真43、第18表)

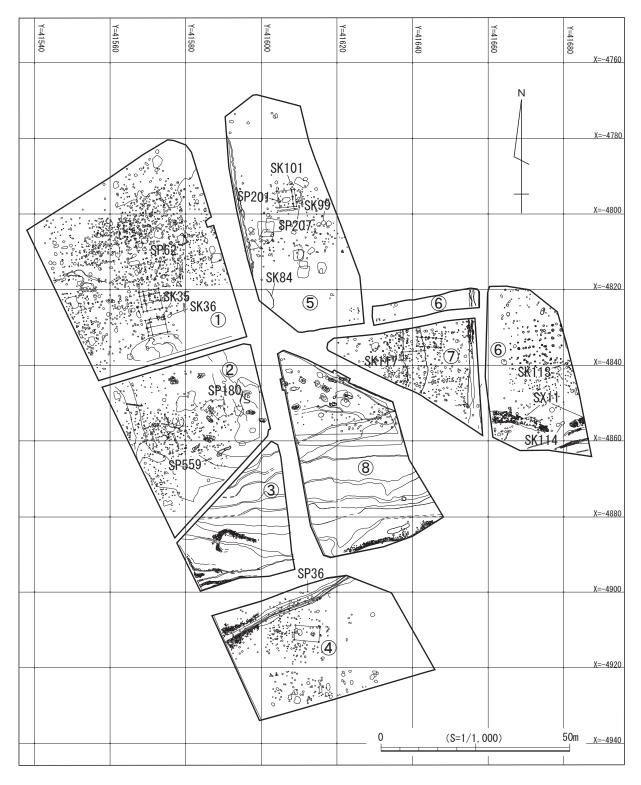
228は刃部が外周し半月形を呈する石包丁である。刃部は片刃に仕上げられる。穿孔は両側から削られ真円に近い円形を呈し2ヶ所施されている。**229**は228と違い紡錘形の石包丁である。刃部は片刃に仕上げられる。穿孔は両側から削られ一方は真円に近い円形を呈し他方は楕円に近い円形を呈し2ヶ所施されている。 (江口)



第54図 TAK201208調査区弥生時代包含層出土石包丁実測図(3層)(S=1/3)



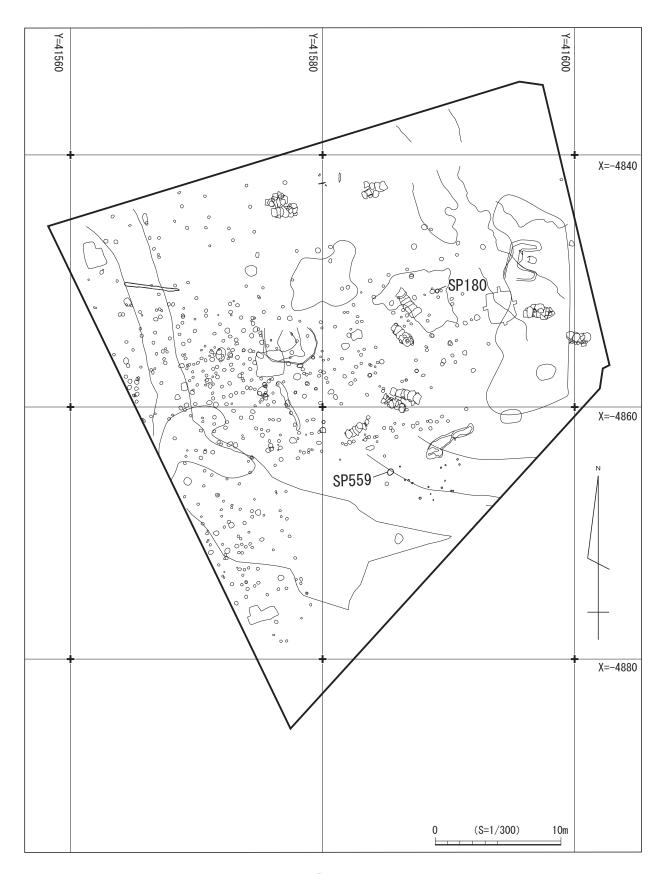
写真43 TAK201208調査区弥生時代包含層出土石包丁(3層)



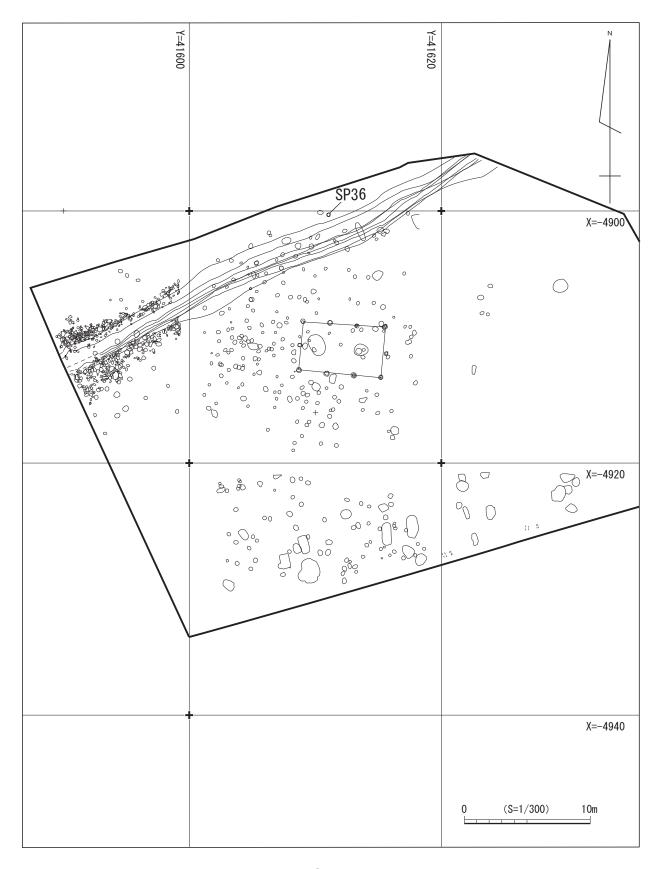
第55図 TAK201202調査区 古墳時代遺構配置図 (S=1/1,000) ○囲みの数字は小調査区の番号



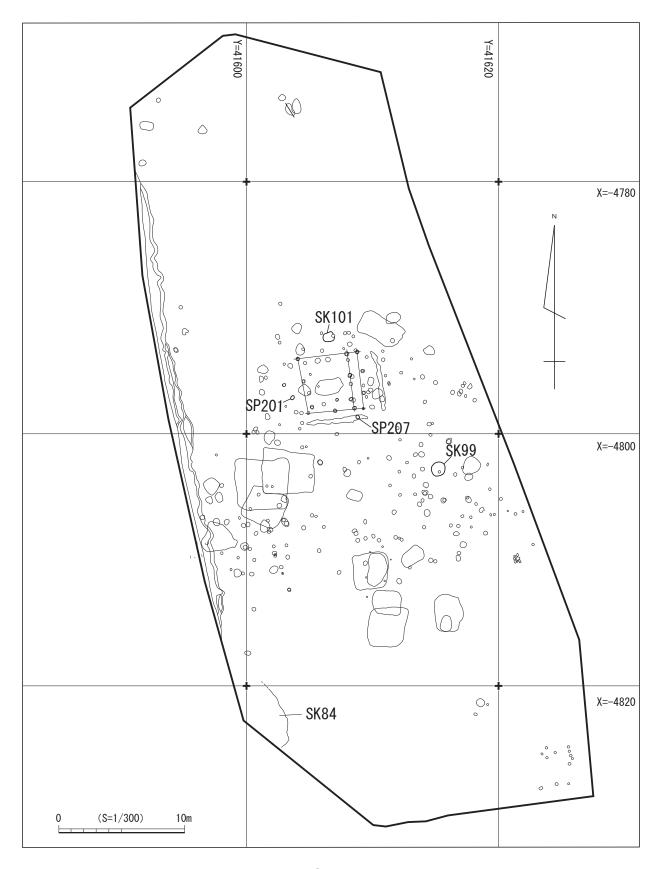
第56図 TAK201202調査区第①区古墳時代遺構配置図(S=1/300)



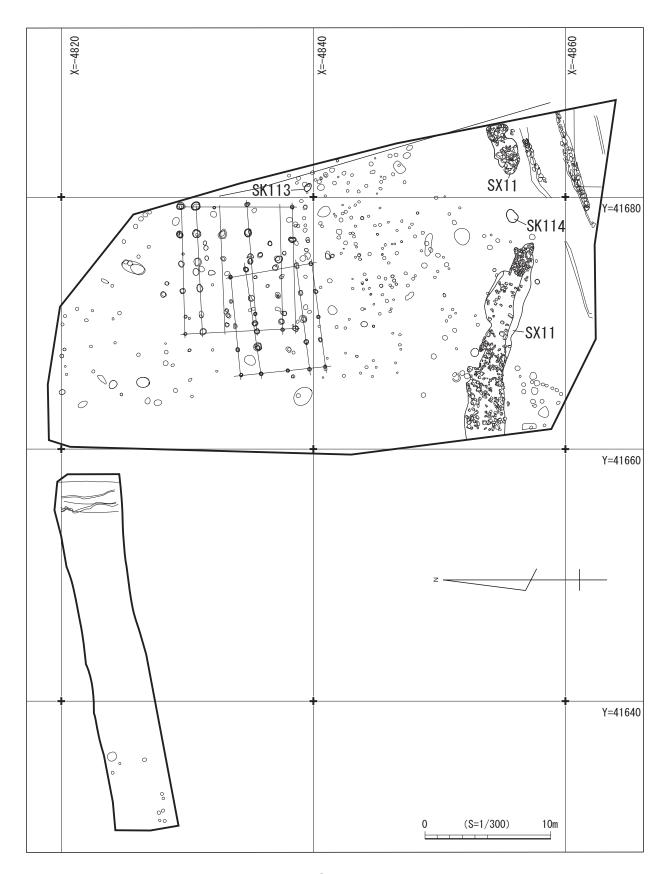
第57図 TAK201202調査区第②区古墳時代遺構配置図(S=1/300)



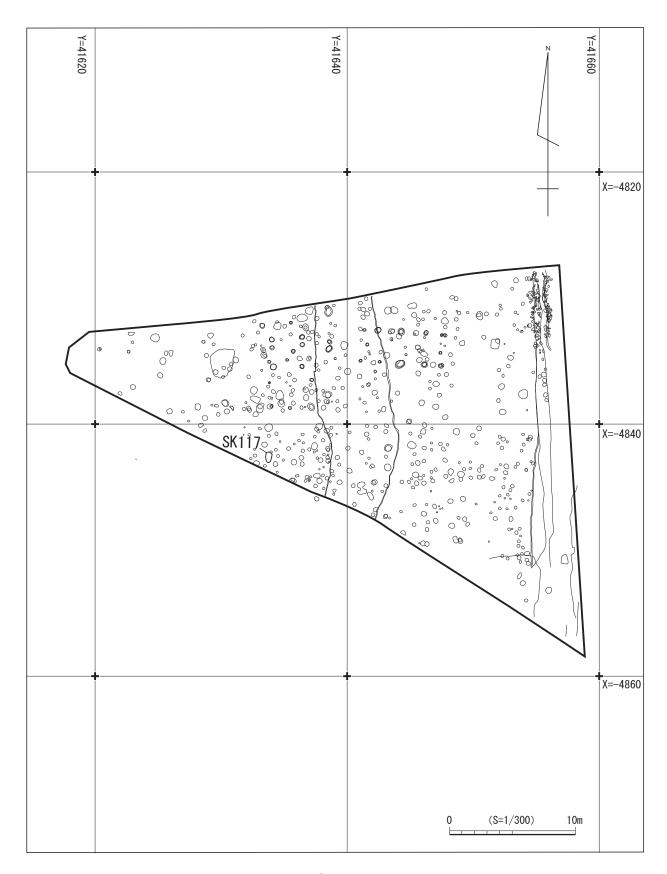
第58図 TAK201202調査区第④区古墳時代遺構配置図(S=1/300)



第59図 TAK201202調査区第⑤区古墳時代遺構配置図(S=1/300)



第60図 TAK201202調査区第⑥区古墳時代遺構配置図(S=1/300)



第61図 TAK201202調査区第⑦区古墳時代遺構配置図(S=1/300)

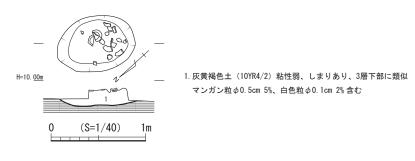
3 古墳時代

(1) 遺構

TAK201202調査区の古墳時代の遺構は①. TAK201202①区SK35、②. TAK201202①区SK36、③. TAK201202⑤区SK84、④. TAK201202⑤区SK99、⑤. TAK201202⑤区SK101、⑥. TAK201202⑥区SK113、⑦. TAK201202⑥区SK114、⑧. TAK201202⑦区SK117、⑨. TAK201202④区SP36、⑩. TAK201202①区SP62、⑪. TAK201202②区SP180、⑫. TAK201202⑤区SP201、⑬. TAK201202⑤区SP207、⑭. TAK201202②区SP559、⑮. TAK201202⑥区SX11である。TAK201208調査区には無い。以下遺構、遺物の説明を記す。

①TAK201202①区SK35(第62図・63図、写真44・45・46、第19表、20表)

SK35は①区の8256グリットに位置し、長軸0.83m、短軸0.59m、深さ0.15mを測る。平面プランは精円形を呈する。遺構は掘りすぎたため壁の立ち上がりは僅かである。覆土上面から土師器椀が2点出土した。230は土師器椀で復元口径12.8cm、器高6.6cmを測る。内外面に薄いハケメ痕が残る。口縁部の立ち上がりは僅かに内傾し、端部は丸く仕上げる。231は椀の口縁部片である。口縁端部はやや内湾し、端部は丸く仕上げられている。時期は5世紀後半頃の所産であろう。232は砥石で両面に使用痕が残る。石材は粘板岩である。



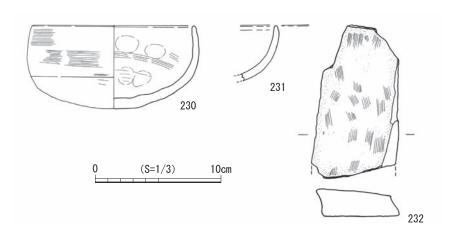
第62図 SK35実測図(S=1/40)



写真44 SK35半截状況



写真45 SK35完掘状況



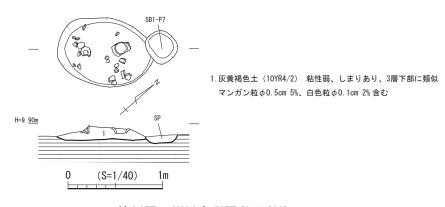
第63図 SK35出土遺物実測図(S=1/3)



写真46 SK35出土遺物

②TAK201202①区SK36(第64図・65図、写真47・48・49、第21表)

SK36は①区の8256グリットに位置し、長軸1.00m+、短軸0.70m、深さ0.15m程で楕円形を呈する。遺構は掘りすぎたため壁の立ち上がりは僅かである。SB1-P7が遺構の端を切っている。遺物は覆土から土師器壺口縁部、高杯脚部片等が出土した。233は短頸壺の口縁部~口頸部片である。口縁部は完形で口径は15.8cm、口縁部高さ3.0cmである。口縁部は緩やかに外湾し端部は丸く仕上げられている。口縁部はやや厚い。口縁部全体は丁寧なナデ調整を施す。胎土はやや多くの砂粒を含む。234は高杯の脚部で一部欠損する。底径12.6cm、脚部高さ6.0cmを測る。脚部裾部は直線的に開く。外面は丁寧なナデ調整を施す。内面は粗いヘラケズリを施す。いずれの土器も5世紀後半頃であろう。



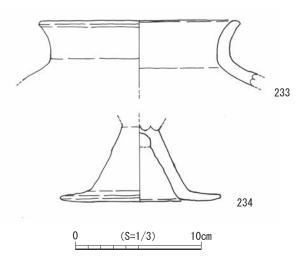
第64図 SK36実測図(S=1/40)



写真47 SK36半截状況



写真48 SK36完掘状況



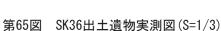






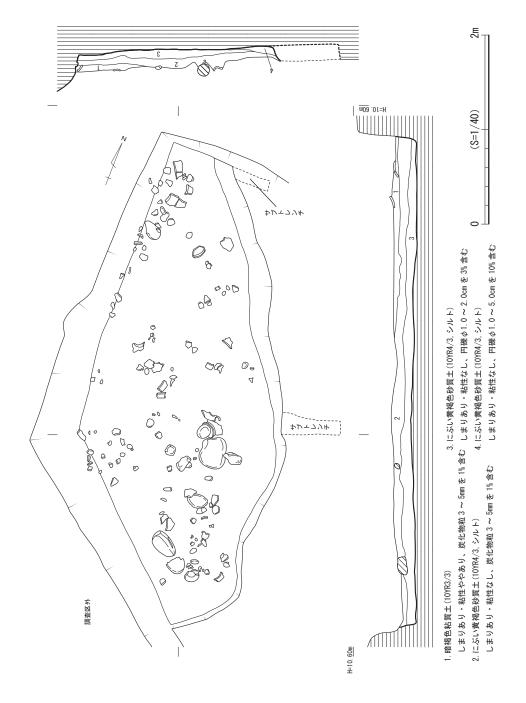
写真49 SK36出土遺物

③TAK201202⑤区SK84(第66図・67図、写真50・51・52、第22表)

SK84は⑤区の8260グリットに位置し、西端で検出した遺構で調査区外に延びる。残存する規模は長軸5.1m、短軸2.04m、深さ0.2mを測る。東側にサブトレンチを入れた結果、壁の立ち上がりを確認したことから住居址の可能性もある。出土遺物は覆土上面からの出土で古墳時代土師器甕、椀を中心に僅かに弥生土器甕小片が出土した。235は甕で口縁部~胴部の破片である。復元口径17.8cm、器高7.4cm+を測る。口縁部の立ち上がりは緩やかに外反し端部は方形状である。外面は口頸部から肩部にかけて斜め方向にハケメ調整を施す。内面は指圧痕が残る。236は土師器甕の胴部~底部片である。外面はハケメ調整を施し、内面は下から上に削りを行っている。

237~241は土師器椀である。**237**は口縁部~体部の一部が欠損するが8割程が残存する。底部から口縁部への立ち上がりは内湾し口縁部でやや直線的となり口縁端部は丸く仕上げられている。外面は縦方向にハケメ調整後、口縁部はナデ、体部から底部はヘラケズリを施す。内面はナデ調整を行い丁寧な作りである。

238は口縁部から体部片である。復元口径11.8cmを測る。口縁部の立ち上がりはやや直線的で端部はやや尖る。口縁部内面はハケメ調整後ナデ調整を行っている。外面はヘラケズリを行っており内外面に丹塗りを施す。239は1/2残存する。復元口径13.0cm、器高7.7cmを測る。底部は平底で外来系(近畿系)の椀である。外面はヘラ状の工具等で体部全体を削り、口縁部はナデ調整を行っている。内面はナデ調整を丁寧に行う。底部は削り痕が残る。土器の時期は4世紀後半~5世紀前半頃であろう。240は復元口径15.2cm、器高6.4cmを測る。体部から口縁部への立ち上がりは内湾し口縁部で短く外反気味となる。内外面はナデ調整で平滑に仕上げている。胎土は多くの砂粒を含み器面は粗い。241は口縁部~体部片である。器肉は薄い。口縁端部は丸く仕上げられている。



第66図 SK84実測図(S=1/40)



写真50 SK84遺構検出状況

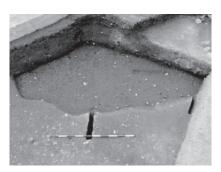


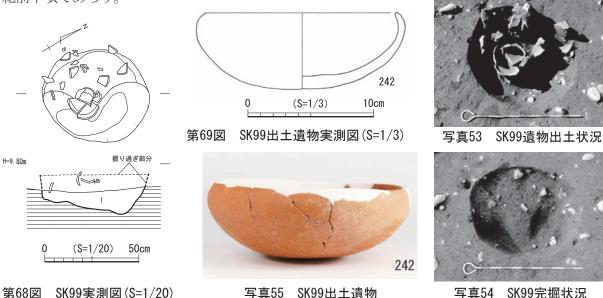
写真51 SK84完掘状況



写真52 SK84出土遺物

④TAK201202⑤区SK99(第68図・69図、写真53・54・55、第23表)

SK99は⑤区の8060グリットに位置し、長軸0.56m、短軸0.48m、深さ0.13mの円形に近い楕円形である。壁の立ち上がりは僅かに残る。遺物は土師器椀、土師器小細片、黒曜石が出土した。242は土師器椀である。口縁部及び体部の一部が欠損するがほぼ完形品である。口径15.2cm、器高6.0cmを測る。内外面に丹塗りを施す。体部から口縁部へは内湾しながら立ち上がり、端部は丸く仕上げられる。体部の一部に横方向の削り痕が残る。全体的に丁寧な作りである。時期は6世紀前半頃であろう。



⑤TAK201202⑤区SK101(第70図・71図、写真56・57・58・59、第24表)

SK101は⑤区の7860グリットに位置し、長軸0.93m、短軸0.76m、深さ0.18mを測る。平面形は楕円形で浅い。遺物は覆土及び床面からで散発的な出土であった。**243**は壺の口縁部~口頸部片である。内面はハケメ調整を施し、頸部内面は指圧痕が残る。口縁部外面はハケメ調整の後にナデ調整を施している。**244**は椀の口縁部~体部片である。口縁部は内湾し端部は丸く仕上げられている。外面は削り痕が残る。土器の時期は5世紀後半~6世紀前半頃であろう。

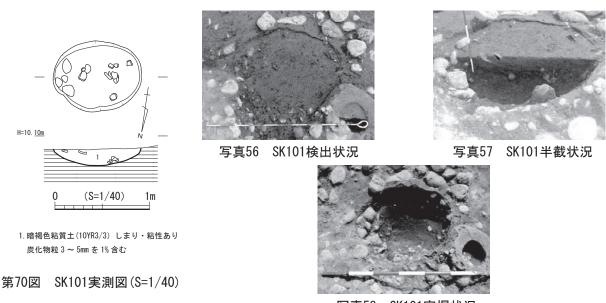
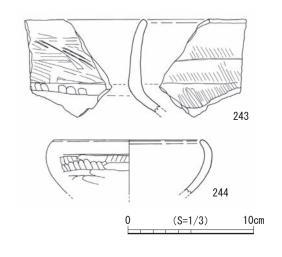


写真58 SK101完掘状況



第71図 SK101出土遺物実測図(S=1/3)

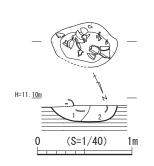




写真59 SK101出土遺物

⑥TAK201202⑥区SK113(第72図・73図、写真60・61・62、第25表)

SK113は⑥区の8268グリットに位置し、長軸0.70m、短軸0.47m、深さ0.17mを測る。平面形は楕 円形で浅い。遺物は覆土上面からの出土である。245は須恵器杯蓋片である。復元口径13.2cm、 復元器高4.4cm+を測る。内面天井部は回転ケズリを施す。口縁端部は僅かに沈線を巡らす。外面 は口縁部と体部の境に沈線を1条設ける。土器の時期は6世紀中頃であろう。



- 1.にぶい黄褐色粘質土 (10YR 4/3) しまり弱 褐色土 (10YR 4/4)10%、マンガン粒φ0.5cm 10% 白色粉 d 0.1cm 1% を含む
- 2. 褐灰色粘質土(10YR4/1) ほりあり 白色粒 φ 0.1cm 1%、褐色土 (10YR4/4)20% を含む

第72図 SK113実測図(S=1/40)



写真60 SK113遺物出土状況

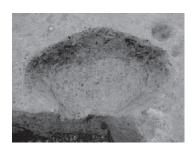
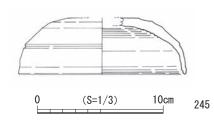


写真61 SK113完掘状況



第73図 SK113出土遺物実測図(S=1/3)

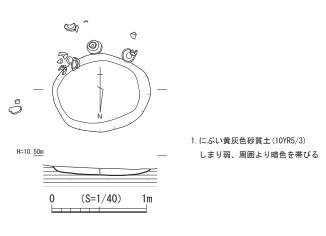


写真62 SK113出土遺物

⑦TAK201202⑥区SK114(第74図・75図、写真63・64・65、第26表)

SK114は⑥区の8466グリットに位置し、長軸1.03m、短軸0.83m、深さ0.07mを測る。平面形は楕 円形で掘りすぎのため浅い。遺物は覆土上面からの出土で土師器高杯、椀等が出土した。246~ 248は土師器椀である。口径は13.0cm、器高5.2~5.8cmを測る。246、247は口縁部の一部を欠損 するものの、ほぼ完形品である。248は復元口径、復元器高である。口縁部への立ち上がりは内 湾し、端部は丸く仕上げられている。249は高杯で杯部と脚部の一部が欠損する。杯部は口径 14.5cm、器高9.0cm+を測る。外面は杯部~脚部まで縦、斜め方向にハケメ調整を施す。

脚部内面もハケメ調整を施す。杯部内面は丁寧にナデ調整を施している。土器の時期は5世紀 後半~6世紀前半頃と考えられる。



第74図 SK114実測図(S=1/40)



写真63 SK114半截状況

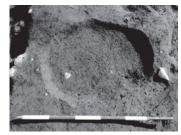


写真64 SK114完掘状況

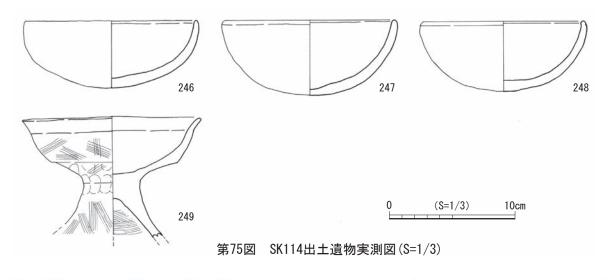






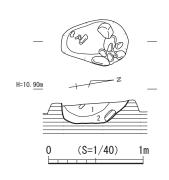




写真65 SK114出土遺物

图TAK201202⑦区SK117(第76図・77図、写真66・67、第27表)

SK117は⑦区の8462グリットに位置し、長軸0.70m、短軸0.48m、深さ0.21mを測る、楕円形の平面を呈する。拳大礫及び小礫が遺構内に点在し、内1点は壁の立ち上がり部分の直上に位置する。カワラケ、手づくね土器が出土した。250は壺の手づくね土器である。内外面に指圧痕が残る。251はカワラケで覆土上面からの出土である。底部に糸切り痕が僅かに残る。



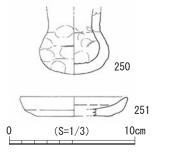
1. 暗褐色粘質土(10YR3/4) しまりあり 褐色土(10YR4/4)20%、白色粒φ0.1cm 3% 炭化物φ0.5~1.0cm 1%、にぶい黄褐色(10YR4/3)10%含む 2. 暗褐色粘質土(10YR3/3) しまりあり

2. 暗褐色粘真工(10YR4/4)10%含む

第76図 SK117実測図(S=1/40)



写真66 SK117半截状況





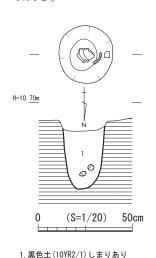


第77図 SK117出土遺物実測図(S=1/3)

写真67 SK117出土遺物

⑨TAK201202④区SP36 (第78図・79図、写真68・69、第28表)

SP36は④区の9060グリットに位置し、長軸0.30m、短軸0.28m、深さ0.36mを測る柱穴である。平面形はほぼ円形で掘り方はやや深い。覆土から土師器の小形短頸壺片が出土した。**252**は短頸小形壺である。口縁部は短く外反する。体部外面は横、斜め方向にハケメ調整、内面は指圧痕が薄く残る。

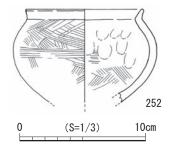


にぶい黄褐色 (10YR4/4)10% 含む マンガン粒 0.5cm 大 5% 含む

第78図 SP36実測図(S=1/20)



写真68 SP36遺物出土状況



第79図 SP36出土遺物実測図(S=1/3)



写真69 SP36出土遺物

⑩TAK201202①区SP62(第80図・81図、写真70、第29表)

SP62は①区の8056グリットに位置し、長軸0.44m、短軸0.40m、深さ0.45mを測る。平面形は円形で覆土中層から砥石が出土した。**253**は長さ9.5cm+、幅5.3cmを測る砥石である。両平面と両側面が使用された痕跡を残す。石材は泥岩である。



第80図 SP62実測図(S=1/20)

写真70 SP62出土遺物

⑪TAK201202②区SP180(第82図・83図、写真71・72・73、第30表)

SP180は②区8458グリットに位置する。長軸0.42m、短軸0.36m、深さ0.15mを測る。平面形は横長楕円形を呈し、覆土は黒褐色土である。出土遺物は覆土から土師器甕が出土した。**254**は土師器甕口縁部から胴部片である。口径16.5cmを測る。口縁部は緩やかに外反し、「く」の字をなす。端部は丸く仕上げられている。外面は斜め方向にハケメ、内面はハケメ調整後ナデ調整を施す。器壁は薄い。

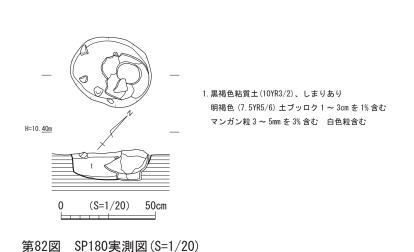
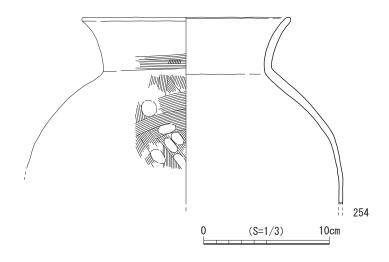




写真71 SP180半截状況



写真72 SP180遺物出土状況



第83図 SP180出土遺物実測図(S=1/3)



写真73 SP180出土遺物

⑫TAK201202⑤区SP201(第84図·85図、写真74·75、第31表)

SP201は⑤区の7860グリットに位置し、長軸0.26m、短軸0.24m、深さ0.07mを測る。平面形はほぼ円形で掘り方は浅い。出土遺物は覆土から土師器椀が出土した。**255**は土師器椀で口径13.4cm、器高6.0cmでほぼ完形である。口縁部はやや内湾し端部は丸く仕上げられている。体部から底部にかけてミガキ痕が残る。土器の時期は5世紀後半頃であろう。

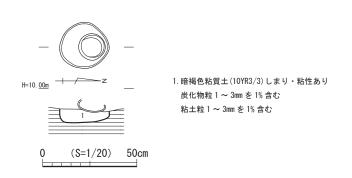
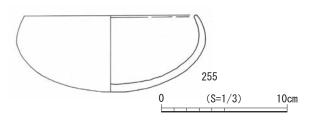


写真74 SP201遺物出土状況

第84図 SP201実測図(S=1/20)



第85図 SP201出土遺物実測図(S=1/3)



写真75 SP201出土遺物

③TAK201202⑤区SP207(第86図・87図、写真76・77・78、第32表)

SP207は⑤区の7860グリットに位置し、長軸0.30m、短軸0.28m、深さ0.08mを測る。平面形はほぼ円形で、覆土床面から土師器椀が出土した。**256**は口径15.4cm、器高6.0cmを測るほぼ完形品である。口縁部の立ち上がりは先端でやや内湾し端部の仕上げは丸い。内外面は薄いミガキ痕が残る。土器の時期は5世紀後半~6世紀前半頃であろう。

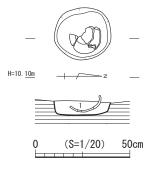
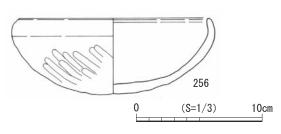


写真76 SP207遺物出土状況その1

写真77 SP207遺物出土状況その2

1. 暗褐色粘質土(10YR3/3) しまり・粘性あり 炭化物 1 ~ 3mm を 1% 含む

第86図 SP207実測図(S=1/20)



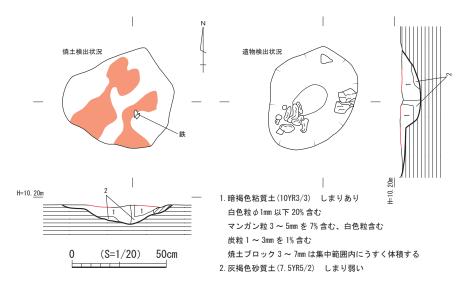
第87図 SP207出土遺物実測図(S=1/3)



写真78 SP207出土遺物

(4)TAK201202②区SP559(第88図・89図、写真79・80・81・82・83、第33表、34表)

SP559は②区の8658グリットに位置し、長軸0.60m、短軸0.50mの変形楕円形で、2ヶ所の焼土を検出した。焼土は表面だけで遺構内まで被熱していない。完掘面は長軸0.58m、短軸0.46m、深さ0.10mを測る楕円形で遺構内から古墳時代の高杯、椀、鉄滓が出土した。257は高杯で杯部の一部、脚部が残存する。復元口径17.6cm、器高9.8cmを測る。杯体部は斜め方向に立ち上がり口縁部はやや外反し端部は丸い仕上げである。杯体部から底部に至る部分で緩やかに屈曲する。脚部内面は削りを行い、開脚部分で明瞭な稜をなす。258は椀でほぼ完形品で、体部~口縁部の一部が欠損する。内外面に指圧痕が残る。口縁部は僅かに外反し端部は丸い仕上げである。土器の時期は高杯、椀ともに5世紀後半頃であろう。259、260は鉄滓である。259は30g、260は130gである。



第88図 SP559実測図(S=1/20)



写真79 SP559検出状況



写真80 SP559半截状況

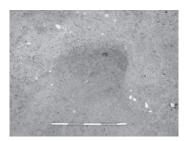
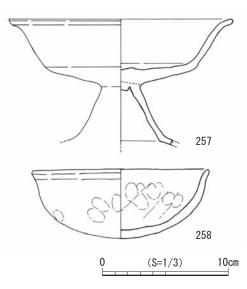


写真81 SP559完掘状況



第89図 SP559出土遺物実測図(S=1/3)











写真83 SP559出土鉄滓

(5)TAK2012026区SX11(第90図・91図、写真84・85・86・87、第35表)

SX11は⑥区の8466グリットに位置し、東西に2ヶ所に分かれて位置する。東側は長軸15.40m、 短軸1.80m、高さ1.80mを測る。西側は長軸4.0m、短軸1.8m、高さ1.70mを測る。全体に北側に傾斜 し、人頭大から拳大の円礫を集積させている。遺物は古墳時代の土師器高杯、椀等が出土した。 **261**は土師器椀で復元口径15.2cm、復元器高5.1cm程である。体部外面、内面全体に丹塗りが施されている。口縁部の立ち上がりは緩やかに内湾し端部は丸く仕上げられている。**262**は土師器高杯脚部で裾部に薄いハケメ調整を施す。全体的に丁寧な作りである。椀の時期は6世紀前半頃、高杯の時期は5世紀後半であろう。



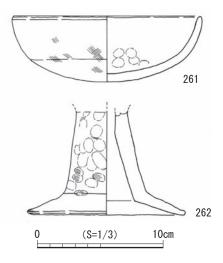


写真85 SX11断面検出状況その1



写真86 SX11断面検出状況その2

写真84 SX11遺構検出状況



第90図 SX11出土遺物実測図(S=1/3)



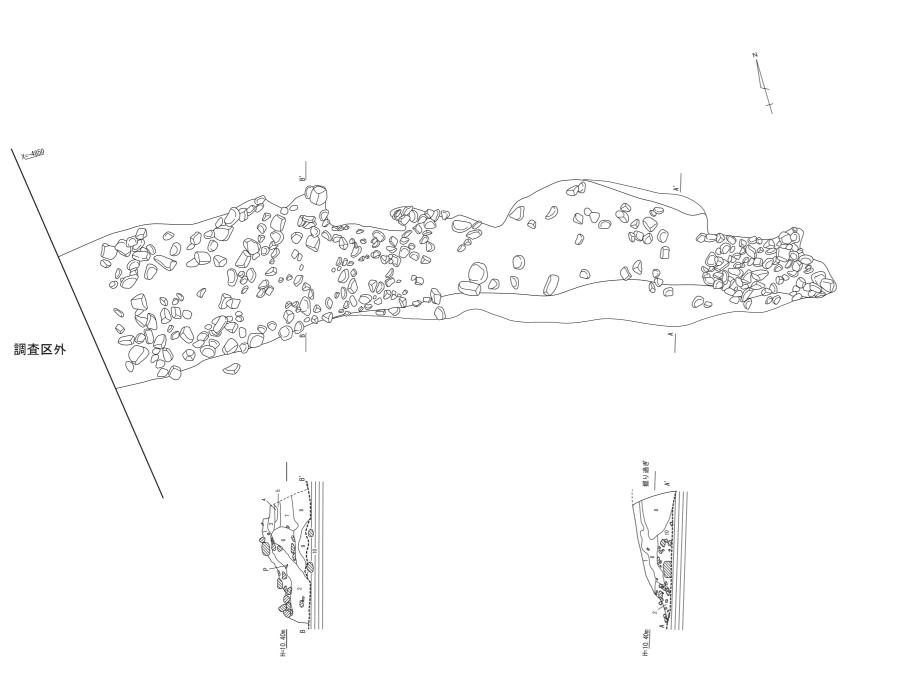


写真87 SX11出土遺物

(2) TAK201202調查区古墳時代包含層出土遺物

(第92図・93図・94図、写真88・89・90、第36表・37表・38表・39表)

古墳時代の包含層遺物は共通土層の2層~4層までの間で出土した古墳時代の遺物である。263、264は須恵器杯身である。263は1/2が欠損し、立ち上がりも欠損する。受け部径12.8cmを測る。口径、器高は欠損のため不明である。底部外面にヘラ記号がある。土器の時期は6世紀第4四半期頃であろう。264は1/4が欠損する。口径11.2cm、受け部径14.2cm、器高4.5cm、立ち上がりは1.2cmを測る。内外面はヘラケズリが目立つ。全体的に粗い作りである。時期は6世紀第3四半期頃であろう。265は須恵器聴である。広口部が欠損し一部だけ残存する。体部は完形で中央の一孔を開ける。広口部の体部付近に波状文を有し、孔の上下部に浅い沈線を施す。上下2条の沈線間は波状文を施した後に斜め方向に刻目を施す。体部下方は横方向にハケメ調整をおこなう。底部は丁寧にナデ調整を施す。体部上方は自然釉が付着する。6世紀前半頃の所産であろう。266~272は土師器椀である。口径が13.0cm~14.4cm、器高が5.7cm~6.4cmを測る。266は1/2が欠損する。復元口径14.0cm、器高6.0cmを測る。内外面に丹塗りを施し、外面は他方向にハケメ調整、





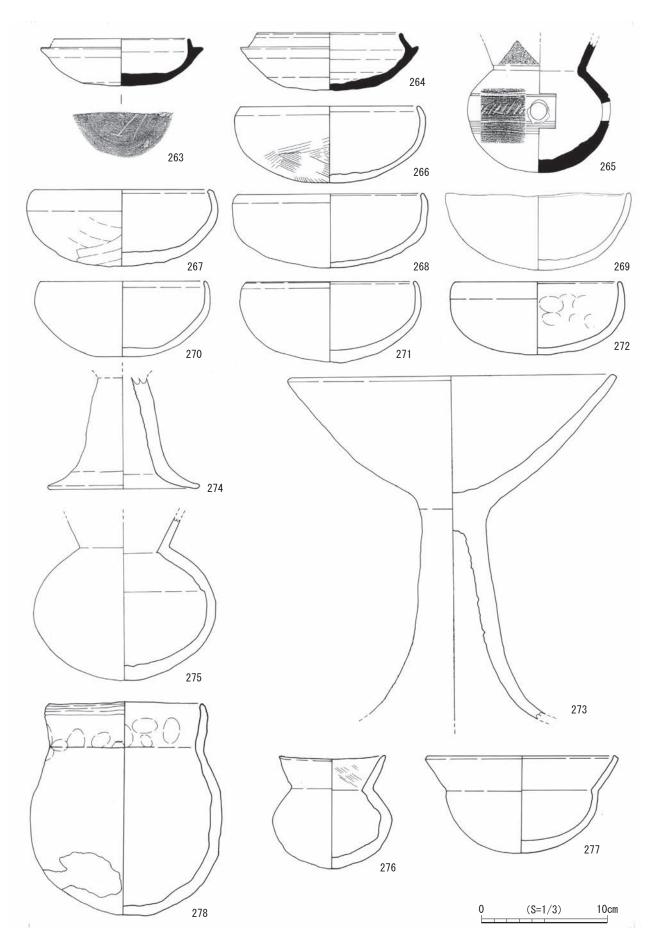
- 1. 明褐色砂質土 (7. 5YR5/6) しまり弱い 炭化物を1%未満含有 点状に鉄分が沈着 護岸の礫 20cm ~人頭大が載り、白磁・古代の土師器が出土する層
- 2. 褐色砂礫土(7.5YR4/3) ①より粗い砂質で、3~20cmの円礫が混在 護岸用の礫か 須恵器、土師器の出土層
- 灰黄褐色砂質土(10YR5/2)粘性あり 明褐色(7.5YR5/6)の鉄分沈着ブロック2~3cm が底面に見られる
- 4. 明黄褐色砂層 (10YR6/6) 砂から成る層で全体に鉄分の沈着が見られる
- 5. 褐灰色粘質土 (7. 5YR5/1) 砂を少し含む 2~3cmの鉄分の沈着が底面にわずかに見られる
- 6. 褐色砂質土(7.5YR4/4) 2~3cm大のマンガン粒を3%含む 若干粘性を帯びる
- 下面に 10 ~ 20cm 大の円礫が見られる
- 7. にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4) きめの細かい砂質土で5~10cm大の小礫を上面に数個含む
- 8.褐色土(7.5YR4/3) 砂質を若干帯び、しまりあり 微白色粒を3%含む 古墳時代土器出土
- 9. 褐灰色砂質土(7.5YR6/1) わずかに粘性があり 1~2cm大のマンガン粒を3%含む
- 10.灰褐色砂礫層(7.5YR4/2) 1m大までの円礫間に砂が入り込む 土師器、須恵器、弥生土器を多く含む

()		(S=1	/80) 5	m
					_

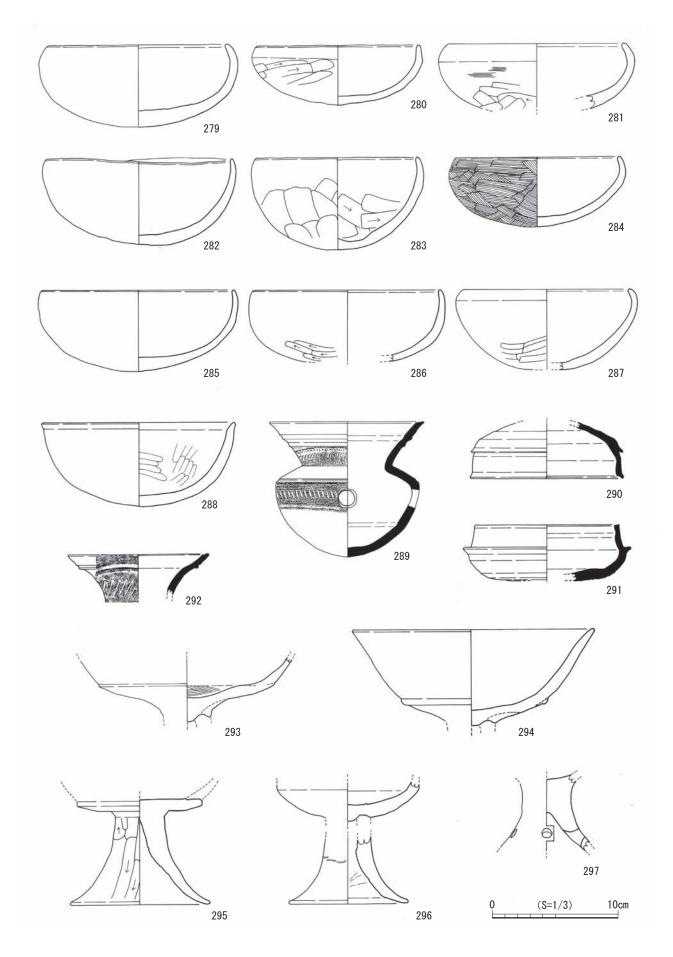
第91図 TAK201202⑥SX11 実測図 (S=1/80)

内面はナデ調整を施す。体部は口縁部に向かって内湾し端部は丸い。全体的に薄い作りである。 時期は5世紀後半頃であろう。267は口縁部が僅かに欠損するだけでほぼ完形品である。口径 14.1cm、器高6.05cmを測る。内外面に丹塗りを施し、外面は削り痕が残りやや凹凸が目立つ。内 面はナデ調整を施し丁寧な作りである。体部から口縁部への立ち上がりは内湾し端部は丸い。時 期は5世紀後半頃であろう。**268**は復元口径14.8cm、器高5.8cmを測る。全体的に磨耗している。 体部から口縁部への立ち上がりは緩やかに内湾し口縁部はやや直線的で端部は丸い。269は口縁 部に一部が欠損するがほぼ完形品である。口径14.4cm、器高6.1cmを測る。外面はハケメ調整を 施し内面はナデ調整を施す。体部から口縁部への立ち上がりは緩やかに内湾し端部は丸く仕上げ られている。270~272は口径が13.2cm程で器高は5.7~6.4cmを測る。体部~口縁部への立ち上が りは口縁部に向かって内湾し先端部が僅かに内傾する。口縁端部は丸く仕上げられている。 273、274は土師器高杯及び脚部である。**273**は杯部口縁~体部が一部欠損、開脚部が欠損する。 杯部復元口径25.6cm、器高16.7cm+を測る。杯部内外面、脚部外面はハケメ調整を施す。杯内面 は放射状のハケメ仕様はV様式系の影響か。在地系?の長脚高杯であろう。時期は4世紀前半か ら4世紀中頃の所産か。274は杯部が欠損する。開脚部は復元底径11.6cmを測る。脚部外面はナデ 調整を施す。内面はヘラ切りが残る。全体的に雑な作りである。275、276は小形丸底壺である。 275は口縁部が一部欠損するが全体的に極めて丁寧な作りである。体部最大幅は14.3cmを測り、 体部全体は丸みをもつ。外面はハケメ調整の後ナデ消しを行っている。276は口縁部の一部が欠 損するがほぼ完形である。口径8.2cm、器高8.9cmを測る。口縁部の内外面はハケメ調整を行って いる。体部はナデ、指圧痕が残る。全体的に雑な作りである。277は土師器坩である。口縁部は 一部欠損するがほぼ完形品である。口径14.6cm、器高7.6cmを測る。内外面は丁寧にナデ調整を 行う。全体的に薄い作りである。土師本村 I 式頃であろう。278は土師器広口壺である。口縁部 から胴部の一部が欠損するがほぼ全形を見ることが出来る。土器全体はかなり変形している。口 縁部等は変形する。口径は12.2cm、器高16.7cmを測る。口縁部から体部外面にかけて全体にナデ 調整を施す。内面はナデ調整、指圧痕が残る。時期は4世紀後半頃であろう。279~288は土師器 椀である。279は口縁部が一部欠損するがほぼ接合完形である。口径14.0cm、器高6.5cmを測る。 口縁部は内側に湾曲し端部は丸い。内外面は丹塗りを施し、底部は丸く丁寧な仕上げである。 **280**は口縁部が一部欠損するがほぼ接合完形である。口径12.7cm、器高4.7cmを測る。口縁部はや や内傾し端部はつまみあげ気味でやや尖る。底部は丸い仕上げである。281は口縁部、体部及び 底部の1/3が欠損する。復元口径13.6cm、器高5.1cm+を測る。口縁部は内湾し端部は丸い。外面 は丁寧に磨き調整を行い、丹塗りを施している。282は口縁部、底部の一部が欠損する。口径 14.45cm、器高6.7cmを測る、ほほ接合完形である。口縁部はやや内湾し、端部は細くやや尖り気 味である。底部は丸く仕上げられているが口縁部等は凹凸である。**283**は口縁部、体部の一部が 欠損する。口径12.5cm、器高7.2cmを測る。口縁部は直線的に立ち上がり、端部は丸い。体部は 球形状で底部は丸い。内外面に丹塗りを施す。外面は全体にナデ調整を施す。284は口縁部の一 部が欠損するが接合完形である。口径12.9cm、器高5.5cmを測る。口縁部は内湾し、端部は丸 い。外面は細いハケメ調整、内面はハケメ調整を行っている。底部は丸い仕上げである。285は 口縁部、体部の1/2が欠損する。復元口径15.0cm、器高6.4cmを測る。口縁部はやや内湾気味で、

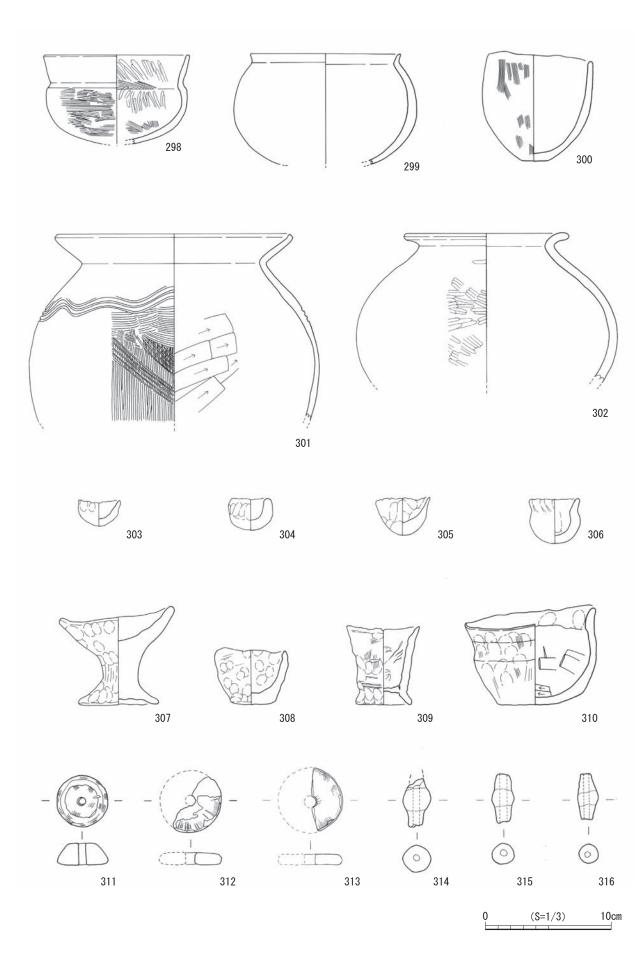
端部はやや尖る。底部は丸く、外面に丹塗りの跡が僅かに残る。286は口縁部~底部の2/3が欠損 する。復元口径14.6cm、器高5.6cm+を測る。口縁部は内湾し、端部は丸い。胎土に雲母を含み、 焼成は良好である。287は口縁部~底部にかけて1/2が欠損する。復元口径13.0cmを測る。口縁部 は内湾し端部は丸く仕上げられている。内外面はハケメ調整後ナデ調整を施す。288は口縁部~ 体部の2/3が欠損する。復元口径14.9cm、器高7.2cmを測る。口縁部は直線的で端部は短く外反す る。外面はハケメ調整を施し、内面はナデ調整である。底部は丸く、内外面に丹塗りを施す。 289~292は須恵器である。**289**は 聴である。口頸部の1/2が欠損する。復元口径12.0cm、器高 10.7cmを測る。口径が体部より大きい。口頸部は直線的に外反し、2条の沈線を有す。口縁端部 はほぼ水平である。口頸部下部には間隔が狭い波状文を有す。体部は上位で肩を張り沈線を2条 有する。沈線間に刺突文を配置し、また1孔も施される。底部は丸く仕上げられている。形態か ら5世紀後半頃であろう。**290**は杯蓋片である。体部中位で一段の稜を有す。口縁端部は一段の稜 を設ける。時期は5世紀後半頃であろうか。291は2/3が欠損する。杯身片である。復元口径 11.3 cm、立ち上がりは1.8 cmを測る。全体のプロポーションから $6 \text{世紀前半頃であろう。} 292 \text{は聴$ の口縁部片である。口頸部は外反し、口縁部下で屈曲し段を設け、口縁端部はやや尖る。外面は 波状文を施す。293~297は土師器高杯である。**293**は杯部片である。杯部下部で僅かな凸帯を付 ける。体部から口縁部にかけてやや内湾気味に立ち上がり端部で短く外反する。294は杯体部片 である。口縁部が欠損している。体部下位に僅かな段を有す。内面はハケメ調整、外面はナデ調 整を施す。295は脚部片で脚裾部の一部が残存する。復元底径10.7cmを測る。脚部は緩やかに外 反し端部はやや丸い。296は脚部、杯部片である。復元底径9.2cmを測る。297は脚部片で裾部全 体が摩滅、欠損する。脚部には4孔を有する。脚内外面に丹塗りを施す。**298**は土師器坩である。 2/3が欠損する。復元口径11.2cm、器高7.0cm+を測る。内外面の底部付近はハケメ調整、口縁部 はナデ調整を施す。内面の口縁部~体部にかけて暗文を施している。外面は丹塗りを行ってい る。**299**は短頸壺の口縁~体部片である。復元口径11.9cmを測る。内外面はかなり摩滅しており 調整は不明である。**300**はコップ形土器で口縁部の一部が欠損するが、ほぼ接合完形である。口 径7.9cm、器高8.5cmを測る。外面は縦方向にナデ調整を施し、丹塗りを行っている。底部は狭い 平底である。301は在地系甕の口縁部~胴部片である。口縁部は「く」の字口縁で端部内側を僅 かにつまみ上げる。胴部上位に波状文を有し、タタキの後に縦方向にハケメ調整を施す。内面は ヘラケズリ調整を行い、器壁は薄い。胎土に大振りの金雲母を多く含む。筑前型庄内甕が基点の タタキと考えられる。佐賀平野からの搬入品か。時期は土師本村 I 式頃か。**302**は土師器短頸の 壺口縁部、胴部片である。復元口径12.4cmを測る。口縁部は外反し端部は丸い。外面は磨きを行 い、内面は斜め方向にハケメ調整を施す。内面に一部丹塗りを施す。全体的に丁寧な作りであ る。303~310は手づくね土器である。高杯、広口壺、椀、コップ形、鉢等を模倣したものであ る。311~313は石製紡錘車で**311**は完形、**312、313**は1/2が残存する。**311**は截頭円錐型を呈し、 石材は滑石製である。直径4.0cm、高さ1.7cm、穿孔0.6cmを測る。**312**は円盤型で復元径4.8cm、 **313**は復元径5.1cmを測る。石材はいずれも滑石製である。314~316は土錘である。**314**は端部が 欠損するが315、316は完形品である。孔の径314、315は0.5cm、316は0.4cmを測る。3点は形状 から古墳時代の土錘と考えられる。



第92図 TAK201202調査区古墳時代包含層出土遺物実測図その1 (S=1/3)



第93図 TAK201202調査区古墳時代包含層出土遺物実測図その2 (S=1/3)



第94図 TAK201202調査区古墳時代包含層出土遺物実測図その3 (S=1/3)



写真88 TAK201202調査区古墳時代包含層出土遺物その1



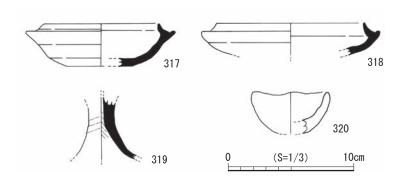
写真89 TAK201202調査区古墳時代包含層出土遺物その2



写真90 TAK201202調査区古墳時代包含層出土遺物その3

(3) TAK201208調查区古墳時代包含層出土遺物(第95図、写真91、第40表)

317、318は須恵器の杯身片である。全体に砂粒を多く含み雑な仕上げである。時期は6世紀後 半頃であろう。**319**は須恵器の小形高杯の脚部である。砂粒を多く含む。焼成は良である。**320** は坩堝片である。内外面にガラス質が付着し、断面に青銅と思われる小片が付着している。



第95図 TAK201208調査区古墳時代包含層出土遺物実測図(S=1/3)



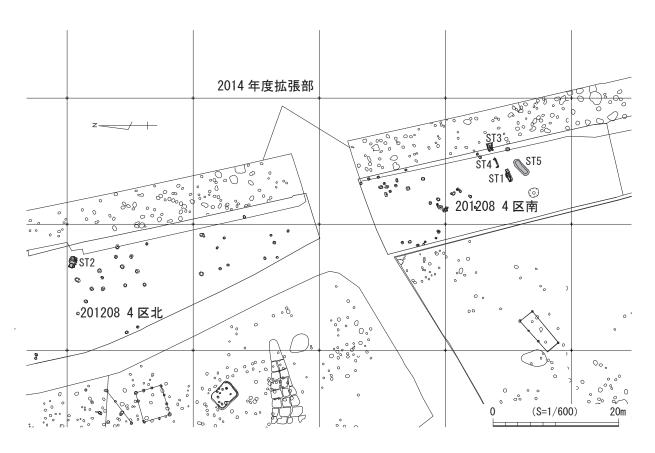
写真91 TAK201208調査区古墳時代包含層出土遺物

小結 (第96図)

弥生時代、古墳時代の遺構、遺物は数が少ないため、遺構については弥生時代の墳墓を中心に 述べまとめとしたい。

TAK201208調査区から5基の弥生時代の墳墓が検出された(ST1~5)。この中で残存状況が良好な墳墓はST2とST5である。ST2は長軸1.45m、幅0.5m、深さ0.6mを測る。両小口は1枚の板石で、両側石は2枚の板石で構成されている。ST5は蓋石、側石等がない事から土壙墓と考えられる。規模は、長軸下端2.5m、幅0.64m、深さ0.4mを測る。覆土から管玉3点が検出された。ST1、ST3、ST4は蓋石、側石、小口の板石等が欠損しているため全体の様相が判然としない。しかしながら石棺墓であることは検出状況から判断することができる。5基の石棺墓及び土壙墓は東側に墓域が広がる可能性があったが、2014年度に東側に6m拡張したが墓は存在しない事が判明した。ST1、ST3~5の4基は構築状況が隣接していることから考えて近親者の集団墓と思われる。ST2は集団墓から北北西に80mの位置に単独で構築されている。4基の集団墓の内2基(ST3から1点、ST5から3点)から管玉が出土した。ST5から出土した管玉3点は濃緑色の碧玉製である。この管玉の穿孔状況は両面穿孔で鉄製工具によるものであることから花仙山産であろう。またST3から出土した管玉1点は、ST5出土管玉より色調がやや薄いことから北陸産の可能性がある(注1)。

野島永氏によると「管玉の穿孔用鉄製錐は後期後半~終末頃に直径1mm前後で先端が針状の鉄棒が鍛冶製作されこれが穿孔用錐として使用されることになった」(野島永2005)。こうした状況から考えて墓の構築もこの時期に近い可能性がある。またST5は4基の内で最も規模が大きい。管玉3点が出土した集団内での階層差が感じられる。この集団墓の歴史的位置付けはTAK2013①調査区から検出した30基の集団墓の項で改めて行うことにする。



第96図 TAK201208調査区弥生墓域遺構配置図(S=1/600)

参考文献

(注1) 花仙山は島根県松江市玉湯町玉造温泉東隣に所在する標高200m程の山である。「出雲国風土記」によると「花仙山」は「玉造山」、その周辺地域を「忌部神戸(いんべのかんべ)」と呼んでいた。忌部神戸とは奈良時代に中央の儀礼や祭祀に用いる特産品を生産、調達するために忌部氏が全国7か所に設置した直轄地で、出雲におかれた忌部神戸は全国で唯一玉作りを専門としていた。

北陸産とは石川県小松市の菩提・那谷 (ぼだい・なた) 産である。碧玉の原産地は全国で4か所。新潟県佐渡市「猿八」 (さるはち)、石川県小松市「菩提・那谷」 (ぼだい・なた)、兵庫県豊岡市「玉谷」 (たまたに)、島根県松江市玉湯町「花仙山 (かせんざん)」である。

伊藤実2015「安芸における複合口縁壺ー複合口縁化する安芸の壺と備後の壺・甕ー」

(第4回瀬戸内海考古学研究会公開大会予稿集『豊と伊予の考古学』2015)

古門雅高「有明海西岸地域における弥生時代後期の土器」(『西海考古』第6号2005)

堀内和宏「IV 2 (2) 器台について」

(浦田和彦編『平野遺跡』新幹線文化財調査事務所調査報告書第2集2017)

宮崎貴夫「第2章総括Ⅱ 弥生土器ならびに古式土師器について」(町田利幸・宮崎貴夫編『今福遺跡Ⅲ』長崎県文化財調査報告書第84 集1986)

宮﨑貴夫「土器」(長崎県教育委員会『原の辻遺跡 総集編1―平成16年度までの調査成果―』原の辻遺跡調査事務所調査報告書第30集 2006)

柳田 康雄 2002『九州弥生時代の研究』学生社

田川 肇 高野 晋司他 2007 『原の辻遺跡』原の辻遺跡調査事務所調査報告書第35集 長崎県教育庁原の辻遺跡調査事務所

長崎県考古学会・肥後考古学会 『有明海をめぐる弥生時代集落と交流』合同大会資料 2012

久住猛雄2017『九州島における古式土師器』発表要旨集・基本資料集「福岡県(糸島・早良・福岡平野)

菅原康夫、梅木謙一編2000『弥生土器の様式と編年 四国編』

肥後考古学会・長崎県考古学会 『肥前型器台について』合同大会資料 2014

野島永2005「鉄からみた弥生・古墳時代の日本海交流」『考古学からみた日本海沿岸の地域性と交流』富山大学人文学部考古学研究室

第7表 SP300出土石製品観察表

	図版番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
ſ	130	石錘	滑石	5.6	1.8	1.8	23.7g	長軸方向に一条の溝あり

第8表 SK115出土土器観察表

Γ	図版	版 法量(cm)		調	調整		色調		胎土	備考			
L	番号	46个里	마기꼬	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	焼成	лп⊥	渊 与
	131	甕	胴部 ~底部	_	_	5.6	丁寧なナデ	ナデ	10YR6/6 明黄褐色	10YT7/6 明黄褐色	良好	砂粒を含む	内面に指圧痕 平底

第9表 SS04出土土器観察表

図版 器種 部位			法量(cm))	調	整	色調		焼成	胎土	備考	
番号	和产作里	마	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	NC IX	加工	かっ
132	高杯	脚部	-	_	_	粗いケズリ	粗いケズリ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良		全体的に粗い仕上 げで、軟質である
133	台付甕	脚部	_	_	_	ハケメのちナデ	ハケメのちナデ	10YR6/6 明黄褐色	10YR7/6 明黄褐色	良	長石、石英、赤色粒 子、角閃石	

第10表 SD14出土石製品観察表

図版都	肾号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
134	1	不明	安山岩	5.5	2.6	0.5	1 2511	丁寧に磨かれている上・下部 が欠損 砥石かもしれない

第11表 SD15出土土器観察表

図版	DD 1#	部位		法量(cm)	1	調	整	色	調	ht -t-	n/s -L	/## .##.
番号	器種	部1立	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	焼成	胎土	備考
135	甕	口縁部~ 胴部	(22.4)	_	_	ハケメ	ハケメ	10YR5/3 にぷい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	良好	角閃石、赤色粒子、 石英、長石	「く」の字口縁
136	土師器椀	口縁部~ 底部	(15.4)	6.7	(6.4)	ヘラケズリ	ユビナデ	2.5YR6/2 灰 赤色	7.5YR4/6褐色	良好	きめ細かく手触り良 好	
137	甕	口縁部	ı	-	_	ナデ	ユビ跡	7.5YR7/4にぶ い橙色	7.5YR7/4にぶ い橙色	良好	雲母、角閃石	
138	高杯	杯部	1	-	_	ナデ	ナデ	5YR7/6橙色	5YR7/6橙色	良好	角閃石、赤色粒子、 雲母	
139	手づくね 土器	胴部	胴部径 6.0	5.2	(2.0)	ナデ	ユビ跡	5YR7/4 にぷい橙色	5YR7/4 にぶい橙色	良好	角閃石	残存20%、土師器
140	台付甕	脚部	_	_	(7.4)	ハケメ	ハケメ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR3/2黒褐 色	良好	砂粒を含む	
141	高杯	脚部	1	_	_	ヘラケズリ	ヘラ	2.5YR5/6 明赤褐色	5YR6/6橙色	良好	長石、角閃石、雲母	外面丹塗り
142	器台	胴部~ 脚部		_	_	ナデ	ナデ	5YR6/4 にぶい橙色	5YR6/4 にぶい橙色	良好	雲母、長石	胴部中央ヘラ措き,6条沈線、縦 向に方形透かし
143	器台	胴部~ 脚部	_	_	(32.0)	ハケメのちナデ	ナデ	5YR7/4 にぷい橙色	5YR7/4 にぶい橙色	良好	雲母、長石	胴部中央ヘラ描き、6条沈線、総 方向に方形透かし

第12表 SD1出土土器観察表

図版	DD 1#	☆ ₽ / ⊥		法量(cm))	調	整	色調		htt-	8/s -L	/# .#z
番号	器種	部位	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	焼成	胎土	備考
144	壷	口縁部	(29.2)	-	_	縦方向ハケメ	斜めハケメ/縦ハケ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	石英·長石·角閃石· 雲母·赤色粒子	ロ縁下に斜行の施文あり ローリングあり、器径29.2
145	甕	口縁部 ~胴部	(18.6)	-	_	右下がりハケメ	多方向ハケメ	5YR6/6橙色	7.5YR7/6 橙色	良好	雲母・石英・角閃石	屈曲部外面にも工具痕 あり、器径(21.8)
146	甕	口縁部~胴部	(23.0)	-	_	縦方向ハケメ(頸 部)/右下がりハケメ	右下がりハケメ	2.5YR6/3 にぷい黄色	10YR8/4 浅黄橙色	やや良	石英·赤色粒子·角 閃石	ローリング激しい
147	甕	口縁部 ~胴部	(27.6)	-	_	縦方向ハケメ	多方向ハケメ	2.5YR7/3 浅黄色	2.5YR7/3 浅黄色	良好	石英·角閃石·赤色	口縁は内外とも横ハ ケメ、器径30.8
148	壷	口縁部 ~胴部	(17.0)	1	_	縦方向ハケメ	横方向の指ナデ/指 オサエ	10YR7/3 にぷい黄橙色	10YR8/2灰白 色	やや良	石英·赤色粒子	ローリングあり
149	甕	底部	1	-	(1.2)	縦方向ハケメ	ハケメ(摩滅)	10YR7/4にぶ い黄橙色	10YR7/4にぶ い黄橙色	良好	石英·長石·雲母	尖底型 ローリング 激しい
150	壷	底部	-	-	(9.2)	摩滅	剥離あり	2.5YR6/6 橙色	2.5YR6/4 にぶい赤褐色	やや良	角閃石·長石	底部は凸レンズ状 ローリング激しい
151	小形高杯	脚部	١	ı	_	縦方向ハケメ	ヘラナデ(底部)	5YR8/4 淡橙色	5YR8/4 淡橙色	良好	角閃石	中実、最狭部3.4、 器径10.4
152	台付甕	脚部	1	1	(11.8)	右上がりハケメ→ナ デ/指オサエ痕	丁寧なナデ	7.5YR8/3 浅黄橙色	7.5YR8/3 浅黄橙色	良好	赤色粒子多し	ローリング激しい
153	直口壷	口縁部		_	(12.2)	横方向ハケメ	横方向ハケメ	10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	良好	石英·赤色粒子	ローリングあり
154	壷	胴部	-		_	縦方向ハケメ	横方向ハケメ	7.5YR7/3 にぶい橙色	7.5YR6/6 橙色	良好	石英·長石	工具による深く長い 刻目凸帯あり
155	壷	口縁部~ 頸部	_	_	_	縦ハケメ→ナデ	多方向ナデ	7.5YR7/4 にぷい橙色	7.5YR6/6 橙色	良好	石英·雲母	やや不規則な刻目 凸帯

第13表 ST3出土管玉観察表

図版番号	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
156	緑色凝灰岩	13.5	0.3	0.3	0.24	

第14表 ST5出土管玉観察表

図版番号	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
157	濃緑色の碧玉	2.3	0.7	0.7	2.11	島根県花仙産か
158	濃緑色の碧玉	1.2	0.4	0.4	0.31	島根県花仙産か
159	濃緑色の碧玉	2.6	0.8	0.8	2.46	島根県花仙産か

第15表 TAK201202調査区弥生時代包含層出土土器観察表

	· .	711120						「一一一					ı	1
図版 番号	器種	部位	出土地区・グリッド	層位	口径	量(cm) 器高	底径	調 外面	整 内面	外面 外面	調 内面	焼成	胎土	備考
160	短頸小形	口縁部~	28458	4層	(14.4)	1計同	/医1主 —	カル回 ヨコナデ、ハケメ、ナ デ	ハケメ	5YR7/6橙色	5YR6/6橙色	良好	赤色粒子、雲母、長石	
161	短頸小形	完形	②8456、 8458	3層	12.8	9.9	2.8	ケズリのち ヨコナデ	ハケメのちナデ	10YR7/3 にぷい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	砂粒を含む	孔開け土器
162	甕	口縁部 ~胴部	28458	3層	(12.4)	_	_	細かいハケメ	粗いハケメ	5YR7/6橙色	7.5YR2/1黒色	良	角閃石、白い砂粒を 含む	極めて器壁が薄い 黒く焼き上げ残る
163	甕	口縁部 ~ 胴部	68266	2層	(26.9)	_	_	ハケメ後 ナデ	ハケメ後 ナデ	7.5YR5/3 に ぷい褐色	7.5YR6/4 に ぶい橙色	良	石英、雲母、赤色粒 子を含む	やや粗い仕上げ
164	壷	胴部	28458	3層	_	_	_	丹塗り、ハケメ調整	ナデ	5YR6/6橙色	5YR6/6橙色	良好	長石、角閃石、雲母	
165	壷	胴部	28458	3層	_	_	_	丹塗り、ハケメ調整	ハケメ	10YR8/4浅黄 橙色	7.5YR7/4 にぷい黄橙色	良好	砂粒を含む	胴部復元径42.7 2条 の刻目凸帯を有す
166	壷	胴部	28458	3層	_	_	_	ハケメ調整	ハケメ	10YR7/3 にぷい黄橙色	7.5YR7/6橙 色	良好	砂粒を含む	2条の刻目凸帯を有 す
167	台付甕	脚部	①8058	3層	_	_	9.6	ハケメ、ナデ、指圧 痕	ヘラ削り	5YR6/4 にぷい橙色	5YR5/3 にぷい赤褐色	良好	雲母、結晶片岩、赤 色粒子	脚部高2.9cm
168	台付甕	脚部	28656	3層	_	-	8.0	ナデ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい黄橙色	7.5YR7/4 にぷい黄橙色	良好	赤色粒子、雲母、細 かい砂粒	全体的に磨耗してい る
169	高杯	杯部	28458	3層	(29.6)	_	_	ハケメ、 ナデ消し	ハケメ、 ナデ消し	7.5YR8/4浅黄 橙色	7.5YR8/4浅黄 橙色	良好	雲母、長石、石英	
170	高杯	杯部	28458	3層	(26.4)	_	_	ハケメ〜指ナデ	ナデ	10YR3/1 黒 褐色	10YR7/3 に ぶい黄橙色	良好	石英、雲母	外面に焼きムラがあり 黒色になっている
171	高杯	杯部	28456	3層	(19.3)	_	_	ハケメ後 ナデ	ハケメ後 ナデ	7.5YR7/4 にぶい黄橙色	7.5YR7/4 にぷい黄橙色	良好	赤色粒子、雲母、角 閃石	脚部欠損
172	高杯	杯部	28458	3層	22.2	_	_	多方向からの ハケメ	ハケメ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぷい黄橙色	良好	角閃石、石英、赤色 粒子、雲母	内外面に丹塗り痕あ り
173	高杯	杯部	28458	3層	29.6	_	_	ハケメ	ナデ	10YR7/4 にぷい橙色	10YR7/3 にぷい橙色	良好	細かな砂粒を含む	174と同一個体
174	高杯	脚部	28458	3層	_	_		縦方向に細かい ハケメ調整	回転へラ調整 のちナデ消し	10YR7/3 にぷい黄橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	良好	赤色粒子、長石、石 英、角閃石、雲母	173と同一個体
175	高杯	脚部	28458	3層	_	_	16.6	ハケメ後 ナデ	土を重ね上げ 指オサエ	7.5YR7/4 にぷい橙色	7.5YR7/4 にぷい橙色	良好	赤色粒子、石英、角 閃石、雲母、長石	
176	高杯	脚部	28458	3層	_	_	(13.0)	ハケメ	ナデ	2.5YR7/6橙色 回転ヘラ調整	10YR8/4 浅黄橙色	良好	雲母、長石、角閃石	
177	高杯	脚部	28456	3層	_	_	_	下部方向への 細かいハケメ	他方向からのハケメ	のおけれる にぶい黄橙色	7.5YR7/6橙色	良好	赤色粒子、角閃石、 雲母	
178	開脚高杯	脚部	28456	3層	_	_	(18.0)	細かなハケメ	細かなハケメ	5YR7/6橙色	5YR6/8橙色	良好	細かな砂粒を含む	穿孔あり
179	甕	底部~ 胴部	28458	3層	_	_	4.8	他方向からのハケ メ、磨耗激しい	他方向からのハケメ	7.5YR8/4浅黄 橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	砂粒を含む	
180	甕	底部~ 胴部	②8456、 8458間	3層	_	_	5.4	ハケメ	縦方向にケズリ	7.5YR7/4 にぷい橙色	7.5YR7/3 にぷい橙色	良好	赤色粒子、長石	
181	甕	底部~ 胴部	38860	3層	_	7.9	6.5	ハケメ	ハケメ、ナデ消し内 面底にケズリ痕あり	7.5YR7.6橙色	10YR7/6 明黄褐色	良好	石英、長石、角閃 石、雲母	
182	甕	底部~ 胴部	©8266	3層	_	_	4.3	縦方向からのハケ メ、底は指ナデ	縦方向のハケメ	10YR6/1褐灰 色	7.5YR7/4 にぶい橙色	良好	雲母、石英、赤色粒 子	
183	甕	底部	28458	3層	_	_	7.5	縦方向にケズリ後ナ デ	ヘラ調整後指オサエ	5YR6/6橙色	7.5YR7/6橙色	良好	雲母、石英	外面に丹塗り
184	甕	底部	28656	3層	_	_	5.8	ナデ	全体的に 剥離している	7.5YR7/2 明褐灰色	7.5YR6/1 褐灰色	良	細かい砂粒	
185	鉢? 高杯?	口縁部 ~体部	28456	3層	(32.2)	_	_	ハケ	僅かに磨きの 痕跡見られる	5YR7/8橙色	7.5YR7/6橙色	良好	雲母、石英、角閃石 を僅かに含む	東瀬戸内系土器?
186	甕	口縁部	①8256	3層	_	_	_	ナデ	ナデ	2.5YR6/6橙色	5YR7/6橙色	良	長石、赤色粒子	粘土帯土器
187	手づくね 土器?	底部 ~ 胴部	28456	3層	_	_	_	ナデ	全体的に指ナデ	5YR5/6 明赤褐色	5YR5/6 明赤褐色	良好	石英	底部: やや尖る
188	長頸壷?	口縁部~ 口頸部	28458	2·3層	8.2	_	_	ハケ	ナデ	10YR8/2 灰 白色	10YR8/3 灰 白色	良好	細かな砂粒を含む	一部丹塗り
189	甕か壷	胴部	68666	3層	_	-	_	ハケメ、 線刻あり	ナデ	10YR7/4 にぶい橙色	10YR7/4 にぶい橙色	良好	粗い砂粒を含む	線刻あり

第16表 TAK201202調査区弥生時代包含層出土石製品観察表

図版番号	器種	出土地区	出土層位	石種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
190	石錘	⑤ 7860	2層	滑石	6.9	1.6	1.5	23.8	完形
191	石錘	88862	2層	滑石	6.6	2.1	2	33.8	完形
192	石包丁	4 9260	4層	デイサイト	6.2	_	0.7	25.1	1/2
193	勾玉	88862	2層	滑石	3.1	1.9	0.95	7.05	完形

第17表 TAK201208調査区弥生時代包含層出土土器観察表

195 東京 日報節 紀之立 2076 3房 22.5) 一 一 子子子 大子子 大皮色 大字 大字 大字 大字 大字 大字 大字 大	
194 広口東 日縁部 4区北2 0076 3層 32 0) -	備考
195	部・胴部境に刻目 凸帯あり
190 宝田橋 日曜部 日曜部 日曜部 日曜 日曜部 日曜 日曜部 日曜 日曜	部・胴部境に凸帯
19	
198	豪部下端に刻目
19 19 19 19 19 19 19 19	字状口縁
201 要	-リングあり
202 変	字状口縁 口縁音 *状工具の刻目
202 金 同節 松元2 10 / 6 3 2 - -	ウ不規則な刻目凸 ローリングあり
203 金 期節 4区北 0276 3層	≹の台形刻目凸 あり
204 合行要 部 4区北2 0076 3層 (18.6) (27.0) 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	部・胴部境に三角 別目凸帯あり
205 東 東部 4位 83876 一 一 1.3 方向ハケメ 大一ナデ 1.4億色 1.	を図状復元 器 0.0cm
206 金か要 底部 サブトレンチ 3階 一 一 (9.0) 名下がリハケメ 指比取/ナテ 色 一 やや良 赤色粒子・石英 平底 やや良 赤色粒子・石英 平底 やや良 赤色粒子・石英 平底 やや良 お子・角閃石・雲母 かが良 台付要 脚部 4区南 0678 3層 一 (11.6) カー (18.8) 縦ハケメーヨコナデ かっかメーナデ 大子/核カ向ナデ 大子/核カ向ナデ 大子/核カ向ナデ 大子/核カ向ナデ 大子/核カ向ナデ 大子/核カ向ナデ 大子/教を色 良好 大子/成内のよい 大子/成石 大子/成石 大子/成石 大子/成石 大子/大子/大子/大子/大子/大子/大子/大子/大子/大子/大子/大子/大子/大	・リングあり 胎土 :び整形は甚だ粗
207 合行甕 脚部 4区南 0878 3層 - -	Ē
208 合行選 脚部 4区南 0678 3層 一 (11.6)	面がローリング
209 合竹甕 脚部 4区 10 16 8 3	部を土充填で接 いた痕跡
211 合付薬 脚部 4区北 0276 3層 — (11.0) 横/ケメーヨナデ ナデ/横方向ナデ に黄檀色 に黄檀色 に黄檀色 に黄檀色 に黄檀色 に黄檀色 に黄檀色 に黄檀色	
211 合行選 脚部 4区北 0276 3層 一 一 (11.0) 横介ケメーゴコテナ ナディ横方向ナデ し黄橙色 し黄橙色 し黄橙色 し黄橙色 見好 やや梢良 212 台付選 脚部 4区北 0276 3層 一 一 (9.0) 縦パケメーゴコナデ 丁寧なヘラケズリ 107R7/4にぶ し近春色 し黄橙色 し黄橙色 良好 子・角閃石・長石 ロー 214 台付選 脚部 4区北 2076 3層 一 一 9.8 ハケメーサデ/指オ サエ痕(端部) サエ痕(端部) サエ痕(端部) サエ痕(端部) サエ痕(端部) サエ痕(端部) サエ痕(端部) サエ痕(端部) 107R7/4にぶ 107R7/4にぶ 107R7/4にぶ 107R7/4にぶ 107R7/4にぶ 107R7/4にぶ 107R7/4にぶ 107R8/4にぶ 107R8/4にが 107R8/4に	
212 合竹甕 脚部 4区 U276 3層	
213 合竹甕 脚部 4区北2 0076 3層 一 9.0 報/ケメーゴファ 1 単4 ペラブス・ Li 黄橙色 民好 長石・雲母 日	-リングあり
214 合行要 脚部 4区北2 00 / 6 3層	-リング
216 台付甕 脚部 4区北2区 3層 ー ー 10.9 デ J 率はココナア 橙色 橙色 やや良 石夹・長右・角閃石・白土・白土・白土・白土・白土・白土・白土・白土・白土・白土・白土・白土・白土・	-リング激しい
216 台行張 脚部 4区北 00/6 3層 - - (6.0) ヨコナテ 痕(底面) 色 色 色 やり尽 赤色粒子 217 台付甕 脚部 5区 3層 - - (10.2) ナデ/指オサエ ハケメーナデ 10YRR/3にぶ い養橙色 い黄褐色 い黄褐色 い黄褐色 い黄褐色 い大緑色 良好 石英・長石・角閃石 ロー 218 鉢 口縁~底 部 4区北2 9876 3層 (13.4) 11.5 - 横方法ハケメーナデ カナデ カナデ カナデ ハル温色 い場色 いい養色 良好 長石・赤色粒子 器径	-リング激しい
217 百13號 脚即 5区 3層 — (10.2) アディ指オサエ バケメーナア い黄槍色 い黄褐色 以	
218 幹 部 46元2 95/0 3階 (13.4) 11.5 一 /ナデ 租いアア い温色 い橙色 見好 長石・亦已和ナ 衛住	-リング
	圣19.2cm
部 /ヨコアナ(朴部) い実権包 い実権包 ナ	ド透かしは4方向
220 赤台 胴部 4区用 0878 372 一	兼帯の最狭部で ≩12.2cm
/石上が9/1/2 1/位世 1/46世	挟部で直径10.cr
E	部に3穿孔あり
	向に穿孔
い位也しい位也して	向に穿孔 中実
225 高朴 朴印 トレンチ12 3階 一 一 一 円塗り/電火パケト 円塗り/電火パケト 色 褐色 艮灯 楠良 稲竜斤石 状文	形に放射状の波 なあり
226 高杯 脚柱部 4区北2サブト レンチ13 3層 — — — 期駐部総方向ハケメ 底部ハラケズリ ナ デ ナデ 7.5YR8/4浅黄 7.5YR7/3にぶ 虚色 良好 石英・角閃石・雲母・ 長石 3ヶ月 丹金	所穿孔 脚柱部 登り
総方向ハケメのも十 10VR6/4に 3 10VR4/3に 3	列土器

第18表 TAK201208調査区弥生時代包含層出土石製品観察表

図版番号	器種	出土地区	出土層位	石種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
228	石包丁	4区 0676(南)	3層	安山岩	5.8	4.9	0.6	30.7	
229	石包丁	4区9876(北 4)	3層	安山岩	6.1	3.4	0.5	17.7	

第19表 SK35出土土器観察表

図版	器種	部位		法量(cm))	調	整	色	調	焼成	胎土	備考
番号	46个里	마끄	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	がたりと	加工	1佣-5
230	土師器椀	口縁部~ 底部	(12.8)	6.6	_	ハケメのちナデ	指頭痕	5YR7/4 にぷい橙色	5YR7/6橙色	良好	細かな砂粒を含む	残存70%
231	土師器椀	口縁部	_	_	_	ハケメのちナデ	ハケメのちナデ	5YR7/4 にぶい橙色	5YR7/6橙色		赤色粒子、長石、雲 母	

第20表 SK35出土石製品観察表

図版番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
232	砥石	粘板岩	1.23	6.7	2.18	230	

第21表 SK36出土土器観察表

図版	器種	部位		法量(cm)	1	調	整	色	調	焼成	胎土	備考
番号	右 个里	마기꼬	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	涉及	加工	1佣-5
233	土師器短 頸壷	口縁部~ 口頸部	15.8	口縁部高3.0	-	丁寧なナデ	丁寧なナデ	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	良好	角閃石、長石、 石英、赤色粒子	5c後半頃か
234	土師器高 杯	脚部	_	脚部高 6.0	12.6	丁寧なナデ	粗いヘラケズリ	7.5YR7/4にぶ い橙	7.5YR7/4にぶ い橙	良好	角閃石、長石、 石英、赤色粒子	5c後半頃か

第22表 SK84出土土器観察表

図版	器種	部位		法量(cm)		調	整	色	調	焼成	胎土	備考
番号	位作里	마까	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	浙北八	加工	1佣-/5
235	土師器甕	口縁部~ 胴部	(17.8)	7.4+	ı	縦方向にハケメ後、 口縁をヨコナデ	指圧痕が残る	10YR7/3にぶ い黄橙色	10YR7/3 にぷい黄橙色	良好	石英、角閃石、長石	摩滅大
236	土師器甕	胴部~底 部	ı		-	ハケメ後底部のナデ	下から上へ 粗いケズリ	5YR5/6 明赤 褐色	5YR5/4 にぷい赤褐色	良	長石、赤色粒子、石 英	全体的に粗い仕上 げ
237	土師器椀	口縁部~ 体部	11.0	6.6	ı	ハケメ後ナデ ヘラケズリ	ナデ	5YR6/6橙色	5YR6/6橙色	良	赤色粒子、雲母	残存80%
238	土師器椀	口縁部~ 体部	(11.8)	ı	ı	ハケメ後ナデ ヘラケズリ	ハケメ調整後ナデ	5YR6/8橙色	5YR6/8橙色	良好	赤色粒子、角閃石、 長石、石英	内外面ともに丹塗り
239	土師器椀	口縁部~ 体部	(13.0)	7.7	ı	ヘラ状工具で 体部全体を削る	丁寧なナデ	5YR7/8橙色	5YR7/8橙色	良	雲母、長石、赤色粒 子	残存50% 平底 底部に削り痕
240	土師器椀	口縁部~ 体部	(15.2)	6.4	ı	平滑なナデ	平滑なナデ	5YR6/6橙色	7.5YR6/6橙色	良好	赤色粒子、長石	器面粗い
241	土師器椀	口縁部~ 体部	ı	_	-	手持ちヘラケズリと ヨコナデ	ナデ	2.5YR6/6橙色	2.5YR6/6橙色	良好	長石、石英、赤色粒 子、角閃石	6c後半

第23表 SK99出土土器観察表

	加版				法量(cm)		調	整	色	調	焼成	胎土	備考
番	号	401年	마기꼬	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	が良	加工	1 拥 右
2	42	土師器椀	ほぼ完形	15.2	6.0	_	体部の一部に ケズリ痕	ナデー部ケズリ	2.5YR6/6橙色	2.5YR6/6橙色	良好	わずかに砂粒を含む	内外に丹塗り

第24表 SK101出土土器観察表

図版				法量(cm)	1	調	整	色	調	焼成	胎土	備考
番号	命俚	部位	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	光双	加工	1 拥 右
243	土師器壷	口縁部~ 口頸部		_	_	ハケメ後ナデ	ハケメ 指圧痕残る	5YR6/8橙色	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好	角閃石、雲母、赤色 粒子	外面口頸部に強いヨ コナデ 直口壷
244	土師器椀	口縁部~ 体部	(11.4)	_	_	体部に横位の手持 ちヘラケズリ	体部は平滑なナデ	5YR4/4 にぷい赤褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	良好		口縁部ヨコナデ 5c後半~6c前半

第25表 SK113出土土器観察表

図版	器種	部位		法量(cm)		調	整	色	調	焼成	胎土	備考
番号	吞俚	하1보	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	洗风	- 加工	1佣-5
245	須恵器杯 蓋	口縁部~ 天井部	(13.2)	(4.4)+	-	回転ヘラケズリ後ナ デ 口縁部浅い沈線		10YR6/3 にぷい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	雲母、石英、長石、 赤色粒子	赤焼き 6c前後

第26表 SK114出土土器観察表

図版	器種	部位		法量(cm))	調	整	色	調	焼成	胎土	備考
番号	467里	마끄	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	汾北八人	加工	调与
246	土師器椀	ほぼ完形	13.6	5.4	_	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぷい黄橙色	良好	わずかに砂粒を含む	ほぼ完形
247	土師器椀	ほぼ完形	13.2	5.9	_	回転ナデ	回転ナデ	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	良好		ほぼ完形 外部底 面にスス跡あり
248	土師器椀	口縁部~ 底部	(13.1)	(5.5)	_	ヘラケズリ後、 口縁をヨコナデ	指による成形後、 ヘラ調整	7.5YR6/4 にぶい橙色	5YR7/6橙色	良好	わずかに砂粒を含む	内側底面にヘラ調整
249	土師器高 杯	杯部~脚 部	14.5	9.0+	_	杯部〜脚部多方面 からのハケメとナデ	脚部内面ハケメ調整 ヘラケズリ、杯部ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	わずかに砂粒を含む	脚裾部が欠損する

第27表 SK117出土土器観察表

	図版	器種	部位		法量(cm))	調	整	色	調	焼成	胎土	備考
Ŀ	番号	46个里	마기꼬	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	光双	加工	1 拥 右
	250	手づくね 土器	胴部~底 部	_	_	_	指圧痕の後ナデ	指調整	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	良	砂粒を含む	残存50%、土師器
Г	251	カワラケ	口縁~底部	(8.4)	(1.5)	(6.3)	ナデ	ナデ	7.5YR6/8橙色	7.5YR6/8橙色	良	砂粒を含む	底部回転糸切り痕

第28表 SP36出土土器観察表

図版				法量(cm))	調	整	色	調	焼成	胎土	備考
番号	有許了里	마마	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	NC IX	加工	川つ
252	短頸 小型壷	口縁部~ 底部	9.2	_	_	ハケメ後ナデ	指圧痕残る	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぷい橙色	良好	赤色粒子、長石、角 閃石	土師器

第29表 SP62出土石製品観察表

図版番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
253	砥石	泥岩	9.5+	5.3	2.1	150	

第30表 SP180出土土器観察表

図版	器種	部位		法量(cm)		調	整	色	調	焼成	胎土	備考
番号	右計作里	마끄	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	汾北八人	加工	1用 行
254	土師器甕	口縁部~ 胴部	16.5	_	_	ハケメ後ナデ 指頭痕あり	ハケメ後ナデ	7.5YR6/4 にぷい橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	良好	細かな砂粒を含む	外面に吸炭の跡あり

第31表 SP201出土土器観察表

図版	器種	部位		法量(cm))	調	整	色	調	焼成	胎土	備考
番号	401年	마깐	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	汾北八	加工	1用 45
255	土師器椀	ほぼ完形	13.4	6.0	_	ナデ	ナデ	7.5YR6/8橙色	10YR7/6 明黄褐色	良好	砂粒を含む	

第32表 SP207出土土器観察表

这	弘版	器種	部位		法量(cm)		調	整	色	調	焼成	胎土	備考
퐡	号	401年	마끄	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	が良	加工	順右
2	56	土師器椀	口縁部~ 底部	15.4	6.0	_	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	7.5YR6/6橙色	7.5YR7/6橙色	良好	砂粒を含む	残存70%

第33表 SP559出土土器観察表

図版	器種	部位		法量(cm)		調	整	色	調	焼成	胎土	備考
番号	命俚	마끄	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	がた月入	加工	1用 与
257	土師器 高杯	杯部~脚 部	(17.6)	(9.8)	_	ケズリ後ナデ	ケズリ	5YR6/8橙色	5YR6/6橙色	良		残存40% 脚裾部欠 損
258	土師器椀	ほぼ完形	14.0	5.5	_	横ナデ、指頭圧痕	指頭圧痕	5YR6/6橙色	10YR6/4 にぷい黄橙色	良好	わずかに砂粒を含む	ほぽ完形品

第34表 SP559出土鉄滓観察表

	図版番号	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
	259	3.5	2.7	2.2	30	
ſ	260	5. 5	3.6	3.0	130	

第35表 SX11出土土器観察表

図版	器種	部位		法量(cm))	記]整	色	調	焼成	胎土	備考
番号	有件作里	마쁘	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	135.135	加工	川つつ
261	土師器椀	口縁部~ 底部	(15.2)	(5.1)	_	ハケメ後ナデ	指調整後ナデ 口縁部横ナデ	5YR7/6橙	2.5YR6/8橙	良	角閃石、雲母、赤色 粒子、石英、長石	残存1/4
262	土師器高 杯	脚部	_	_	(12.3)	指オサエ後ナデ	時計回りの手持ちへ ラケズリ 底部回転へ ラ調整後ナデ	5YR6/6橙	5YR6/6橙	良	雲母、黒色の細かい 粒子	

第36表 TAK201202調査区古墳時代包含層出土土器観察表

210	012		120200					/	山机木以					
図版 番号	器種	部位	出土地区・グ リッド	層位	口径	法量(cm) 器高	底径	調 外面	整 内面	色 外面	調 内面	焼成	胎土	備考
263	須恵器杯 身	口縁部~	①8256	3層	_		_	回転ヘラケズリ	ナデ	N5/灰	N5/灰	良好	鉄分混合	ヘラ切り、ヘラ記号 アリ 残存1/2
264	須恵器杯 身	_	①8054	3層	11.2	4.5	_	ヘラ切り	ヘラケズリ	N/6灰	N/6灰	良好	細かい砂粒を含む	底: ヘラケズリ痕 残 存3/4
265	須恵器建	底部~体	⑤7860	3層	(11.3)	_	_	回転ナデ	回転ナデ	N/6灰	N/6灰	良好	細かい砂粒を含む	自然釉が付着している 口縁部欠損 内部に白 い付着物アリ
266	土師器椀	口縁部~	①8256	3層	(14.0)	6.0	_	多方向のハケメ	ナデ	5YR6/8橙色	5YR6/8橙色	良好	細かい砂粒を含む	残存1/2
267	土師器椀	ほぼ完形	①8056	3層	14.1	6.05	_	手捏をヘラで削って いる	指ナデ	2.5YR6/8橙色	2.5YR6/8橙色	良好	細かい砂粒を含む	内外面丹塗り
268	土師器椀	口縁部~	①8054	3層	(14.8)	5.8	_	ナデ	ナデ	7.5YR8/6浅黄 橙色	7.5YR8/6浅黄 橙色	良好	長石、赤色粒子、雲 母を多く含む	全体的にかなり磨耗
269	土師器椀		28458	3層	14.4	6.1	_	粗いハケメ	指ナデ		7.5YR6/4にぶ い橙色	良好	赤色粒子	底部全体にハケメ
270	土師器椀	ほぼ完形	⑤7858	3層	13.0	5.9	_	ナデ	ナデ	10YR5/3にぷ い黄褐色色	10YR5/3にぷ い黄褐色	良好	滑石と雲母の粒子を 含む	外から内に0.4cm× 2.2cmの孔がある
271	土師器椀	完形	⑤8062	3層	13.2	6.4	_	ナデ	ナデ	7.5YR7/4 に ぷい橙色	7.5YR7/4 に ぷい橙色	良好	赤色粒子、長石、石英	ロ緑部ヨコナデ 体部下 半ケズリによる凹凸 磨 耗の為詳細は不明
272	土師器椀	口縁部~	\$8060	3層	(13.3)	(5.75)	_	ヘラ調整	ヨコナデ	7.5YR7/2明褐 灰色	7.5YR7/4 に ぷい橙色	良好	雲母、角閃石、長石	底部に少し丹塗りが 残る
273	高杯	杯部~脚	28458	3層	25.6	16.7+	_	ナデ調整後ハケ仕 上げ	粗めのハケ調整、指 圧痕多く残る	5YR7/3 に ぷい橙色	5YR7/3 に ぷい橙色	良好	赤色粒子、角閃石、雲 母、長石、石英	長脚高杯 畿内系
274	高杯	杯部~脚部	68266	4層	首最小 径 3.8	8.8	(11.6)	脚部外面はナデ 裾 部はヨコナデ	横方向のヘラケズリ	5YR7/4 に ぷい橙色	5YR7/4 に ぶい橙色	良好	石英、結晶片岩、長 石	口縁部一部欠損
275	小型 丸 底壷	底部~体	①8054	3層	_	_	_	縦横にハケメのちナ デ消している	途中に段がついてい る	7.5YR8/4 浅黄橙色	7.5YR6/6 橙色	良好	細かな砂粒を含む	体部最大幅14.3 暗 文風
276	小型 丸	ほぽ完形	68266	3層	8.2	8.9	_	回転ナデ	ナデ	10YR7/4にぷ い黄榜色	10YR7/4にぷ い黄橙色	良好	砂粒を含む	口縁部一部欠損
277		ほぽ完形	68266	3層	14.6	7.6	_	指ナデ	指ナデ	10YR4/4褐色	10YR4/4褐色	良好	砂粒を含む	
278	土師器広口壷	ほぼ完形	68468	3層	12.2	16.7	_	指圧痕、爪の痕、は じけた痕	ヘラケズリ後ナデ	10YR7/6明黄 褐色	10YR7/4にぶ い黄橙色	良	砂粒を含む	一部丹塗り痕アリ
279	土師器椀	ほぼ接合 完形	①8054	3層	14.0	6.5	_	ナデ	ナデ	5YR6/8橙色	5YR6/8橙色	良好	白色粒子が目立つ	内外面丹塗りアリ
280	土師器椀	ほぼ接合 完形	28458	3層	12.7	4.7	_	ヘラ調整	ナデ	10YR4/7にぶ い黄橙色	10YR4/7にぶ い黄橙色	良好	砂粒を含む	
281	土師器椀	口縁部~	①8254	3層	(13.6)	(5.1)	_	ハケメ、ヘラケズリ	ナデ	2.5YR5/8明赤 褐色	10YR7/3にぶ い黄橙色	良好	キメ細かい	外面丹塗りアリ
282	土師器椀	ほぼ接合 完形	⑤8060	3-2層	14.45	6.7	_	ナデ	ナデ	7.5YR6/8橙色	7.5YR6/8橙色	良好	赤色粒子	
283	土師器椀	口縁部~ 底部	⑤8062	3層	12.5	7.2	_	外面ヘラケズリ	ヘラナデ、中央部に 強い指圧痕	5YR7/6橙色	5YR7/6橙色	良好	角閃石、石英	全体にナデ 残 存60%
284	土師器椀	接合完形	28458	3層	12.9	5.5	_	ハケメ	指ナデ	7.5YR6/4にぷ い橙色	7.5YR6/4にぷ い橙色	良好	細かい砂粒を含む	外面にスス状の付 着物、焼きしめ
285	土師器椀	口縁部~ 底部	①8056	3層	(15.0)	6.4	_	ナデ	ナデ	10YR8/3浅黄 橙色	10YR8/3浅黄 橙色	良好	赤色粒子、雲母	丹塗り痕が僅かに 残る
286	土師器椀	口縁部~ 底部	①8054	3層	(14.6)	5.6+	_	ナデ	ナデ	5YR6/3にぷ い橙色	5YR6/3にぷ い橙色	良好	雲母	
287	土師器椀	口縁部~	⑤ 7860	3-1層 ~5層 上面	(13.0)	ı	1	ナデ	ハケメ後ナデ	2.5YR5/8明赤 褐色	2.5YR5/8明赤 褐色	良好	長石、赤色粒子、雲 母	口縁部が内屈してい る 吸炭が残る 残 存1/2
288	土師器椀	口縁部~ 底部	68262	2層	(14.9)	_	ı	ハケメ	ミガキ	7.5YR7/6橙色	7.5YR7/6橙色	良好	赤色粒子、角閃石、 雲母	残存1/2
289	須恵器腿	ほぼ完形	\$8060	4層	(12.0)	10.7	ı	ナデ	ナデ	N5/灰色	N5/灰色	良好	砂粒を含む	5c後半頃
290	須恵器杯 蓋	口縁部~ 天井部	\$8060	3層	(12.0)	_	ı	ヘラケズリ、ナデ	ナデ調整	2.5YR5/1赤灰 色	2.5YR5/1赤灰 色	良好	石英、長石、細砂粒	5c後半頃
291	須恵器杯 身	口縁部~ 底部	⑤7860	3層	(11.3)	_	_	ナデ	ナデ	N5/灰色	N5/灰色	良好	雲母、長石	6c前半頃
292	须恵器膍	口縁部	18056	3層	(11.0)	_	_	回転ナデ	ナデ	N6/灰色	N6/灰色	良好		
293	土師器高 杯	基部~杯 部	18058	3·4層 間礫層	-	_	-	ハケメ後ナデ	ナデ、渦状にハケメ 残る	7.5YR7/6橙色	7.5YR7/6橙色	良	白色粒子を僅かに 含む	
294	土師器高 杯	杯部	①8254	3層	(18.8)	_	_	ナデ	ナデ	7.5YR7/6橙色	7.5YR7/6橙色	良好	砂粒を含む	
295	土師器高 杯	脚部	18056	3層	_	8.3	10.7	ヘラナデ	シボリ痕	7.5YR7/4にぶ い橙色	10YR7/3にぶ い黄橙色	良好	角閃石を含む	
296	土師器高 杯	杯部~脚部	①8054	3層	_	_	(9.2)	ナデ、爪痕あり	ナデ、ケズリ痕アリ	10YR7/4にぶ い黄橙色	10YR7/2にぶ い黄橙色	良好	雲母、角閃石	
297	土師器高 杯	脚部	28456	3層	_	_	_	ナデ	ナデ	7.5YR8/3浅黄 橙色	7.5YR8/3浅黄 橙色	良好	赤色粒子、雲母	内外面丹塗りアリ 4ヶ所穿孔アリ
298	土師器坩	口縁部~ 底部	4 9060	2層	(11.2)	(7.0)+	ı	ナデ、ハケメ有り	底部: ヘラケズリ、ハケ 仕上げ、指圧痕アリ		2.5YR6/6橙色	良好	石英、細砂粒子	ツバ部はミガキ、暗文ア リ 外面丹塗りアリ
299	短頸壷	口縁部~体部	⑤8060	3層	(11.9)	_		磨耗大のため不明	不明	7.5YR7/3にぷ い橙色	7.5YR8/1灰色	良好	細かな砂粒を含む	
300	コップ型 土器	ほぼ完形	28458	4層	7.9	8.5	2.2	底除く外面全体に丹 塗り	ナデ		2.5YR7/4淡赤 橙色	良好	長石、石英、赤色粒 子	底部形状はやや平 底
301	布留系甕	完形	68266	3層	(18.2)	_		ハケ	ヘラケズリ	2.5YR7/3浅黄 色		良好	砂粒を多く含む	
302	土師器短 頸壷	完形	②8456、 8458間	3層	(12.4)	_	_	ミガキ	ハケメ	- 10YR6/3にぶ い黄橙色	10YR6/3にぶ い黄橙色	良好	雲母、角閃石	内面に一部丹塗り 痕アリ
	- 火里		OTOUIN							V-2011 C	V - 2412 C			/m//

第37表 TAK201202調查区古墳時代包含層出土土器観察表

図版	器種	部位	出土地区・グ	層位	ž	去量(cm)		調	整	色	調	焼成	胎土	備考
番号	新俚	라고	リッド	層世	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	洗风		1 用 右
303	手づくね 土器	口縁部~ 底部	①8054	SX3	(3.2)	2.0	ı	指オサエ後ナデ	ケズリ後ナデ	5YR6/6橙色	7.5YR6/6橙色	良好	雲母、石英	ミニチュア土器
304	手づくね 土器	完形	68262	2層	2.6	2.5	ı	鉄分付着	鉄分付着	10YR7/4にぶ い黄橙色	10YR7/4にぶ い黄橙色	良好	細かな砂粒を含む	ミニチュア土器
305	手づくね 土器	完形	①8256	3層下	4.2	2.9	1.0	ナデ	指圧痕	7.5YR6/4にぷ い橙色	7.5YR6/4にぶ い橙色	良好	細かな砂粒を含む	ミニチュア土器
306	手づくね 土器	ほぽ完形	68262	2層	3.8	3.5	-	指オサエ跡、爪痕有 り	指オサエ痕	10YR7/4にぶ い黄橙色	10YR7/4にぶ い黄橙色	良好	細かな砂粒を含む	ミニチュア土器
307	手づくね 土器	完形	@9060	3層	9.05	7.8	6.3	縦方向にハケメ後ナ デ	指圧痕、ナデ	10YR7/4にぶ い黄橙色	2.5.YR7/4に ぷい黄橙色	良好	細かな砂粒を含む	口縁部、底部は楕円を 呈する ミニチュア土器
308	手づくね 土器	完形	@9060	3層	5.4	4.2	3.2	ナデ	ヘラケズリ後ナデ	10YR7/4にぶ い黄橙色	10YR7/3にぶ い黄橙色	良好	細かな砂粒を含む	やや楕円を呈する ミニチュア土器
309	手づくね 土器	ほぼ完形	@9060	3層	5.7	4.4	6.0	強い指オサエ、爪痕	指オサエ	10YR7/4にぶ い黄橙色	10YR7/4にぶ い黄橙色	良好	砂粒を含む	ミニチュア土器
310	手づくね 土器	ほぼ完形	①8256	3層下 面	10.3	7.4	6.5	ヨコナデ、指圧痕、縦 方向にハケメ後ナデ	ヘラケズリ後ナデ	10YR6/3にぶ い黄橙色	7.5YR7/4にぶ い橙色	良好	石英、雲母、赤色粒 子、角閃石	ミニチュア土器

第38表 TAK201202調査区古墳時代包含層出土石製品観察表

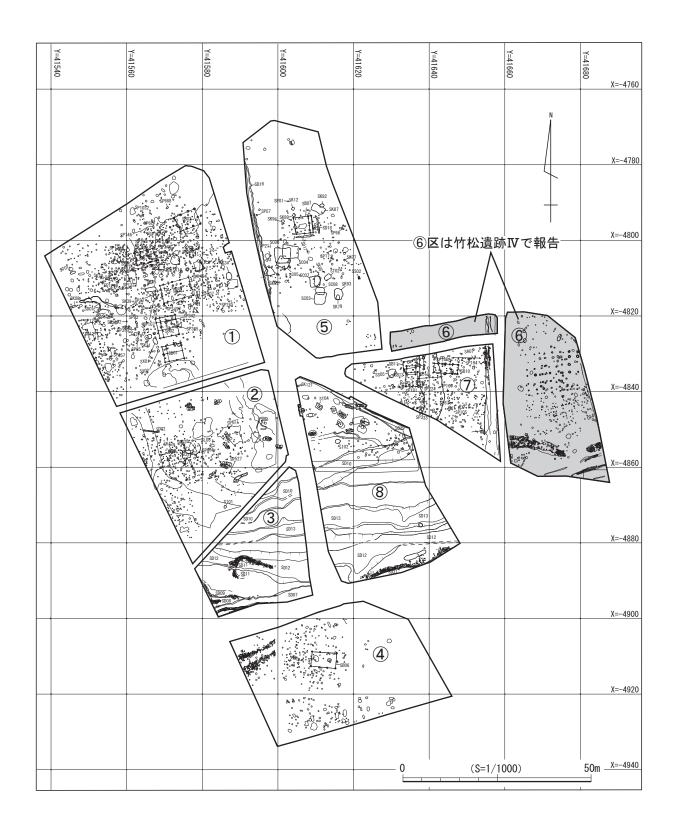
図版番号	器種	出土地区	出土層位	石種	幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
311	紡錘車	88660	3層	滑石	4.0	1.7	41.2	弱い線が一周巡る
312	紡錘車	⑤ 7860	3層-最上面	滑石	(4.8)	0.9	17.6	1/2残存
313	紡錘車	⑤8060	3層	滑石	(5.1)	0.8	16.1	1/2残存

第39表 TAK201202調査区古墳時代包含層出土土製品観察表

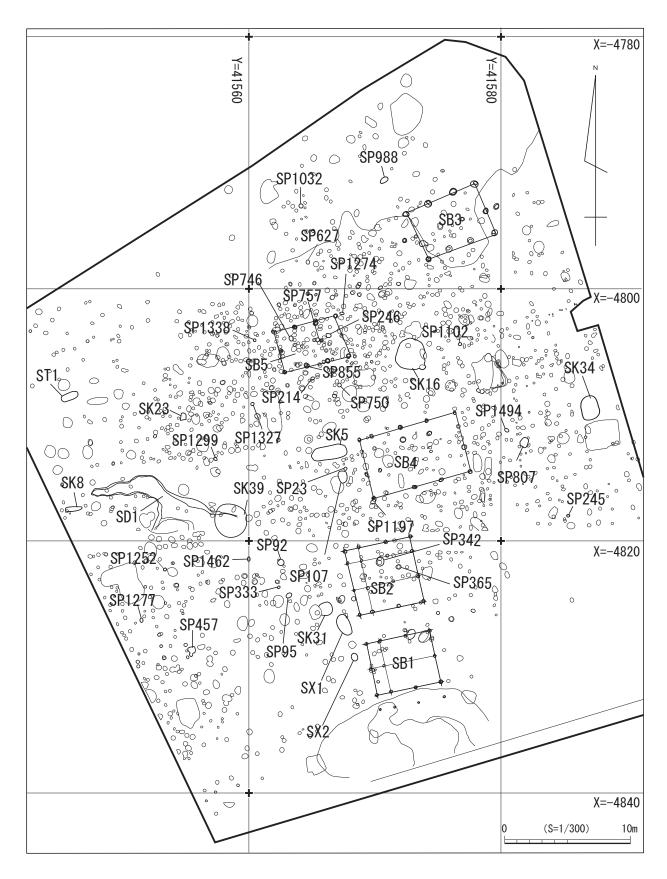
図版番号	器種	出土地区	出土層位	石種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
314	土錘	⑤ 7860	2層	長石	3.8+	2.2	2.1	10.7	孔幅: 0.5
315	土錘	57860	2層最下面~ 3層最上面	石英、長石	3.9	1.7	1.6	5.7	孔幅:0.5 ほぼ完形
316	土錘	58060	3-1層	_	3.6	1.6	1.5	5.9	孔幅:0.4 ほぼ完形

第40表 TAK201208調查区古墳時代包含層出土土器観察表

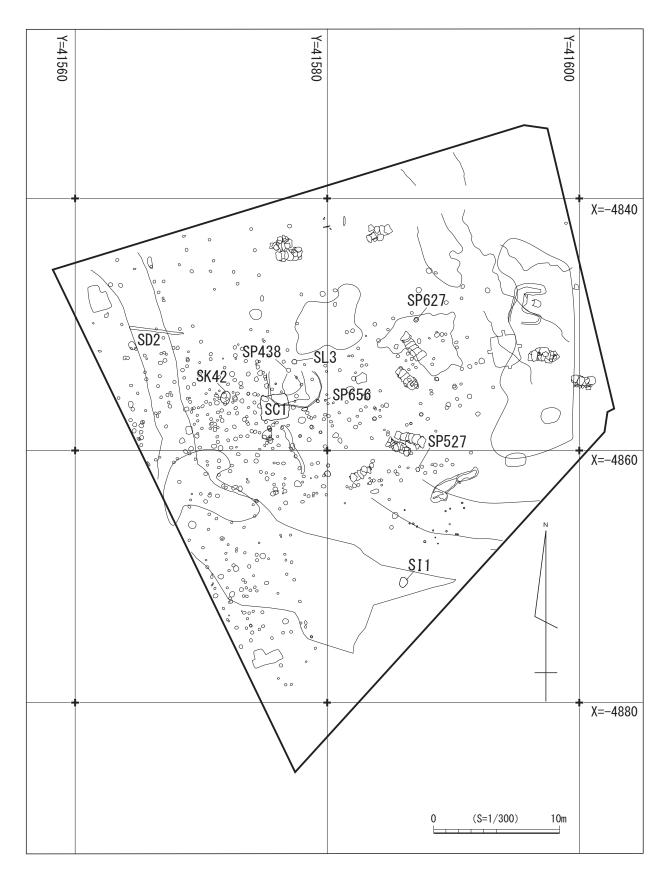
図版	器種	部位	出土地区・グ	層位	ž	去量(cm)		語	整	色	調	焼成	胎土	備考
番号	拍計作生	마마	リッド	層位	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	洗以	加工	湘石
317	須恵器杯 身	口縁部~ 底部	4区北2 0076	4層	(9.3)	(6.4)		回転ナデ 底部ヘラ 削り	回転ナデ	7.5YR5/1褐灰 色	7.5YR5/1褐灰 色	良	長石	雑な仕上げである
318	須恵器杯 身	口縁部	4区北2 0076	3層	(14.0)	_	_	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰色	N6/灰色	良	長石 石英	
319	須恵器高 杯	脚柱部	4区北2 9876	3層	_	_	ı	右上がりのナデ	右上がりのナデ	N6/灰色	N6/灰色	良	長石	
320	坩堝	口縁部~ 胴部	1区中央	3層	_	(2.5)	_	指圧痕	ガラス質付着のため 不明	7.5Y7/1灰白 色	7.5Y7/1灰白 色	良		内外にガラス質付着 端部に銅付着



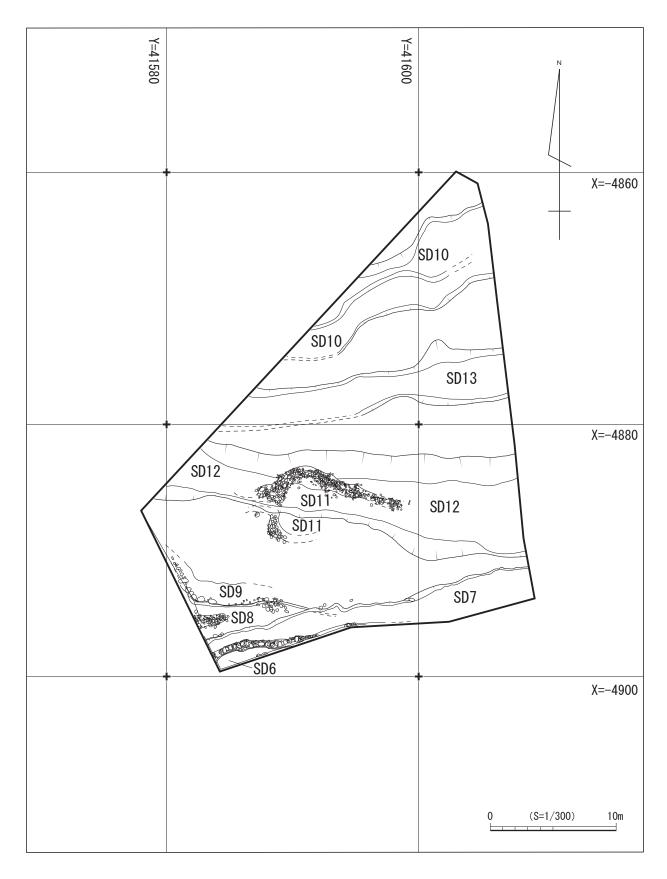
第97図 TAK201202古代中世遺構配置図(S=1/1000) 〇囲みの数字は小調査区の番号



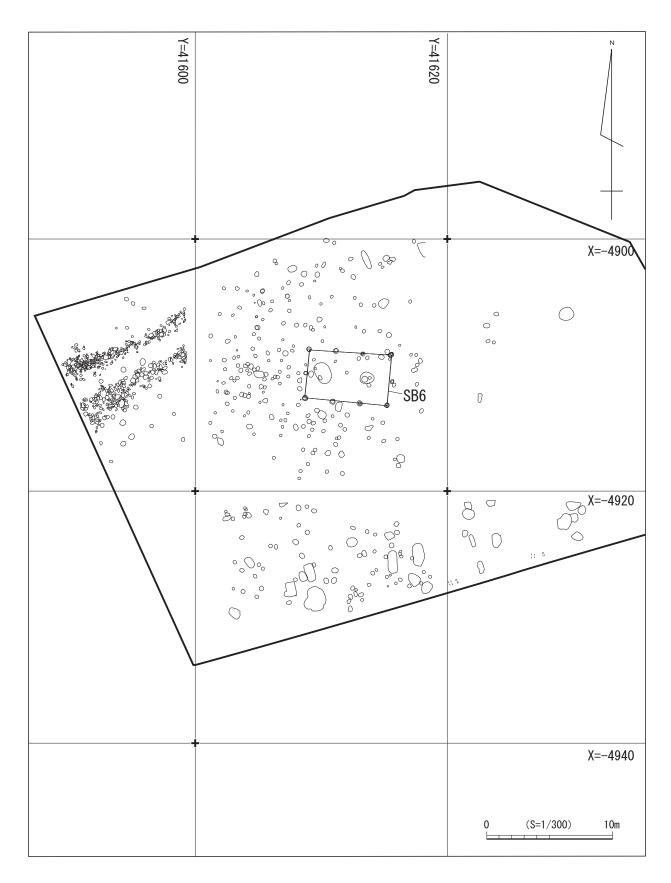
第98図 TAK201202調査区第①区古代中世遺構配置図(S=1/300)



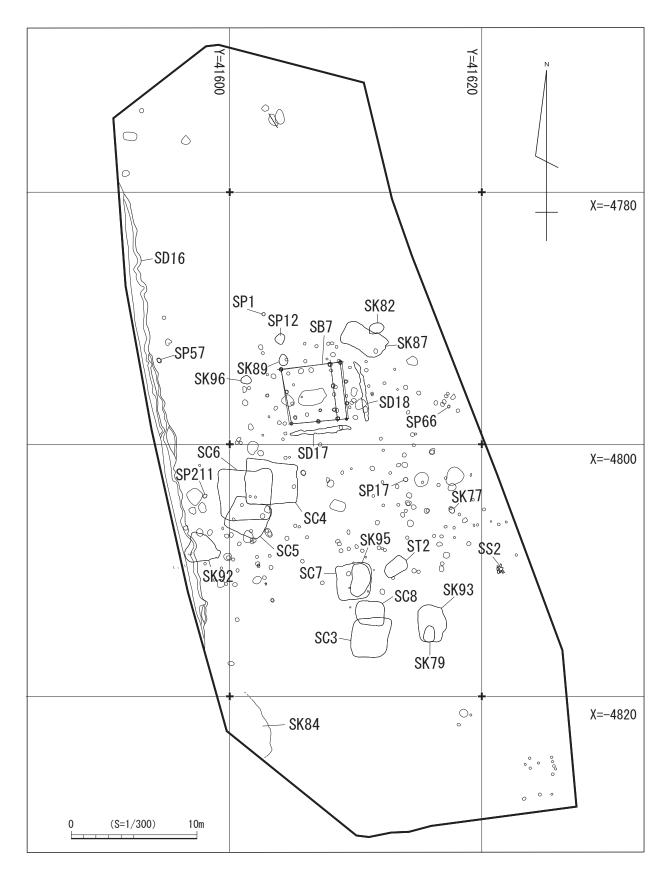
第99図 TAK201202調査区第②区古代中世遺構配置図(S=1/300)



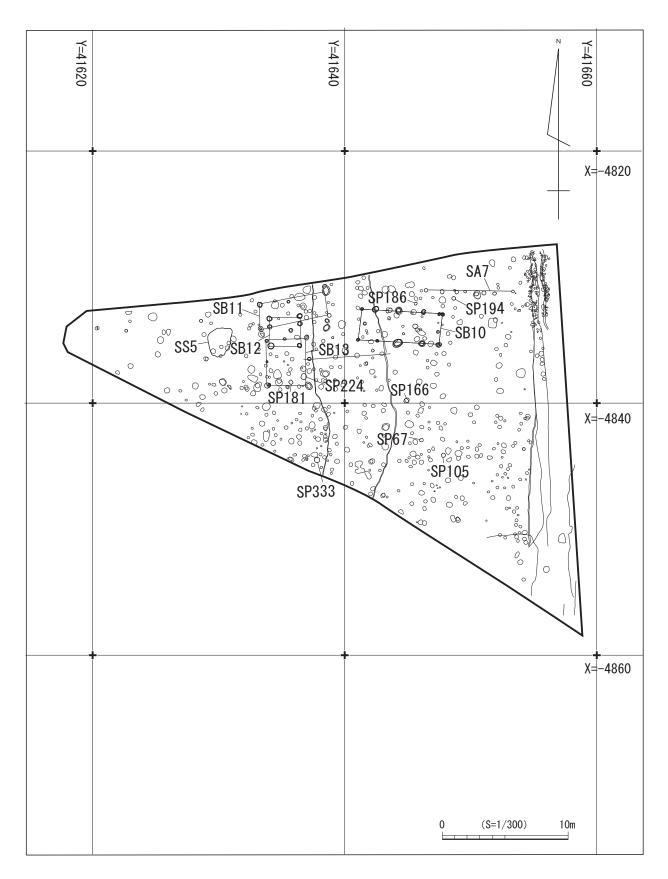
第100図 TAK201202調査区第③区古代中世遺構配置図(S=1/300)



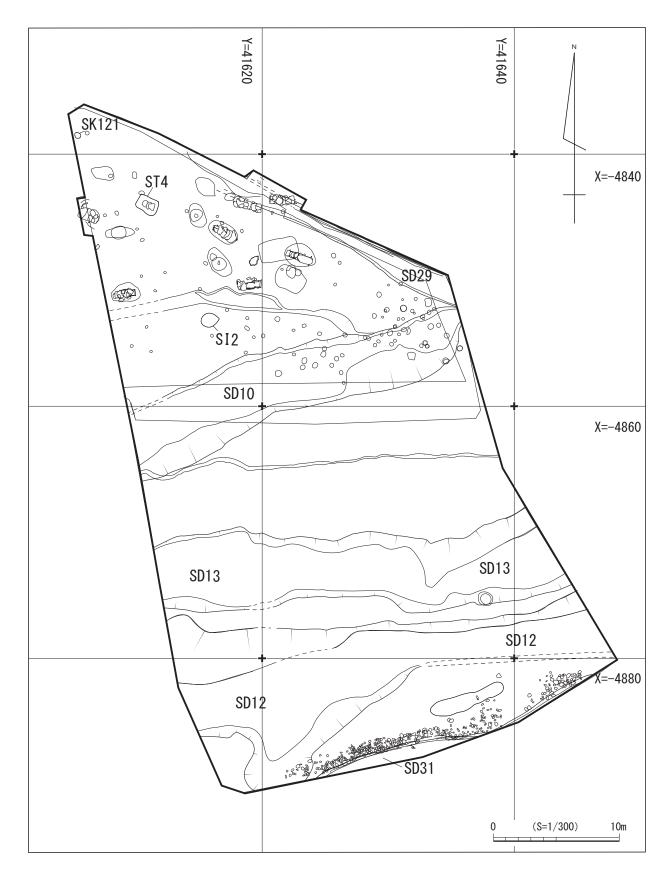
第101図 TAK201202調査区第④区古代中世遺構配置図(S=1/300)



第102図 TAK201202調査区第⑤区古代中世遺構配置図(S=1/300)



第103図 TAK201202調査区第⑦区古代中世遺構配置図(S=1/300)



第104図 TAK201202調査区第⑧区古代中世遺構配置図(S=1/300)

4. 古代・中世

今回報告する古代・中世の遺構は柵列、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、溝、鍛冶炉、土坑、集石、炉、土坑墓、小穴などである(第97図)。遺構はTAK201202調査区(以下TAKを省略)で数多く検出したが201208調査区ではSD35の検出のみであった。以下順に説明をしたい。なお、今回の調査でSD27は小調査区⑥区を囲む大規模な区画溝であることが分かったが、区画溝の延長と区画内の調査は次年度以降も引き続き行ったために、この地区の平成30年度報告(201405調査区報告)でまとめて行う予定である。

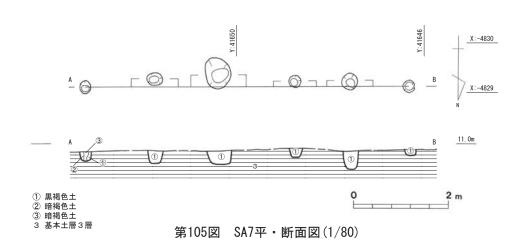
(1) 検出遺構と遺構内出土遺物

①柵列 (SA)

TAK201202調査区の古代~中世で報告する柵列は1件ある。

SA7 (第105図、第41表)

小調査区⑦区8264グリッド3層からプランを確認した。5間分の柱穴が6.9mの長さで列をなす。柱間は1.2m~1.6m、柱穴径は0.25m~0.65mの楕円形で深さは0.2m~0.4mである。柱痕が残る柱穴がある。遺物の出土はないが、主軸がN88°Wで、SB10の桁行と向きが同じであることから一連の遺構群ととらえ、時期は11世紀後半~12世紀前半と思われる。



第41表 SA(柵列)計測表

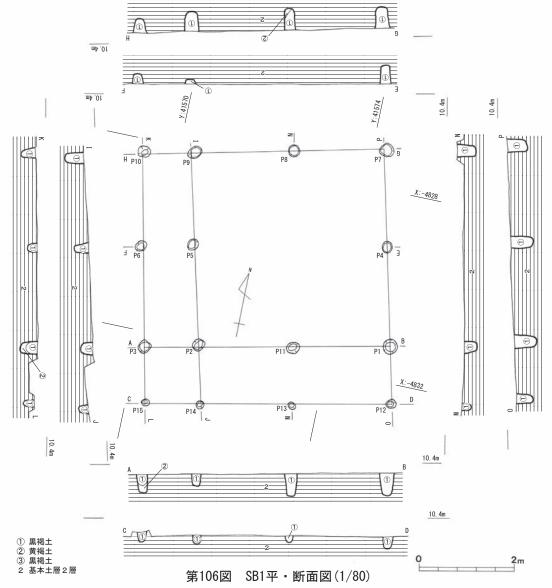
遺構番号	挿図番号	写真番号	主軸方向	柱間数	全長(m)	備考
7	105	92	N88W	5	6.9	SB10桁行と並ぶ

②掘立柱建物 (SB)

TAK201202調査区の掘立柱建物は、全部で11棟である。調査区①区と⑦区に集中している。各建物の時代については後述するが、①区の建物はおおむね12世紀代で、⑦区は11世紀後半~12世紀前半代と13世紀代の建物と思われる。⑤区のSB7は最も古く9世紀代と思われる。⑥区のSB8・SB9については区画溝内の遺構であることから201405調査区報告時に合わせて報告を行う予定である。

SB1 (第106図、写真92、第51表)

小調査区①区8256グリッド第2層からプランを確認した。梁行2間、桁行2間の側柱建物である。西と南に廂を持つ。主軸はN78°Eである。柱穴径は、母屋部分が0.3~0.25m、廂部分が0.25~0.2mのほぼ円形で覆土には焼土が含まれる。2.4m北にあるSB2は、規模と主軸の向きが同じであることから、対になって建っていたと思われる。また、柱穴覆土も同じであることから、同時期に廃絶したと考える。



SB1出土遺物(第107図、写真93、第42表)

321は須恵器高杯脚部の袖端部である。肥厚した端部は面取りがなされ2条の沈線が施される。P1出土。 322は須恵器甕胴部片である。外面には格子目タタキ痕が、内面には同心円のあて具痕が残る。P7出土。同時期に建っていたと思われるSB2の出土遺物よりも古いことからいずれも流れ込みと考えられる。

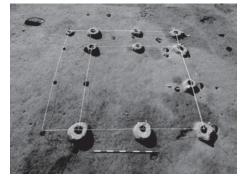
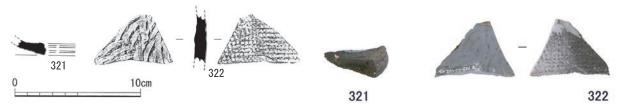


写真92 SB1 (東から)



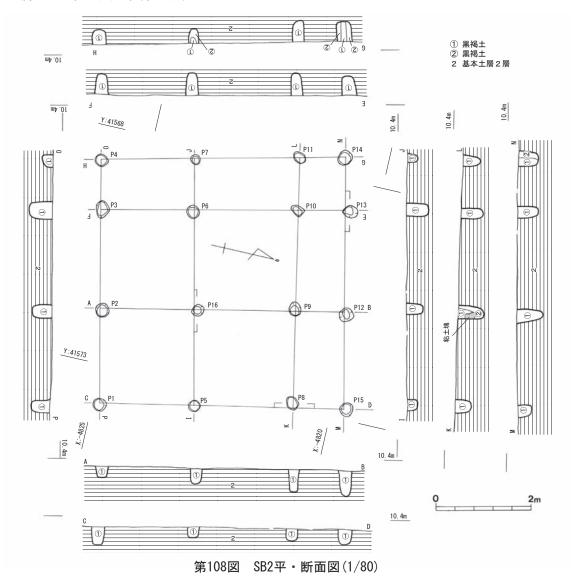
第107図 SB1出土遺物 (1/3)

写真93 SB1出土遺物

第42表 SB1出土土器観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)			整		色調	焼成	HA+	#+L° w.L	備 妻
凶似钳巧	命俚	마기꼬	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	狀以	加工	田工ビット	141/5
321	須恵器 高杯	脚部		(1.2)	_	_	_	灰色	灰色	良好	長石	P1	
322	須恵器 甕	胴部	_	(4.0)	_	格子目タタキ	同心円のあて具	灰色	灰色	良好	長石 黒色粒子	P7	

SB2 (第108図、写真94、第51表)



小調査区①区8256グリッド2層からプランを確認した。梁行2間、桁行2間の総柱建物である。 西と北に廂を持つ。主軸はN78°Eである。柱穴径は0.2~0.3mのほぼ円形で覆土には焼土塊が含まれる。2.4m南にあるSB1は、規模と主軸の向きが同じであることから、対になって建っていたと思われる。また、柱穴覆土も同じであることから、同時期に廃絶したと考える。

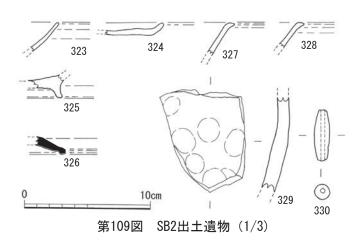


写真94 SB2 (東から)



写真95 SB2出土遺物

SB2出土遺物(第109図、写真95、第43・44表)



323は土師器杯口縁部である。砂粒を含まない精良な胎土である。P12出土。324は土師器小皿である。底部に回転糸切り痕が残る。P12出土。325は土師器椀の底部である。P1出土。326は須恵器杯蓋である。先端をくの字状に折り返している。P3出土。327・328は白磁椀である。口縁部が屈折する。P10、P16出土。329は貿易陶器甕胴部である。外面には縮緬状になった緑色の釉がかかる。P1出土。330は完形の土錘である。P9出土。土師器小皿や白磁椀の年代よりSB2は12世紀後半の建物と考える。

第43表 SB2出土土器観察表

7110	10021	<u> </u>	H H/L //	120									
図版番号	器種	部位		法量(cm)		訓	整	色	調	焼成	胎土	出土ピット	備考
凶似留万	命俚	עויים	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面			加工にかり	개/5
323	土師器 杯	口縁部	-	(2.3)	_	_	_	灰黄褐色	にぶい黄橙色	良好	雲母 長石	P12	
324	土師器 小皿	底部	(9.2)	1.0	(7.6)	_	指頭痕	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	金雲母 長石	P12	回転糸切り
325	土師器 椀	底部	-	(1.8)	_	_	_	浅黄橙色	浅黄橙色	良好	雲母 長石 角閃石	P1	
326	須恵器 杯	蓋	-	(1.4)	_	_	_	灰色	灰色	良好	長石 雲母	P3	端部かえり
327	貿易白磁 椀	口縁部	(15.8)	(2.6)	_	回転ヘラケズリ	_	灰白色	灰白色	良好	黒色粒子	P10	
328	貿易白磁 椀	口縁部	(16)	(2.0)	_	回転ヘラケズリ	_	灰白色	灰白色	良好	黒色粒子	P16	
329	貿易陶器 甕	胴部	_	(7.5)	_	_	指頭痕	オリーブ色	にぶい褐色	良好	石英 長石 赤色粒子	P1	

第44表 SB2出土土器観察表

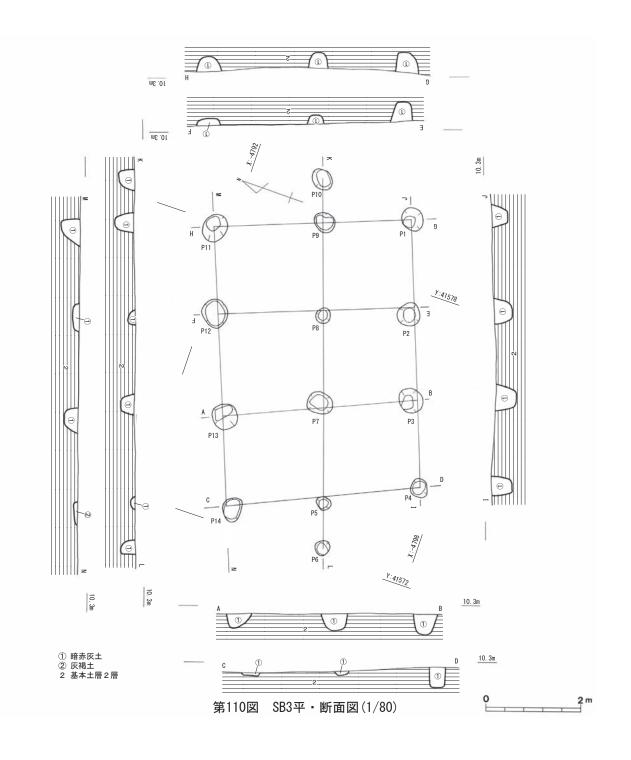
図版番号	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	色調	焼成	胎土	出土ピット	備考
330	土錘	40	12	12	_	褐灰色	良好	雲母 赤色粒子 長石	P9	

SB3 (第110図、写真96、第51表)

小調査区①区7856グリッド第2層からプランを確認した。梁行2間、桁行3間の棟持柱建物である。主軸はN67°Eである。柱穴径は、母屋部分が0.3~0.6mのほぼ円形である。柱穴から土師器杯、小皿片が数点出土したがその中には回転糸切り痕が残るものもある。



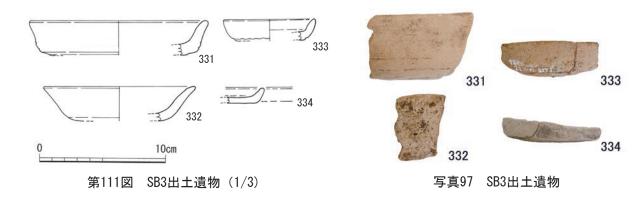
写真96 SB3 (東から)



SB3出土遺物(第111図、写真97、第45表)

331~334は土師器である。331は器高が低い杯である。切り離しは回転へラ切りである。P10 出土。332は口縁部が外反する杯である。切り離しは不明。P13出土。333は体部の立ち上がりが大きい小皿である。切り離しは不明。P1出土。334は摩滅しているが回転糸切り痕を残す小皿である。P7出土。

SB3の年代は334の小皿の特徴から12世紀後半と思われる。9世紀末の所産と思われる332は流れ込みであろう。



第45表 SB3出土土器観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		il	整	色記	周	焼成	胎土	出土ピット	備考
凶似钳与	命性	Db/Int	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	洗以	加工	山工レット) 拥有
331	土師器 杯	口縁部~底部	(14)	2.6	-	-	_	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	赤色粒子 長石 雲母 角閃石	P10	回転ヘラ切り
332	土師器 杯	口縁部~底部	(11.8)	2.7	(6.0)	_	_	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	赤色粒子 長石	P13	
333	土師器 小皿	口縁部~底部	7.2	1.8	_	_	1	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	赤色粒子 長石 雲母 黒色粒子	P1	
334	土師器 小皿	口縁部~底部	9.2	1.3	(8.1)	_	-	浅黄橙色	浅黄橙色	良好	長石 黒色粒子	P7	回転糸切り

SB4 (第112図、写真98、第51表)

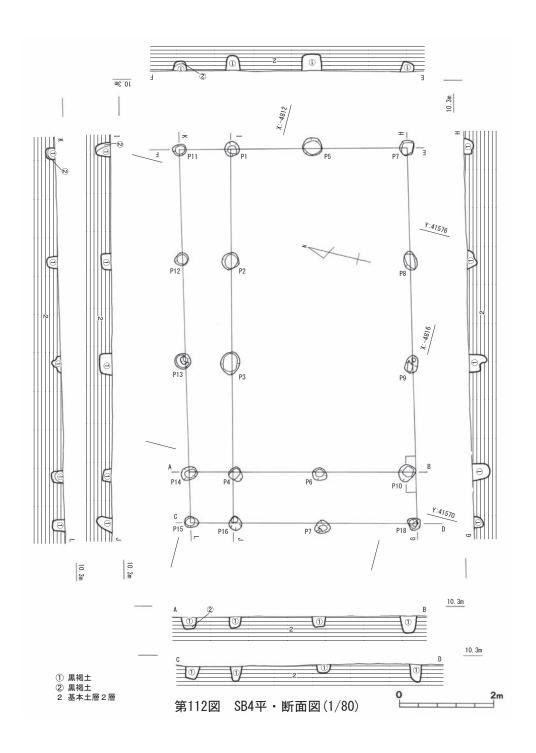
小調査区①区8056グリッド第2層からプランを確認した。梁行2間、桁行3間の側柱建物である。北と西に廂を持つ。主軸はN74°Eである。柱穴径は、母屋部分が $0.2\sim0.4$ m、廂部分が $0.25\sim0.3$ mのほぼ円形である。西廂の柱筋がSB1・SB2の南北軸とほぼ重なる。このことと出土遺物からSB4の年代は12世紀代と思われる。

SB4出土遺物(第113図、写真99、第46表)

335は白磁椀V類の口縁部である。内面には1条の浅い沈線がめぐり、外面にはピンホールが多く見られる。P10出土。



写真98 SB4 (北から)





第46表 SB4出土土器観察表

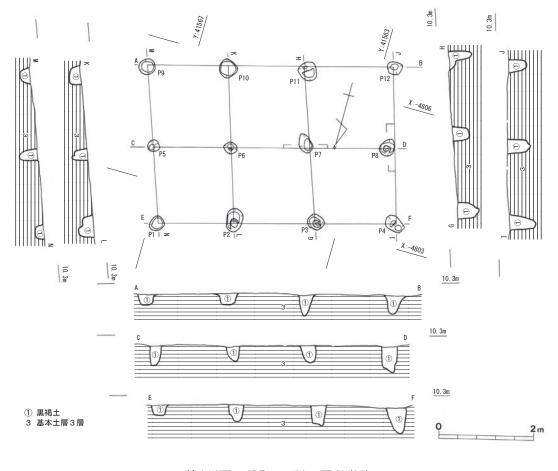
図版番号	器種	如仏		法量(cm)		調	整	f	色調	焼成	胎土	出土ピット	備 妻
凶队田勺	位化生	部位	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	が以	加工	штглг	川 行
335	白磁 椋	口縁部~体部	_	(40)	_	_	_	暗灰苗色	暗灰苗色	良好	里色粒子	P10	

SB5 (第114図、写真100、第51表)

小調査区①区8056グリッド第3層からプランを確認した。梁行2間、桁行3間の総柱建物である。柱穴径は0.2~0.4mでほぼ円形である。主軸はN75°Eで、SB1・2・4と向きはほぼ同じである。当該区は2層が薄かったため3層での確認となった。



写真100 SB5 (東から)



第114図 SB5平・断面図(1/80)

SB5出土遺物(第115図、写真101、第47表)

336は土師器杯口縁部片である。微細な砂粒を多く含みざらついた胎土である。P4出土。**337** は土師器小皿である。摩滅をしているが底部には回転糸切り痕がわずかに残る。P7出土。これらの遺物より、SB5の年代は12世紀後半~13世紀前半と思われる。



第47表 SB5出土土器観察表

- 1 -													
図版番号	器種	種部位		法量(cm)		調	整	色	l調	焼成	RA+	出土ピット	備考
凶似钳方	价俚	마기꼬	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	池地	加工	山工レット) 拥 行
336	土師器 杯	口縁部~体部	(15.6)	(2.4)	_	1	_	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	雲母 石英	P4	
337	土師器 小皿	口縁部~底部	(8)	1.3	(6.8)	_	_	黄灰色	灰黄色	良好	赤色粒子 長石 雲母	P7	回転糸切り

SB6 (第116図、写真102、第51表)

小調査区④区9060グリッド3層からプランを確認した。梁行2間、桁行3間の側柱建物である。主軸はN86°Wである。柱穴径は、0.3~0.4mのほぼ円形である。柱穴断面に柱痕が残るものもある。出土遺物なし。

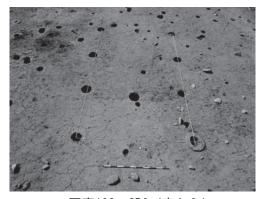
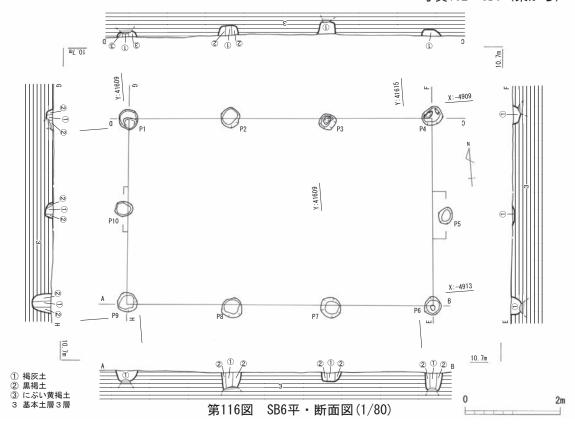


写真102 SB6 (東から)



SB7 (第117図、写真103、第51表)

小調査区⑤区7860グリッド第3層からプランを確認した。梁行2間、桁行2間の側柱建物である。東と南に廂を持つ。主軸はN82°Eである。柱穴径は、 $0.2m\sim0.3m$ のほぼ円形である。柱穴から土師器片が出土したが小片のために図示していない。SB7の南と東には同じ規模の溝をそれぞれ確認した(SD17、SD18)。これらの溝は、SB7の南廂と東廂の柱筋と並行していることからSB7に付属するも

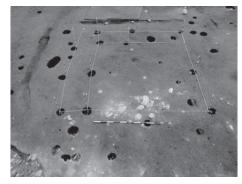
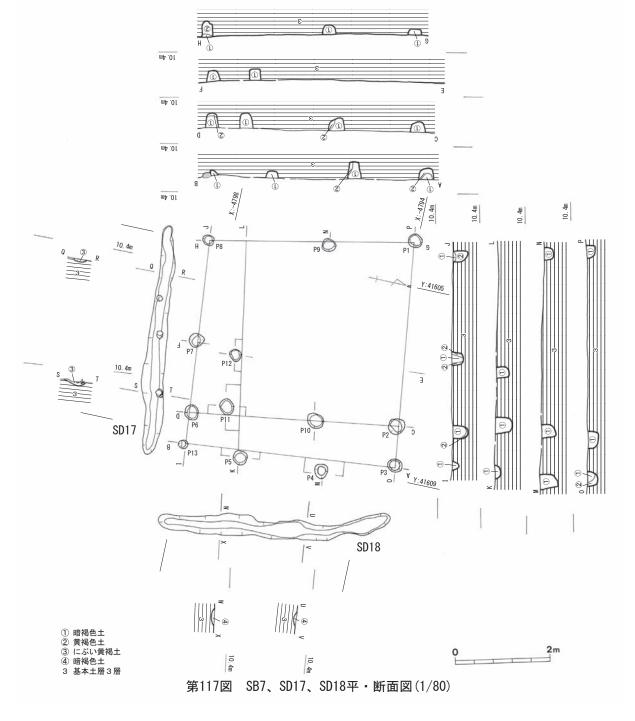


写真103 SB7 (北から)

のと考えれば、出土遺物よりSB7の時期は9世紀後半と思われる。ただし、周囲の掘立柱建物の時期がすべて11世紀代以降であることからSB7の時期は下る可能性もある。



SB10 (第118図、写真104、第51表)

小調査区⑦区8264グリッド第3層からプランを確認した。梁行2間、桁行4間の側柱建物で、主軸はN88°Wである。柱穴径は、0.2m~0.7mのほぼ円形であるが大きさにばらつきがある。土師器小皿の小片が出土した。桁行とSA7の向きが同じであることから一連の遺構群と考える。

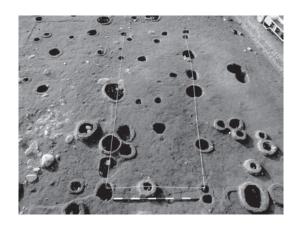
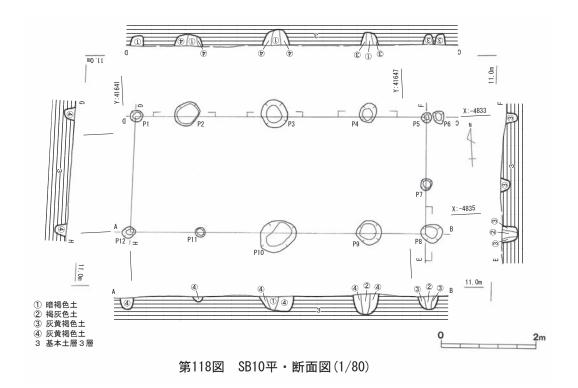


写真104 SB10 (北から)



SB10出土遺物(第119図、写真105、第48表)

338・339は土師器小皿である。**338**の切り離しは不明。P2出土。**339**の切り離しは回転ヘラ切りである。P9出土。小皿の年代からSB10は11世紀後半~12世紀前半の時期と思われる。



第48表 SB10出土土器観察表

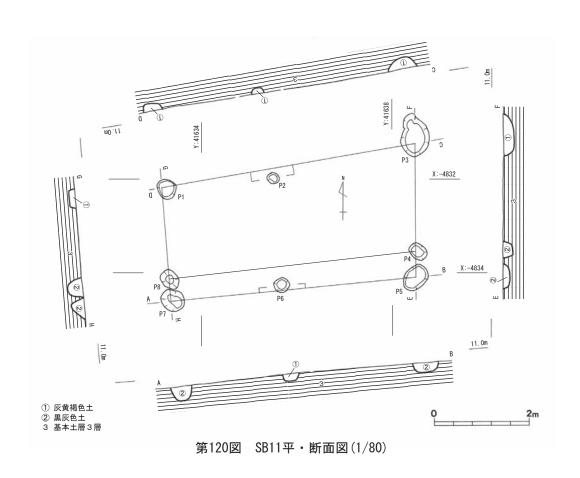
図版番号	器種 部位			法量(cm)		18	整	色	調	焼成	胎 +	出土ピット	備考
凶似钳写	命性	마기포	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	光风	加工	山工レット	调与
338	土師器 小皿	口縁部~底部	(8)	0.9	(6)	ı	_	浅黄橙色	浅黄橙色	良好	長石 石英 精良	P2	
339	土師器 小皿	口縁部~底部	(9)	1.4	(4.2)	I	指ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	雲母 長石 石英 精良	P9	回転ヘラ切り

SB11 (第120図、写真106、第51表)

小調査区⑦区8262グリッド第3層からプランを確認した。梁行1間、桁行2間の側柱建物で主軸はN80°Eである。南に廂を持つ。柱穴径は、 $0.25m\sim0.6m$ のほぼ円形であるが大きさにばらつきがある。P7から滑石製品が出土したが詳細な時期は不明である。

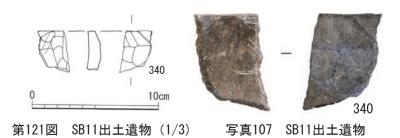


写真106 SB11(右) SB12(中) SB13(左) (北から)



SB11出土遺物 (第121図、写真107、第49表)

340は鍔がないことから縦耳の石鍋のミニチュアと思われるが、加工痕の単位が大きいことと、表面に石鍋には見られない加工による段があることから石鍋の転用品で別のものの可能性もある。



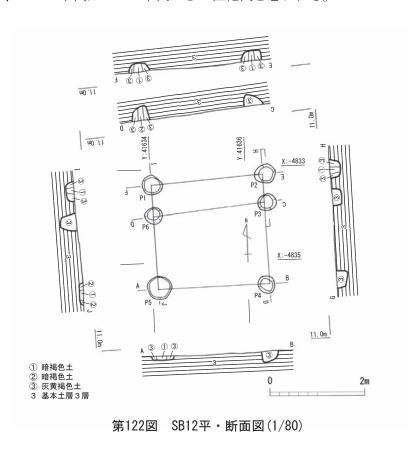
— 140 —

第49表 SB11出土石鍋観察表

回临来早	器種	部位		法量(cm)		重量	調	整	色	調	出土ピット	農
凶版番号	位性	마마	口径	器高	底径	里里	外面	内面	外面	内面	штгэл	順考
340	石鍋 ミニチュア	体部~口縁部	_	(3.2)	_	13.2g	横位ケズリ	_	褐灰色	灰色	P7	縦耳か

SB12 (第122図、写真106、第51表)

小調査区⑦区8262グリッド第3層からプランを確認した。梁行1間、桁行1間の側柱建物で主軸はN89°Eである。北に廂を持つ。柱穴径は、0.35m~0.5mのほぼ円形である。SB13と主軸の向きが同じであることから、切り合ってはいるがSB13と間をおかずに機能していたと考えられる。出土遺物はないが、SB12の年代はSB13の年代から13世紀代と思われる。

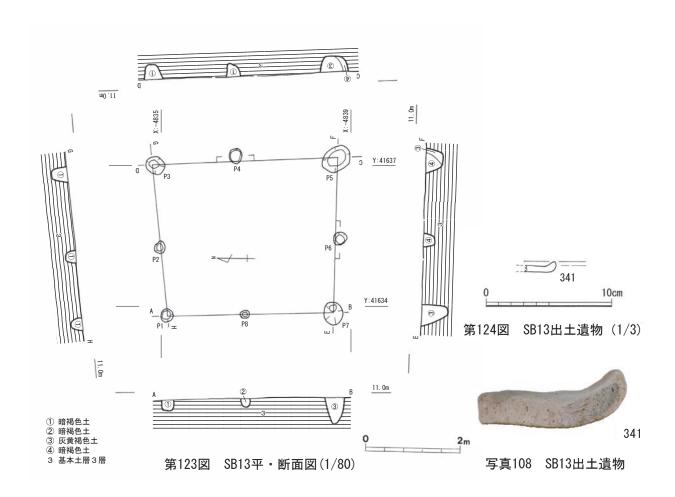


SB13 (第123図、写真106、第51表)

小調査区⑦区8262グリッド第3層からプランを確認した。梁行2間、桁行2間の側柱建物で、主軸はN89°Eである。柱穴径は、0.25m~0.6mのほぼ円形であるが大きさにばらつきがある。柱穴から土師器皿小片と滑石片が出土したが滑石片は小片のために図示していない。

SB13出土遺物 (第124図、写真108、第50表)

341は土師器小皿である。P5出土。摩滅が激しく切り離しは不明である。13世紀代のものと思われる。



第50表 SB13出土土器観察表

回临来早	反番号 器種 部位			法量(cm)		訓	整	色	調	焼成	144	#+ L° \\ L	備老
凶版番号	命俚	Dhim	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	狀以	胎土	田工にかり	调与
341	十師器 小皿	体部~口縁部	(7.8)	0.8	(6.8)	_	指ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	石英 赤色粒子 長石	P5	

第51表 SB (掘立柱建物跡) 計測表

遺構番号	挿図番号	写真番号	主軸方向	柱間間数		ŧ	見模(m、m	1)		備考
退阱钳力	押凶钳万	子 具留写	土籼刀円	性间间数	梁間	桁間	梁行	桁行	身舎面積	
1	106	92	N78° E	2 × 2	2.1	2.0~2.1	4.1~4.2	4.0	16.6	総柱。西と南に廂。
2	108	94	N78° E	2 × 2	2.0~2.1	2.0~2.1	4.1	4.1	16.81	総柱。西と北に廂。
3	110	96	N67°E	2 × 3	2.0~2.3	1.8~2.3	4.0~4.2	5.6~6.0		総柱。棟持柱。
4	112	98	N74°E	2 × 3	1.7~2.0	2.2~2.4	3.7	6.8		側柱。西と北に廂。
5	114	100	N75°E	2 × 3	1.6~1.7	1.7~1.9	3.3~3.4	5.0~5.2		総柱。
6	116	102	N86°W	2 × 3	2.0~2.1	2.1~2.2	3.9~4.0	6.5	25.68	側柱。
7	117	103	N82°E	2 × 2	1.7~1.9	1.6~2.1	3.6	3.7~3.9		総柱。東と南に廂。溝を伴う。
10	118	104	N88°W	2 × 4	1.4~1.0	1.1~2.0	2.5	6.1~6.4	15.63	側柱。
11	120	106	N80°E	1 × 2	2.4~3.0	2.3~3.1	2.4~3.0	5.2 ~ 5.4		側柱。
12	122	106	N89°E	1×1	2.3~2.4	1.6~1.8	2.3~2.4	1.6~1.8		側柱。北に廂。
13	123	106	N89°E	2×2	1.4~1.8	1.6~2.2	3.2~3.4	3.5~3.9	12.21	側柱。

③竪穴建物

TAK201202調査区の竪穴建物は、全部で5棟で、小調査区⑤区に集中している。SC4~SC6、SC3・SC8はそれぞれに切っている。また、これらの建物の壁はほとんど残っておらず、カマドと思われる焼土塊も残欠のみの検出であったことから、後世に大きな削平が行われたことが窺える。

SC1 (第125図、写真109)

小調査区②区8456グリッド第3層からプランを確認した。長軸(東一西)2.2m、短軸(北一南)2.1mの隅丸方形で、深さは0.3mを測る。壁際には深さ3~10cmの周溝が巡り、四隅には不定形の柱穴が配置される。カマドや貯蔵穴などの施設は見られなかった。遺構の時期を決定する遺物の出土はなかったが、検出面が3層であったことから時期を古代と判断した。

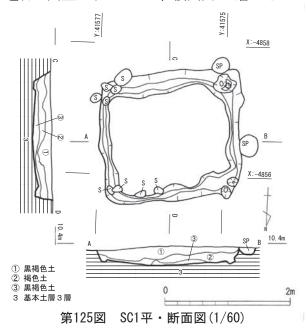


写真109 SC1 (北から)

SC3 (第126図、写真110、第63表)

小調査区⑤区8060グリッド第3層からプランを確認した。長軸(南一北)2.2m、短軸(北一南)2.9mの隅丸方形で、床面までの深さは30cm、掘方底までの深さは35cmを測る。掘方底面は南側が皿状に掘り込まれている。また、柱穴、周溝、カマドや貯蔵穴などの施設は検出せず床面の硬化も見られなかった。埋土は、炭化物を多く含み、中央部分に2.3m×1.6mの範囲に集中が見られた。土師器、須恵器、黒色土器が出土した。SC8を切る。

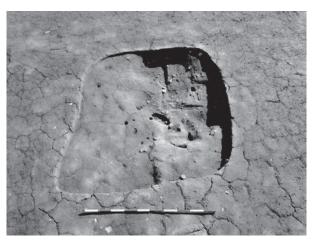
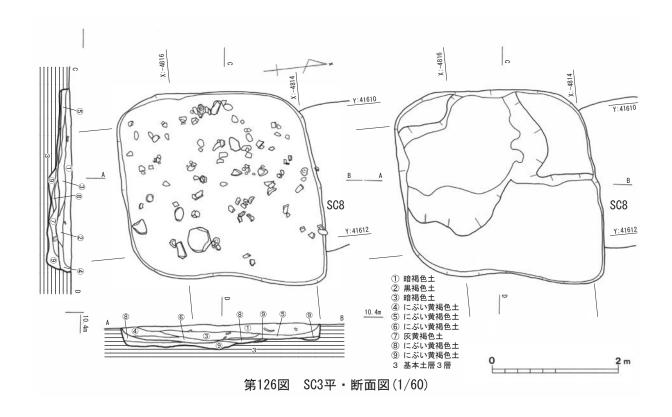


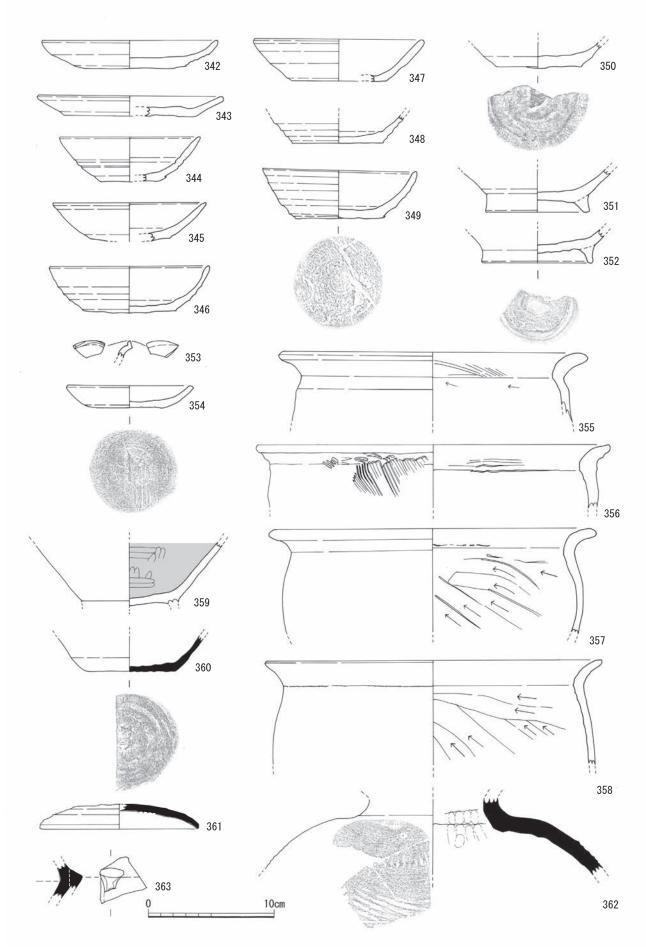
写真110 SC3 (北から)

SC3出土遺物(第127・128図、写真111・112、第52~54表)

342・343は土師器皿である。342は回転へラ切りの後に外周を回転へラ削りとナデによる調整を行うことで底部外面を平滑にしている。底部から体部への立ち上がりはシャープで、体部は外反した後内湾しながら口縁部にいたる。343も回転へラ切りの後に外周を回転へラ削りとナデによる調整を行うことで底部外面を平滑にしている。底部から体部への立ち上がりはふくらみを持ち、ほぼ直線で伸びた後わずかに外反する口縁部にいたる。底部内面には回転を伴わないナデが見られる。344~350は回転へラ切りで切り離された土師器杯である。いずれも板状圧痕は見られない。344は切り離し後の調整は行われず、切り離しの際にはみ出した粘土が見られる。体部



は緩やかに内湾しながら口縁部にいたる。345は切り離し後、はみ出した粘土をなで付けている ため、立ち上がりに段ができている。体部は緩やかに内湾しながら口縁部にいたる。346は外面 に右回転の引き上げ痕が強く残る。347は体部中位が膨らみ口縁部にいたる。348は体部上半が 欠損している。外面には右回転の引き上げ痕が強く残る。349も外面に右回転の引き上げ痕が強 く残る。切り離し後にはみ出た底部際の粘土はなでつけて処理している。350も切り離し後に、 はみ出た底部際の粘土をなでつけて処理している。351・352は土師器椀である。351は短いが外 に開く高台で、接地面は水平に整えられ体部との接合部もていねいに仕上がる。352は351と比べ ると製作の粗さが見られる。高台の接地面は面取りがされておらず体部との接合部には接合痕が 残る。また、内底部には回転ヘラ切り痕が残る。353・354は土師器小皿である。353は耳皿の口 縁部片である。354の切り離しは右回転のヘラ切りで板状圧痕が残る。底部際の立ち上がりは丸 く仕上げる。切り合いがあった別遺構に伴う遺物と思われる。355~358は土師器甕である。355 は胴部内面に横方向の強いヘラケズリ痕が残り口縁部と胴部の境には稜が付く。胴部は薄く口縁 部は肥厚し、最大径は口縁部にある。外面には縦方向のハケメが見られる。356は胴部内面に横 方向の強いヘラケズリ痕が残り口縁部と体部の境には稜が付く。胴部は薄く最大径は肥厚した短 い口縁部にある。外面には縦方向の荒いハケメが施される。357は胴部内面に下から上への斜位 の強いケズリが施され薄く仕上げ、口縁部はわずかに肥厚する。口縁部と胴部の境の稜は緩やか である。胴部外面には縦方向のハケメがわずかに残る。最大径は口縁部にある。358は胴部内面 に強いヘラ削りが施され口縁部と胴部の境には稜が付くが、胴部の厚さがそのまま口縁部にいた る。外面には縦方向のハケメがわずかに残る。359は黒色土器A類椀である。高台がきれいに外れ



第127図 SC3出土遺物-1 (1/3)

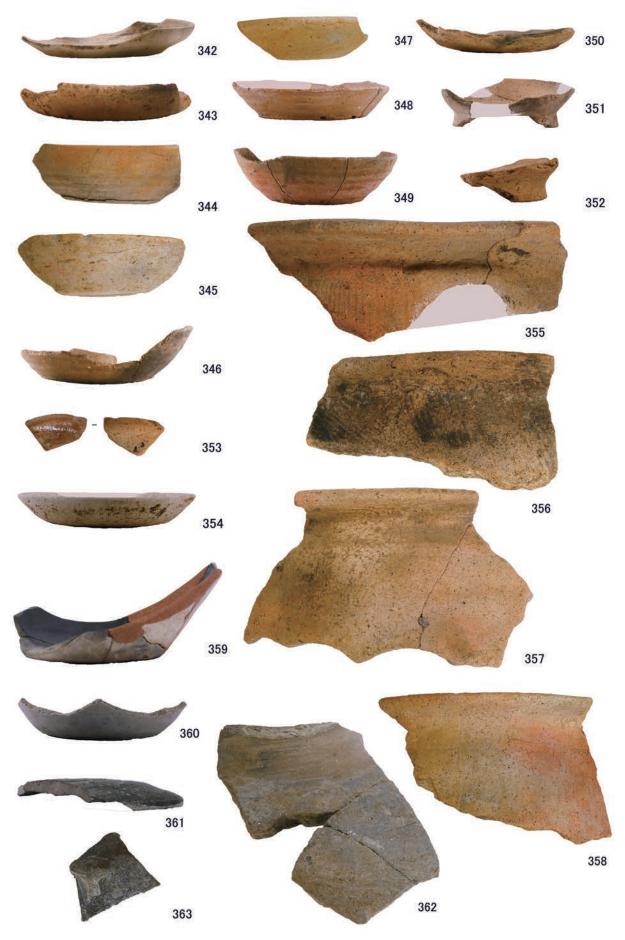
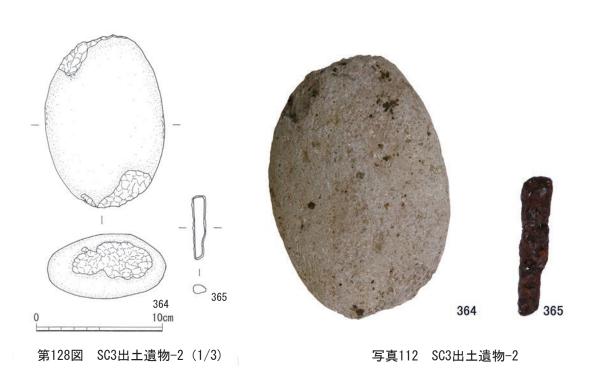


写真111 SC3出土遺物-1

ている。高台内のヘラ切り痕はナデ消している。**360~363**は須恵器である。**360**は杯で外底面には右回転によるヘラ切り離し痕が残る。体部は膨らみを持って立ち上がった後直線的に延びる。**361**は杯蓋である。先端部は内側に折れ断面三角形である。天井部外面は回転ヘラ切り痕がそのまま残る。**362**は壺の胴部~頸部片である。胴部外面には平行タタキ痕が残る。頸部内面には胴部との接合の際の指頭痕が残る。**363**は長頸壺の肩部に付く耳である。**364**は敲石である。玄武岩の円礫を利用し、長軸の両端を使用している。**365**は刀子と思われる鉄製品である。**354**の小皿は11世紀前半代のもので混入したものである。土師器椀や杯の年代からSC3の年代は9世紀後半と思われる。



第52表 SC3出土土器観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		調	整	É	調	焼成	胎土	備考
凶似留写		마기꼬	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	がルル	版工	
342	土師器 皿	底部~口縁部	(13.8)	2.2	7	_	指ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	良好	雲母 石英 長石 赤色粒子	回転へラ切り
343		底部~口縁部	(14.6)	1.6	(10.4)	_	-	にぶい橙色		良好	角閃石 雲母 赤色粒子	回転へラ切り
344	土師器 杯	口縁部~底部	(11)	3.5	(4.7)	_	_	にぶい橙色	橙色	良好	長石 角閃石 赤色粒子	回転へラ切り
345	土師器 杯	口縁部~底部	(12)	3	_	_	_	浅黄橙色		良好	赤色粒子 石英 長石	回転へラ切り
346	土師器 杯	底部~口縁部	(12.4)	3.7	7.2	_	_	にぶい橙色		良好	角閃石 雲母 赤色粒子	回転へラ切り
347		口縁部~底部	(13.2)	3.3	(7.4)	_		浅黄橙色	浅黄橙色	良好	角閃石 雲母 長石	回転へラ切り
348	土師器 杯	ほぽ完形	_	2.2	7.2	_	指ナデ	橙色	橙色	良好	角閃石 長石	回転へラ切り
349	土師器 杯	口縁部~底部	(12.0)	4	7	_	指ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色		角閃石 長石 石英	回転へラ切り
350		口縁部~体部	_	(1.6)	(6.6)	_	指ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	良好	角閃石 石英	回転へラ切り
351		口縁部~体部	_	(3.4)	(8.2)	_	指ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	良好	角閃石 雲母 赤色粒子 石英	
352		底部	_	(2.6)	(8.4)	_	指ナデ	橙色	橙色	良好	石英 雲母	内底部に回転へラ切り痕
353	土師器 耳皿	口縁部	_	_	_	_	_	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	赤色粒子 雲母	
354		ほぽ完形	(9.7)	1.7	5.2	_	指ナデ	灰白色	灰白色	良好	角閃石 石英	回転へラ切り
355	土師器 甕	口縁部~体部	(23.4)	(5.5)	_	ハケメ	ケズリ	橙色	にぶい橙色	良好	角閃石 長石 石英	
356	土師器 甕	口縁部~体部	(27.6)	(4.9)	_	ハケメ	ケズリ	にぶい赤褐色		良好	角閃石 長石 石英 雲母	
357		口縁部~体部	(24.7)	(8.3)	_	ハケメ	ケズリ	にぶい橙色	淡橙色	良好	角閃石 石英 雲母 赤色粒子	
358	土師器 甕	口縁部~体部	(26)	(8.2)	_	ハケメ	ケズリ	にぶい橙色	橙色	良好	石英 雲母 角閃石	
		底部~体部	-	(4.8)	7.6	_	ミガキ	にぶい黄橙色		良好	雲母 石英 長石 精良	
	須恵器 杯	底部~体部	-	(2.8)	(6.6)	_	_	灰白色	灰白色	良好	長石 角閃石 雲母	回転へラ切り
		天井部~端部	12.4	(1.9)	_	_	_	灰色	灰色	良好	長石 褐色粒子	天井部外面に回転へラ切り
362		胴部~頸部	_	(6.1)	_	997	指頭痕	褐灰色	灰褐色	良好	長石 角閃石	
363	須恵器 長頸壺	耳部	_	(3.6)	_	_	_	灰色	灰色	良好	長石 褐色粒子	

第53表 SC3出土石器観察表

図版番号	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	備考
364	I 프로 스	玄武岩	137	94	51	820g	

第54表 SC3出土金属器観察表

図版番号	器種	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	備考
365	刀子	鉄	50	10.5	6.5	5.15g	

SC4 (第129図、写真113、第63表)

小調査区⑤区8060グリッド第3層からプランを確認した。長軸(東一西)4.2m、短軸(北一南)3.4mの隅丸方形で、床面までの深さは8cm、掘方底までの深さは20cmを測る。削平が激しく、西半分は壁の立ち上がりがほとんど残っていない状況であった。西壁中央にカマド(SC4-SL1)の基部を確認しカマド際には貯蔵穴と思われる小穴(SC4-SP1)が伴っていた。西半分には浅い周溝が巡る。削平が著しい東側にも周溝は巡っていたと思われるが、確認することはできなかった。また、床面の硬化は見られなかった。埋土は炭化物粒や焼土粒を含む暗褐色土である。SC5、SC6を切る。

SC4-SL1 (第129図、写真114)

削平により上部構造は残存しておらず火床面での確認となった。火床面の周りにはカマドの構築材である被熱した粘質土が囲む。右袖部に立った状態で確認した玄武岩の円礫は袖石と思われる。

SC4-SP1 (第129図、写真115)

カマドに向かって右側で確認した。径70cm、深さ25 cmを測る。埋土に灰黄色シルトブロックを含むことから、カマドから掻き出した灰を貯めた穴と思われる。

SC4出土遺物(第130図、写真116、第55・56表)

366~368は土師器小皿である。いずれもわずかに 丸底で、回転へラ切りにより切り離された後の板状圧 痕が残る。法量もほぼ同じである。366と368は右回 転のヘラ切りである。369・370は土師器杯である。 369は体部と底部との境に丸みを持ち、口縁部でわず かに外反する。切り離しは回転へラ切りである。370 は体部と底部の境は回転へラ削りでシャープに仕上が り、わずかに内湾しながら立ち上がる。切り離しは右 回転のヘラ切りである。

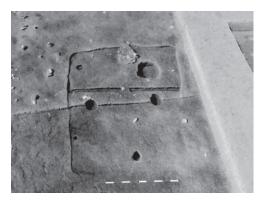


写真113 SC4 (東から)

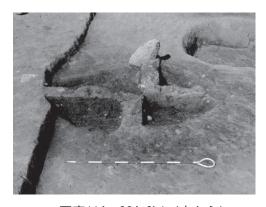


写真114 SC4-SL1 (南から)

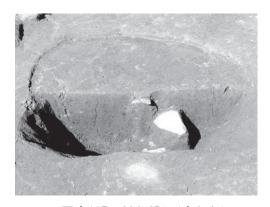
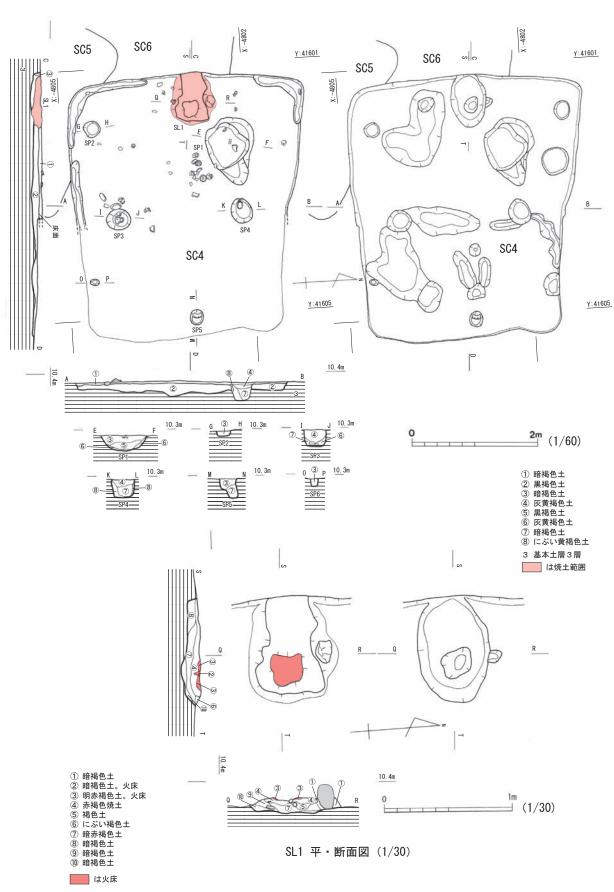
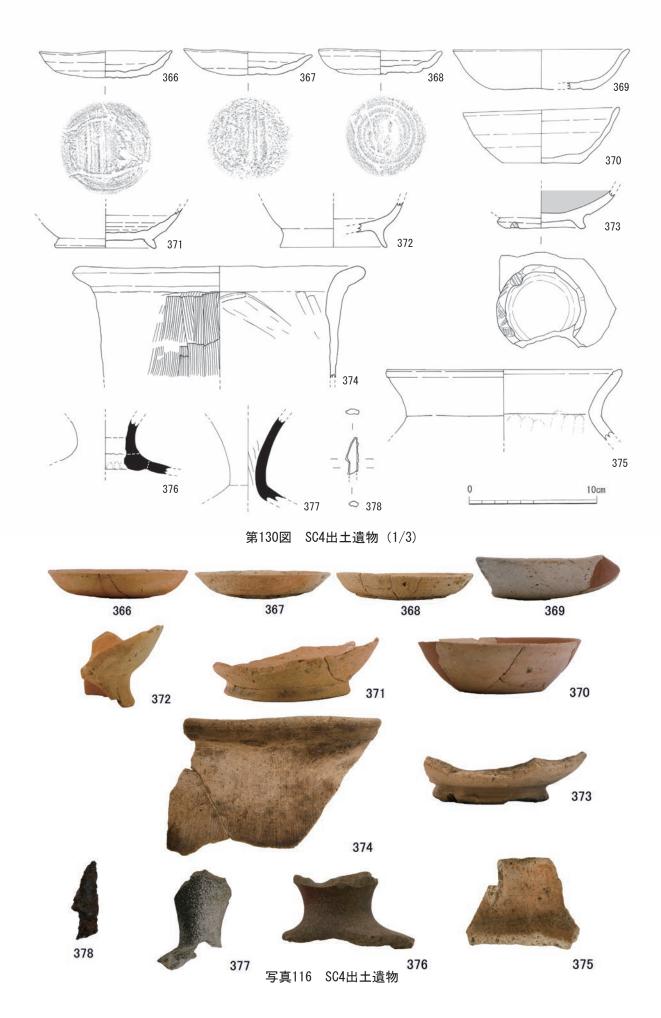


写真115 SC4-SP1 (東から)



第129図 SC4平・断面図(1/60・1/30)



第55表 SC4出土土器観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		ii.	整	色	.調	焼成	胎土	備考
凶似留亏	6性	마기꼬	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	が収	加工	1用行
366	土師器 小皿	完形	10.2	2.1	4	_	指ナデ	橙•浅黄橙色	橙·浅黄橙色	良好	角閃石 石英 赤色粒子	回転へラ切り 板状圧痕
367	土師器 小皿	完形	10	2.1	4	_	指頭痕			良好	角閃石 雲母 石英	回転へう切り 板状圧痕
368	土師器 小皿	完形	9.6	2	6.8	_		浅黄橙色	浅黄橙色	良好	角閃石 雲母	回転へラ切り 板状圧痕
369		底部~口縁部	(13.8)	3.1	(8)	_	指ナデ	灰白色		良好	角閃石 石英	回転へう切り
370	土師器 杯	底部~口縁部	(12.3)	4.4	6.2	_	指ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	良好	角閃石 石英	回転へう切り
371		底部~体部	_	(3.2)	7.6	_	指ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	角閃石 長石 石英	回転へラ切り
372	土師器 椀	底部~体部	_	(3.6)	(8.4)	_	指ナデ	橙色	橙色	良好	雲母 長石 赤色粒子 精良	
373	黒色土器 椀	底部~体部	_	(3.0)	(6.5)	_	ミガキ		にぶい黄橙色	良好	雲母 角閃石 赤色粒子	回転へラ切り
374	土師器 甕	口縁部~体部	(21.5)	(8.8)	_	ハケメ・指頭痕	ケズリ		明褐灰色	良好	雲母 角閃石 長石 赤色粒子 石英	
375		体部~口縁部	(18.6)	(5.6)	_	ハケメ	ハケメ	にぶい橙色	浅黄橙色	良好	雲母 赤色粒子 石英 結晶片岩	
376	須恵器 短頭壺	肩部~頸部	_	(4.3)	_	_	指頭痕	灰褐色		良好	雲母 角閃石 長石	
377	須恵器 長頸壺	頸部~肩部	_	(6.6)	_	_	絞り痕	暗オリーブ灰色	灰白色	良好	角閃石	

第56表 SC4出土金属製品観察表

図版番号	器種	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	備考
378	不明	鉄	29	10.5	4	1.42g	中位から下半が欠損

371・372は土師器椀である。371は回転へラ削りで切り離された底部に外に開くやや低い整った高台を持ち、体部は緩やかに内湾しながら立ち上がる。372は砂粒を含まない精良な胎土で外に開く高い高台を持つ。高台端部は水平に整えられ、貼り付けの痕はていねいにナデ消されている。373の高台は低いが角をもっている。接地面に繊維か紐状の圧痕が複数ついている。底部は右回転のヘラ切りにより切り離され、高台との接合部周囲は同じく右回転のヘラ削りが施されている。内外面ともに十分に黒化はしていないが、内面にミガキが見られることから黒色土器と思われる。374・375は土師器甕である。374は最大径が肥厚した口縁部にある。胴部外面は縦方向の強いハケメが施され、下方向からの粘土の移動が確認できる。内面は下から上へ向けて斜め方向に強いヘラ削りが施され、器壁を薄く作っている。内面の口縁部と胴部の境は稜を作らず丸みを持っている。375はわずかに内湾しながら外へ伸びる口縁部である。胴部内外面にハケメが施され、胴部から厚さを変えずに丸みを持って口縁部にいたる。376・377は須恵器である。376は短頸壺肩部〜頸部で、内面に胴部と頸部を接合する輪状の粘土紐の貼り付けと指頭痕が観察できる。377は小型の長頸壺の頸部である。内面に絞り痕が残る。378は鉄製品である。中位から下半が欠損している。

366~369・373は他の遺物と比べると新しい様相がみられ11世紀前半代のものである。隣接して出土したことから、住居跡に掘り込まれた別遺構に伴う遺物の可能性も考えられる。これら以外の遺物からSC4の年代は9世紀後半と思われる。

SC5 (第131図、写真117·118、第63表)

小調査区⑤区8060グリッド第3層からプランを確認した。長軸(東一西)3.1m、短軸(北一南)2.1mの隅丸方形で、床面までの深さは0.05m、掘方底までの深さは0.08mを測る。削平が激しい。北壁寄りにカマド(SC5-SL1)の基部を、四隅に柱穴を確認した。床面の硬化は見られなかった。南西寄りに焼土が0.9m×0.7mの範囲で広がり床よりわずかに浮いた状態で土師器碗3点、黒色土器2点の高台部分が倒位で配置されていた。建物廃絶に伴う儀礼的行為が行われた跡と思われる。埋土は炭化物粒や焼土粒を含む暗褐色土である。SC6を切りSC4に切られる。

SC5-SL1 (第131図)

削平により上部構造は残存しておらず火床面での確認となった。掘り方断面は縦65cm、横40cm 深さ5cmの浅い皿状を呈し、被熱したカマドの構築材である粘質土が充填する。

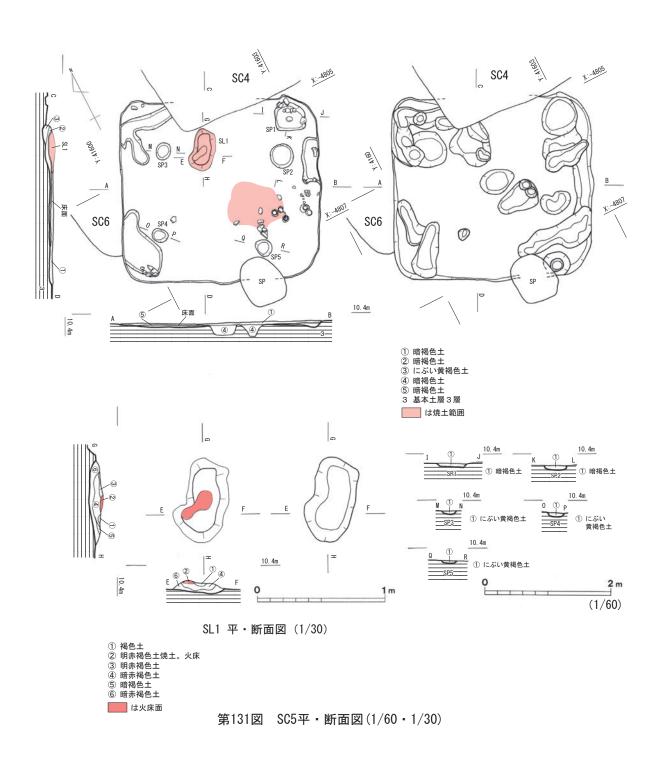
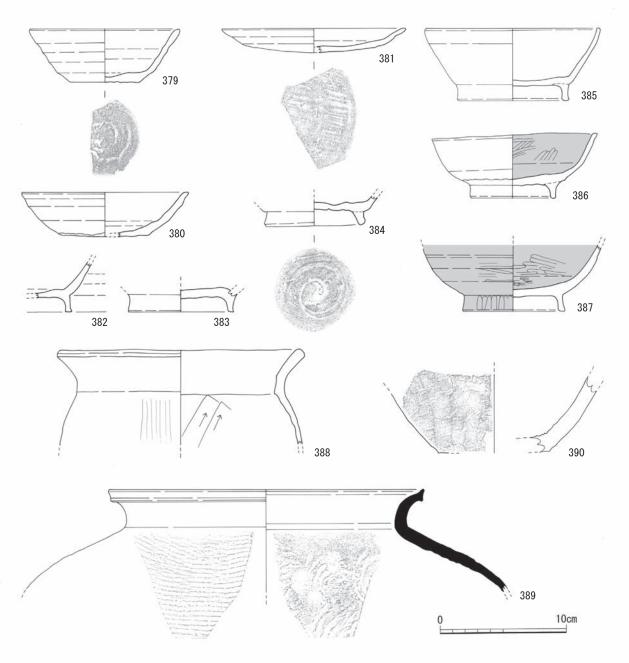




写真117 SC5床面検出状況(東から)



写真118 SC5出土遺物状況(東から)



第132図 SC5出土遺物 (1/3)

SC5出土遺物(第132図、写真119、第57・58表)

379・380は回転へラ切りの土師器杯である。**379**は右回転のヘラ切りである。いずれも切り離 し後の調整は行われていない。381は土師器の皿である。体部中位で外反し器厚は薄く均一であ る。ヘラ切りで、外底面には板状圧痕が残る。382~385は土師器椀である。382は細く長い高台 で、端部が肥厚する。383は高台部分のみである。水平に整えられた端部へ向かってわずかに外 反する。384もほぼ高台部分のみである。高台内に製作時の粘土紐巻き上げ痕が残る。高台の厚 さが均一でない。体部との接合痕が明瞭に残るなど383に比べると製作に粗さが見られる。385 は体部が直線で口縁がわずかに内湾する。また高台端部は角に近いがわずかに丸みを持ってい る。386は黒色土器A類椀である。体部下半でふくらみ口縁部は外反する。内面には横位と斜位の ミガキがわずかに残る。387は黒色土器B類椀である。外面は黒化が十分でないが内外面にミガキ 痕がわずかに残る。高台内には板状圧痕が見られる。383~387が高台を上にした状態で置かれ ていた椀である。388は甕胴部~口縁部片である。内面には強いヘラケズリ痕が残り口縁部と体 部の境に稜が付く。胴部は薄く口縁部はわずかに肥厚する。最大径は口縁部と胴部がほぼ同じで ある。摩滅のために器肌は荒れているが外面には縦方向のハケメがわずかに残る。389は須恵器 中甕である。口縁部が大きく外反する。口縁端部は上方につまみ上げ断面三角形を呈する。外面 には平行タタキ、内面には当て具痕がみられる。断面には粘土紐の接合痕が残る。床面直上出土 である。**390**は滑石製の器である。被熱をしているので煮炊具として使用されたものと思われ る。器高に比べ底径が小さく石鍋とは器形が異なるが、横方向の規則的なノミ痕が見られるのは 石鍋と変わらない。これらの出土土器からSC5の時期は9世紀代と考える。皿381は10世紀代のも のであり混入品と思われる。



第57表 SC5出土土器観察表

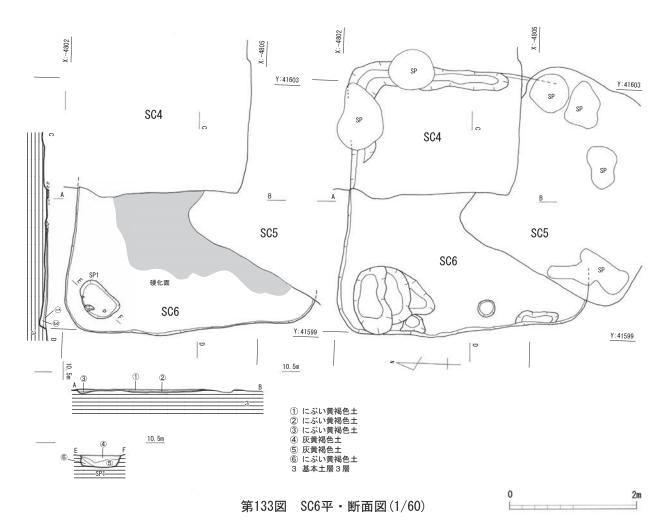
図版番号	器種	部位		法量(cm)		調	敕	É	調	焼成	胎土	備考
凶似笛与	位任	th ix	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	がル		
379		口縁部~底部	(11.7)	4.2	(5.4)	_			橙色	良好		回転へラ切り
380	土師器 杯	底部~口縁部	(13)	3.5	(6.4)	_	指ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	良好	赤色粒子 長石 雲母 石英 精良	回転へラ切り
381	土師器 皿	底部~口縁部	(14.4)	1.9	(10.1)	_	指ナデ	にぶい橙色	褐灰色	良好		ヘラ切り 板状圧痕
382		底部	-	(4.0)	(6.4)	_	指ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	雲母 長石 白色粒子 褐色粒子	
383		底部	-	_	8.2	_	指ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	雲母 石英 長石	
384		底部~体部	_	_	7.4	_		にぶい橙色	明褐灰色	良好	雲母 石英 白色粒子	
385		底部~口縁部	(13.6)	5.7	8.6	_	指ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	雲母 石英 長石 精良	
		底部~口縁部	(13)	5.1	6.5	_	ジキ	にぶい橙色	暗灰色	良好		体部下半に高台貼り付けの際のナデつけ痕残る
387		底部~体部	-	(5.2)	8	ミガキ	ジキ	にぶい橙色	黒色	良好		高台内に板状圧痕 外面に吸炭
388	土師器 甕	口縁部~体部	(18.6)	(7.5)	-	ハケメ	ヘラケズリ	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	長石 赤色粒子	
389	須恵器 甕	口縁部~肩部	(24.8)	(8.1)	_	997	当て具痕	灰色	褐灰色	良好	雲母 長石 石英	床面直上出土

第58表 SC5出土石鍋観察表

図版番号	器種	如仏		法量(cm)		重量	調	双		調	農 老
凶似笛与	位性	部址	口径	器高	底径	王里	外面	内面	外面	内面	川 / 1
390	石鍋	底部	_	(6.0)	(8.8)	175g	横方位のケズリ		褐灰色	黄灰色	

SC6 (第133図、写真120、第63表)

小調査区⑤区8060グリッド第3層からプランを確認した。南北軸3.9mの隅丸方形で、床面までの深さは3cm、掘方底までの深さは5cmを測る。削平が激しい。SC4、SC5に切られており、1/3が残る。北東隅に柱穴を1基、床中央部分に硬化面を確認したが、カマドや周溝は確認できなかった。埋土は炭化物粒を含む黄褐色土である。土師器の小片が出土した。



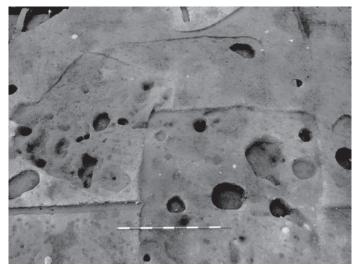


写真120 SC6床面検出状況 (東から)

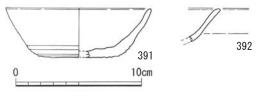
SC6出土遺物(第134図、写真121、第 59表)

391・392は土師器杯である。391は 回転へラ切り後底部際に回転へラ削り を行う。内湾して口縁にいたる体部外 面には赤彩が施される。392は口縁部 片で薄手である。いずれもSP1より出 土。これらの遺物からSC6の年代は8世 紀末~9世紀初頭と思われる。





写真121 SC6出土遺物

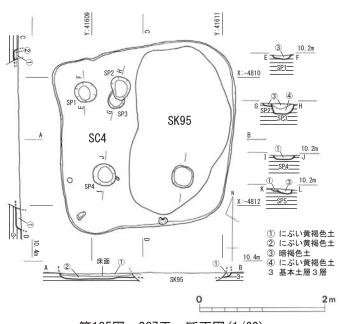


第134図 SC6出土遺物 (1/3)

第59表 SC6出土土器観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)			整	f	·調	供成	胎十	准老
凶似留亏	命性	Dhix	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	焼成	加工	调传
391	土師器 杯	口縁部~底部	(11.4)	3.9	(5.4)	_	指ナデ	明赤褐色	にぶい橙色	良好	長石 角閃石 石英 赤色粒子	回転ヘラ切り後底部際に回転ヘラ削り 赤彩土器
392	土師器 杯	口縁部	_	_	_	_	_	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	雲母 赤色粒子 長石 細砂粒	

SC7 (第135図、写真122、第63表)



第135図 SC7平・断面図(1/60)

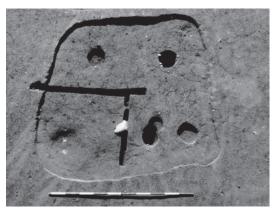
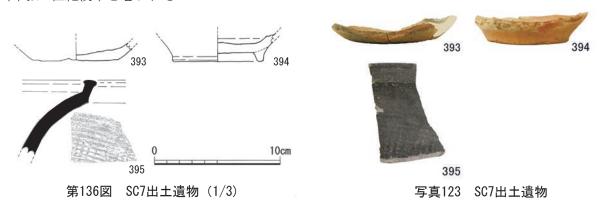


写真122 SC7床面検出状況 (東から)

小調査区⑤区8060グリッド第3層からプランを確認した。長軸(北一南)2.9m、短軸(東一西)2.7mの隅丸方形で、床面までの深さは3cm、掘方底までの深さは8cmを測る。削平が激しい。柱穴5基を確認したがカマドや周溝は無かった。埋土は炭化物粒や焼土粒を含む黄褐色土である。東側半分をSK95に切られるが掘り込みが浅かったために遺構の一部は残る。

SC7出土遺物(第136図、写真123、第60表)

393は土師器杯底部である。外面に回転ヘラ切り痕が残る。**394**は土師器椀である。わずかに外へ開く高台はていねいなつくりである。高台内には右回転のヘラ削り痕が残る。床面直上出土。**395**は須恵器で大型の壺の頸~口縁部である。口縁部は大きく開き端部は「く」字状に折れ先端は水平に近い。外面にはヨコナデの下に格子タタキが見られる。出土遺物は少ないがSC7の年代は9世紀後半と思われる

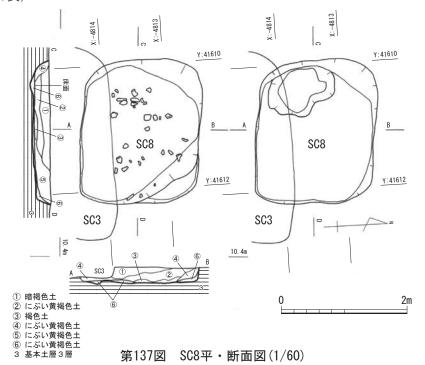


第60表 SC7出土土器観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		調	整	f	色調	焼成	胎 十	農 老
凶似钳与	始性	Dhir	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	沈ル	加工	调行
393	土師器 杯	底部~体部	_	(1.4)	(3.7)	_	_	にぶい褐色	にぶい褐色	良好	赤色粒子 角閃石 石英	回転へラ切り 外体部下端を回へラ削り
394	土師器 椀	底部~体部	_	(2.1)	(7.2)	_	指ナデ	黄橙色	浅黄橙色	良好	雲母 長石 石英	外底を回転へラ削り 床面直上出土
395	須恵器 壺	頸部~口縁部	_	(5.9)	_	格子タタキ	_	暗灰色	褐灰色	良好	長石	

SC8 (第137図、写真124、第63表)

小調査区⑤区8060グリッド 第3層からプランを確認した。 長軸(東一西)2.3m、短軸 (北一東)1.9mの隅丸方形 で、床面までの深さは12cm、 掘り方底までの深さは30cmを 測る。SC3に南側を切られる が、深く構築されていたため に、わずかではあるが南壁の 立ち上がりが残り全形を確認 することができた。柱穴やカ マドを確認することはできな かった。埋土は炭化物粒や焼 土を含む褐色土である。



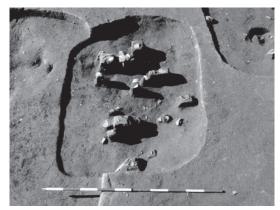


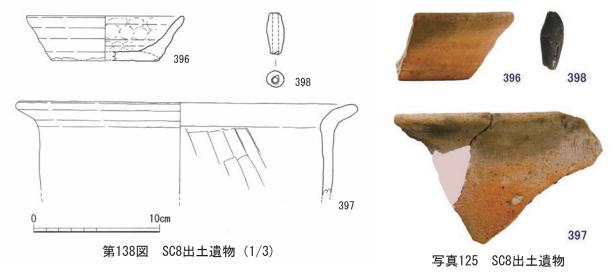
写真124 SC8遺物出土状況 (東から)

SC8出土遺物

(第138図、写真125、第61・62表)

396は土師器杯である。右回転のヘラ切り後底部際にヘラ削りを施す。体部はほぼ直線に立ち上がった後わずかに外反する。397は土師器甕である。内面には下から上への強いヘラケズリ痕が残り口縁部と体部の境に緩い稜が付く。胴部は薄く口縁部は肥厚する。最大径は口縁部にある。摩滅のために器肌は荒れているが外面には縦方向のハケメ

が残る。398は土師質の土錘である。杯、甕よりSC8の年代は8世紀後半~9世紀前半と思われる。



第61表 SC8出土土器観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)			調整	f	色調	焼成	₩+	世 来
凶似钳方	401年	Dhix	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	沈ル	加工	调行
396	土師器 杯	口縁部~底部	(12.2)	3.55	(8.4)	_	指ナデ	橙色	浅黄橙色	良好	赤色粒子 角閃石 長石 石英	回転へラ切り後底部際にヘラ削り
	土師器 甕	口縁部~体部	(26.2)	(7.2)	_	ハケメ	下→上へのケズリ	にぶい稽色	にぶい黄橙色	良好	角閃石 赤色粒子 金雲母	

第62表 SC8出土土錘観察表

図版番号	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	色調	焼成	胎土	備考
398	34	14	1.3	4.92g	黄灰色	良好	長石 赤色粒子 石英	

第63表 SC (竪穴建物跡) 計測表

遺構番号	挿図番号	写真番号	規模(死	浅存)m	壁高	cm	カマド位置	平面形状	備考
退佣钳力	押囚钳力	サ呉田ヶ	長軸	短軸	床面	掘り方	リメト四回	十曲形状	湘石
1	125	109	2.20	2.05	32	32	-	方形	
3	126	110	3.15	2.90	20	30	-	方形(やや歪)	SC8を切る
4	129	113	4,15	3.65	3	12	西	長方形	SC5、SC6を切る
5	131	117	3.13	2.82	5	7	北	方形	SC6を切りSC4に切られる
6	133	120	3.95	(2.25)	3	7	-	方形	SC5、SC4に切られる
7	135	122	2.90	2.85	12	12	-	方形	SK95に切られる
8	137	124	2.25	1.86	25	27	-	長方形	SC3に切られる

④ 溝・河川(SD)

TAK201202調査区の古代〜中世で報告する溝・河川は、全部で14条ある。そのうち人の手による と思われる溝が10条、自然流路が4条、詳細不明が1条である。溝は用排水路と思われる現在の水 路の近くから検出した。自然流路は、8区から3区に集中し東から西へと流れている。(第145図)

SD1 (第139図、写真126)

小調査区①区8054グリッド第3層から検出した。全長(北西-南東)9.6m、最大幅(北東-南西)4.5m、最深0.3mの不正形である。立ち上がりは緩く断面が皿状を呈する。中央部北側に拳 ~人頭大の円礫が集中する。SK39に切られる。貿易陶磁片、土師器片、須恵器片、鍔付石鍋片が出土した。不正形ではあるが、ラミナを確認したことから溝と判断した。

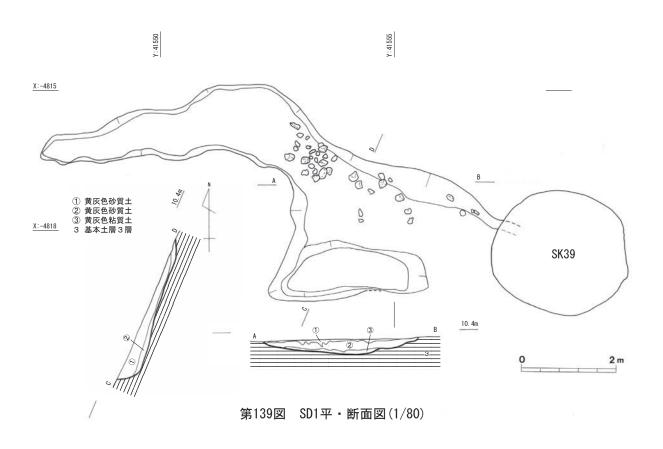




写真126 SD1完掘状況(東から)

SD1出土遺物(第140図、写真127、第64・65表)

399は白磁皿Ⅲ類である。見込みの釉を輸状に掻き取るが、重ね焼きの跡が残る。400は龍泉窯系青磁皿 I 類である。見込みに櫛による花文が描かれる。401~403は内湾する口縁部に鍔が付く滑石製石鍋である。401はしっかりとして張り出した鍔を持つ。鍔の下面まで煤が付着する。推定径は40cmである。402もしっかりとして張り出した鍔を持つ。口縁端部まで煤が付着する。推定口径は44cmである。403はしっかりとはしているが張り出しの小さな鍔を持つ。内面に煤

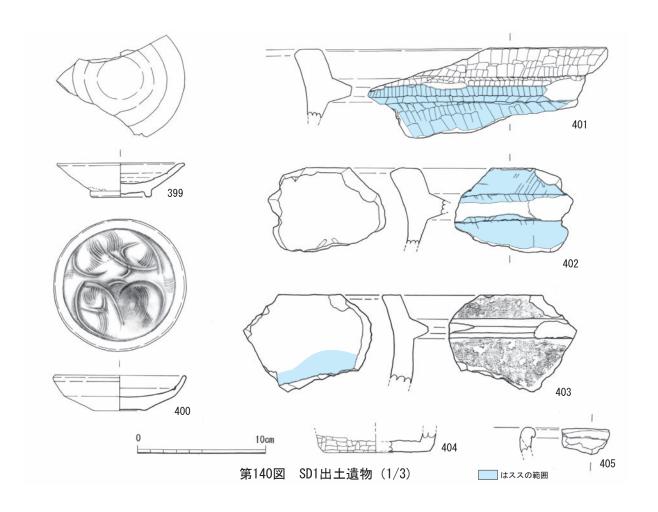




写真127 SD1出土遺物

の付着が見られることから鍋以外の転用も考えられる。推定口径23cm。404はミニチュアの石鍋で見られない。405は弥生時代の無文土器である。無文土器を除きる。無文土器を除きまり1の遺物は12世紀後半でまとまっている。

第64表 SD1出土土器観察表

図版番号	器種	如从		法量(cm)			調整	É	調	体出	14+	標去
凶似田り	位性	마기포	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	院以	加工	阻力
399	白磁 ⅢⅢ類	口縁部~体部	(10)	2.7	(4.6)	_	_	灰白色	灰白色	良好	石英	見込みの釉を輪状に掻き取るが重ね焼きの跡が残る
400	青磁ⅢⅠ類	完形	10.4	2.8	4	-	-	オリーブ黄色	オリーブ黄色	良好	長石 黒色粒子	龍泉窯系 見込みに櫛による花文
405	弥生土器 無文土器	口縁部	_	-	_	-	_	橙色	浅黄橙色	良好	長石 石英 角閃石 赤色粒子	弥生時代

第65表 SD1出土石鍋観察表

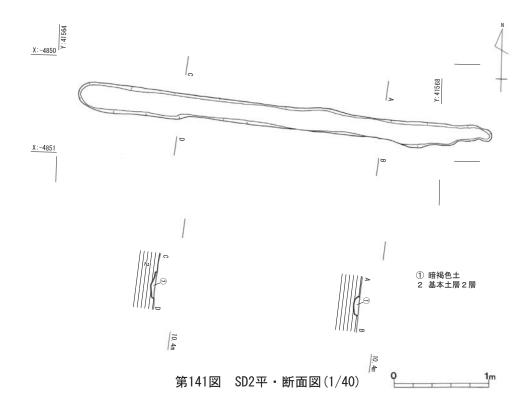
図版番号	器種	部位	法量(cm)			重量	調整		色調		備考
			口径	器高	底径	里里	外面	内面	外面	内面	1用行
401	鍔付石鍋	口縁部	(43.4)	(5.4)	_	455g	_	_	灰白色	灰白色	鍔の下面まで煤が付着
402	鍔付石鍋	口縁部	(44.0)	(6.0)	_	249g	横方位のケズリ	_	灰白色	灰白色	口縁端部まで煤が付着
403	鍔付石鍋	口縁部	(23.8)	(7.0)	_	251g	横方位のケズリ	_	灰白色	灰白色	内面に煤が付着、鍋以外の転用も考えられる
	ミニチュア石鍋	底部	_	(1.4)	8.4	56.7g	_	_	灰白色	灰白色	

SD2 (第141図、写真128)

小調査区②区8456グリッド第2層から検出した。全長4.5m、最大幅0.3mで東西方向に直線で伸び、最深0.1mを測る。埋土は暗褐色粘質土の単層である。遺物の出土がなかったので時期については不明である。

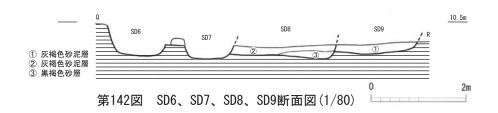


写真128 SD2完掘状況(東から)



SD6 (第142·145図)

小調査区③区8860グリッド第2層から確認した。全長(東一西)16m、最大幅1.5m+、最深0.4mで断面はコの字状を呈すると思われる。右岸に1~2段の石積みを持つ。出土遺物は無し。



SD7 (第142·143·145図、写真130)

小調査区③区8856・8860グリッド 第5層から検出した。全長(東一 西)26.0m、最大幅3.0m以上、最 深0.3mで断面は逆台形状を呈す る。埋土は拳大の円礫が全体に入 る砂層である。SD6に切られる。龍 泉窯系青磁椀が出土した。

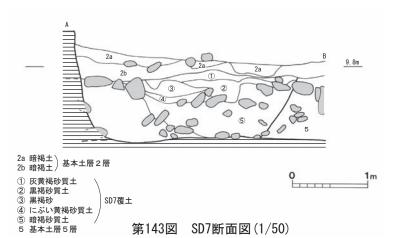




写真130 SD7完掘状況(北から)

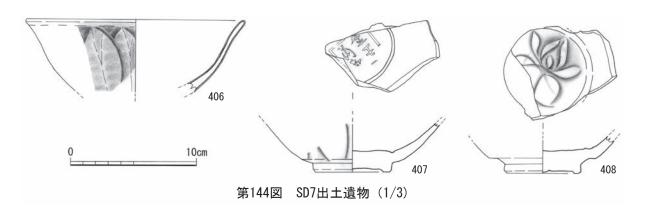




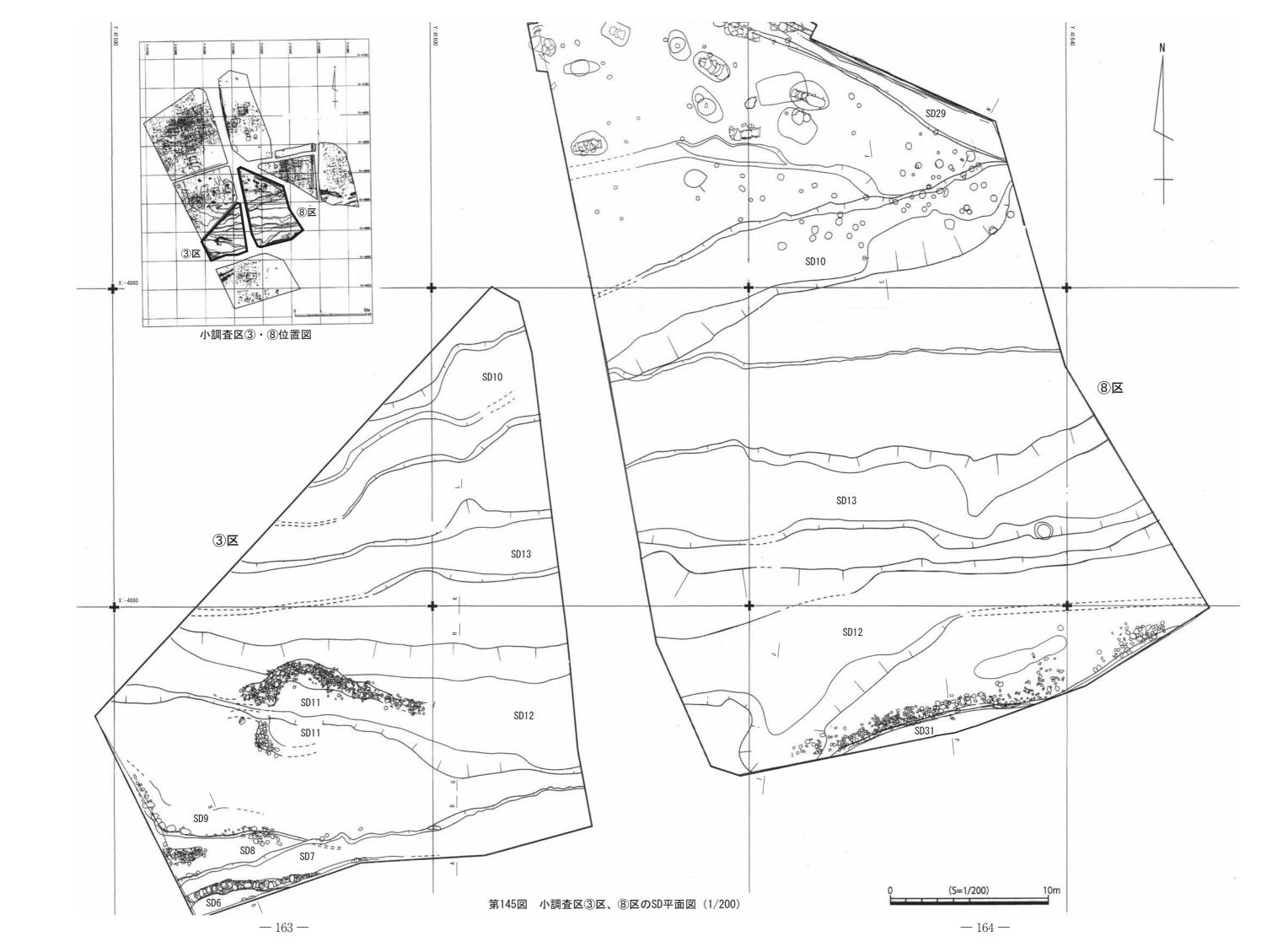
写真131 SD7出土遺物

SD7出土遺物(第144図、写真131、第66表)

406~408は龍泉窯系青磁椀である。406はII 類で、外面に鎬蓮弁文が描かれる。407もII類 で、外面に片彫りの蓮弁文が描かれ、見込に は「金玉満堂」の文字スタンプが押される。 408はI類で、見込みに片彫りの花文が描かれ る。SD7の埋没は12世紀後半~13世紀前半にか けてと思われる。

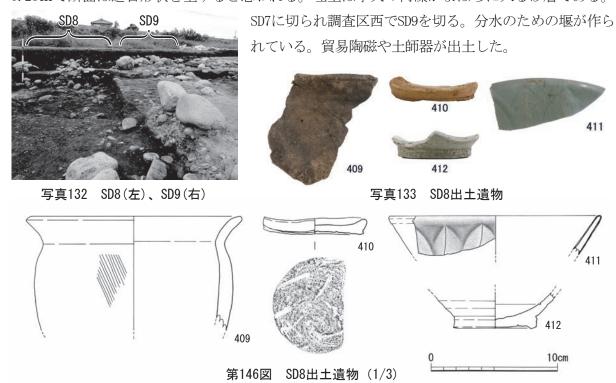
第66表 SD7出土土器観察表

図版番号	器種	部位	法量(cm)			調整		色調		焼成	胎土	備考
			口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	犹似	加工	開行
406	青磁 椀 Ⅱ類	口縁部	(17.2)	(5.6)	_	_	-	オリーブ灰色	オリープ灰色	良好	長石 黒色粒子	龍泉窯系 外面に縞蓮弁
407	青磁 椀 Ⅱ類	底部~体部	-	(3.9)	(5.8)	高台隆ヘラケズリ	ı	灰オリーブ色	暗オリーブ色	良好	長石	龍泉窯系 外面に片彫りの蓮弁 見込に「金玉満堂」
408	青磁 椀 [類	底部	_	(3.0)	5.6	高台隆ヘラケズリ	-	灰オリーブ色	灰オリーブ色	良好	長石 黒色粒子	龍泉窯系 見込に片彫りの花文



SD8 (第142·145図、写真132)

小調査区③区8858グリッド第2層から検出した。全長(東一西)8.5m、最大幅1.1m以上、最深0.25mで断面は逆台形状を呈すると思われる。埋土は拳大の円礫がまばらに入る砂層である。



SD8出土遺物(第146図、写真133、第67表)

409は土師器甕である。器壁が厚い体部から短い口縁部が外反する。外面はハケメ、内面はナデ調整が行われる。**410**は体部が直立に近く立ちあがる土師器小皿である。右回転の糸切りで切り離しの際に糸が浮き上げ底状を呈する。**411**は鎬蓮弁が施された龍泉窯系青磁椀Ⅱ類である。**412**は玉縁の口縁を持つ白磁椀Ⅳ類の底部である。410の小皿の年代からSD8の埋没は13世紀前半と思われる。

第67表 SD8出土土器観察表

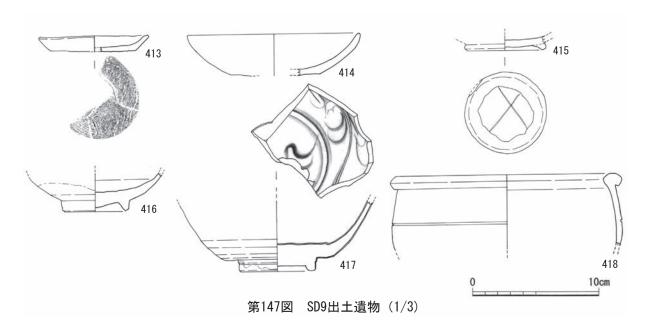
図版番号	器種	部位		法量(cm)		16	핲	色	調	焼成	胎土	備老
凶似留亏	命性	마깐	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	対ル	加工	1用行
409	土師器 甕	口縁部~体部	(17.0)	(9.0)	_	ハケメ	ナデ	灰黄褐色	灰黄褐色	良好	雲母 石英 長石 黒色粒子	
410	土師器 皿	口縁部~底部	8.2	1.25	5.7	_	指ナデ	橙色	にぶい橙色	良好	雲母 長石 赤色粒子	回転糸切り
411	青磁 椀 Ⅱ類	口縁部	(16.7)	(3.1)	_	_	_	明オリーブ灰色	明オリーブ灰色	良好	黒色粒子	外面縞蓮弁 龍泉窯系
412	白磁 椀 IV類	底部~体部	_	(2.8)	(5.6)	_	_	灰白色	灰白色	良好	長石	



写真134 SD9出土遺物

SD9 (第142・145図、写真132)

小調査区③区8858グリッド第2層から検出した。全長(東一西)5 m、最大幅1.5m、最深0.15mで断面は皿状を呈すると思われる。埋土は5cm大までの小礫が混ざる極粗粒砂層である。SD8に切られる。土師器、貿易陶磁が出土した。



SD9出土遺物(第147図、写真134、第68表)

413は土師器小皿である。切り離しは右回転の糸切りである。414は土師器杯である。体部は緩やかに内湾しながら口縁部へいたる。415はつぶれた貼り付け高台を持つ椀である。高台内には焼成前に記された「×」のヘラ記号が残る。416は白磁椀の底部である。見込みは丸みを持ち、内面体部との境に浅い段がある。灰白色の釉は薄く掛かり、外面の体部下半は露胎である。高台内は頭襟状となる。417は龍泉窯系青磁椀 I 類である。外面は無文で内面には片彫りの蓮華文が描かれる。418は陶器壷である。胎土は砂粒を含まない赤みを帯びた灰色で、内外面に緑を帯びた茶色の釉が掛かる。外に折り返した口縁端部は釉を掻き取り重ね焼きの目跡が残る。口縁部下に1条の沈線が巡る。最も新しいと思われる小皿からSD9の埋没は13世紀前半ごろと思われる。

第68表 SD9出土土器観察表

図版番号	器種	如从		法量(cm)		i	敦	1	色調	焼成	胎生	備考
凶似钳与	命性	마끄	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	が良	加工	限行
413	土師器 小皿	口縁部~底部	(8.4)	1.3	(6.6)	_	指ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	良好	精良 石英 長石 赤色粒子	回転糸切り
414	土師器 椀	口縁部~底部	(13.6)	3.2	(7)	_	_	橙色	にぶい橙色	良好	赤色粒子 長石	
415	土師器 椀	高台	-	(1.2)	6.4	_	_	にぶい黄橙色	灰黄褐色	良好	石英 長石	高台内に焼成前に記された「×」のヘラ記号が残る
416	白磁 椀	底部~体部	-	(3.0)	4.8	ヘラケズリ	_	灰白色	灰白色	良好	長石 黒色粒子	
417	青磁 椀 [類	底部	-	(5.5)	(6)	ヘラケズリ	_	灰オリーブ色	灰オリーブ色		長石	龍泉窯系 内面に片彫りの蓮華文
418	陶器 壺	口縁部~肩部	(18.2)	(5.8)	_	-	-	暗褐色	暗褐色	良好	砂粒を含まない赤みを帯びた灰色	口縁端部は釉を掻き取り重ね焼きの目跡が残る

SD10 (第148図、写真135·136)

⑧区~②区にかけて検出した。確認長(東─西)75m、幅6.0m、深さ1.2mを測る。東側(上流)は深いが、西側(下流)は浅くなる。

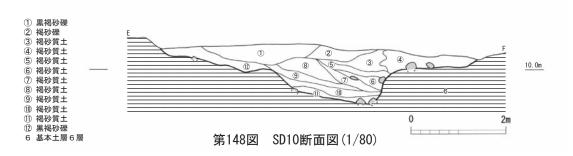




写真135 SD10検出状況®区(東から)



写真136 SD10断面®区(東から)

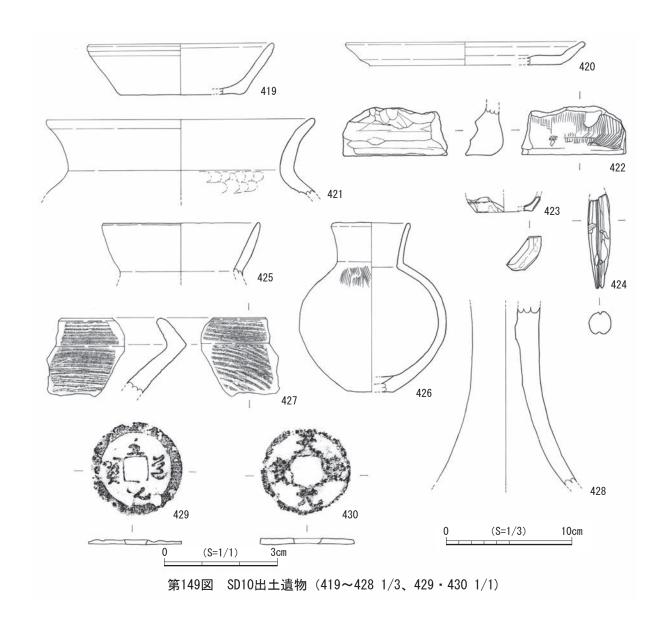


写真137 SD10出土遺物

SD10出土遺物(第149図、写真137、第69~72表)

419は土師器杯である。体部はほぼ直線で口縁部にいたる。切り離しは回転糸切りである。420は土師器皿である。体部はわずかに外反する。切り離しは回転へラきりである。421は甕である。内面の頸部には指頭痕が、体部には横方向の強いへラ削りを残す。外面には縦方向のハケメが見られる。422は移動式カマドの底部から体部の立ち上がり部である。内面には横方向の強いナデが、外面には縦方向の粗いハケメが施される。423は青白磁合子身である。型押しで作られ浅い高台が付く。白色の

胎に緑色の釉が厚く掛かる。外底は無釉露胎。424は滑石製の錘である。1条の深い溝が長軸方向に巡る。およそ1/3欠損している。425~427は弥生時代の土器である。425・426は長頸壷である。426には底部に穿孔が見られる。427は複合口縁壷の口縁部と思われる。内・外面にはハケメが残るが外面のハケメは幅が広く強く施されている。搬入土器か。428は高杯脚部である。429は「至道元寳」である。430は「天聖元寳」である。419の糸切り杯や423の青白磁合子からSD10の埋没は12世紀後半と思われる。



第69表 SD10出土土器観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)			製	Ē	調	焼成	胎士	備考
凶似留万	命性	메개	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面)优队	加工	順行
419	土師器 杯	底部~口縁部	(14.6)	(4)	(9.6)	_	指ナデ	橙色	橙色			回転糸切り
420	工 器 配土	底部~口縁部	(18.8)	1.8	(15)	_	指ナデ	にぶい黄橙色	橙色	良好	金雲母 精良 石英 角閃石	回転へラ切り
421	土師器 甕	口緣部~頚部	(21.1)	(6.0)	-	縦方向のハケメ	指頭痕 横方向のヘラケズリ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	赤色粒子 石英 角閃石	
423	青白磁 合子 身	体部~底部	-	(1.3)	(4.6)	-	_	明緑灰色	明緑灰色	良好		
425	弥生土器 長頸壺	口縁部	(12.3)	(4.3)	-	_	ı	にぶい黄褐色	黒褐色	良好	石英 長石	
426	弥生土器 長頸壺	ほぼ完形	6.2	13.3	3.4	ハケメ	ケズリ	橙色	橙色	良好	細かい 長石 石英 角閃石 赤色粒子	底部に穿孔
427	弥生土器 複合口縁壺	口縁部~頚部	-	(5.9)	-	幅が広く強いハケメ	ハケメ	橙色	橙色	良好	角閃石 長石 石英 雲母	搬入土器か
428	弥生土器 高杯	脚部	-	(14.0)	-	-	_	橙色	橙色	良好	赤色粒子 石英 長石 角閃石	

第70表 SD10出土土製品観察表

図版番号	型種	却从		法量(cm)		i a	整		色調	体出	14	准虫
四瓜田力	谷 程	마기꼬	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面)九灰	WIT	排行
422	移動式カマド	底部	_	(3.8)	_	縦方向の粗いハケメ	横方向の強いナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	石英 長石 角閃石	

第71表 SD10出土石製品観察表

図版番号	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	備考
424	石錘	滑石	74	17	18	33.34g	1条の深い溝が長軸方向に巡る 1/3欠損

第72表 SD10出土金属製品観察表

図版番号	器種	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	備考
429	貨幣	銅	25	24	1	2.74g	宋銭「至道元寶」
430	貨幣	銅	23	24	1.5	2.47g	北宋銭「天聖元寶」(1023年初鋳)

SD11 (第145・150図、写真138)

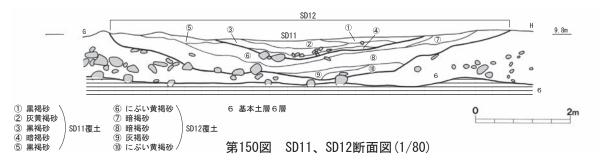




写真138 SD11・SD12 断面®区(東から)

小調査区③区8858グリッド第6層から検出した。確認長(東一西)47.0m、最大幅8.0m、最深0.7mである。土層断面では、SD12を切ってSD11が流れているのが分かるが、平面での確認は十分にはできなかった。古代の遺物が多く出土した。

SD11出土遺物(第151図、写真139、第73表)

431は黒色土器A類の椀である。高台は外に強く張り出し、体部は大きく膨らみながら口縁部にいたる。内面のヘラミガキの単位や方向は摩滅のために不明。

432は緑釉陶器椀口縁部である。灰白色の土師質の胎土に薄緑色の釉が薄く掛かる。**433**は陶器片である。外面には鉄絵が描かれ内面は露胎である。近世陶器の混入の可能性もある。431の椀よりSD11の埋没は11世紀初頭と思われる。

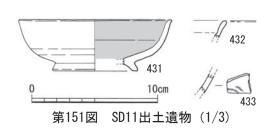




写真139 SD11出土遺物

第73表 SD11出土土器観察表

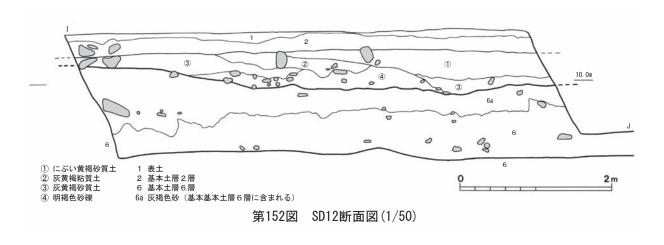
図版番号	器種	如片		法量(cm)			双	É	調	焼成	胎土	備考
凶似留亏	谷性	하고	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	洲坝	加工	順 行
431	黒色土器A類 椀	口縁部~底部	(11.9)	4	(6.6)	_	ヘラミガキ	浅黄橙色	黒色	良好	石英	
432	緑釉陶器 椀	口縁部	-	(1.3)	-	-	-	明オリーブ灰色	明オリーブ灰色	やや良好	灰白色の土師質 長石	
433	陶器片	不明	_	(1.5)	_	_	_	淡黄色	にぶい黄褐色	良好	赤色粒子	外面には鉄絵が描かれる



写真140 SD12完掘®区 (東から)

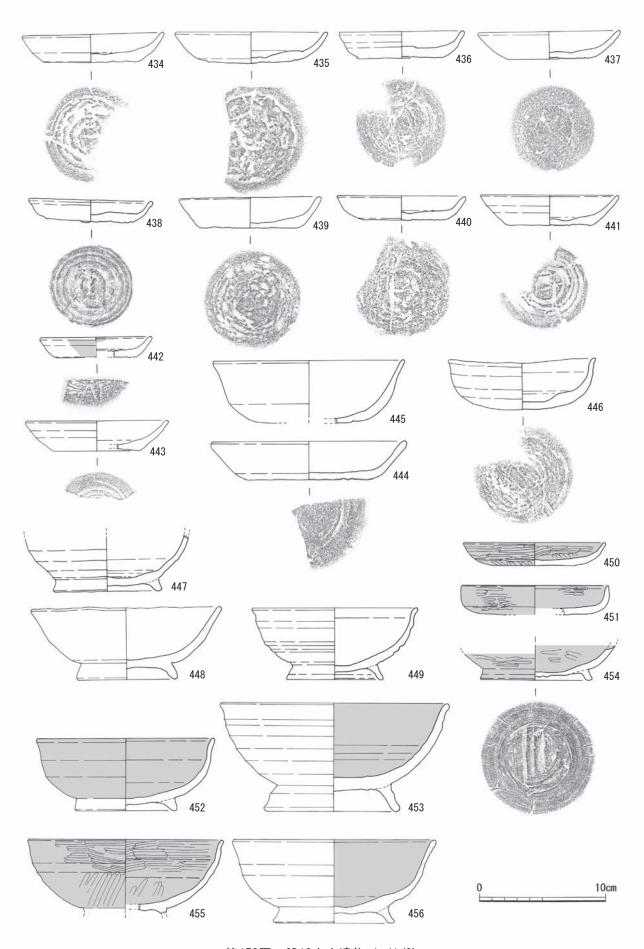
SD12 (第145・152図、写真 138・140)

小調査区③区8858・8860グリッド、⑧区8862グリッド第6層から検出した。確認長(東一西)47.0 m、最大幅8.0m、最深0.7mである。SD11に切られる。古代の遺物が多く出土した。

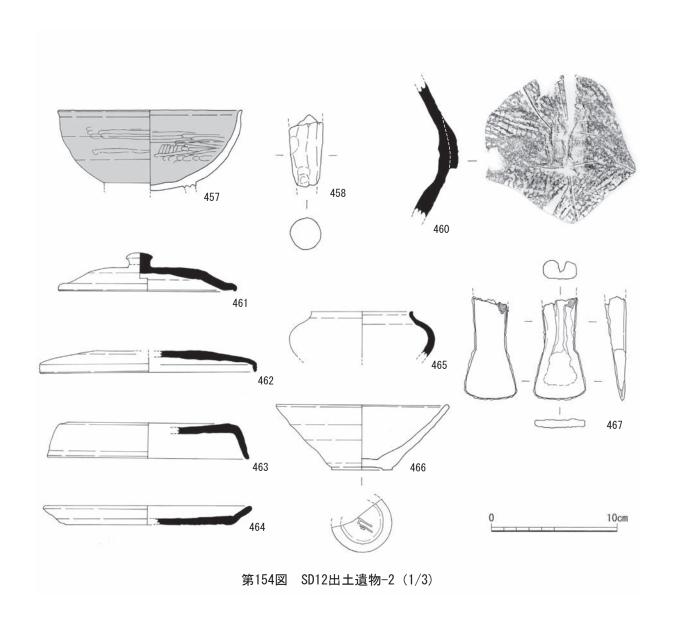


SD12出土遺物 (第153・154図、写真141・142、第74~76表)

434~444は土師器の杯と皿である。434は体部が内湾しながら口縁部にいたる。切り離しは右回転のヘラ切りで板状圧痕が残る。435は体部が内湾しながら口縁部にいたる。口縁部には煤痕が付く。切り離しは右回転のヘラ切りである。436は内湾しながら立ち上がり口縁部は外反する。切り離しは右回転のヘラ切りである。437は体部がわずかに内湾しながら口縁部にいたる。切り離しは右回転のヘラ切りである。438は、器高の低い体部が内湾しながら口縁部にいたる。439は体部がほぼ直で口縁部にいたる。切り離しは右回転のヘラ切りである。褐斑を多く含む。440は体部がわずかに内湾しながら口縁部にいたる。切り離しは右回転のヘラ切りで板状圧痕が残る。441は体部がほぼ直で口縁部にいたる。切り離しは白回転のヘラ切りである。442は体部がほぼ直で伸び口縁部でわずかに外反する。切り離しは回転ヘラ切りである。外面に煤が付着する。443は体部がわずかに内湾しながら口縁部にいたる。切り離しは回転ヘラ切りである。445・446は土師器椀である。445は内湾した体部が口縁部でわずかに外反する。切り離しは回転ヘラ切りである。446は45と器形は似るが一回り小型である。切り離しは回転ヘラ切りである。447~449は高台付きの



第153図 SD12出土遺物-1 (1/3)



施である。447は体部が薄く仕上がり、ていねいに作出された高台が短く外に張り出す。高台内には板状圧痕がわずかに残る。448は内湾した体部がほぼ直で口縁部にいたる。449は丸みを持つ体部で口縁部はわずかに外反する。太くがっしりした高台がていねいに貼り付けられる。450~457は黒色土器である。450・451はB類皿である。450の底部にはミガキが施されず回転へラ削り痕が残る。451は体部がほぼ直に立ち上がる。452~457は黒色土器椀である。452はB類で、丸みを持つ体部に口縁部はわずかに外反する。454はB類で、高台内に回転へラ切り痕と板状圧痕が残る。内外面に強いハケメが残る。455はB類で、丸みを持つ体部は口縁部で外反し高台は高く外に張り出す。456はA類で、丸みを持つ体部が口縁部でわずかに外反する。458は円柱状の土製品である。両端が欠損しているが、径の大きいほうが上部になるものと思われる。脚付き鍋の脚部か。460~465は須恵器である。460は壷の肩部である。凸帯状の耳が付く。焼成が甘く灰白色の軟質で、外面には格子タタキ痕が残る。461はボタン状の摘みが付く須恵器杯蓋である。462も杯蓋である。中心から外



写真141 SD12出土遺物-1



写真142 SD12出土遺物-2

に向かい半分まで右回転のヘラケズリが施される。463は壷の蓋である。天井部外面には全面に右回転のヘラケズリが施される。464は皿である。底部外面は回転ヘラ切り痕が残る。465は短頸の小壷である。466は初期高麗青磁椀 I 類である。灰緑色の精緻な胎にオリーブ色の釉が薄く掛かる。体部はほぼ直線で伸び口縁部に至る。高台は輪状高台で小さな見込みは一段凹む。全面施釉後畳付の釉を掻きとっているが高台内に「コ」字状の釉の掻き取りが見られる。467は袋状鉄斧である。袋部に木質が残る。

小皿や椀の年代からSD12の埋没は10世紀代と思われる。

第74表 SD12出土土器観察表

mic v o	00.15	An II.		法量(cm)		i	敖	1	iii	14.44	86.1	H++
図版番号	器種	部位	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	焼成	胎土	備考
434	土師器 皿	口縁部~底部	(11.2)	2.3	(7.4)	_	指ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	良好	赤色粒子 長石 雲母 角閃石	回転ヘラ切り 板状圧痕
435	土師器 皿	底部~口縁部	(12)	2.5	(6.8)	-	指ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	赤色粒子 長石 石英 角閃石	回転ヘラ切り 口縁部に煤痕
436	土師器 皿	底部~口縁部	(10)	2.1	(6.9)	-	-	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	石英 長石 角閃石 赤色粒子	回転ヘラ切り
437	土師器 皿	ほぼ完形	(11.2)	2.2	6.4	_	指ナデ	橙色	橙色	良好	石英 赤色粒子 雲母 長石	回転ヘラ切り
438	土師器 皿	底部~口縁部	(9.8)	1.9	6.5	_	指ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	石英 雲母 長石 角閃石 赤色粒子	回転へラ切り
439	土師器 皿	ほぼ完形	(11.2)	2.5	7.5	_	指ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	良好	赤色粒子 雲母 長石	回転ヘラ切り 褐斑を多く含む
440		底部~口縁部	(10.2)	1.9	(6.5)	_	指ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	長石 石英 角閃石 赤色粒子	回転ヘラ切り 板状圧痕
441	土師器 皿	底部~口縁部	(11)	2.4	(6.6)	_	指ナデ	にぶい橙色	灰白色	良好	赤色粒子 石英 角閃石	回転へラ切り
442	土師器 皿	口縁部~底部	(8.6)	1.6	(6.2)	_	指ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	長石 石英 角閃石 赤色粒子	回転ヘラ切り 外面に煤が付着
443	土師器 杯	口縁部~底部	(11.3)	2.4	(6.6)	_	指ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	雲母 赤色粒子 石英 長石	回転ヘラ切り
444	土師器 杯	口縁部~底部	(15.4)	3	(9.2)	_	指ナデ	にぶい黄橙色	にぶい橙色	良好	角閃石 赤色粒子 石英 長石	回転へラ切り
445	土師器 椀	口縁部~底部	(15)	4.9	(8)		指ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	良好	長石 石英 赤色粒子 角閃石	回転へラ切り
446		底部~口縁部	(11.6)	(4)	(4.6)	_	指ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	赤色粒子 長石 雲母 石英	回転へラ切り
447		底部~体部	_	(4.4)	8.3	_	指ナデ	浅黄橙色	にぶい橙色	良好	雲母 石英 長石 精良	高台内に板状圧痕
448		ほぼ完形	(15)	5.8	7.6		指ナデ	明褐灰色	明褐灰色	良好	長石 雲母	底部に鉄分付着
449		口縁部~底部	(13.0)	5.7	(7.6)		指ナデ	灰白色	灰白色	良好	長石 石英	
450		底部~口縁部	(11.2)	1.8	(6.4)		ミガキ	黒色	黒色	良好	石英	
451		体部~底部	(11.6)	2.3	(6.0)	31/4	ミガキ	黒色	黒色	良好	長石	
452	黒色土器B類 椀	口縁部~底部	(14)	5.7	(8)	-	ミガキ	黒色	黒色	良好	石英 角閃石 赤色粒子 雲母	
453		口縁部~口縁部	(17.8)	8.6	10.4	-	指ナデ	灰白色	黄灰色	良好	長石 石英	
454		底部~体部	-	(2.8)	(8.5)	337	3/1 1	黒褐色	褐灰色	良好	雲母 石英 長石	
455		口縁部~底部	(15.2)	(5.9)	(6.4)		ミガキ	褐灰色	黒色		石英	
456		口縁部~底部	(16.1)	6.6	(9.2)		指ナデ	褐灰色	黒褐色	良好	雲母 石英	
457	黒色土器B類 椀	口縁部~底部	(14.4)	6.4	(7)	337	ミガキ	黒色	黒色	良好	石英 長石 雲母	
459	欠	_	_	_	-	_	-	_	_	-	_	_
460		肩部	-	10.7	-	格子タタキ	ナデ 指頭痕	灰白色	灰黄褐色	不良	長石 赤色粒子	
461		蓋つまみ~端部	(14.0)	3	-	-	-	灰白色	灰白色	不良	長石 石英	
462		蓋天井部~端部	(17.1)	1.7	-	ヘラケズリ	-	灰黄褐色	灰黄褐色	やや良好	長石 石英 黒色粒子	
463		蓋天井部~端部	(15.7)	2.8	(12.6)	ヘラケズリ	_	灰黄色	灰黄色	やや良好	粗雑 石英 長石	
464		口縁部~底部	(16.4)	1.5	(12.8)	_	_	灰白色	灰白色	良好	石英 長石 黒色粒子	
465		口縁~肩部	(8.0)	(3.6)	_	_	_	灰色	灰色	良好	長石 石英 黒色粒子	
466	高麗青磁 [類 椀	口縁部~底部	(13.6)	5.2	(4.8)	ヘラケズリ	_	灰オリーブ色	灰オリープ色	良好		

第75表 SD12出土土製品観察表

図版番号	最大長 (cm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	色調	焼成	胎土	備考
458	(5.7)	(2.7)	(2.5)	にぶい黄橙色	良好	長石 角閃石	脚付き鍋の脚部か?

第76表 SD12出土金属製品観察表

図版番号	器種	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	備考
467	袋状鉄斧	鉄	8.2	4.6	1.5	72.68g	袋部に木質が残る

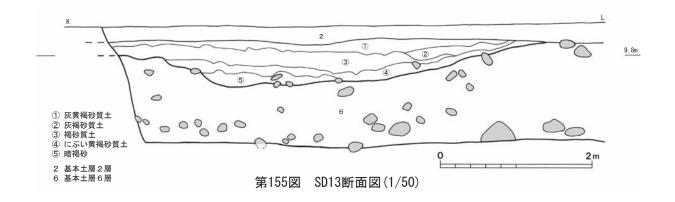




写真143 SD13断面 (東から)



写真144 SD13出土遺物

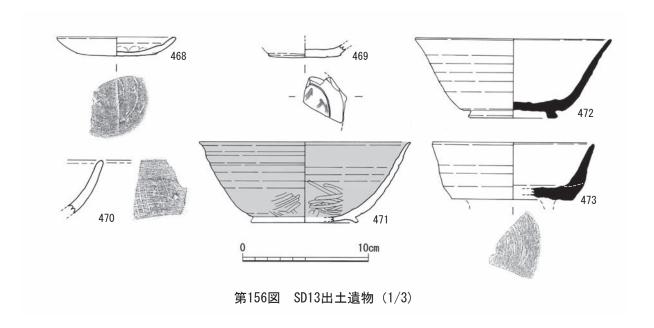
SD13 (第145·155図、写真143)

小調査区③区8658・8660グリッド、⑧区8660・8662グリッドから検出した。確認長(東一西)58.0m、最大幅6.5m、深さ0.8mを測る。埋土は砂層からなり、黒色土器片・土師器片・貿易陶磁片・須恵器片が出土した。

SD13出土遺物(第156図、写真144、第77表)

468は土師器小皿である。切り離しは右回転のヘラ切りで板状圧痕が残る。内底には強いナデ痕が見られる。469・470は杯である。469は回転ヘラ切りの底部に墨書が残る。文字は不明である。470は体部に外面に格子状の線刻が見られる。471は黒色土器B類椀である。膨らみを持った体部は口縁部でわずかに外反する。内外面ともに横位のミガキが見られる。472・473は須恵器杯である。472の体部は直線的に開き、断面四角の太い高台が貼り付けられる。底部外面には右回転のヘラ切り痕が残るが立ち上がり部分には回転ヘラ削りが施される。473は膨

らみを持つが直立に近い体部で、底部との境がはっきりとしている。端部よりやや内側に高台が貼り付けられたが、接合箇所からきれいに外れてしまっている。外れた箇所を見ると、高台と底部の接合面積を広く取るために貼り付け部分に3条の溝を付けている。468小皿や471黒色土器椀よりSD13の埋没は11世紀代と思われる。



第77表 SD13出土土器観察表

図版番号	器種	却从		法量(cm)		ā	整	É	iii	焼成	胎土	備考
凶似钳り	位性	마끄	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	犹从	ND-T	排行
468	土師器 小皿	底部~口縁部	(9.3)	1.5	(6.3)	-	ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	良好	雲母 長石 石英 (精良)	回転へう切り 板状圧痕
469	土師器 杯	底部	-	(1.0)	(5.7)	-	_	浅黄橙色	にぶい橙色	良好	角閃石 石英	回転へう切り 底部に墨書(文字は不明)
470	土師器 杯	底部~口縁部	_	(4.2)	-	-	指ナデ	にぶい褐色	明褐灰色	良好	雲母 長石	外面に格子状の線刻
471	黒色土器B類 椀	口縁部~底部	(16.6)	6.4	(8.2)	横位のミガキ	横位のミガキ	黒色	黒色	良好	雲母 石英	
472	須恵器 杯	口縁部~底部	(15.2)	6.3	(6.6)	回転ヘラケズリヘラ切り	-	赤灰色	灰色	やや良好	長石	回転へう切り
473	須恵器 杯	口縁部~底部	(12.7)	4.45	(9.4)	_	-	灰色	灰色	不良(器表:還元炎 胎:酸化炎)	長石 赤色粒子 黒色粒子	

SD16 (第157図、写真145·146)



写真145 SD16断面(北から)

小調査区⑤区7858・8058グ リッド第2層から検出した。確 認長(東一西)40m、確認幅1 m、深さ0.4mを測る。断面形 は逆台形やU字形を呈する。 埋土は、しまりの強い褐色砂 質土で水の流れにより埋没し ていったと考えられる。現在 も使われている水路と重な る。



第157図 SD16平·断面図(平面図1/200、断面図1/50)

第78表 SD16出土土器観察表

四年美旦	器種	如丛		法量(cm)		illia.	敦	É	調	体战	¼ ∔	准
凶版番号	位性	即江	口径	岩山	底径	外面	内面	外面	内面	焼灰	加工	順考
474	土師器 甕	口縁部~体部	(22.6)	(5.0)	_	ハケメ	ヘラケズリ	にぶい褐色	にぶい橙色	良好	角閃石 赤色粒子 雲母 石英 長石	

SD17 (第117図、写真148)

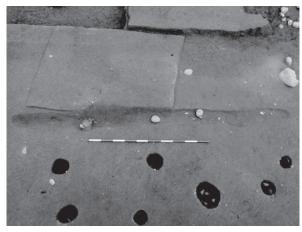


写真148 SD17遺物出土状況(北から)

小調査区⑤区7860グリッド第3層から検出した。全長(東一西)5.0m、最大幅0.5m、深さ10cmを測る。断面形は浅い皿状を呈する。埋土は、炭化物粒、焼土粒を含む黄褐色粘質土である。SB7南廂の柱筋に並行することからSB7に伴うものと考える。

SD17出土遺物(第159図、写真149、第79表)

475は土師器杯である。体部は緩やかに内湾しながら口縁部にいたる。切り離しは右回転のヘラ切りである。476は長胴壷の底部である。体部内面には粘土紐の接合痕が残る。また、外底部には同心円文が見られる。9世紀後半の荒尾産須恵器と思われる。遺物は少ないが、SD17の埋没は9世紀後半と思われる。

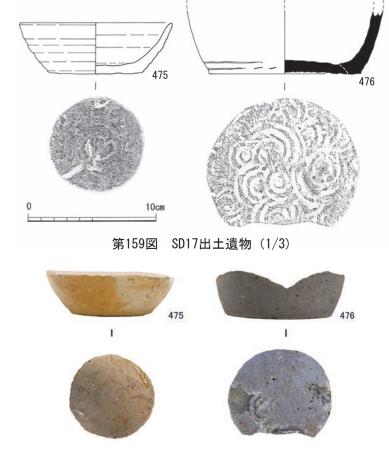


写真149 SD17出土遺物

第79表 SD17出土土器観察表

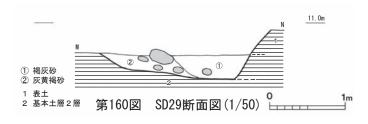
図版番号	器種	如件		法量(cm)		調	敦 正	色	調	体战	44	准 来
四原田与	位性	리기고	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	洲瓜	加工)現行
475	土師器 杯	底部~口縁部	(11.9)	4.05	7.2	ı	-	浅黄橙色	にぶい橙色	良好	赤色粒子 角閃石 長石 石英	回転へラ切り
476	須恵器 長胴壺	底部~体部	-	(5.0)	(12)	-	_	灰色	灰色	良好	長石 黒色粒子	外底部に同心円文 荒尾産の製品

SD18 (第117図、写真150)



写真150 SD18完掘状況(西から)

小調査区⑤区7860グリッド第3層から検出した。全長(北一南)4.8m、最大幅0.4m、深さ5cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。埋土は、炭化物粒、焼土粒を含む暗い褐色粘質土である。SB7東廂の柱筋に並行することからSB7に伴うものと考える。主軸方向がSD17の主軸方向と直交する。須恵器、土師器の小片が出土したが小片のために図示していない。SD18はSD17、SB7と一連の遺構と考え、埋没はこれらと同じ9世紀代後半と思われる。



SD29 (第145·160図、写真151)

小調査区®区8462・8464グリッド3 層から検出した。調査区の北端にあた り、全形については確認できなかっ た。確認長(南東-北西) 24.5m、確

認幅2.1m、深さ0.32mを測る。北側の肩が調査区外にあるが断面形は皿状を呈すると思われる。貿易陶磁・石鍋片・青花皿片が出土した。現在の水路と重なる。 ⑤区SD16に繋がる。



写真151 SD29完掘状況(東から)

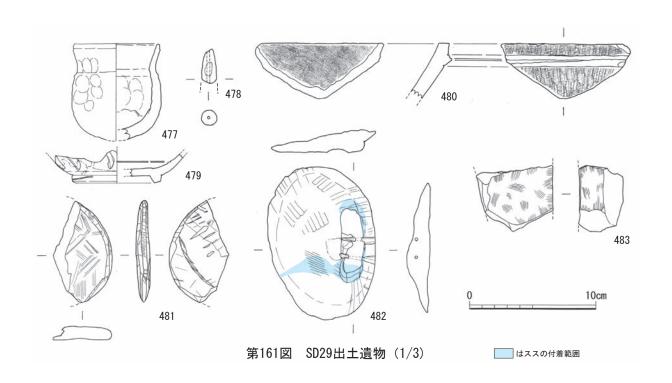
SD29出土遺物(第161図、写真152、第80~83表)

477は手づくねによるミニチュアの甕である。内外面に指頭痕が残る。478は土錘である。1/2残存。479は灰白色の胎土に水色の釉が掛かる同安窯系青磁椀である。外面にはヘラによる幅広の縦の沈線が施され、見込みは輪状に釉が掻き取られる。480は硬質の滑石で作られた石鍋である。ほぼ直線で開く体部に、断面が三角で凸帯状になった短い鍔が付く。口縁部は鍔を境に直立する。内面は使用により平滑になっている。推定口径は20cmである。481は滑石製の円盤状の製品である。被熱により赤変していることから、火を使った度重なる使用が考えられる。482は滑石製の石鍋の補修具である。挿入部には並行する2本の穿孔が見ら



写真152 SD29出土遺物

れる。穿孔は挿入部の最下端にあることから器壁部上面にも溝が彫られている。器壁部上面右半分が緩やかな凸状に作られていること、器壁部上面に煤が付着し下面には煤の付着が見られないことから、石鍋底の端にできた穴に内側から挿入し補修をしたと思われる。483は砂岩製の砥石である。表面と側面の2面が使用されている。480の石鍋からSD29は14世紀まで機能をしていたと思われる。



第80表 SD29出土土器観察表

図版番号	哭挿	如从		法量(cm)		調	粋	色	調	体成	₩+	准去
四瓜田勺	价性	마기꼬	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	300,14%	加工	川 行
477	ミニチュア甕	口縁部~体部	(6.6)	(7.6)	_	指頭痕	指頭痕	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	石英 赤色粒子 長石	
479		底部~体部	-	(2.3)	(7)	ı	ı	明緑灰色	にぶい黄橙色	良好	灰白 黒色粒子	同安窯系見込みは輪状に釉が掻き取られる

第81表 SD29出土土錘観察表

図版番号	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	色調	焼成	胎土	備考
478	27	12	12.5		にぶい橙色	良好	長石	1/2残存

第82表 SD29出土石鍋観察表

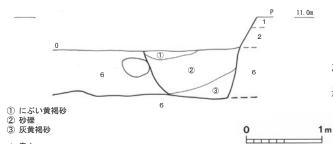
回胎来早	器種	部位		法量(cm)		調	整	色	調	農 妻
凶껪留亏	6年	마마	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	1441万
480	鍔付き石鍋	口縁部~鍔	(20)	(4.4)	_	_	_	灰白色	灰白色	

第83表 SD29出土石製品観察表

図版番号	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	備考
481	石鍋 補修具	滑石	(7.7)	(4.6)	(1.1)	175g	器壁部上面右半分が凸状、内面からの挿入用と思われる
482	石鍋 再加工品	滑石	(11.8)	(8.3)	(1.8)	50g	円盤状の製品 被熱により赤変、火を使った使用が考えられる
483	砥石	砂岩	52	60	35	135g	表面と側面の2面が利用されている



写真153 SD31断面(西から)



SD31(第145・162図、写真153)

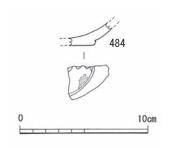
⑧区8862・8864グリッドから検出した。 調査区の南端にあたり、全形については確 認できなかった。確認長(東一西)23.5 m、確認幅1.2m、深さ0.25mを測り断面形 は皿状を呈する。

SD31出土遺物(第163図、写真154、第84表)

484は越州窯系青磁椀 I 類の底部片であ る。蛇ノ目高台で全面施釉後畳付の釉を削 る。畳付には目跡が残る。

遺物の年代は9~10世紀の年代が充てられ る。しかし、SD31はSD6、SD7に繋がると思わ れることから、SD31の年代は12世紀~13世 紀前半と考えたい。





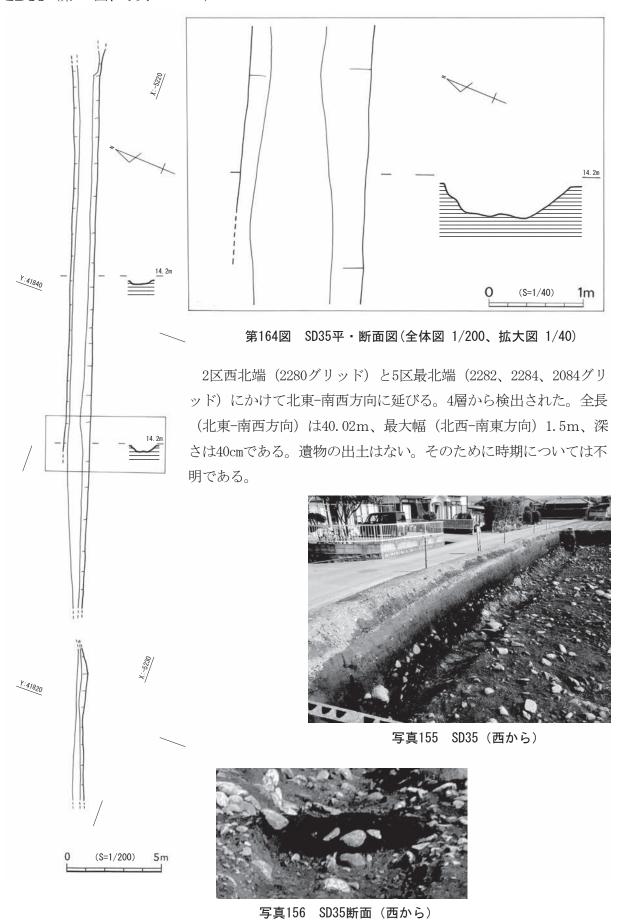
第163図 SD31出土遺物 (1/3)



写真154 SD31出土遺物

第84表 SD31出土土器観察表

図版番号		如抗		法量(cm)		i	整	1	調	体成	14+	准
凶似钳与	·	하기보	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	焼成	WIT	順考
484	青磁 椀 [類	底部~体部	_	(2.0)	(5.2)	-	-	灰オリーブ色	灰オリープ色	良好	灰黄 石英	越州窯系 蛇ノ目高台 畳付けに目跡



— 183 —

(註1) 補修具の部位名称については 2007松尾秀昭「石鍋の補修具とは」『西海考古第7号』による。 右図は同書から引用した。

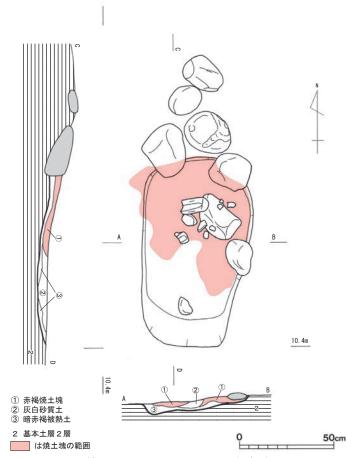


滑石製石鍋 補修具の部位名称

⑤鍛冶遺構(SI)

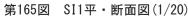
TAK201202調査区の古代~中世で報告する鍛冶遺構は、全部で2基である。

SI1 (第165図、写真157·158)



②区8658区2層から検出した。長軸(北-南)0.75m、短軸(東-西)0.58mの隅丸方形で、最深0.14mである。北には北東側1/2に炭化物を含む焼土が充填する。周囲には径20cmほどの円礫が配置され一部は被熱している。これらの円礫周囲の埋土は、炭化物を含む焼土が充填することから遺構北側が火床であったと思われる。

焼土内および周辺からは羽口片、 鉄滓が出土したが詳細な時期が分かる遺物は出土しなかった。炭化物や 焼土粒は、火床と思われる位置から 南へ1m、東西0.75mの範囲で広がっている。



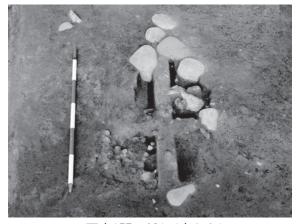
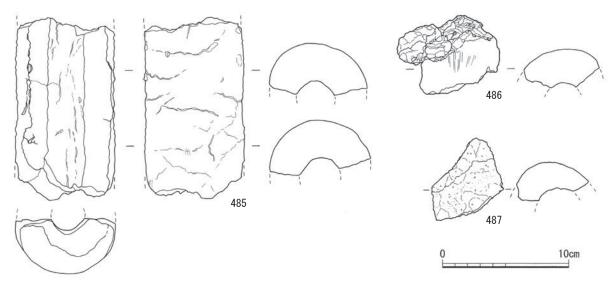


写真157 SI1 (南から)



写真158 SI1遺物出土状況(西から)

SI1出土遺物(第166図、写真159、第85表)



第166図 SI1出土遺物 (1/3)



485~487は土製の鞴羽口である。 いずれも小礫を含まない精選された 砂質の胎である。485は断面の粘土 紐接合痕から、円柱の芯に粘土板を 2段に巻き付けて成形していること が分かる。先端に近い部位であった ために、被熱により外面が灰色に変 色している。486は先端部にあたり 表面が灰黄に変色し硬化している。 先端にはスラグが付着している。 487は先端に近い部位のために灰色 に変色し硬化している。

第85表 SI1出土鞴羽口観察表

図版番号	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	色調	焼成	胎土	備考
485	143	79	43	黒褐色 浅黄橙色	やや不良	石英	
486	62	80	28	灰黄色 明黄褐色	やや不良	長石	スラグ付着
487	65	56	30	灰色 灰赤色	やや不良	長石	

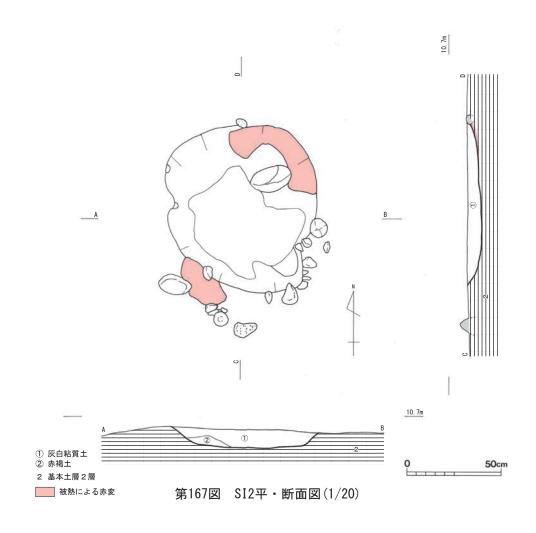
SI2 (第167図、写真160)



写真160 SI2 (南から)

⑧区8460グリッド2層から検出した。 長軸(北-南)0.88m、短軸(東-西) 0.8mの円形で、最深0.1mである。南 側に焼土や灰を含む埋土が広がる。北 東側と南西側の床面が被熱で硬化して いる。

遺構からの遺物の出土はなかったが 包含層より羽口の小片が出土した。詳 細な時期は不明である。



⑥土坑(SK)

TAK201202調査区の古代~中世で報告する土坑は、全部で23基ある。

SK5 (第168図、写真161)

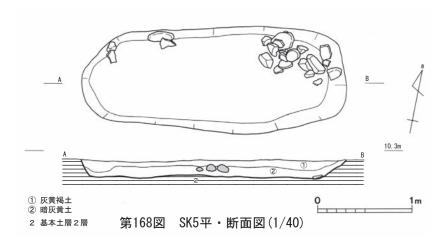




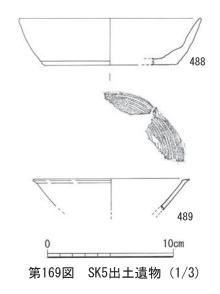
写真161 SK5 (南から)

小調査区①区8056グリッド第2層から検出した。長軸2.8m、短軸1.1mの隅丸方形で、深さは0.3mである。埋土は2層に分層でき、下層は微細な焼土粒を全体に含む。土師器甕片、白磁椀片、青磁椀片、陶器壺片が出土した。実測可能な土師器杯と白磁椀を図示した。

SK5出土遺物 (第169図、写真162、第86表)

488は土師器杯である。回転糸切り痕が残る 底部からわずかに内湾しながら立ち上がる。

489は端部が嘴状に尖る白磁口縁部である。杯の年代よりSK5は13世紀代と思われる。





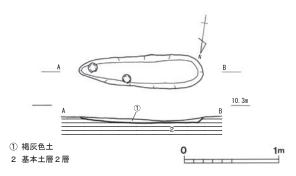
第86表 SK5出土土器観察表

図版番号	哭挿	如从		法量(cm)			悪整	色調		牌式	胎土	備考
凶似钳与	价性	心心	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	焼灰	加工	调行
488	土師器 杯	体部~底部	(14.4)	3.7	(10.4)	ı	ı	橙色	橙色	良好	精良	回転糸切り
489	白磁 椀	口縁部~体部	(12.4)	(2.5)	-	_	_	灰白色	灰白色	良好		

SK8 (第170図、写真163)

小調査区①区8054グリッド第2層から検出した。長軸1.3m、短軸0.3mの楕円形で、深さは0.05 mである。

ほぼ完形の土師器杯が2点出土した。立ち上がりが5cmであることから、削平を大きく受けていると思われる。出土遺物からSK8の時期は12世紀前半と思われる。



第170図 SK8平・断面図(1/40)



写真163 SK8半截状況(北から)

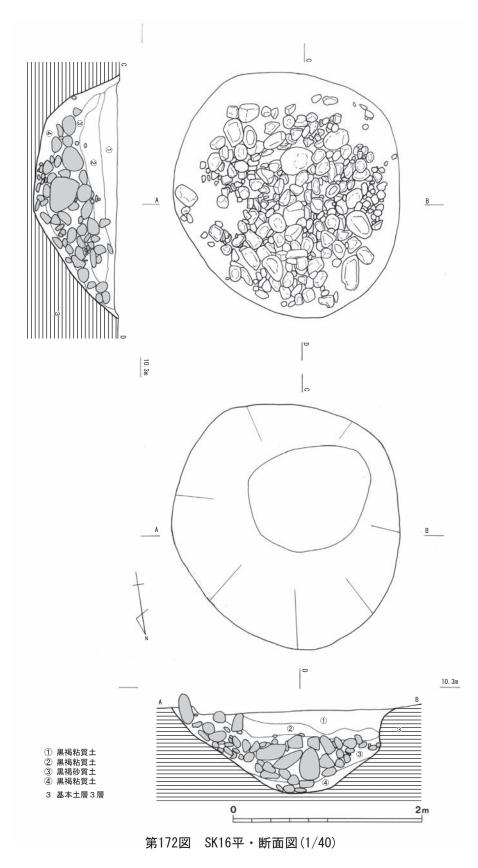
SK8出土遺物 (第171図、写真164、第87表)

490・491は口縁部をわずかに欠く土師器小皿である。いずれも切り離しは右回転のヘラ切りで 板状圧痕が見られる。内面にはナデ痕が残る。



第87表 SK8出土土器観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)			融	色	ii	焼成	RA+	備考
凶似钳与	命性	bhix	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	沈以	加工	源 行
490	土師器 小皿	ほぼ完形	(8.95)	1.1	6.6	-	ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	良好	精良	回転へラ切り 板状圧痕
491	土師器 小皿	ほぼ完形	(8.8)	1.2	6.2	-	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	精良	回転へう切り 板状圧痕



SK16(第172図、写真 165)

小調査区①区8056グ リッド第3層から検出 した。長径2.7m、短径 2.5mの楕円形で、深さ は0.9mである。下部に は、人頭大までの円礫 が密に混入する。上部 の埋土には土器片や炭 化物を含む。

SK16出土遺物(第173 図、写真166、第88~91 表)

492は土師器杯であ る。底径は小さく、内 湾しながら立ち上がる 体部は口縁部でわずか に外反する。切り離し は右回転の糸切りで内 面には煤痕が全面につ く。豊前系の杯と思わ れる。493は土師器小皿 である。切り離しは回 転へラ切り。494は瓦器 皿である切り離しは回 転糸切り。495は白磁皿 VI類である。496は白磁 椀IV類である。497は鍔 付き石鍋である。内湾 する口縁部にしっかり した鍔が付く。498は滑 石製の石鍋の補修具で

ある。器壁部が欠けており挿入部のみになっている。挿入部も穿孔部分が欠ける。石鍋の鍔部の再利用と思われる。**499**は不明鉄製品である。土師器杯、小皿、石鍋からSK16の年代は12世紀中頃と思われる。

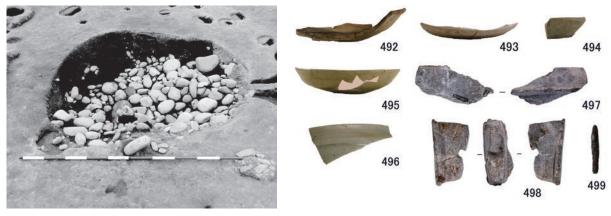
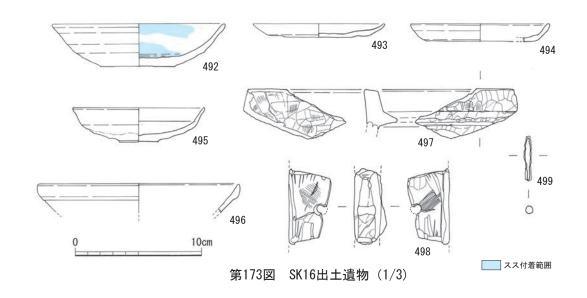


写真165 SK16 (東から)

写真166 SK16出土遺物



第88表 SK16出土土器観察表

-1					-							
図版番号	器種	部位		法量(cm)		ā	開整	É	色調	焼成	胎土	備考
凶似钳写	命性	Dhix	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	狀队	加工	1 拥 行
492	土師器 杯	口縁部~底部	(13.6)	3.4	(5.6)	_	指ナデ	にぶい黄橙色	灰黄褐色	良好	精良	回転糸切り 内面に煤痕 豊前系
493	土師器 小皿	口縁部~底部	(10.4)	1.1	(8)	_		浅黄橙色	浅黄橙色	良好	精良	回転へラ切り
494	瓦器 皿	口縁部~底部	(10.8)	1.4	(8.4)	_	_	底:灰白色 胴:褐灰色	灰白色			回転糸切り
495	白磁 皿VI類	口縁部~底部	(10.4)	2.7	(3)	ヘラケズリ	_	灰黄色	灰黄色		黒色粒子	
496	白磁 椀Ⅳ類	口縁部	(16)	(2.3)	_	_	_	灰白色	灰白色	良好	黒色粒子	

第89表 SK16出土石鍋観察表

図版来早	器種	並は		法量(cm)			悪	色調		備考
凶似钳方	命性	마기포	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	1佣/与
497	鍔付き石鍋	口縁部	_	(3.9)	_	_	_	褐灰色	褐灰色	

第90表 SK16出土石鍋補修具観察表

図版番号	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	備考
498	石鍋 補修具	滑石	60	33	26	61.36g	石鍋鍔部の再利用

第91表 SK16出土金属製品観察表

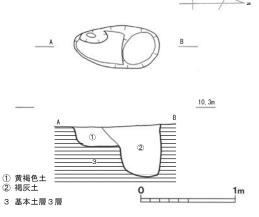
図版番号	器種	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	備考
499	不明	鉄	35.5	6	6	1.81g	

SK23 (第174図、写真167)

小調査区①区8054グリッド第3層より検出した。長径0.9m、短径0.5mの楕円形で、深さは0.2

mと0.5mの2段になっている。2層に分かれる。





第174図 SK23平 - 断面図(1/40)



第175図 SK23出土遺物 (1/3)

写真168 SK23出土遺物

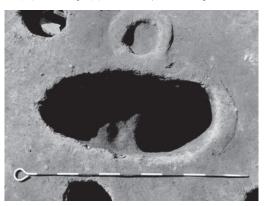


写真167 SK23 (東から)

SK23出土遺物 (第175図、写真168、 第92表)

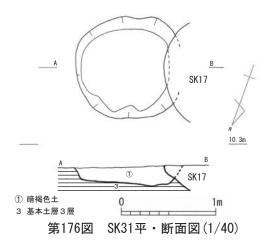
500は滑石製の石鍋の補修具である。穿孔部分から折損しているが、 孔には鉄線が残る。ほぼ水平に作られていること、器壁部上面に煤が付着し下面には煤の付着が見られない ことから石鍋底の穴に内側から挿入し補修をしたと思われる。

第92表 SK23出土石鍋補修具観察表

図版番号	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	備考
500	石鍋 補修具	滑石	77.5	44	15	64.60g	穿孔部に鉄線が残る 器壁部上面に煤付着 内側から挿入用と思われる

SK31 (第176図、写真169)

小調査区①区8256グリッド第3層から検出した。長径1.1m、短径1.0mの楕円形で、深さは0.15mである。埋土は炭化物粒を含む暗褐色土の単層である。 SK17に切られる。耳壺と白磁椀IV類小片が出土したが白磁椀は小片のために図示していない。SK31の時期は耳壺の年代より12世紀後半と思われる。



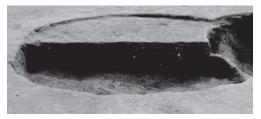
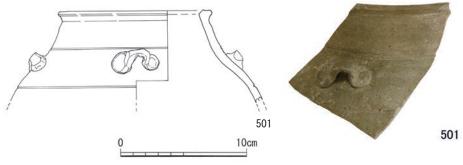


写真169 SK31 (北から)

SK31出土遺物 (第177図、写真170、第93表)



第177図 SK31出土遺物 (1/3)

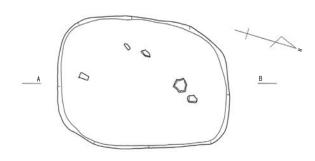
写真170 SK31出土遺物

501は陶器耳壺である。口縁端部は嘴状に外へ出、上面は水平に仕上がる。肩部には横位の耳が付く。また、耳の上下には浅い沈線が巡る。

第93表 SK31出土土器観察表

回临来旦	図版番号 器種 部位		法量(cm)			調	敷	É	Ŀij	焼成	₩+	備者
凶似钳与			口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	沈以	加工	川 行
501	陶器 耳壺	口縁部~肩部	(12)	(7.2)	-	-	-	オリーブ黄色	オリーブ黄色	良好		

SK34 (第178図、写真171)



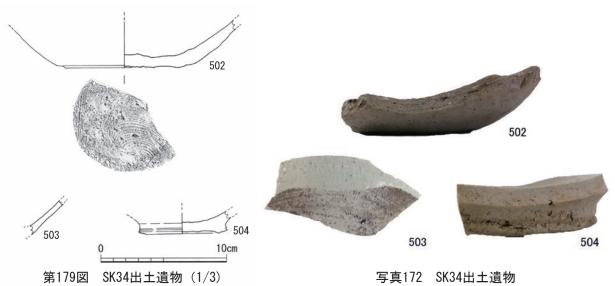


SK34出土遺物(第179図、写真172、第94表)



写真171 SK34 (東から)

小調査区①区8058グリッド第3層から 検出した。長径1.7m、短径1.2mの隅丸 方形で、深さは0.15mである。埋土は灰 黄褐色土の単層である。後世の削平によ り上部は消失したものと思われる。

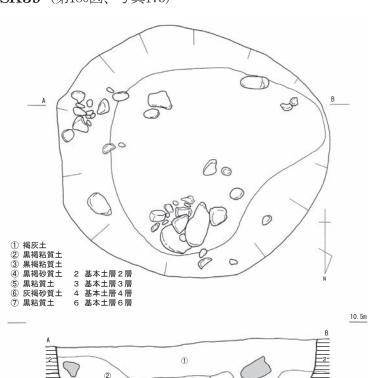


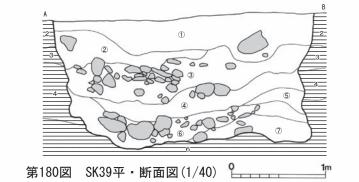
502は東播系捏鉢底部である。使用による内面の摩滅は見られない。底部外面には右回転の糸切り痕が残る。**503・504**は白磁椀片である。**504**はIV類底部である。時期は11世紀後半~12世紀後半である。

第94表 SK34出土土器観察表

図版番号	図版番号 器種 部位		法量(cm)		i	整	色	調	焼成	胎+	備考	
凶似钳与	命性	하1	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	沈以	加工	1 拥 行
502	瓦質土器 捏鉢	底部~体部	_	(3.7)	(9)	-	ĺ	褐灰色	褐灰色	良好	長石	東播系 右回転糸切り
503	白磁 椀	体部	_	(2.8)	_	_	-	褐灰色		良好	黒色粒子	
504	白磁 椀Ⅳ類	底部	_	(1.7)	(7)	-	1	灰白色		良好	黒色粒子	

SK39 (第180図、写真173)





小調査区①区8054グリッド第2層から検出した。長径2.8m、短径2.7mの円形で、深さは1.3mである。埋土は7層に分層でき、土師器杯、貿易陶磁が出土した。



写真173 SK39 (北から)

SK39出土遺物 (第181図、写真174、第95・96表)

505は土師器小皿である。切り離しは回転糸切りで板状圧痕が残る。506・507は白磁皿VI類である。黄褐色の釉が掛かる。508は白磁椀V類である。509は白磁椀IV類底部である。510は白磁椀V類底部である。511は滑石製石鍋片の再利用品である。全体が緩やかな曲線を描いていることと、曲線外に横方向のケズリ痕があることから石鍋片の再利用品と判断した。短冊状をなしているが用途は不明である。出土遺物からSK39の時期は12世紀前半と思われる。

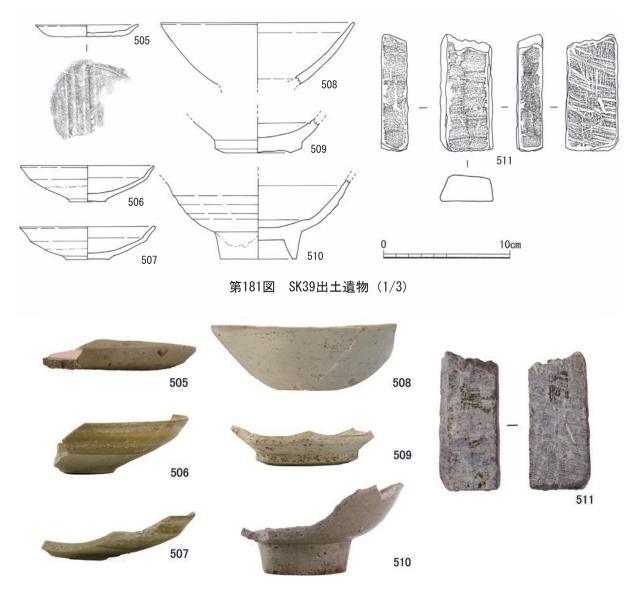


写真174 SK39出土遺物

第95表 SK39出土石製品観察表

図版番号	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	備考
511	石鍋片 再利用品	滑石	92	41	21	155g	曲線外に横方向のケズリ痕 用途は不明

第96表 SK39出土土器観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		ii.	敖	色	iii	焼成	胎土	備考
凶似钳力			口径	口径 器高		外面	内面	外面	内面)犹以	加工	開行
505		口縁部~底部	(8.1)	0.9	(3.1)	_	指ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	石英 長石	回転糸切り 板状圧痕
506	白磁 皿Ⅵ類	口縁部~底部	(10.5)	2.85	2.85	ヘラケズリ	指ナデ	釉:オリーブ黄色 露胎:灰白色	灰白色	良好	黒色粒子	
507	白磁 皿VI類	底部~口縁部	(10.6)	2.6	(3.2)	ヘラケズリ	指ナデ	明黄褐色	明黄褐色	良好	黒色粒子	
508		口縁部~体部	(15.2)	(4.9)	_			灰白色			黒色粒子	
509		底部~体部	_	(2.7)	6.9	ヘラケズリ	指ナデ	灰白色	灰白色	良好	粗い、黒色粒子	
510	白磁 椀V類	底部~体部	_	(6.3)	6	ヘラケズリ	指ナデ	灰白色	灰白色	良好	粗い、黒色粒子	

SK42 (第182図、写真175)

小調査区②区8456グリッド第3層から検出した。長径1.3m、短径1.1mの不整形で、深さは0.1 mである。土は炭化物を含む暗褐色粘質土の単層である。

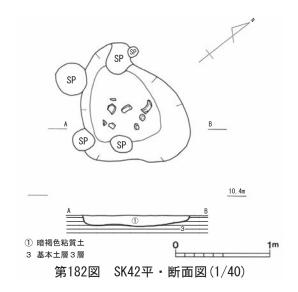
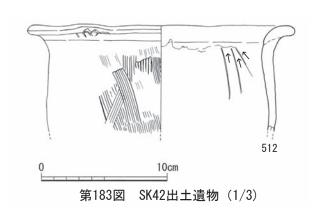




写真175 SK42 (北から)

SK42出土遺物 (第183図、写真176、第97表)

512は土師器甕である。胴部内面には下から上へ向かって強いへラ削りが行われ胴部を薄く仕上げている。外面にはハケメが施される。やや肥厚する口縁部は短く外反し、内面には粘土紐の接合痕が残る。時期は8世紀末~9世紀後半であろう。



512

写真176 SK42出土遺物

第97表 SK42出土土器観察表

网络采旦	図版番号 器種		法量(cm)			調	쭈		色調	焼成	RA+	准虫
凶似钳写			口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	がル	加工	1 拥行
512	土師器 甕	口縁部	(21)	(8.3)	_	下→上へ強いへラ削り		にぶい橙色	橙色	良好	雲母 角閃石 赤色粒子 石英	

SK77 (第184図、写真177)

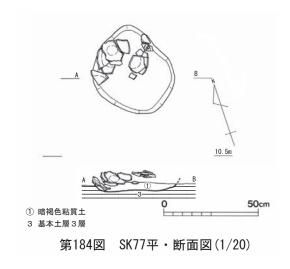
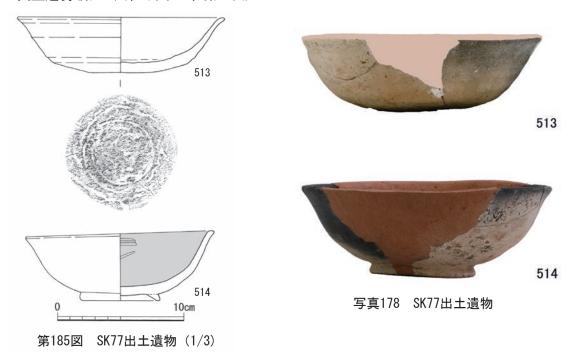




写真177 SK77 (南東から)

小調査区⑤区8060グリッド第3層から検出した。長径0.45m、短径0.4mの楕円形で、深さは 0.05mである。埋土は、炭化物粒、焼土粒を含む暗褐色粘質土から成る。須恵器片、土師器片、土師器皿が出土した。

SK77出土遺物(第185図、写真178、第98表)



513は土師器椀である。体部は丸みを持ち口縁部でわずかに外反する。切り離しは右回転のへ ラ切りで指頭押し出し痕が内面に残る。**514**は黒色土器A類の椀である。丸みを持った体部は口縁 部で外反する。高台は低く外向きでていねいに貼り付けている。内面には横方向のミガキがわず かに残る。これらの遺物からSK77の時期は11世紀前半と思われる。

第98表 SK77出土土器観察表

図版番号	器種	部位	法量(cm)				Ė	調	焼成	M+	准 -支		
凶似留写	6性	Dilit	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	犹风	加工	1	
513	土師器 椀	底部~口縁部	(15.3)	4.4	5	-	指ナデ	灰白色	褐灰色	良好	角閃石 赤色粒子	回転ヘラ切り後指頭押し出し痕が内面に残る	
514	黒色土器A類 椀	底部~口縁部	(14.8)	5.5			₹ <i>1</i> 17	浅黄橙色	黒色	良好	赤色粒子		

SK79 (第186図、写真179)

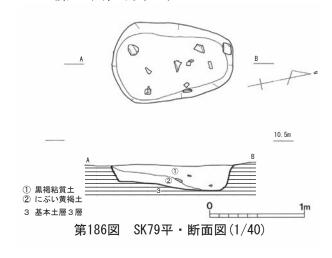




写真179 SK79 (東から)

小調査区⑤区8060区グリッド第3層から検出した。長径1.3m、短径0.83mの楕円形で、深さは 0.25mである。埋土は、炭化物粒、焼土粒を含む黒褐色粘質土と黄褐土から成り土師器皿、内黒 土器杯や石鍋片が出土したが小片のために土師器皿のみ実測をした。

SK79出土遺物 (第187図、写真180、第99表)



写真180 SK79出土遺物

515は土師器皿である。 体部中位から大きく外反す る。切り離しは回転ヘラ切 り。12世紀中頃か。

第99表 SK79出土土器観察表

図版番号	器種	部位	法量(cm)		調	작	任	調	体式	H+	冶 去	
凶似钳与	位性	마기꼬	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面) 焼风	加工	川 行
	土師器 皿	口縁部~底部	(13.2)	2.1	(9)	_	_	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	石英 長石 雲母	回転へラ切り

SK82 (第188図、写真181)

小調査区⑤区7860グリッド第3層から検出した。長径1.2m、短径0.8mの楕円形で西側が一段 深くなり、深さは0.2mと0.4mである。埋土は、炭化物粒を含み3層から成る。土師器の甕、 椀、皿や黒色土器B類の皿が出土した。甕は小片のために図示していない。



写真181 SK82 (北から)

SK82出土遺物 (第189図、写真182、第100表)





写真182 SK82出土遺物

516・517は土師器小皿である。 いずれも切り離しは右回転のヘラ 切りで板状圧痕は見られない。

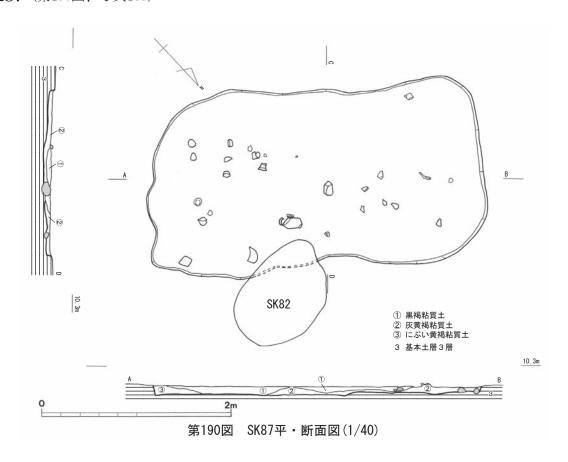
518は浅い土師器椀である。丸 みを持った体部は口縁部でわずか に外反する。切り離しは右回転の へラ切りで板状圧痕が見られる。 また、指頭押し出し痕が底部際に

残る。**519**は黒色土器B類の小皿である。切り離しは回転へラ切りによる。摩滅が激しいが外面に横方向のミガキが残る。また、内面は器表が薄くはがれ凹凸が見られる。これらの遺物からSK82は11世紀中頃と思われる。

第100表 SK82出土土器観察表

図版番号	器種	部位	法量(cm))	調整			調	焼成	胎土	備考	
凶似钳力	命性	마끄	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面)坑以	加工	用勺	
516	土師器 小皿	口縁部~底部	(9.3)	1.7	(6)	_	_	浅黄橙色	浅黄橙色	良好	角閃石 石英 長石	回転へラ切り	
517	土師器 小皿	口縁部~底部	(9.2)	1.7	(5)	_	指ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	良好	角閃石 赤色粒子 粒子が細かい	回転へラ切り	
518	土師器 椀	口縁部~底部	(15)	4.2	(9.4)	-	指ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	良好	赤色粒子 長石 石英	回転へラ切り 板状圧痕 底部際に指頭押し出し痕	
519	黒色土器B類 小皿	口縁部~底部	(12.4)	2	(8.8)	げ キ	374	黒色	黒色	良好	雲母 精良	回転へラ切り	

SK87 (第190図、写真183)



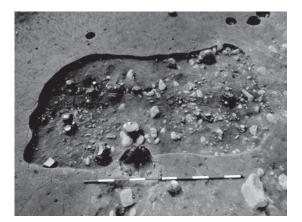


写真183 SK87 (北から)

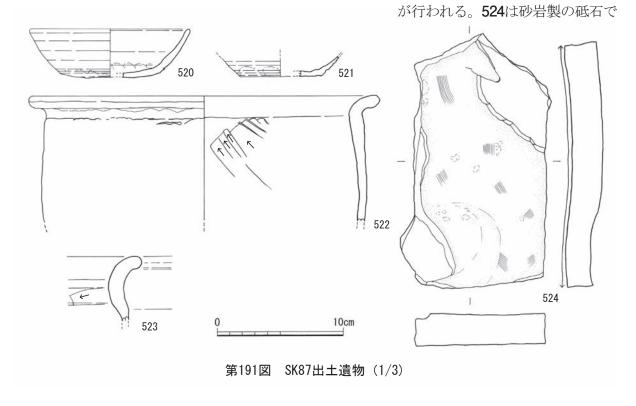
小調査区⑤区7860グリッド第3層から検出した。長軸3.5m、短軸1.8mの隅丸方形で、深さは0.1mである。埋土は、炭化物を含む3層に分層でき、上層は焼土粒を全体に含む。土師器甕・杯・椀・皿片、須恵器杯片、砥石が出土した。SK82に切られる。

SK87出土遺物 (第191図、写真184、第101・102表) 520・521は器厚が薄い土師器杯である。520は

520 521 522 524

写真184 SK87出土遺物

回転へラ切り後、はみ出した粘土を体部下端にナデ付けている。内面の底部と体部の境には成形時の指頭痕が見られる。522・523は土師器甕である。522は胴部内面に下→上の荒いヘラケズリ痕が残るが口縁部と胴部の境には強い稜は付かない。短い口縁部は強く外反し、最大径は口縁部にある。外面には縦方向のハケメが見られる。523も大きく外反する口縁である。口縁部外面には粘土紐接合痕が残る。体部内面には横位のヘラ削り



ある。残存する使用面は表面の一面だけであるが、凹凸が残り摩滅も少ないことから使用頻度は 少なかったと思われる。これらの遺物からSK87の年代は9世紀代と思われる。

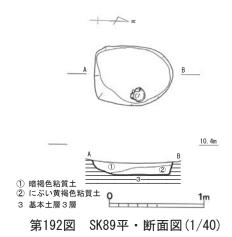
第101表 SK87出土土器観察表

図版番号	器種	如仂		法量(cm)			調整		剖	焼成	+44	備考
凶似钳与	6性	助环	口径	器向	庇径	外面	内面	外面	内面	犹拟	胎工	開行
520	土師器 杯	口縁部~底部	(12.6)	3.9	(8)	-	-	浅黄橙色	灰白色	腴	赤色粒子 長石 石英	回転へラ切り内面の底部と体部の境に成形時の指頭痕
521	土師器 杯	体部~底部	-	(1.6)	(6.4)	-	-	浅黄橙色	浅黄橙色	觖	雲母 石英 長石 精良	
522	土師器 甕	口縁部~体部	(27.6)	(9.9)	-	縦方向のハケメ	下→上へ荒いへラケズリ	橙色	にぶい橙色	觖	赤色粒子 長石 石英	
523	土師器 甕	口縁部~体部	_	(5.1)	_	-	横位のヘラ削り	橙色	橙色	觖	角閃石 長石 石英	

第102表 SK87出土石器観察表

-							
図版番号	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	備考
524	砥石	砂岩	201	119	25	965g	

SK89 (第192図、写真185)



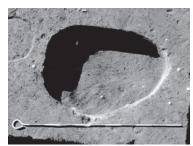


写真185 SK89 (東から)

小調査区⑤区7860グリッド第3層から検出した。長軸0.8m、短軸0.6mの楕円形で、深さは0.15mである。埋土は2層に分かれ、上層は炭化物と焼土粒を全体に含む。黒色土器椀B類が出土し

た。この遺物の年代よりSK89は11世紀中頃と思われる。

525

SK89出土遺物(第193図、写真186、第103表)



525は黒色土器B類椀である。丸みを持った体部で口縁部がわずかに外反する。外面には吸炭が十分でなく黒化していない部分があるが、内外面ともに横方向のミガキが見られる。底部内面にはヘラ記号がある。

第103表 SK89出土土器観察表

図版番号	番号 器種 部位			法量(cm)			閥整	色調		体式	H4+	備考
凶似钳写		助加	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	焼成	加工	调 行
525	黒色土器B類 椀	底部~口縁部	(15)	5.3	6.6	横方向のミガキ	横方向のミガキ	灰白色	黒色	良好	角閃石 長石	底部外面にヘラ記号

SK92 (第194図、写真187·188)

小調査区⑤区8058グリッド第3層から検出した。長径3.0m、短径2.2mの不整形で、深さは0.25mである。壁はほぼ垂直に立ち上がるが、壁沿いに灰色の粘土が貼られている。埋土は炭化物粒や焼土粒を含む。SD16に切られる。検出時には10~30cmの焼土塊を含む焼土混入土を2箇所で確認した。

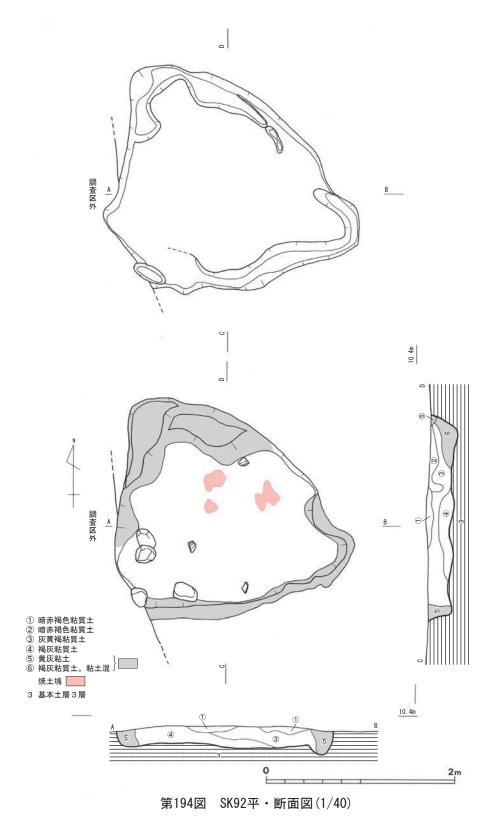




写真187 SK92検出状況(北から)

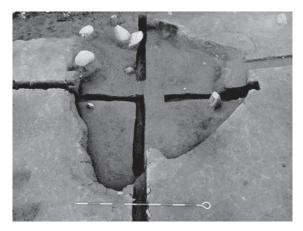


写真188 SK92壁沿いに貼られた粘土 (東から)

SK92出土遺物 (第195図、写真189、第104表)



第195図 SK92出土遺物 (1/3)

写真189 SK92出土遺物

526は須恵器杯である。 切り離しは回転ヘラ切りで ある。9世紀代の遺物と思 われる。

第104表 SK92出土土器観察表

	図版来旦	器種 部位			法量(cm)		ııııd	剛整	色		(体成	RA+	農 妻
		Dh liv	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	が以	加工	川 川 行	
[526	須恵器 杯	底部~口縁部	(12.2)	1.7	(8.6)	_	_	灰色	灰色	良好	石英 長石	回転ヘラ切り

SK93 (第196図、写真190)

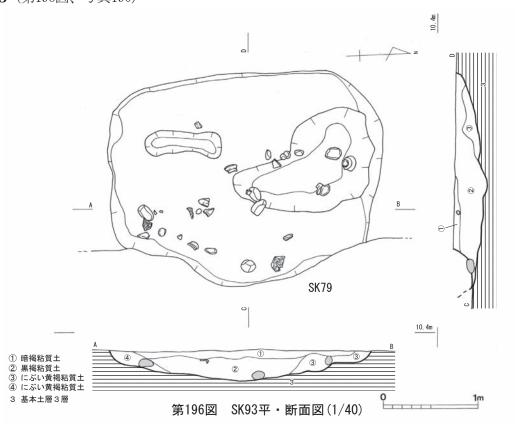
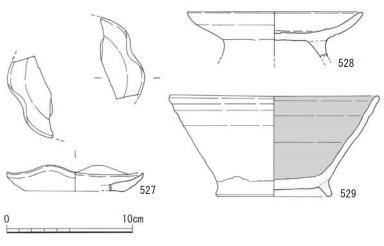




写真190 SK93 (西から)

小調査区⑤区8060グリッド第3層から検出した。長軸2.8m、端軸2.3mの隅丸方形で、深さは0.3mである。埋土は炭化物粒、焼土粒、粘土塊を全体に含む。土師器皿、黒色土器椀A類、土師器耳皿片が出土した。SK79に切られるが掘り込みが浅かったためにSK93の遺構は大きな削平を受けていない。

SK93出土遺物 (第197図、写真191、第105表)



第197図 SK93出土遺物 (1/3)



写真191 SK93出土遺物

527は土師器耳皿である。大 粒の砂粒は含まない精選された 胎土であるが、微細な砂粒を多 く含むためにざらついている。 528は高台付の皿である。内湾 しながら立ち上がる体部に厚み のある高台が付く。皿部の切り 離しは回転へラ切りである。 529は黒色土器A類の椀である。

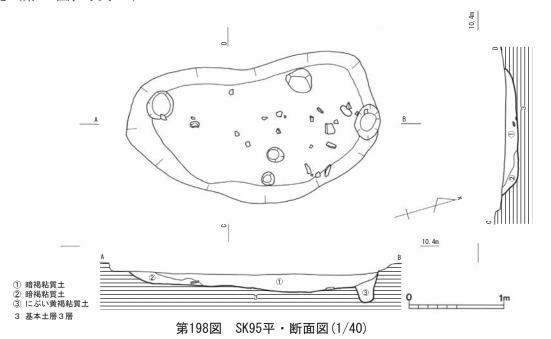
部にいたる。貼り付け高台の作りはていねいで高台内の切り離し痕もなで消している。これらの遺物からSK93の年代は9世紀後半~10世紀と思われる。

体部は高台からほぼ直線で口縁

第105表 SK93出土土器観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		ii	<u></u> 整	É	iii	焼成	胎土	備考
凶脳田り	位性	助江	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	沈风	日上	順行
527	土師器 耳皿	口縁部~底部	(10.8)	2	(7.6)	_	_	にぶい黄橙色	浅黄橙色	良好	石英 赤色粒子	
528	土師器 皿	口縁部~底部	(13.8)	(3.6)	(8.4)	_	_	灰白色	灰白色	良好	赤色粒子 長石 石英	回転ヘラ切り
529	黒色土器A類 椀	ほぼ完形	16.4	8	9	-	ミガキ	にぶい橙色	オリーブ黒色	良好	雲母 結晶片岩 長石 石英	

SK95 (第198図、写真192)



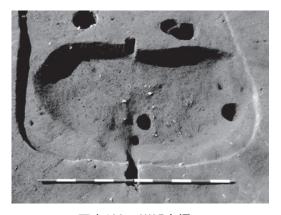


写真192 SK95完掘

小調査区⑤区8060グリッド第3層から検出した。 長軸2.6m、端軸1.4mの楕円形で、深さは0.2mで ある。埋土は炭化物粒、焼土粒を含み土師器杯・ 椀・甕片が出土した。SC7を切るが掘り込みが浅か ったためにSC7は部分的に遺構が残る。

SK95出土遺物 (第199図、写真193、第106表)



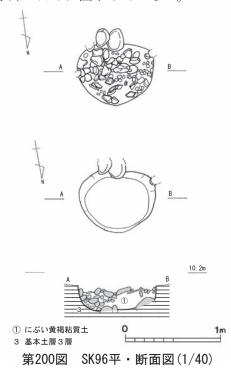
530は土師器杯である。緩やかに内湾しながら口縁にいたる。外面には引き上げ痕が明瞭に残る。切り離しは回転へラ切りで、切り離し後の調整は行われていない。9世紀後半の所産と思われる。

第106表 SK95出土土器観察表

网络采旦	聖籍	並		法量(cm)			整	色	調	焼成	+4B	丛 老
凶胁番号	7. 合气	部位	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	犹以	加工	1 拥有
3.30	土師器 杯	口縁部~底部	(12.6)	3.7	(6.2)	_	指ナデ	にぶい橙色	灰褐色	良好	雲母 赤色粒子 長石	回転へラ切り

SK96 (第200図、写真194·195)

小調査区⑤区7860グリッド第3層から検出した。長軸0.8m、短軸0.7mの楕円形で、深さは0.25 mである。埋土は炭化物を全体に含み拳大までの礫がびっしりと入る。土師器杯・甕が出土したが甕は小片のために図示していない。



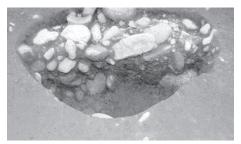


写真194 SK96断面(北から)

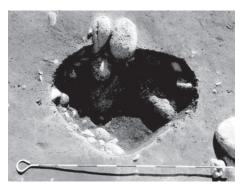
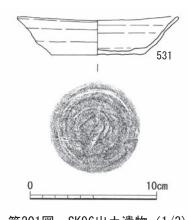


写真195 SK96完掘 (北から)

SK96出土遺物 (第201図、写真196、第107表)



第201図 SK96出土遺物 (1/3)



写真196 SK96出土遺物

531は土師器杯である。 丸みを持った体部は口縁 部で外反する。切り離し は右回転のヘラ切りで板 状圧痕が見られる。器肉 が非常に薄い。この遺物 からSK96の年代は9世紀前 半と思われる。

第107表 SK96出土土器観察表

図版番号	型括	如片		法量(cm)			敕	É	ē iji	持成	四十	供去
凶似钳万		Dhin	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	洗风	加工	1 拥 行
531	土師器 杯	底部~口縁部	(12.6)	3	(7.2)	_	指ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	良好	金雲母 長石 石英 精良	回転ヘラ切り 板状圧痕

SK121 (第202図、写真197)



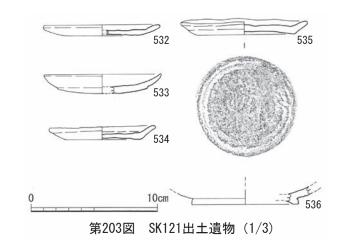


写真197 SK121 (東から)

小調査区®区8260 グリッド第2層から 検出した。長軸0.55 m、短軸0.45mの楕 円形で、深さは0.1 mである。埋土は炭 化物粒・焼土粒・骨 片を含む黒褐粘質土

で、土師器皿・瓦器椀が数個体分出土したが、そのうち皿1個は完形であった。火葬骨を埋納した墓坑の可能性もある。

SK121出土遺物 (第203図、写真198、第108表)



532~535は回転へラ切りによる土師器 小皿である。533は丸底で535は右回転の へラ切り痕である。536は瓦器椀底部であ る。貼り付けによる低い高台がつく。小 皿の年代からSK121の時期は12世紀前半と 思われる。

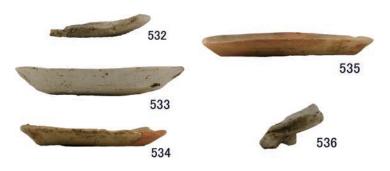


写真198 SK121出土遺物

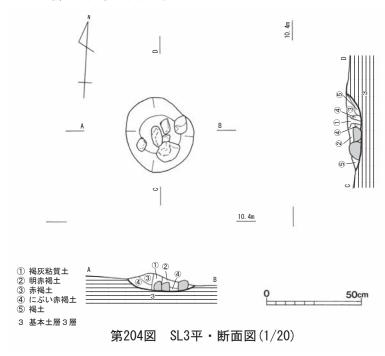
第108表 SK121出土土器観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		i	敷	É	色調	焼成	胎土	備考
凶似钳与	命性	마끄	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	犹以	加工	拥行
532	土師器 小皿	底部~口縁部	(9)	0.8	(6)	_	指ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	不良	石英 長石 雲母 砂粒多	回転へラ切り
533	土師器 小皿	口縁部~底部	(9.2)	1.5	(7)	_	_	灰白色		良好	石英 長石 角閃石 赤色粒子 精良	回転へラ切り 丸底
534	土師器 小皿	口縁部~底部	(8.3)	1.05	(5.8)	_	指ナデ	灰黄褐色	灰黄褐色	やや不良	石英 長石 赤色粒子 精良	回転ヘラ切り
535	土師器 小皿	完形	9.9	1.2	7.8	_	指ナデ	橙色	浅黄橙色	良好	雲母 赤色粒子 長石	回転ヘラ切り
536	瓦器 椀	底部~体部	_	1.4	(8.4)	_	_	灰白色	灰白色	良好	長石 精良	

⑦焼土・炉・カマド (SL)

TAK201202調査区の古代~中世で報告する焼土は、1基である。

SL3 (第204図、写真199)



小調査区②区8456グリッド第3層から検出した。長径0.4m、短径0.35mの円形で、深さ0.15mである。埋土は5層に分層でき多くが焼土からなる。遺物の出土はない。カマドの残存部の可能性もある。時期は不明である。



写真199 SL3 (東から)

⑧集石遺構 (SS)

TAK201202調査区の古代~中世で報告する集石遺構は、全部で2基である。

SS2 (第205図、写真200)

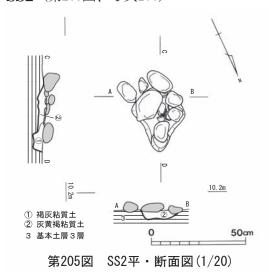




写真200 SS2 (東から)

小調査区⑤区8062グリッド第3層から検出した。長軸0.35m、短軸0.27mの不整形で、深さは0.05mである。上面を拳~人頭大の円礫が覆う。甕胴部思われる土師器片が出土したが小片のために図示していない。詳細な時期については不明である。

SS5 (第206図、写真201)

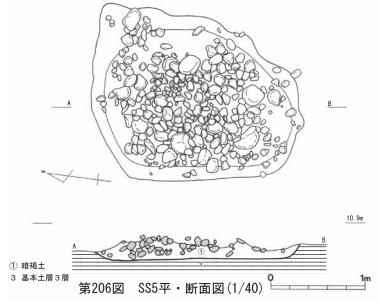




写真201 SS5 (北から)

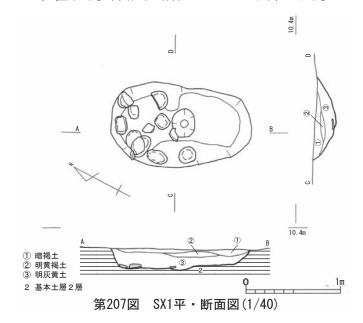
小調査区⑦区8262グリッド第3層から検出した。長軸2.2m、短軸1.7mの不整形で、深さは0.2 mである。上面を人頭大までの円礫が覆う。遺物の出土はなし。詳細な時期については不明である。

⑨不明遺構(SX)

TAK201202調査区の古代~中世の不明遺構は、全部で2基である。

SX1 (第207図、写真202)

小調査区①区8256グリッド第2層から検出した。長径1.5m、短軸0.9mの隅丸方形で、深さは0.2mである。埋土は3層である。いずれも、焼土粒・炭化物粒を含み、②層上面には焼土塊が厚さ1cm覆う。貿易陶磁、土師器皿、羽口が出土したが小片のために図化していない。SX2の北1.5mに位置する。詳細な時期については不明である。



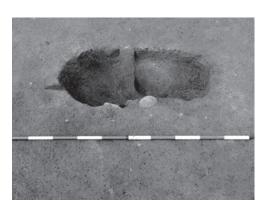
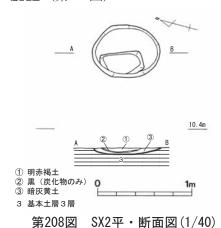


写真202 SX1 (西から)

SX2 (第208図)



m、短径0.55mの楕円形で、深さは0.05mである。埋土は3層である。①層は焼土ブロックから成る層で、②層は炭化物から成る層である。遺物の出土はなかった。SX1の南1.5mに位置する。

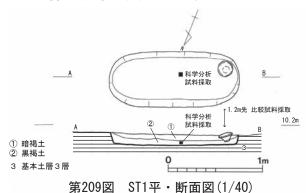
小調査区①区8256グリッド第3層から検出した。長径0.7

詳細な時期については不明。

⑩墓(ST)

TAK201202調査区の古代~中世で報告する墓は、全部で3基である。

ST1 (第209図、写真203·204)



小調査区①区8054グリッド第3層から検出した。内法の長軸1.3m、短軸0.45mの隅丸方形で、深さは0.1mである。埋土は2層である。南西角より白磁椀IV類の完形が正位で出土した。立ち上がりが10cmであることから、この墓坑は上部を大きく削平されている。リン・カリの科学分析を実施し、生物遺体が存在していた可能性が高いという結果がでた(付編参照)。

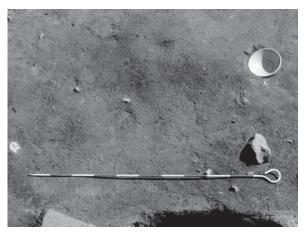


写真203 ST1検出状況(北から)

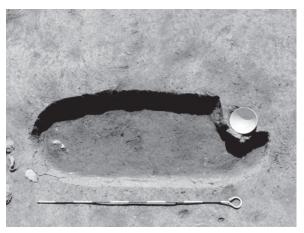
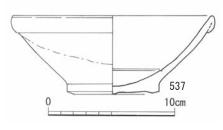


写真204 ST1完掘状況(北から)

ST1出土遺物 (第210図、写真205、第109表)

537は完形の白磁椀IV類である。



第210図 ST1出土遺物 (1/3)

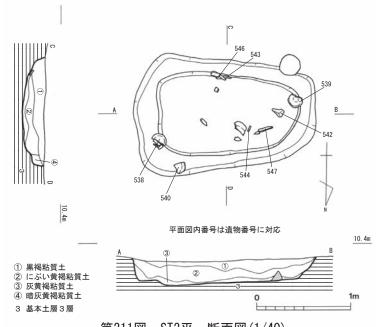


写真205 ST1出土遺物

第109表 ST1出土土器観察表

	H. 푸 므	型括	部位		法量(cm)		調	整		色調	体式	RA+	准 字
[A]	図版番号 器種	Dhin	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面)#.IX	ИПТ	湘行	
	537	青磁 椀 Ⅳ類	完形	15.6	6	7	ヘラケズリ	_	灰オリーブ色	灰オリーブ色	良好	黒色粒子	

ST2 (第211図、写真206 · 207)



第211図 ST2平・断面図(1/40)

小調査区⑤区8060グリッド第3層 から検出した。内法の長軸1.6m、 短軸1.1mの隅丸方形で、深さは 0.25mである。埋土は焼土粒、炭化 物粒を含む。土師器、黒色土器、 石鍋、砥石が出土したが鉄製品の 数が多いのが特徴的である。砥石 は546と重なって出土した。

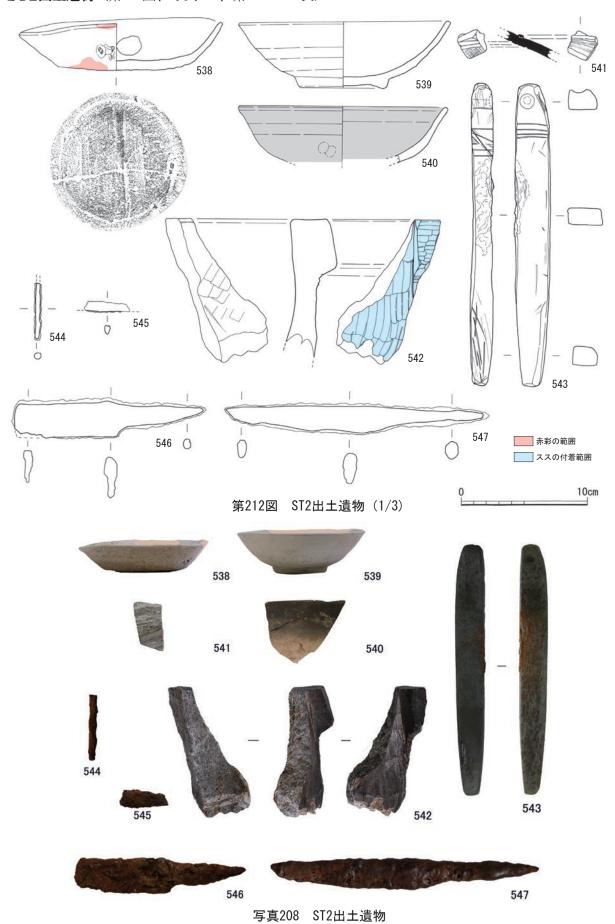


写真206 ST2 (北から)



写真207 ST2砥石と金属製品(546)出土状況

ST2出土遺物(第212図、写真208、第110~113表)



— 211 —

538は土師器杯である。緩やかに内湾しながら立ち上がった体部は口縁部でわずかに外反す る。切り離しは右回転の糸切りで、板状圧痕が残る。内面には成形時にできた穴を親指大の粘土 でふさいでいる。外面に赤い色が残る。彩色か。**539**は瓦器椀である。砂粒をほとんど含まない きめの細かい胎土である。高台は径が小さくシャープさに欠けるが、ていねいに貼り付けられて おり、高台内の切り離し痕はナデ消している。還元が進んでおらず色調はやや黄味を帯びてい る。540は黒色土器B類椀である。胎土は精選されており大きな砂粒は含まない。外面に調整の際 の指頭痕が残る。内外面ともにミガキが施されていたと思われるが、摩滅のために詳細は不明で ある。**541**は須恵器壷の肩部と思われる。きめの細かい灰色と白色のマーブル状の胎土で、軟質 に焼かれている。外面には小さな凸帯が巡り、内面には下部に小さな格子目の当て具痕と思われ る圧痕が付く。542は縦耳の石鍋である。体部は緩やかに内湾しながら口縁部に至る。口縁端部 は水平に仕上がり、外面は口縁端部を除き煤が付着する。543は砥石である。目の細かい堆積岩 で背面は研磨のために凹み光沢を持っている。表面端部には人為的と思われる円形の浅い凹みが ありその下に浅い溝が4本入る。溝は側面に1本が繋がり、別の溝が6本入る。また、表面と側面 には546が接していたために鉄分の付着が見られる。544~547は鉄製品である。544は断面が円 形で棒状を呈する。545は先が細くなっていくやや厚めで板状の製品である。刀子の茎か。546 は茎と刃部を持つ製品で形状から包丁であろうか。砥石と重なって出土した。**547**は刀子であ る。先端が欠けている。

第110表 ST2出土土器観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)			敖正	Ē.	ill	格成	卧十	備考
凶似留万	命性	DAIAT	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	が良	版工	1用行
538	土師器 杯	ほぼ完形	(15.8)	3.9	9	_	指ナデ	灰白色	灰白色	良好	長石 角閃石 雲母	回転糸切り 板状圧痕 外面に赤い色が残る
539	瓦器 椀	ほぼ完形	(16.2)	5.4	6.4	_	I	にぶい黄橙色	灰白色	良好	きめ細かい	還元が進んでおらず色調はやや黄味を帯びている
540	黒色土器B類 椀	口縁部~体部	(16.4)	(4.5)	_	ミガキ 指頭痕	ミガキ	明褐灰色	黒色	良好	精良	
541	須恵器 壺	肩部	_	(2.4)	_	_	下部に格子目当て具	灰色	灰白色	軟質	きめ細かい	

第111表 ST2出土石鍋観察表

网络采旦	哭挿	並∤⊹		法量(cm)		重量	調	整	色	調	进 来
凶版番号	版番号 -	部位	口径	器高	底径	里里	外面	内面	外面	内面	1 開行
542	縦耳石鍋	口縁部~体部	(31)	(11.4)	_	186g	_	_	黒褐色	褐灰色	外面は口縁端部を除き煤が付着

第112表 ST2出土石器観察表

図版番号	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	備考
543	砥石	堆積岩	238	27	15	185.9g	表面端部に人為的と思われる浅い凹み 表面と側面に546が接していたため鉄分が付着

第113表 ST2出土金属製品観察表

図版番号	器種	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	備考
544	鉄製品	鉄	45	5.5	5	1.67g	断面が円形で棒状
545	鉄製品	鉄	36	7	7	2.19g	先が細くなっていく やや厚めで板状 刀子の茎か
546	鉄製品	鉄	153	32	10	45g	茎と刃部を持つ製品 形状から包丁か。543と接して出土
547	刀子	鉄	207	24	11	70g	先端が欠けている

ST4 (第213図、写真209)

小調査区®区8460グリッド表土直下の第2層最上面から検出した。表土掘削後の地表面に合子が現われていたことから、削平や耕作による撹乱からかろうじて免れたと思われる。遺構の立ち上がりは確認するができなかった。合子蓋から0.2m北に合子身と伏せた状態の湖州鏡が出土し

た。鏡の周囲の土色が周囲と違っていたが、掘り方は確認できずシミ状の広がりであったことから、鏡の金属成分による変色と判断した。

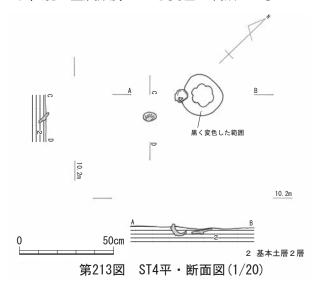
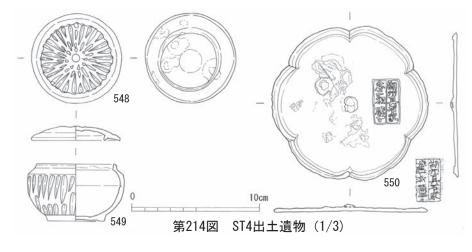




写真209 ST4 (南から)

ST4出土遺物 (第214図、写真210~217、第114・115表)



548・549は青白磁合子である。549は身の部分で胴張りの体部には蓮華文と思われる文様が型押しされる。548は549とセットになる合子蓋である。花弁と思われる文様が型押しされる。550は湖州六花鏡である。鏡面お

よび背面に繊維や編み込んだ木質が残り、布に包まれ編み物に入れられていたことが想定される。鏡面は現在も輝きを保っているが、分析の結果錫メッキであることが分かった(註1)。銘は「湖州真石家 念二叔照子」と読め、同じ鏡と思われるものが鷹島海底遺跡より出土している(註2)。

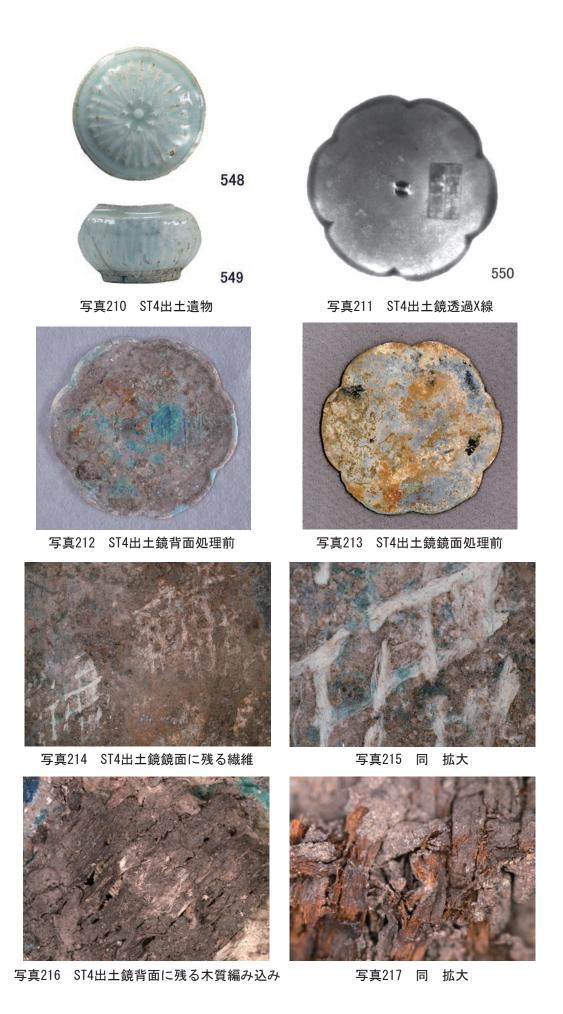
第114表 ST4出土土器観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		調	敕 正	Œ	語	焼成	RA+	備考
凶似笛与	始性	마끄	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	狀以	胎土	州 行
549	青白磁 合子 身	底部~口縁部	6	4.5	4.4	_	_	明緑灰色	灰白色	良好		体部に蓮華文と思われる文様が型押しされる
548	青白磁 合子 蓋	完形	4.4	1.1	-	_	_	明緑灰色	灰白色	良好		548とセット 花弁と思われる文様が型押しされる

第115表 ST4出土金属製品観察表

図版番号	器種	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	備考
550	湖州六花鏡	錫メッキ	_	123	5	159g	「湖州真石家 念二叔照子」の銘が入る 鏡面、背面に繊維や編み込んだ木質が残る

- (註1) 長崎県埋蔵文化財センター 片多雅樹係長による (データは附編参照)
- (註2) 『鷹島海底遺跡』長崎県鷹島町教育委員会 1992年



— 214 —

⑪柱穴(SP)

TAK201202調査区の古代~中世で報告する柱穴は、全部で47ある。

SP①23 (第215図、写真218 · 219)

小調査区①区8056グリッド第2層から検出した。長径23cm、短径22cmの円形で、深さは37cmである。埋土は炭化物粒を含む黒褐色土で、白磁椀、皿片が122点出土したが2cmほどの砕片も多く含まれる。白磁以外の出土はなかった。図化できるものは12個体分であるがそれ以上の個体数がある。完形に復元できるものは無かった。

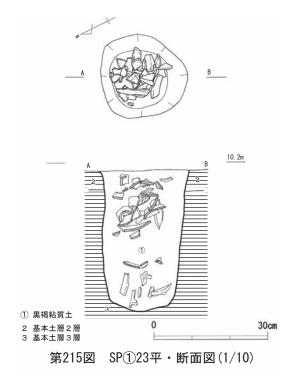




写真218 SP①23 (北から)

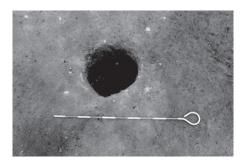


写真219 SP(1)23 完掘状況 (北から)

SP①23出土遺物(第216図、写真220、第116表)

すべて白磁である。**551~554**は椀IV類、**555·556**は椀V類、**557**は椀VⅢ類か。**558~560**は皿VI類である。**561·562**は皿Ⅲ類である。これらの遺物からSP①23の時期は11世紀後半~12世紀と思われる。

第116表 SP①23出土土器 観察表

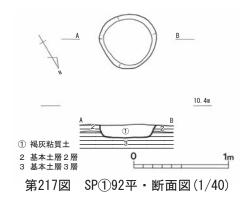
図版番号	器種	部位		法量(cm)		ii	整	1	色調	焼成	胎土	備考
凶枞钳写		助江	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面)优风	加工	调专
551	白磁 椀Ⅳ類	口縁部	(16.6)	-	_	ヘラケズリ	_	灰白色	灰白色	良好	石英	
552	白磁 椀Ⅳ類	口縁部	(17)	_	_	ヘラケズリ	_	灰白色	灰白色	良好	石英	
553	白磁 椀Ⅳ類	底部~口縁部	(16.4)	6.7	(6.6)	ヘラケズリ	_	明オリーブ灰色	明オリーブ灰色	良好	黒色粒子	
554	白磁 椀Ⅳ類	口縁部~体部	(16.6)	_	_	ヘラケズリ	_	灰白色	灰白色	良好	黒色粒子	
555	白磁 椀V類	口縁部~体部	(16.4)	_	_	_	_	灰白色	灰白色	良好	黒色粒子	
556	白磁 椀Ⅴ類	口縁部~体部	(16.1)	-	_	ヘラケズリ	_	灰白色	灰白色	良好	黒色粒子	
557	白磁 椀Ⅷ類	口縁部~体部	(17)	_	_	ヘラケズリ	_	灰白色	灰白色	良好	黒色粒子	
558	白磁 皿VI類	口縁部~底部	(11)	(3.1)	(3)	ヘラケズリ	_	浅黄色	浅黄色	やや良好		
559	白磁 皿VI類	底部~口縁部	(10.6)	2.7	(3.2)	ヘラケズリ	_	灰白色	灰白色	良好		
560	白磁 皿VI類	口縁部~底部	(9)	2.7	(3.2)	ヘラケズリ	_	浅黄色	にぶい黄色	良好		
561	白磁 皿皿類	口縁部~体部	(10.8)	_	_	ヘラケズリ	_	灰オリーブ色	灰オリーブ色	良好	黒色粒子	
562	白磁 ⅢⅢ類	底部	-	_	(4.2)	_	_	灰白色	灰白色	良好	黒色粒子	



写真220 SP①23出土遺物

SP①92 (第217図)

小調査区①区8256グリッド第2層から検出した。長径60cm、短径56cmの円形で、深さは14cmである。埋土は褐灰色土で、灰釉陶器小皿が出土。





SP①92出土遺物(第218図、写真221、第117表)

563は灰釉の小皿である。外面無釉の体部は引き伸ばしの際の凹凸を残し外反する口縁部にいたる。底部には回転糸切り痕を残し高台を貼り付ける。畳付けには刻みが入るが意図的なものであるかは不明。体部内面には緑灰色の釉薬が薄く掛かり、見込みには釉が掛からず重ね焼きの跡が残る。12世紀後半のものと思われる。(註1)



写真221 SP①92出土遺物

第117表 SP①92出土土器 観察表

M	版番号	器種	如什		法量(cm)			型	É	調	雄武	#A+	世 本
Mi	以留写		마기꼬	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	焼成	加工	1用行
	563	灰釉陶器 小皿	底部~口縁部	(9.6)	3.05	5	ロクロ目	-	灰白色	緑灰色	良好	黒色粒子	回転糸切り 見込みに重ね焼き跡

SP①95 (第219図、写真222)

小調査区①区8256グリッド第2層から検出した。長径40cm、短径36cmの楕円形で、深さは47cmである。埋土は炭化物粒を含む黄褐色土で、土師器小皿が出土した。

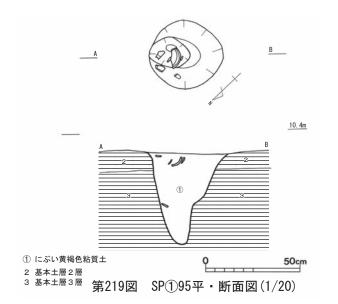
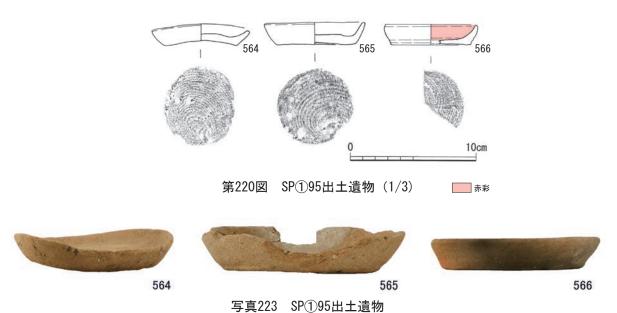




写真222 SP①95 (北から)

SP①95出土遺物(第220図、写真223、第118表)

564~566は法量が似た土師器小皿である。**564**は完形であるが全体が歪んでいる。切り離しは右回転糸切りである。**565**も切り離しは右回転糸切りである。**566**は564・565が砂粒を多く含む胎であるのに対し砂粒を含まず精選されている。また、丁寧なつくりで内面には赤彩が見られる。いずれも13世紀末~14世紀初頭のものと思われる。

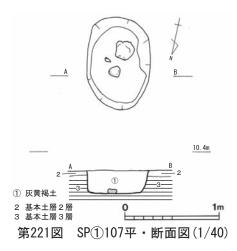


第118表 SP①95出土土器 観察表

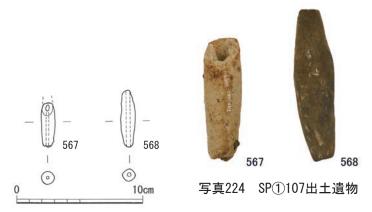
図版番号	器種	部位		法量(cm)			整		色調	格成	14.4 14.4	備考
凶似钳力	位性	마끄	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	流线	順工	湖 行
564	土師器 小皿	底部~口縁部	7.7	1.3	5.8	ı	ı	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	石英 長石	回転糸切り 全体が歪んでいる
565	土師器 小皿	底部~口縁部	8	1.85	6	-	ı	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや良好	赤色粒子 角閃石	回転糸切り
566	土師器 小皿	口縁部~底部	(7.2)	1.6	(6.2)	_	_	橙色	褐灰色	良好	雲母 精良	回転糸切り 内面に赤彩

SP①107 (第221図)

小調査区①区8056グリッド第2層から検出した。長径96cm、短径65cmの円形で、深さは23cmである。土錘が2点出土した。



SP①107出土遺物(第222図、写真224、第119表) **567・568**は土錘である。**567**は1/2欠。**568**は完形 である。



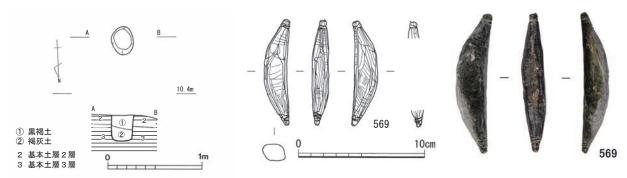
第222図 SP①107出土遺物 (1/3)

第119表 SP①107出土土製品 観察表

図版番号	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	色調	焼成	胎土	備考
567	35	11	11	2.5g	浅黄橙色	良好	長石 雲母	
568	50	11	10	5g	黄褐色	良好	長石 赤色粒子	

SP①214 (第223図)

小調査区①区8056グリッド第2層から検出した。長径30cm、短径23cmの楕円形で、深さは27cmである。滑石製品が出土。詳細な時期については不明である。



第223図 SP①214平・断面図(1/40) 第224図 SP①214出土遺物(1/3) 写真225 SP①214出土遺物

SP①214出土遺物 (第224図、写真225、第120表)

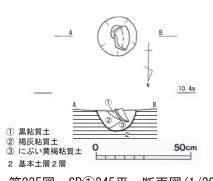
569は滑石製品である。外形は鰹節状を呈する。端部には2~3条と3~5条の溝が刻まれる。用途は不明であるが「漁具」の可能性もある(註2)。

第120表 SP①214出土石製品 観察表

図版番号	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	備考
569	滑石製品	滑石	83	18	13	28.26g	外形は鰹節状 端部に2~3条と3~5条の溝

SP①245 (第225図、写真226)

小調査区①グリッド第8058区2層から検出した。径は20cmの円形で、深さは10cmである。土師器杯が出土。



第225図 SP①245平·断面図(1/20)

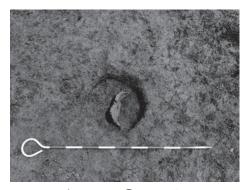


写真226 SP①245 (北から)

SP①245出土遺物(第226図、写真227、第121表)



第226図 SP①245出土遺物 (1/3)

写真227 SP(1)245出土遺物

570は底が厚い土師器杯である。体部中位でわずかにふくらみ口縁部で内湾する。摩滅が激しいが回転糸切り痕が残る。この遺物よりSP①245の時期は13世紀後半と思われる。

第121表 SP①245出土土器 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		調		É	調	焼成	44	備考
凶似钳万	6年	마기꼬	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	狀规	加工	1用行
570	土師器 杯	底部~口縁部	12.6	3.5	(7.8)	-	-	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	長石 赤色粒子	回転糸切り

SP①246 (第227図)

小調査区①区8056グリッド第2層から検出した。長径40cm、短径32cmの楕円形で、深さは26cmである。滑石製品が出土。詳細な時期については不明である。



SP①246出土遺物(第228図、写真228、第122表)

571は滑石製の容器状の製品である。楕円形の外形に膿盆状の凹を作り、その外に穿孔を行っている。底が平らなので蓋のように使用するものではなく、凹を利用するものと考える。作りが稚拙であることから工人によるものではないと思われる。

第122表 SP①246出土石製品 観察表

図版番号	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	珊	備考
571	滑石製品	滑石	43	77	10	95g	容器状の製品

SP①333 (第229図、写真229)

小調査区①グリッド第8256区2層から検出した。径22cmの円形で、深さは21cmである。土師器皿が出土。

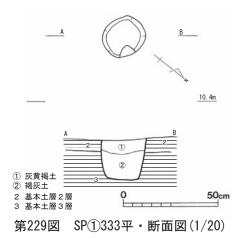


写真229 SP①333 (南から)

SP①333出土遺物(第230図、写真230、第123表)



る。切り離しは右回転の 糸切りであるが、切り離 しの際に糸が浮き上げ底 状になっている。この遺 物よりSP①333の時期は14 世紀前半と思われる。

572は土師器の小皿であ

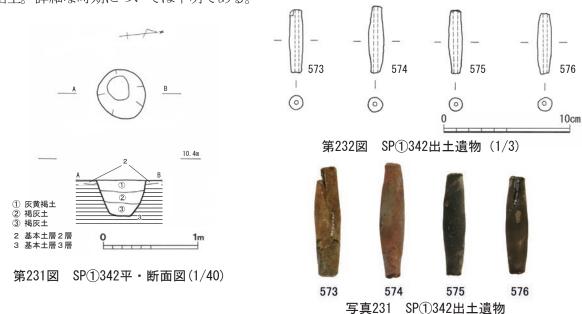
第230図 SP①333出土遺物 (1/3)

第123表 SP①333出土土器 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		語	敖正		色調	持成	RA+	進去
凸似笛力	位性	加加	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	沈风	版工	備考
572	土師器 小皿 原	前~口緣部	7.4	1.5	6.2	-	-	にぶい黄褐色	にぶい黄橙色	良好	雲母 長石	回転糸切り 切り離しの際糸が浮き上げ底状になっている

SP①342 (第231図)

小調査区①区8256グリッド第2層から検出した。径50cmの円形で、深さは38cmである。土錘が4点出土。詳細な時期については不明である。



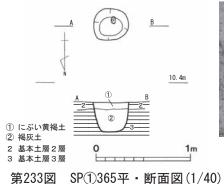
SP①342出土遺物(第232図、写真231、第124表)

573~576は土師質の土錘である。**573・574**は砂粒を含まない胎土で、**575・576**は砂粒を含み ざらつく胎土である。

第124表 SP①342出土土製品 観察表

図版番号	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	色調	焼成	胎土	備考
573	49	11	11	6.7g	灰赤色	良好	長石 赤色粒子 雲母 砂粒を含まない	
574	53	12	11	6.4g	にぶい赤褐色	良好	石英 赤色粒子 雲母 砂粒を含まない 長石	
575	50	11	11	6.3g	灰色	良好	長石 赤色粒子 雲母 砂粒を含む	
576	48	11	11	5.9g	暗赤灰色	良好	長石 赤色粒子 雲母 砂粒を含む	

SP①365 (第233図、写真232)



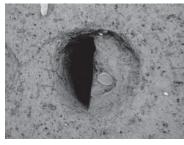


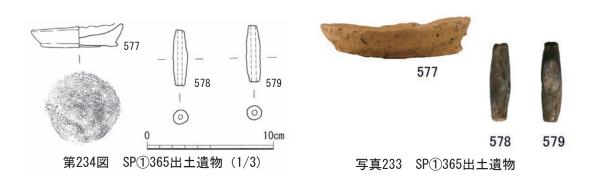
写真232 SP①365 (南から)

cm、短径34cmの楕円形で、深 さは28cmである。土師器小皿 と土錘2点が出土。

小調査区①区8256グリッド 第2層から検出した。長径37

SP①365出土遺物 (第234図、写真233、第125・126表)

577は完形の土師器小皿である。切り離しは右回転の糸切りで、座りが悪く粗雑な作りであ る。578・579は土師質の土錘である。色、大きさ、胎土の状態などよく似ている。小皿の年代 からSP①365の時期は13世紀末と思われる。



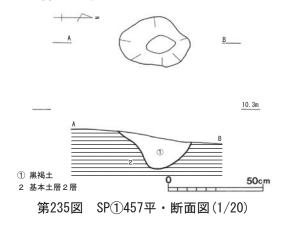
第125表 SP①365出土土器 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		Ħ	敕	É	Ŀij	焼成	448	借老
凶似钳写	命性	마기꼬	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面) 光八	加工	调行
577	土師器 小皿	底部~口縁部	7.2	1.6	6	_	_	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	長石 石英 角閃石	回転糸切り

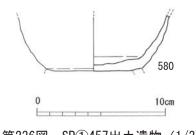
第126表 SP①365出土土製品 観察表

図版番号	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	色調	焼成	胎土	備考
578	44	11	11	6.3g	黄灰色	素焼	精良 雲母 赤色粒子	還元炎で焼かれる
579	44	11	11	5.6g	表:灰黄色(一部灰) 胎:灰白色	素焼	精良 長石 角閃石 赤色粒子	還元炎で焼かれる

SP①457 (第235図)



小調査区①区8254グリッド第2層から検出した。長 径37cm、短径25cmの楕円形で、深さは28cmである。



第236図 SP①457出土遺物 (1/3)



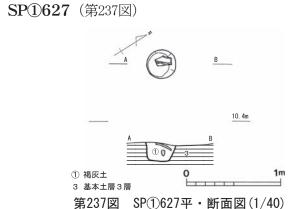
写真234 SP①457出土遺物

SP①457出土遺物(第236図、写真234、第127表)

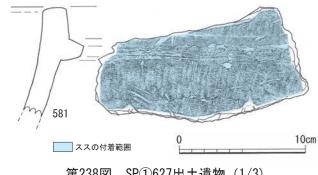
580は土師器椀である。貼り付けていた高台がきれいに外れている。底部はヘラ切りのままで 調整は行われていない。体部は下半で膨らんだ後ほぼ直線で口縁部にいたる。この遺物からSP① 457の時期は9世紀末と思われる。

第127表 SP①457出土土器 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		調	敖	色	, iii	焼成	胎土	供去
凶似钳方	6位生	마기꼬	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	狀以	加工	滞行
580	土師器 椀	底部~口縁部	(12.6)	(5)	7.5	ハケメ	_	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	雲母 角閃石	へがり



小調査区①区7856グリッド第3層から検出した。径 30cmの円形で、深さは19cmである。石鍋片が出土。



第238図 SP①627出土遺物(1/3)

SP①627出土遺物(第238図、写真235、第128表)

581は石鍋片である。内湾する口縁部の下に張り



写真235 SP①627出土遺物

出しがさほど大きくない鍔が付く。推定口径33cm。この遺物よりSP①627の時期は12世紀後半~ 13世紀前半と思われる。

第128表 SP①627出土石鍋 観察表

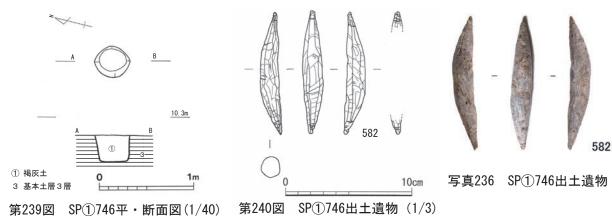
図版番号	器種	部位		法量(cm)		調	卒	色		備考
凶似钳方	601里	마까	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	144.5
581	鍔付き石鍋	口縁部~鍔	(33)	(8.7)	_	横位のケズリ	_	褐灰色	褐灰色	

SP①746 (第239図)

小調査区①区8056グリッド第3層から検出した。長径36cm、短径31cmの楕円形で、深さは25cm である。滑石製品が出土。

SP①746出土遺物(第240図、写真236、第129表)

582は滑石製品である。外形は鰹節状を呈する。端部には2~3条の浅い溝が刻まれる。用途は 不明である。SP①214出土569滑石製品と形状が同じであることから、同じ用途で使用されたもの と思われる。詳細な時期については不明である。

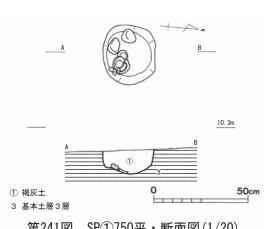


第129表 SP①746出土石製品 観察表

図版番号	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	備考
582	滑石製品	滑石	96	15	14	30g	外形は鰹節状 端部に2~3条の浅い溝

SP①750 (第241図、写真237)

小調査区①区8056グリッド第3層から検出した。長径30cm、短径27cmの楕円形で、深さは12cm である。土師器小皿が3点出土。



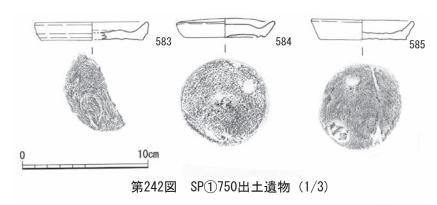
第241図 SP①750平·断面図(1/20)



写真237 SP①750 (南から)

SP①750出土遺物 (第242図、 写真238、第130表)

583~585は色調や形状が似た土師器小皿である。いずれも内面の体部と高台の境が窪み中央が盛り上がる。すべて切り離しは右回転糸切りである。切り離し



の際の凹凸が外底に残っており座りが悪い。いずれも13世紀末~14世紀初頭のものと思われる。SP ①95出土遺物に似る。



写真238 SP①750出土遺物

第130表 SP①750出土土器 観察表

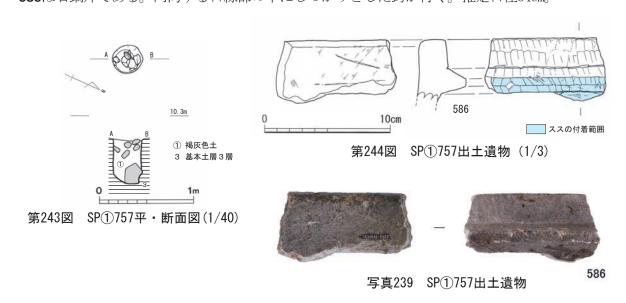
図版番号	器種	部位		法量(cm)		調	敕	É	注調	焼成	股+	備考
凶似钳丐	命俚	마기꼬	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	対以	加工	1用行
583	土師器 小皿	底部~口縁部	(8.8)	1.4	(8.2)	_	_	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	良好	ざらつきあり 長石 石英 角閃石	回転糸切り
584	土師器 小皿	底部~口縁部	7.7	1.5	6.4	_	_	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	雲母 石英 長石 角閃石	回転糸切り
585	土師器 小皿	底部~口縁部	8	1.6	6.8	_	_	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	石英 長石 角閃石 雲母 赤色粒子	回転糸切り

SP①757 (第243図)

小調査区①区8056グリッド第3層から検出した。長径32cm、短径30cmの円形で、深さは45cmである。石鍋片が出土。この遺物よりSP①757の時期は12世紀後半と思われる。

SP①757出土遺物 (第244図、写真239、第131表)

586は石鍋片である。内湾する口縁部の下にしっかりとした鍔が付く。推定口径34cm。



第131表 SP①757出土石鍋 観察表

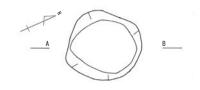
図版番号	器種	如片		法量(cm)		Ē.		色		備考
凶似钳与	命性	部址	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	湘石
586	鍔付き石鍋	口縁部	_	(4.9)	_	横位のケズリ	_	褐灰色	褐灰色	

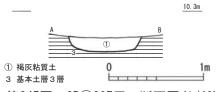
SP①807 (第245図)

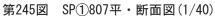
小調査区①区8058グリッド第3層から検出した。長径77cm、短径72cmの楕円形で、深さは13cmである。13世紀代のものと思われる石鍋のミニチュアが出土。

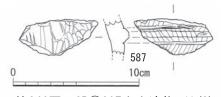
SP①807出土遺物 (第246図、写真240、第132表)

587は推定口径が10cmほどのミニチュアの石鍋である。内湾した口縁部に短い張り出しの鍔が付く。









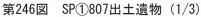




写真240 SP①807出土遺物

第132表 SP①807出土ミニチュア石鍋 観察表

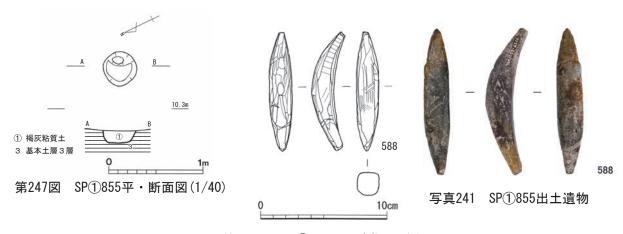
図版番号	器種	部位		法量(cm)		重量	E E	敕	É	·調	備考
凶队钳力	位性	山小	口径	器高	底径	里里	外面	内面	外面	内面	州
587	ミニチュア石鍋	口縁部	(10)	(2.8)	-	35.3g	横位のケズリ	_	明褐灰色	明褐灰色	内湾した口縁部に短い張り出しの鍔が付く

SP①855 (第247図)

小調査区①区8056グリッド第3層から検出した。径35cmの円形で、深さは12cmである。滑石製品が出土。詳細な時期については不明である。

SP①855出土遺物(第248図、写真241、第133表)

588は滑石製品である。外形は鰹節状を呈する。SP①214出土569、SP①746出土582滑石製品と 形状は同じであるが、端部に溝が刻まれていない点が異なる。



第248図 SP①855出土遺物 (1/3)

第133表 SP①855出土石製品 観察表

図版番号	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	備考
588	石錘?	滑石	95	17	17	40g	外形は鰹節状 SP①214、SP①746と形状は同じであるが溝は刻まれていない

SP①988 (第249図)

小調査区①区7856グリッド第2層から検出した。長径70cm、短径44cmの楕円形で、深さは18cmである。おろし皿片が出土。



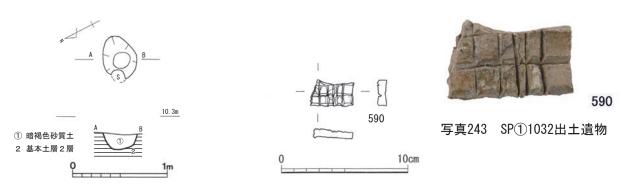
589は古瀬戸おろし皿である。肥厚した口縁端部はほぼ水平に面取りが行われる。ぼそりとした胎土に薄緑色の灰釉が掛かる。内面にはおろしのための刻みが入る。推定径は20cm程度である。胎土や釉調から591と同一固体と思われる。口縁部形態より13世紀後半のものと思われる(註3)。

第134表 SP①988出土土器 観察表

	図版番号	哭插	部位		法量(cm)			整	1 1	調	焼成	胎土	備考
ŀ	山瓜田 与	6世	Dhia	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	狀以	加工	湘行
	589	古瀬戸おろし皿	口縁部~体部	(20)	(2.5)	_	施釉	施釉	浅黄色	浅黄色	良好	ぼそりとした胎 黒色粒子	内面におろしのための刻み

SP①1032 (第251図)

小調査区①区7856グリッド第2層から検出した。長径47cm、短径35cmの楕円形で、深さは14cmである。おろし皿片が出土。



第251図 SP①1032平·断面図(1/40) 第252図 SP①1032出土遺物(1/3)

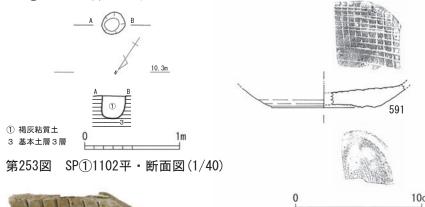
SP①1032出土遺物(第252図、写真243、第135表)

590は古瀬戸おろし皿底部片である。おろし目の溝は縦と斜めからの2方向から入れることで、目の幅を広くし鋭利な角を作り出している。ぼそりとした胎土である。589、591とは胎土の色調や厚さが異なるので別固体と思われるが時期は同じ13世紀後半か。

第135表 SP①1032 出土土器 観察表

図版番号	器種	却从		法量(cm)			整	1 1	iii	焼成	₩+	进 来
凶似钳方	位 性	即江	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	犹拟	加工	调 有
		おろし部分	ı	(0.7)	-	-	おろし目	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	ぼそりとした胎 長石	おろし目の溝は縦と斜めからの2方向

SP①1102 (第253図)



小調査区①区8056グリッド第3層から検出した。長径23cm、短径22cmの円形で、深さは18cmである。おろし皿片が出土。この遺物よりSP①1102の時期は13世紀後半と思われる。



写真244 SP①1102出土遺物

SP①1102出土遺物(第254図、写真244、第136表)

第254図 SP①1102出土遺物 (1/3)

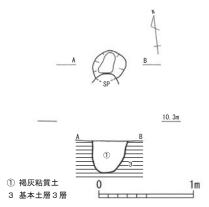
591はおろし皿のおろし部分である。おろし目の周囲と体部外面には薄緑色の灰釉が掛かる。濃淡のむらがあることから刷毛塗りも考えられる。おろし目は磨り減り、溝も浅くなっていることからよく使われていたことが分かる。底部は露胎で、切り離しは回転糸切りである。589と同一固体と思われる。

第136表 SP(1)1102出土土器 観察表

図版番号	器種	如从		法量(cm))	il.		Í	調	焼成	RA+	塔 ·
凶似钳力	始任	即江	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	沈以	加工	唯 行
591	おろし皿	おろし部分	-	(1.9)	(8)	_	格子目のタタキ	灰黄色	灰黄色	良好	陶土 長石	回転糸切り おろし目と体部外面に薄縁色の灰釉が掛かる

SP①1197(第255図)

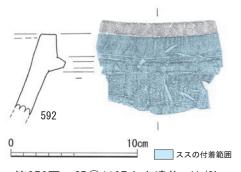
小調査区①区8056グリッド第3層から検出した。長径 37cm、短径30cmの楕円形で深さは34cmである。石鍋片が出土。この遺物よりSP①1197は13世紀代と思われる。



第255図 SP①1197平·断面図(1/40)



写真245 SP①1197出土遺物



第256図 SP①1197出土遺物(1/3)

SP①1197出土遺物(第256図、写真245、第137表)

592は石鍋片である。端部が水平に面取りされた口縁部はわずかに内湾し、その下にしっかりはしているが張り出しの小さな鍔が付く。外面には煤が全面に付くが、口縁端部には煤の付着が見られないことから蓋の使用が考えられる。推定口径は25cm。

第137表 SP(1)1197出土石鍋 観察表

図版采旦	型括	部位		法量(cm)		調	整	É	 語	准
凶版番号	器種	마1포	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	1 拥有
592	鍔付き石鍋	口縁部	(25)	(6.3)	_	横位のケズリ	_	黒褐色	オリーブ灰色	外面は口縁端部を除き煤が全面に付着 蓋の使用が考えられる

SP①1252 (第257図)

小調査区①区8254グリッド第3層から検出した。径20cmの円形、深さは35cmである。青磁片が出 土。この遺物からSP①1252の時期は11世紀後半~12世紀前半と思われる。

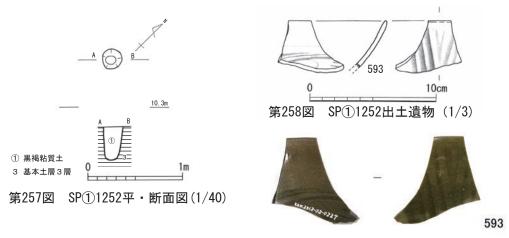


写真246 SP(1)1252 出土遺物

SP①1252出土遺物(第258図、写真246、第138表)

593は初期龍泉窯系・同安窯系青磁0類である。外面には幅広で片彫りの櫛目文が、内面には片彫りの花文と思われる文様が施されている。胎土は灰色で、釉薬はガラス質で深い緑色をしている。県内初出土である。

第138表 SP(1)1252出土土器 観察表

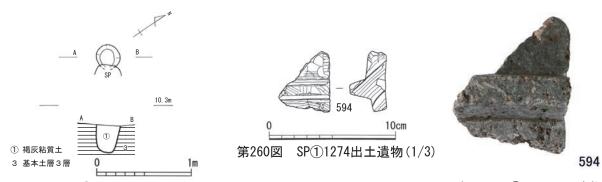
図版番号	型括	部位		法量(cm)		ij			色調	体成	W+	进 来
凶似笛り	卸性	마끄	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面)九八	107	順行
593	青磁 椀0類	口縁部~体部	_	(4.1)	_	-	-	灰オリーブ色	灰オリープ色	良好	灰色 長石 黒色粒子	初期龍泉窯系・同安窯系 外面に幅広で片彫りの櫛目文 内面に片彫りの花文と思われる文様

SP①1274(第259図)

小調査区①区8056グリッド第3層から検出した。径26cmの円形で、深さは28cmである。東側を後世の小穴に切られる。石鍋片が出土。この遺物よりSP①1274の時期は13世紀代と思われる。

SP①1274出土遺物(第260図、写真247、第139表)

594は鍔付きの石鍋片口縁部を再利用するために切断したものである。石鍋としては内湾する口縁にしっかりと作り出された鍔が付く。切断は鋸状の工具で、薄い方(胴部側)から厚い方(口縁部側)へ向かって行われている。



第259図 SP①1274平·断面図(1/40)

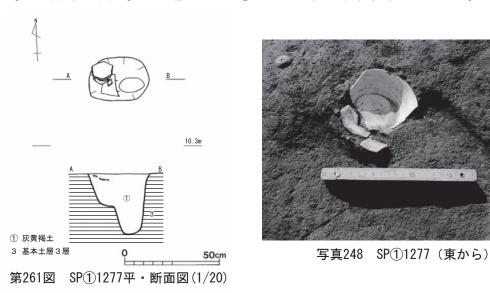
写真247 SP①1274出土遺物

第139表 SP①1274出土石製品 観察表

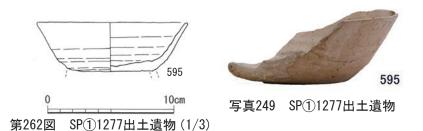
図版番号	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	量	備考
594	鍔石鍋転用品	滑石	48	40	11~15	50g	鍔付き石鍋片口縁部を再利用するために切断したもの

SP①1277 (第261図、写真248)

小調査区①区8254グリッド第3層から検出した。長径32cm、短径22cmの楕円形で、深さは32cmである。土師器椀が出土。この遺物よりSP①1277の時期は9世紀後半と思われる。



SP①1277出土遺物(第262図、写真249、第140表)



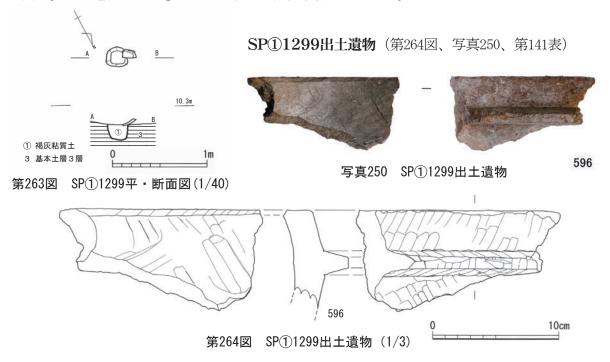
第140表 SP(1)1277出土土器 観察表

212		0				70777						
図版番号	器種	部位		法量(cm)		調	敕		色調	焼成	R4+	備考
凶似留亏	命性	마기	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	犹风	加工	湘 行
595	土師器 椀	底部~口縁部	(11.7)	3.8	(6.8)	_	_	にぶい橙色	浅黄橙色	良好	石英 長石 赤色粒子 雲母	回転へラ削り

595は土師器杯である。貼り付けていた高台がきれいに外れている。底部は高台際まで右回転ヘラケズリが行われ丁寧な作りである。体部は下半で膨らんだ後ほぼ直線で口縁部にいたる。

SP①1299 (第263図)

小調査区①区8054グリッド第3層から検出した。径21cmの円形で、深さは17cmである。石鍋片 が出土。この遺物よりSP①1299の時期は12世紀中頃と思われる。



596は滑石製石鍋である。内湾する口縁に丁寧な作りの張り出した鍔が付く。わずかに緑がか ったやや硬い滑石を使用している。推定口径は33cmである。

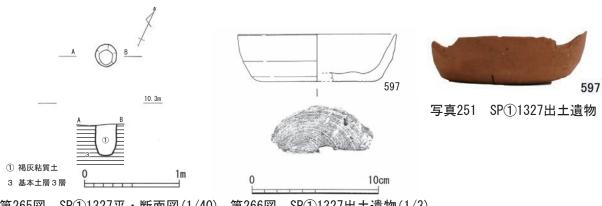
第141表 SP①1299出土石鍋 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		調			注調	備考
凶似钳方	命俚	마기꼬	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	调务
596	縁付き石鍋	口縁部	(33)	(8.0)	ı	_	ı	明オリーブ灰色	明オリーブ灰色	わずかに緑がかったやや硬い滑石を使用

SP①1327 (第265図)

小調査区①区8056グリッド第3層から検出した。長径25cm、短径22cmの楕円形で、深さは34cm である。土師器杯片が出土。この遺物よりSP①1327の時期は13世紀中頃と思われる。

SP①1327出土遺物(第266図、写真251、第142表)



第265図 SP①1327平·断面図(1/40) 第266図 SP①1327出土遺物(1/3)

597は土師器杯である。体部はわずかに内湾しながら大きな角度で立ち上がる。切り離しは右回転の糸切り。

第142表 SP(1)1327出土土器 観察表

図版番号	型種	部位		法量(cm)		調			色調	体式	+ A#	准
凶似笛写		마1꼬	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	焼灰	Mi	1用行
597	土師器 杯	底部~口縁部	(12.4)	3.75	(8.6)	_	_	橙色	橙色	良好	細かい 長石 角閃石 雲母	回転糸切り

SP①1338(第267図、写真252)

小調査区①区8056グリッド第3層から検出した。長径22cm、短径20cmの楕円形で、深さは25cmである。貿易陶器壺片が出土。

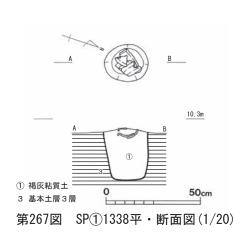


写真252 SP(1)1338 (東から)

SP①1338出土遺物(第268図、写真253、第143表)

598は貿易陶器壷である。最大径は片部にあり口縁部は複合口縁となる。胎土には長石が多く含まれ内外面にオリーブ色の釉が掛かる。詳細な時期については不明である。

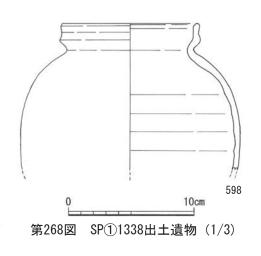


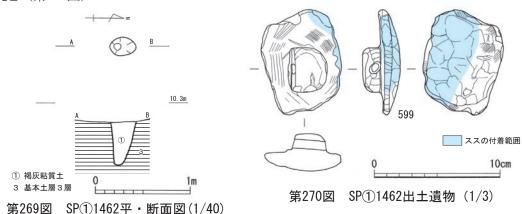


写真253 SP①1338出土遺物

第143表 SP①1338出土土器 観察表

図版番号	型括	部位		法量(cm)		調	敷	f	ėiji	焼成	RA+	農 去
凶似钳方		DNA	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	が採	加工	调 行
598	貿易陶器 壺	口縁部~体部	(10.8)	(11.5)	-	_	-	灰オリーブ色	灰オリーブ色	良好	長石が多く含まれる 黒色粒子	複合口縁

SP①1462 (第269図)



小調査区①区8254グリッド第3層から検 出した。長径26cm、短径20cmの楕円形で、 深さは46cmである。滑石製品が出土。詳 細な時期については不明である。



SP①1462出土遺物(第270図、写真254、第144表)

写真254 SP(1)1462出土遺物

599は滑石製の石鍋の補修具である。緑色で硬め

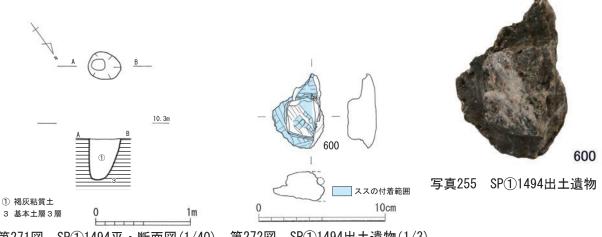
の材質で、器壁部の長軸に対し挿入部が斜めに作り出されている。挿入部の孔は器壁部の短軸方 向に穿たれている。器壁部上面が凹状を呈することから外面からの挿入用と思われる。

第144表 SP①1462出土石鍋補修具 観察表

図版番号	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	備考
599	石鍋 補修具	滑石	83	63	30	140g	器壁部上面が凹状、外面からの挿入用と思われる 緑色で固めの材質

SP①1494 (第271図)

小調査区①区8058グリッド第3層から検出した。長径34cm、短径28cmの楕円形で、深さは42cm である。滑石製品が出土。詳細な時期については不明。



第271図 SP①1494平・断面図(1/40) 第272図 SP①1494出土遺物(1/3)

SP①1494出土遺物(第272図、写真255、第145表)

600は滑石製石鍋の補修具である。全体が半分で折れているが、鉄線を挿入する孔が器壁部上面にほぼ接する位置にわずかに残る。器壁部上面が凸状をなし煤が付着することから内面からの挿入用と思われる。挿入部の高さは低い。

第145表 SP①1494出土石鍋補修具 観察表

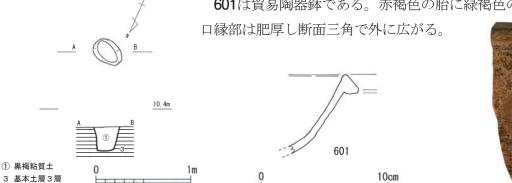
図版番号	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	備考
600	石鍋 補修具	滑石	60	40	23	45g	半分で折れている 鉄線を挿入する孔がわずかに残る

SP②438 (第273図)

小調査区②区8456グリッド第3層から検出した。長径28cm、短径23cmの楕円形で、深さは40cmである。陶器片が出土。この遺物よりSP②438の時期は12世紀後半と思われる。

SP②438出土遺物(第274図、写真256、第146表)

601は貿易陶器鉢である。赤褐色の胎に緑褐色の釉が掛かる。

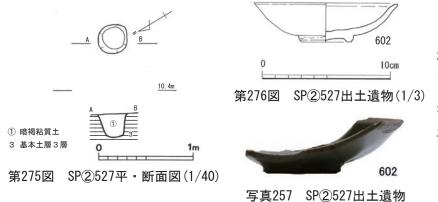


第273図 SP②438平·断面図(1/40) 第274図 SP②438出土遺物(1/3) 写真256 SP②438出土遺物

第146表 SP2)438 出土土器 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		調	敖	É	iii	焼成		1 Δ+	准
凶似钳写	6世	Dh/A	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	狀拟		加工	调 行
601	陶器 鉢	口縁部~体部	_	(7.2)	_	_	_	オリーブ褐色	にぶい橙色	HH	赤色粒子 長	石	緑褐色の釉が掛かる

SP②527 (第275図)



小調査区②区8658グリッド第3層から検出した。径30cmの円形で、深さは25cmである。白磁が出土。13世紀後半~14世紀前半と思われる。

601

SP②**527**出土遺物(第276図、写真257、第147表)

602は口禿げの白磁皿IX類である。

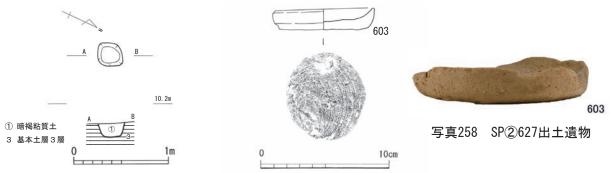
第147表 SP2527 出土土器 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		調	整	色	調	体式	+48	備考
凶似钳与	位性 (山小	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	焼灰	Mi⊥	
602	白磁 Ⅲ Ⅳ類	底部~口縁部	(11.3)	3	4	_	_	灰白色	灰白色	良好	_	口禿げ

SP②627 (第277図)

小調査区②区8458グリッド第3層から検出した。長径33cm、短径26cmの楕円形で、深さは14cmである。土師器小皿が出土。

SP2627出土遺物 (第278図、写真258、第148表)



第277図 SP②627平·断面図(1/40) 第278図 SP②627出土遺物(1/3)

603は土師器小皿である。作りが雑で形が歪んでいる。底部の切り離しは右回転の糸切り。 13世紀末~14世紀初めの所産と思われる。

第148表 SP2627出土土器 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		a a a a a a a a a a a a a a a a a a a	整		色調	体式	RA.±	備考
凶似钳方	命悝	DbJA	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	光以	加工	调 有
603	土師器 小皿	底部~口縁部	8	1.6	7	_	指ナデ	浅黄色	浅黄色	良好	長石 石英 角閃石	回転糸切り 作りが雑で形が歪んでいる

SP2656 (第279図、写真259)

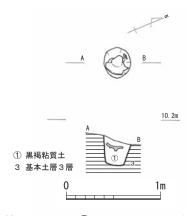




写真259 SP2656 (西から)

小調査区②区8456グ リッド第3層から検出 した。長径32cm、短径 26cmの楕円形で、深さ は34cmである。青磁椀 が出土。

第279図 SP2656平 断面図(1/40)

SP2656出土遺物 (第280図、写真260、第149表)

604は外面に片彫りの鎬蓮弁文が施される龍泉窯系青磁椀Ⅱ類である。この遺物からSP②656の時期は13世紀前半と思われる。

第149表 SP2656 出土土器 観察表

図版番号	器種	並∤⊹		法量(cm)		調	梨	1	色調	体式	+49	
凶似留写	谷性	하1보	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	洗 似	加工	1
604	惠班 按Ⅲ知	在 如 ~ 口 緑 如	(15.0)	6.5	4.6			□士□_ゴ&	応士Ⅱ二ゴ毎	白权	甲岳點之	\$10 gg (

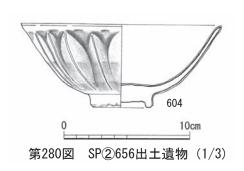
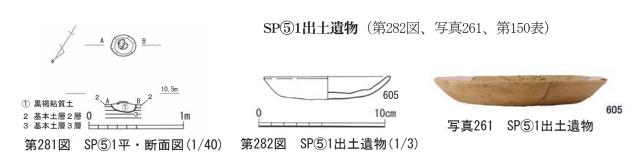




写真260 SP2656出土遺物

SP⑤1 (第281図)

小調査区⑤区7860グリッド第2層から検出した。長径32cm、短径26cmの楕円形で、深さは11cmである。土師器小皿が伏せられた状態で出土した。

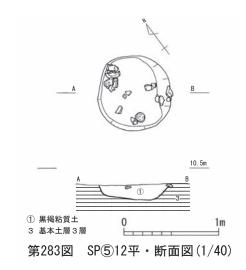


605は土師器小皿である。体部は緩く内湾しながら口縁部にいたる。切り離しは右回転のヘラ切りである。この遺物からSP⑤1の時期は11世紀前半と思われる。

第150表 SP⑤1出土土器 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		iii	整	É	iii	焼成	RA+	借去
凶似钳与	6世	마끄	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	狀以	加工	順行
605	土師器 小皿	底部~口縁部	9.8	1.8	6	指ナデ	指ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	良好	角閃石 石英 長石 赤色粒子	回転へ予切り

SP⑤12 (第283図、写真262)



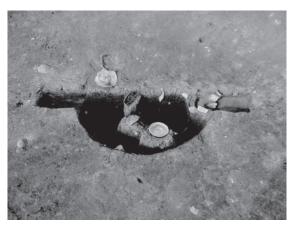
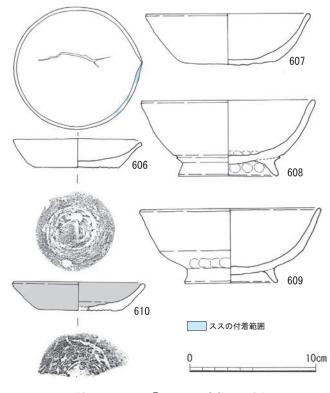


写真262 SP⑤12 (南から)

小調査区⑤区7860グリッド第3層から検出した。長径83cm、短径80cmの円形で、深さは15cmである。土師器椀、小皿、須恵器片が出土したが須恵器片は小片のために図示していない。

SP512出土遺物 (第284図、写真263、第151表)



第284図 SP⑤12出土遺物 (1/3)

606は土師器小皿である。底に大き なひびが入っている。口縁部には1箇 所片口状の窪みを作り出しており、煤 の付着が見られる。607は土師器杯で ある。内湾しながら立ち上がる体部は 口縁部でわずかに内湾する。切り離し は右回転のヘラ切り。608と609は土師 器椀である。どちらも高めの高台が外 に開き、体部は膨らみながら立ち上が り口縁部でわずかに外反する。高台内 側の回転ヘラ切り痕はナデ消してい る。610は黒色土器B類小皿である。胎 土は精良で砂粒を含まない。摩滅のた めにミガキ痕は確認できない。切り離 しは回転へラ切りである。これらの遺 物よりSP(5)12の時期は10世紀後半と思 われる。



写真263 ⑤SP12出土遺物

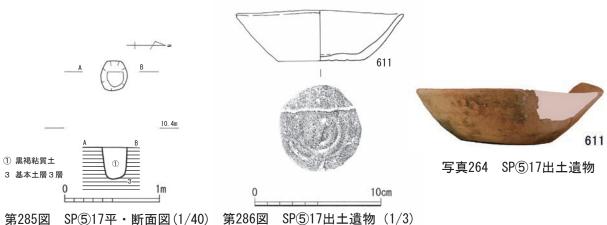
第151表 SP⑤12出土土器 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		1	整	f	D調	焼成	胎土	備考
凶似留写		마기꼬	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	洗风	加工)拥有
606	土師器 小皿	底部~口縁部	10.1	2.3	6.6	_	_	浅黄橙色	浅黄橙色	やや良好	長石 赤色粒子 角閃石 石英	回転へラ切り片口状の窪み
607	土師器 坏	底部~口縁部	(12.8)	4.1	7.6	_	_	灰白色	浅黄橙色	良好	赤色粒子 石英 雲母 長石	回転へラ切り
608	土師器 椀	底部~口縁部	(13.6)	6	7.9	_	指おさえ	灰白色	灰白色	良好	雲母 長石	回転へラ切り
609	土師器 椀	底部~口縁部	(14.2)	5.9	7.4	_	指おさえ	灰白色	にぶい橙色	良好	角閃石 長石	回転へラ切り
610	黒色土器 B類 小皿	底部~口縁部	(10.2)	2.2	(6.0)	_	_	褐灰色	褐灰色	良好	石英 赤色粒子 長石	回転へラ切り

SP⑤17 (第285図)

小調査区⑤区8060グリッド第3層から検出した。長径35cm、短径28cmの楕円形で、深さは43cmである。土師器杯が出土。

SP517出土遺物 (第286図、写真264、第152表)



第269区 5P(5)1/平・断囲区(1/40) 第200区 5P(5)1/出工退物(1/5)

611は体部がほぼ直線で外へ伸びる杯である。切り離しは左回転のヘラ切り離しで、体部の立ち上がりには回転ヘラ削りが行われる。9世紀前半の所産と思われる。

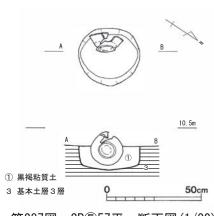
第152表 SP⑤17出土土器 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		調	整		色調	焼成	RA+	備考
凶似田り	位性	bhl木	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	沈以	胎工	開行
611	土師器 杯	底部~口縁部	13	4	6.6	_	_	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	長石 石英 黒色粒子	回転ヘラ切り 体部の立ち上がりに回転ヘラ削り

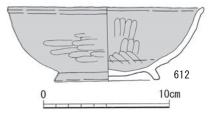
SP⑤57 (第287図)

小調査区⑤区7858グリッド第3層から検出した。長径31cm、短径30cmの円形で、深さは20cmである。黒色土器椀が出土。この遺物よりSP⑤57の時期は10世紀前半と思われる。

SP⑤57出土遺物 (第288図、写真265、第153表)



第287図 SP⑤57平·断面図(1/20)



第288図 SP⑤57出土遺物 (1/3)



写真265 SP⑤57出土遺物

612は黒色土器B類椀である。丸みを持つ体部で口縁部は外反する。体部の立ち上がり部分に回転へラ削りが施されている。また、見込みには指頭痕が残る。

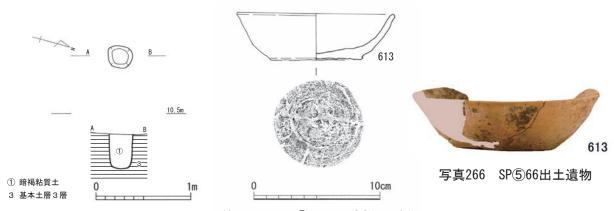
第153表 SP⑤57出土土器 観察表

网柜采旦	器種	却片		法量(cm)		iii d	整	É	問	焼成	144	農 老
凶版番号		部1	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	洗灰	炬工	1用 行
612	黒色土器B類 椀	ほぼ完形	15.3	6	8	ミガキ	ミガキ	褐灰色	褐灰色	良好	雪母 石英 精良	見込みに指頭痕が残る 体部の立ち上がり部分に回転へラ削り

SP566 (第289図)

⑤区7860グリッド第3層から検出した。長径28cm、短径25cmの楕円形で、深さは35cmである。 土師器杯が出土。この遺物よりSP⑤66の時期は9世紀前半と思われる。

SP⑤66出土遺物(第290図、写真266、第154表)



第289図 SP566平・断面図(1/40) 第290図 SP566出土遺物(1/3)

613は体部がわずかに丸みを持って立ち上がり口縁部で外反する杯である。切り離しは右回転のヘラ切り離しである。

第154表 SP566出土土器 観察表

図版番号	器種	加井		法量(cm)		調	整	f	Ŀij	体式	RA+	農 来
凶似钳万	命性	部位	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	一 焼成	加工	调 与
613	土師器 杯	底部~口縁部	12.4	3.8	7	-	_	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	長石 角閃石 石英	回転ヘラ切り 体部下半に右回転ロクロによる回転ヘラ削り

SP⑤211 (第291図)



第291図 SP⑤211平・断面図(1/40) 第292図 SP⑤211出土遺物(1/3) 写真267 SP⑤211出土遺物

⑤区8058グリッド第3層から検出した。長径35cm、短径30cmの楕円形で、深さは20cmである。 須恵器杯が出土。この遺物よりSP⑤211の時期は9世紀前半と思われる。

SP⑤211出土遺物(第292図、写真267、第155表)

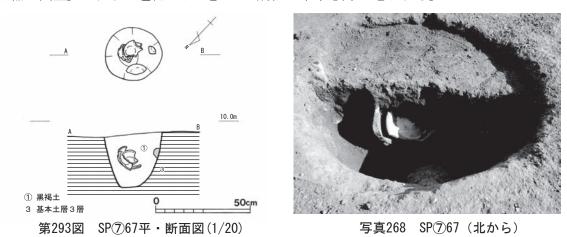
614は体部がほぼ直線で外へ伸びる須恵器杯である。切り離しは右回転のヘラ切り離しである。体部立ち上がりの回転ヘラ削りは行われていない。

第155表 SP(5)211出土土器 観察表

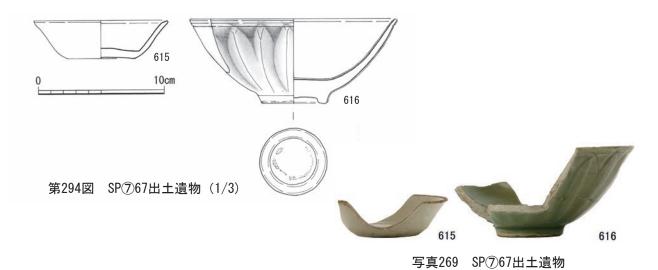
図版番号	器種	部位		法量(cm)		1	整	E	調	体式	#A.+	農 表
凶似钳写	价性	마기포	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	焼风	加工	调行
614	須恵器 杯	底部~口縁部	12.4	3.9	8.2	_	指おさえ	灰色	灰色		長石 黒色粒子	回転へラ切り

SP767 (第293図、写真268)

⑦区8464グリッド第3層から検出した。長径30cm、短径28cmの円形で、深さは30cmである。貿易磁器が出土。これらの遺物よりSP⑦67の時期は13世紀後半と思われる。



SP(7)67出土遺物 (第294図、写真269、第156表)

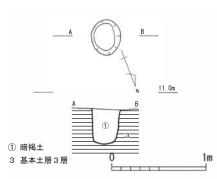


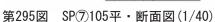
615は口禿げの白磁皿IX類である。616は外面に片彫りの鎬蓮弁文が施される龍泉窯系青磁椀 II 類である。外面高台内に焼台の痕が残る。

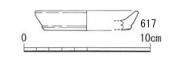
第156表 SP⑦67出土土器 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		調	敦	f	ė iji	焼成	₩.+	備考
凶枞留亏	奇悝	即江	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	狀成	加工	141.5
615	白磁 皿区類	底部~口縁部	(10.8)	3	5.4	-	_	灰白色	灰白色	良好		口禿げ
616	青磁 椀Ⅱ類	底部~口縁部	(16.1)	6.7	5.2	_	_	オリーブ灰色	オリーブ灰色	良好	灰白	龍泉窯系 外面に片彫りの鎬連弁文 高台内には焼台の痕が残る

SP⑦105 (第295図)







第296図 SP⑦105出土遺物(1/3)



写真270 SP⑦105出土遺物

⑦区8464グリッド第3 層から検出した。長径35 cm、短径30cmの楕円形 で、深さは38cmである。 士師器小皿が出土。

SP⑦105出土遺物(第296図、写真270、第157表)

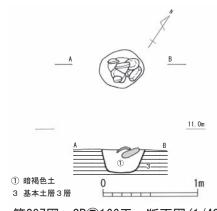
617は土師器小皿である。14世紀前半のものと思われる。

第157表 SP⑦105出土土器 観察表

図版番号	器種	如井		法量(cm)		調	整	色	調	焼成	杜士	借去
凶似钳与	6世	郡址	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面)优以	加工	调 行
617	土師器 小皿	底部~口縁部	(7.8)	1.5	(6.6)	-	-	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	角閃石 長石 石英 赤色粒子	回転糸切り

SP(7)166 (第297図、写真271)

⑦区8264グリッド第3層から検出した。長径48cm、短径40cmの楕円形で、深さは39cmである。 石鍋片が出土。



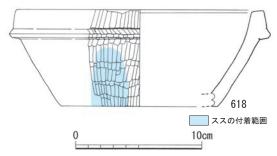
第297図 SP 7166平 · 断面図 (1/40)



写真271 SP⑦166 (南から)

SP⑦166出土遺物(第298図、写真272、第158表)

618は滑石製石鍋である。斜めに延びる体部から鍔部を境に口縁部は内傾する。体部は斜めに延びた後、鍔部を境に直立する。鍔部は丁寧な作りではあるが張り出しは小さい。14世紀代のものである。





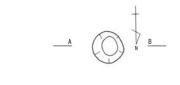
第298図 SP⑦166出土遺物 (1/3)

写真272 SP⑦166出土遺物

第158表 SP⑦166出土石鍋 観察表

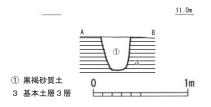
図版番	号 器種	却片		法量(cm)		調	敦	色訓		准 本
凶似钼	5	部位	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	调 行
618	石鍋	口縁部~体部	(20)	7.6	(12.3)	横位のケズリ	_	灰白色	にぶい黄橙色	

SP(7)181 (第299図)





⑦区8262グリッド第3層 から検出した。径32cmの円 形で、深さは28cmである。 土師器小皿が出土。





図、写真273、第159表)

619は土師器小皿である。 14世紀前半の所産か。

SP⑦181出土遺物 (第300

第299図 SP 7181平 · 断面図 (1/40)

第159表 SP⑦181出土土器 観察表

図版番号	型括	部位		法量(cm)		調	敕	色	語	体出	H.4	備考
凶似钳方		Dhin	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	(現成	加工	调 行
619	土師器 小皿	口縁部~底部	_	(1.1)	_	_	_	橙色	橙色	良好	長石 赤色粒子 石英	

SP7186 (第301図、写真274)

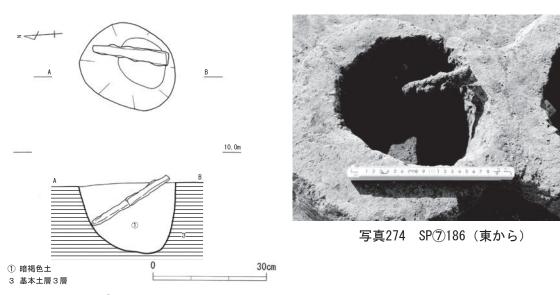
⑦区8264グリッド第3層から検出した。長径25cm、短径21cmの楕円形で、深さは18cmである。 刀、土師器小皿片、土錘が出土。刀は、基部を北側壁に密着し斜めに置かれた状態で、上位が欠損していた。詳細な時期は不明である。

SP⑦186出土遺物(第302図、写真275、第160~162表)

620は手づくねの土師器小皿である。製作時の指頭痕が明瞭に残る。**621**は土師質の土錘である。**622**は鉄製の刀である。

第160表 SP⑦186出土土器 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		il	整	É	調	体式	H.4	供去
凶似钳巧	谷 俚	助江	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	焼成	加工	调行
620	土師器 小皿	口縁部~体部	5.6	1.7	2.6	指頭痕	指頭痕	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	角閃石 石英 長石	



第301図 SP 7186平 · 断面図 (1/10)

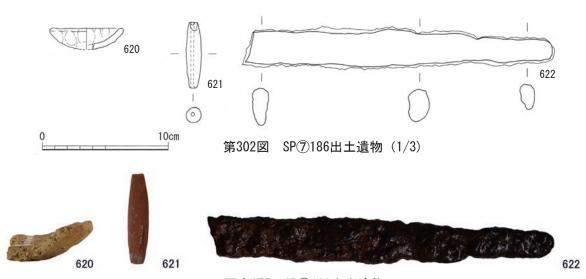


写真275 SP⑦186出土遺物

第161表 SP⑦186 出土土製品 観察表

図版番号	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	色調	焼成	胎土	備考
621	52	12	12	6.9g	明赤褐色	良好	長石 角閃石 雲母	

第162表 SP⑦186 出土金属製品 観察表

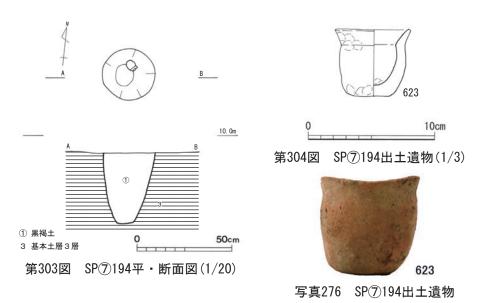
図版番号	器種	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	備考
622	刀	鉄	246	29	17	205g	上部が欠損

SP⑦194 (第303図)

⑦区8264グリッド第3層から検出した。径27cmの円形で、深さは35cmである。ミニチュア甕が出土した。詳細な時期は不明である。

SP⑦194出土遺物 (第304図、写真276、第163表)

623はミニチュアの甕である。平底で胴部は中位で膨らみを持つ。最大径は口縁部にある。表面はナデにより平滑に仕上がるが、一部に指頭痕が残る。



第163表 SP⑦194出土土器 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)			整		Lill	焼成	胎土	備考
凶似钳万	命俚	마기꼬	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	狀災	加工	调行
623	ミニチュア甕	底部~口縁部	(5.9)	5.3	3	指頭痕	指頭痕	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	石英 角閃石 雲母	

SP(7)224 (第305図)



⑦区8262グリッド第3層 から検出した。長径35cm、 短径34cmの円形で、深さは 46cmである。土師器小皿が 出土。この遺物からSP⑦ 224の時期は14世紀前半と 思われる。

SP⑦224出土遺物(第306図、写真277、第164表)

624は土師器小皿である。切り離しは右回転の糸切りである。

第164表 SP(7)224 出土土器 観察表

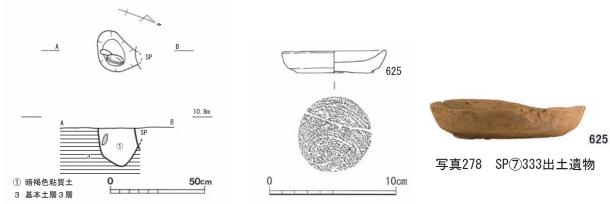
図版番号	器種	部位		法量(cm)		調	<u>*X</u>	色		体式	RA+	冼 妻
凶似钳力	位性 (마기꼬	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	焼成	胎主	川 行
624	土師器 小皿	ほぼ完形	7.6	1.4	6	I	ı	にぶい黄橙色	灰黄褐色	良好	角閃石	回転糸切り

SP(7)333 (第307図)

⑦区8462グリッド第3層から検出した。長径25cm、短径18cmの楕円形で、深さは25cmである。土師器小皿が出土。この遺物からSP⑦333の時期は14世紀前半と思われる。

SP 7333出土遺物(第308図、写真278、第165表)

625は土師器小皿である。底部の切り離しは右回転の糸切りである。



第307図 SP⑦333平·断面図(1/20) 第308図 SP⑦333出土遺物(1/3)

第165表 SP⑦333 出土土器 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)			整		色調	焼成	14A	洪 李
凶似钳写	谷性	叫加	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	光以	加工	備考
625	土師器 小皿	ほぼ完形	8.2	1.7	6.1	_	_	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	角閃石	回転糸切り

- 註1 井上喜久男編「瀬戸編年表」『世界陶磁全集3』小学館1977による。
- 註2 島根県埋蔵文化財センターの内田律雄氏より、実見していないので断定はできないが「漁具」の可能性がある との御教示をいただいた。
- 註3 「古瀬戸製品編年表」『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 瀬戸系』愛知県史編さん委員会編2007による。 590、591についても同じである。

(2) 包含層出土の遺物

①共通土層2層(以下2層)出土遺物

貿易陶磁 (第309図、写真279、第166表)

626~639は越州窯系青磁である。626~629は I 類椀口縁部、630~632は II 類椀口縁部である。633~635は蛇ノ目高台を持つ I 類椀底部である。633・635は畳付にのみ目跡がみられ、634 は見込みにも目跡が残る。636~638は円盤状高台を持つ II 類椀底部である。いずれも体部下半は露胎で、見込に目跡が見られる。638には回転糸切り痕が残り、636は内面の白色の化粧土が

第166表 2層出土貿易陶磁 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		調	敷 芷	色	調	焼成	胎土	出土区グリッド	備考
四版田与	位任	助河	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	狀以	加工		
626	青磁 椀Ⅰ類	口縁部	(13.8)	(2.6)	_	_	_	灰黄色		良好	黒色粒子	58060	越州窯系
627	青磁 椀Ⅰ類	口縁部	_	(2.1)	_	_	_	灰オリーブ色	灰オリーブ色	良好	黒色粒子		越州窯系
628	青磁 椀Ⅰ類	口縁部	_	(2.7)	-	_	_	黄褐色	黄褐色	良好	黒色粒子		越州窯系
629	青磁 椀 [類	口縁部	_	(2.0)	_	_	_	灰オリーブ色	灰オリーブ色	良好	黒色粒子		越州窯系
630	青磁 椀Ⅱ類	口縁部	_	(2.3)	_	_	_	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	黒色粒子		越州窯系
631		口縁部	_	(1.7)	_	_	_	にぶい黄色			黒色粒子	58060	越州窯系
632	青磁 椀Ⅱ類	口縁部	_	(2.6)	-	_	_	にぶい黄色	にぶい黄色	良好	黒色粒子	58060	越州窯系
633		底部	_	(4.2)	5.4	_	_	にぶい黄色			黒色粒子		越州窯系 畳付に目跡
634		底部	_	(1.6)	(6.5)	_	_	にぶい黄色	にぶい黄色	良好	赤色粒子		越州窯系 畳付け、見込みに目跡
635	青磁 椀Ⅰ類	底部	_	(1.7)	_	_	_	灰黄色	灰黄色	良好	黒色粒子	57860	越州窯系 畳付に目跡
636	青磁 椀Ⅱ類	底部	_	(3.0)	(9.4)	_	_	浅黄色	淡黄色	やや良好	黒色粒子	58060	越州窯系 見込みに目跡 内面の化粧土が剥落している
637	青磁 椀Ⅱ類	底部	_	(2.0)	-	_	_	灰黄褐色	灰オリーブ色	良好	黒色粒子		越州窯系 見込みに目跡
638	青磁 椀Ⅱ類	底部	_	(1.2)	-	_	_	灰黄褐色	灰オリーブ色	良好	黒色粒子	57860	越州窯系 見込みに目跡 回転糸切り
639	青磁 水注	口縁部~肩部	(9.9)	(9.0)	-	_	_	灰オリーブ色	灰オリーブ色	良好	黒色粒子		越州窯系
640	青磁 椀	底部	_	(1.7)	(4.8)	_	_	灰オリーブ色	灰オリーブ色	良好	石英	57860	初期高麗
641	青磁 椀	底部	-	(0.6)	_	_	_	灰オリーブ色		良好	石英	57858	初期高麗
642	白磁 杯	底部~体部	_	(3.0)	2.7	_	_	灰白色	灰白色	良好	黒色粒子	88662	
643	白磁 合子 身	底部~受部	_	(1.8)	(2.2)	_	_	灰白色	灰白色	良好	黒色粒子	58060	本体に装飾を貼り付けているが欠損のため詳細は不明
644	青白磁 椀	底部	_	(1.7)	5.6	_	_	灰白色	灰白色	良好	黒色粒子		
645	陶器	底部	_	(1.6)	4.8		_	灰黄色	暗灰黄色	良好	黒色粒子	58058	伊羅保釉風の緑色の釉が掛かる 生産地不明 後にメンコとして転用

剥落している。**639**は水注である。緻密な青灰色の胎土にオリーブ色の釉が掛かる。頸部に把手を持ち、肩部には段状の線が2条巡る。**640・641**は初期高麗青磁椀底部片である。**640**は青灰色で硬質の胎土に、高台畳付を除き釉が掛かる。**641**は灰白色で硬質の胎土に高台内にも灰オリー

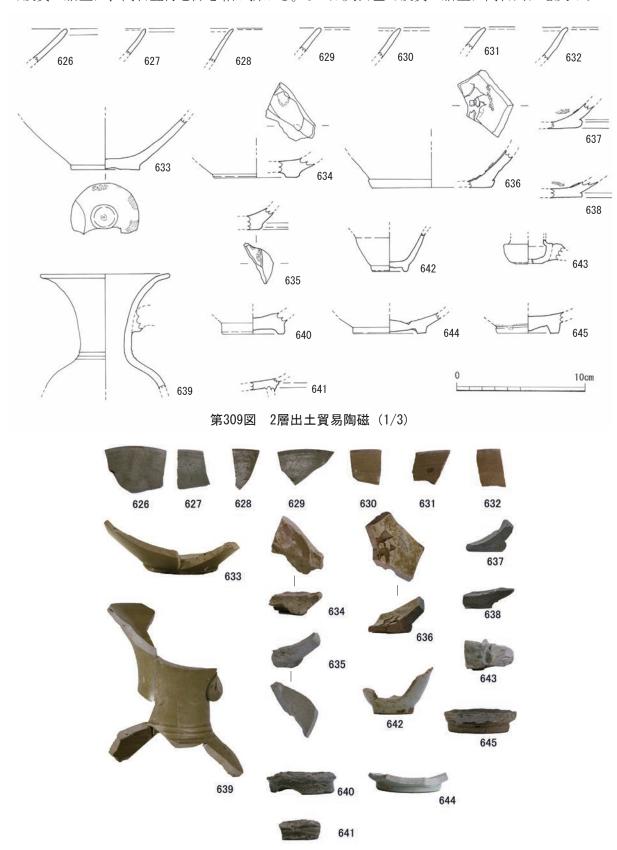


写真279 2層出土貿易陶磁

ブの釉が掛かる。642・643は白磁である。642は杯である。高台外面を及び畳付を除き施釉される。643は合子身と思われる。円形の本体に装飾を貼り付けているが欠損のために詳細は不明である。底部及び蓋の受け部は露胎である。644は青白磁椀底部である。見込には段状の沈線が巡り、高台は断面四角形を呈する。微細な黒色粒子を含む白色の胎に、青みがわずか付いた白色の釉が全面に掛かる。645は黒色粒子を含む灰色の胎に伊羅保釉風の濃淡のある緑色の釉が掛かる陶器である。高台の削り出しは粗く外面に一条の沈線ができ高台内は兜巾状を呈する。高台部分は露胎である。生産地は不明である。後にメンコとして転用されている。

ミニチュア土器、坩堝 (第310図、写真280、第167表)

646~650はミニチュア土器である。手づくねのために内外面に指頭痕が残る。**651**は坩堝である。口縁部の高さは水平に整えられているが体部外面には指頭痕が残る。内外面ともに青灰色を呈し硬質化していることから高温で被熱したことが窺える。内面には金属の付着が見られる。

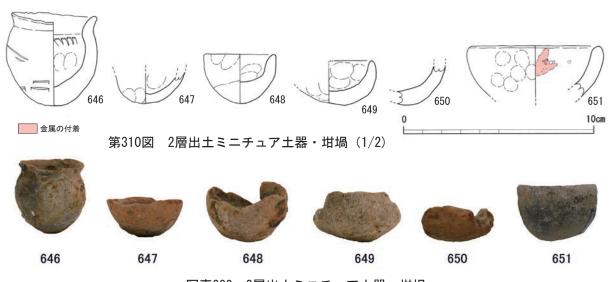


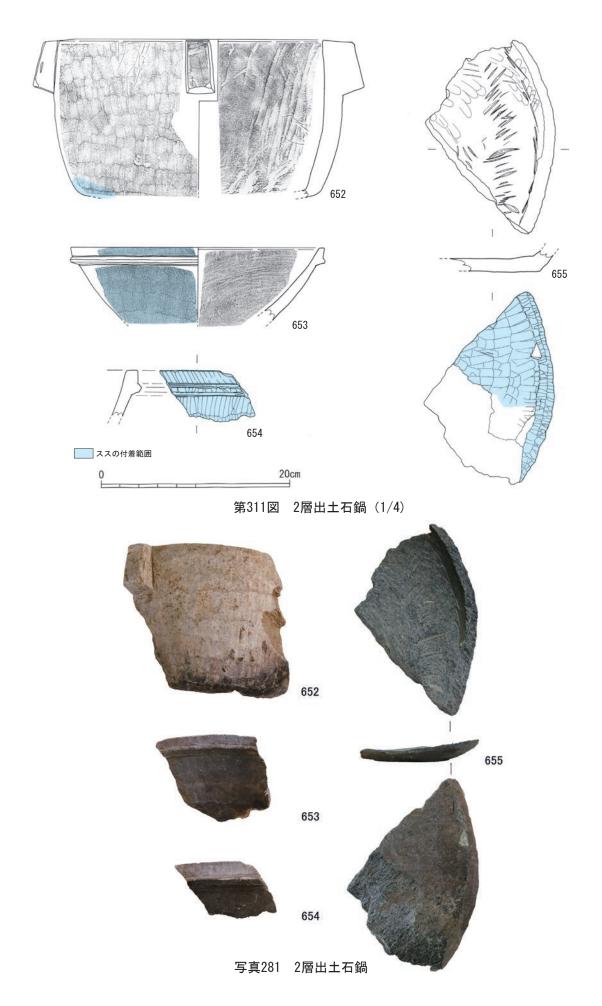
写真280 2層出土ミニチュア土器、坩堝

第167表 2層出土ミニチュア土器・坩堝 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)			整	色	調	焼成	胎土	出土区グリッド	備考
凶似笛 ち	给作生	마마	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	洗灰	加工	山工区グググド	1用/5
646	ミニチュア土器	完形	4.5	4.9	0.9	指頭痕	指頭痕 ヘラナデ	橙色	橙色	良好	結晶片岩 赤色粒子 石英 雲母	①8258	手づくね
647	ミニチュア土器	底部~体部	_	(1.5)	0.5	指頭痕	指頭痕	橙色	橙色	良好	結晶片岩 赤色粒子 石英 雲母	①8256	手づくね
648	ミニチュア土器	底部~口縁部	(3.8)	2.6	0.4	指頭痕	指頭痕	橙色	にぶい橙色	良好	雲母 赤色粒子 石英 長石	18258	手づくね
649	ミニチュア土器	底部~口縁部	(2.3)	2.35	0.7	指頭痕	指頭痕	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	長石 石英 角閃石	49060	手づくね
650	ミニチュア土器	底部~体部	_	(2.0)	0.3	指頭痕	指頭痕	橙色	黄褐色	良好	長石 石英 角閃石	68262	手づくね
651	坩堝	口縁部~体部	(7.1)	(2.7)		指頭痕	_	暗灰黄色	灰黄褐色	良好	長石 石英	78262	内面に金属付着

滑石製石鍋(第311図、写真281、第168表)

652は灰白色の良質な滑石から作られている。体部は中位から緩やかに内湾しながら口縁部に至る。内面には縦位の粗い削り痕が残ることから使用は短かったものと思われる。底部際に煤痕が残る。653は口縁部がわずかに内湾し、その下にしっかりはしているが張り出しの小さな鍔が付く。内面は横位の傷が全面に見られる。外面は口縁端部まで煤が全面に付く。推定口径は36cm。654もしっかりとした張り出しの小さな鍔が付く。口縁部はほぼ直立する。内面は平滑で外面にはわずかに被熱の跡が残る。655は緑色を帯びた硬質の滑石から作られる。内面には放射状の削り痕が残る。復元底径は32cmである。



第168表 2層出土石鍋 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		調	整	色	·調	出土区グリッド	備考
凶似留亏		山江	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	出工区グリット	1 用 方
652	縦耳付き石鍋	口縁部~底部	(28.4)	(16.6)	_	横位のケズリ	_	灰白色	灰白色	68266	外面に煤付着
653	鍔付き石鍋	口縁部~体部	(36.6)	(7.7)	_	横位のケズリ	横方位の傷	黒褐色	褐灰色	88462	外面に煤付着
654	鍔付き石鍋	口縁部~体部	(36.0)	(4.9)	_	横位のケズリ	_	褐灰色	明褐灰色	18056	外面に煤付着
655	石鍋	底部	_	(2.3)	(32.0)	横位のケズリ	_	褐灰色	緑灰色	78464	内面に成形時の鑿痕が残る

石製品(第312図、写真282、第169~171表)

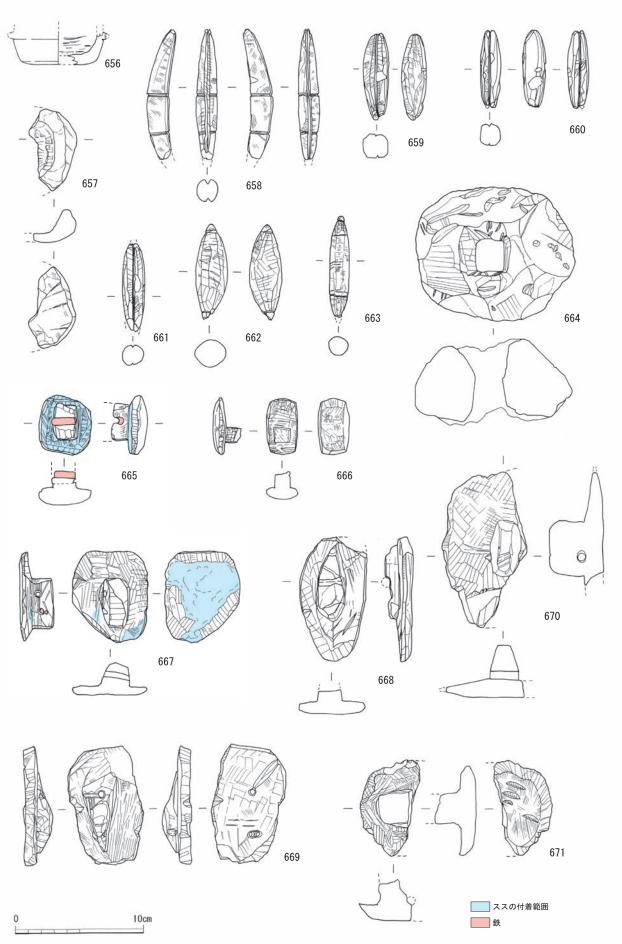
656・657は滑石製ミニチュア石鍋である。656は鍔が巡るタイプである。657は口縁部まで残 存するが縦耳も鍔も見られない。器高が低く浅い容器である。658~664は滑石製の錘である。 658は鰹節状の平面形を呈する。長軸上に深い溝が一周し、短軸には2条の溝が巡る。残存してい る片端には わずかに突起が見られる。659・670は断面形が隅丸方形である。いずれも、長軸 上に1条の溝が巡る。661~662は断面形が円形である。661は長軸上に1条の溝が巡る。662は両 端に浅い溝が巡る。663は下方に1条の溝が巡り、上方端部には小さな突起を作り出している。 664は面取りがされた塊に方形の孔が開けられている。外面の調整と比べると孔の作り出しは丁 寧である。石錘として報告をしているが別の用途に使われた可能性もある。**665~670**は器壁部 上面が凸状を呈し、内面からの挿入用と思われる滑石製の石鍋の補修具である。665は整った形 に作られている。挿入部の孔から上部が欠損しているが、孔には厚さ3mmの鉄線が残る。器壁部 上面に煤が付着している。666も器壁部が厚く整った形である。挿入部の上部を欠損しているが 欠損部分に孔があったと思われる。667は挿入部の穿孔が2箇所ある。そのうちの一箇所には鉄線 が残る。器壁部上面、下面ともに煤の付着が見られる。668は挿入部の穿孔より上部が欠損して いる。669は通常の補修具が挿入部の短軸に孔が開けられているのに対して、挿入部から器壁部 方向へ孔が開いている。挿入部からの孔は3箇所あるが、2箇所の孔が途中でつながっているため に器壁部下面では孔は2箇所になる。670は挿入部と器壁部上面境に孔が開けられており、孔の位 置がかなり下にある。671は器壁部上面がわずかに凹状を呈し、外面からの挿入用と思われる滑 石製の石鍋の補修具である。孔は670と同じで挿入部と器壁部上面境に付く。

第169表 2層出土ミニチュア石鍋 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		重量	調	整	色	調	出土区グリッド	備考
凶枞钳亏	6000	마끄	口径	器高	底径	里里	外面	内面	外面	内面	山工区グリット	1佣/5
656	ミニチュア石鍋	底部~口縁部	_	(2.6)	(3.8)	44.3g	横位のケズリ	_	暗灰黄色	黄灰色	28658	鍔が巡るタイプ
657	ミニチュア石鍋	体部~底部	_	2.6	_	60.3g	_	_	明褐灰	明褐灰色	38660	器高が低く浅い

第170表 2層出土石製品 観察表

図版番号	器種	石材	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量	出土区グリッド	備考
658	石錘	滑石	(120)	17	18	40g	18056	外形は鰹節状 長軸上に深い溝が一周、短軸に2条の溝
659	石錘	滑石	69	19	19	45g	18056	断面形が隅丸方形 長軸上に1条の溝
660	石錘	滑石	_	_	_	30g	68466	断面形が隅丸方形 長軸上に1条の溝
661	石錘	滑石	70	16.5	17	28.4g	88662	断面形が円形 長軸上に1条の溝
662	石錘	滑石	_	1	_	50g	88466	断面形が円形 両端に浅い溝
663	石錘	滑石	80	15	15	25g	18254	断面形が円形 下方に1条の溝 上方端部に小さな突起
664	石錘	滑石	106	125	67	1140g	28656	方形孔 別の用途に使われた可能性も有り



第312図 2層出土石製品 (1/3)



写真282 2層出土石製品

第171表 2層出土石鍋補修具 観察表

図版番号	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	量里	出土区グリッド	備考
665	石鍋 補修具	滑石	-	_	_	55g	18256	器壁部上面が凸状、内面からの挿入用と思われる 器壁部上面に煤付着 孔には厚さ3mmの鉄線が残る
666	石鍋 補修具	滑石	_	_	_	20g	68266	器壁部上面が凸状、内面からの挿入用と思われる 欠損部分に孔?
667	石鍋 補修具	滑石	72	59	25	85.1g	17856	器壁部上面が凸状、内面からの挿入用と思われる 器壁部上下面に煤付着 挿入部の穿孔が2箇所、そのうちの1箇所に鉄線が残る
668	石鍋 補修具	滑石	98	50	10	100g	38860	器壁部上面が凸状、内面からの挿入用と思われる
669	石鍋 補修具	滑石	_	_	_	105g	28658	器壁部上面が凸状、内面からの挿入用と思われる 挿入部から器壁部方向へ孔が開いている
670	石鍋 補修具	滑石	120	66	42	210g	88662	器壁部上面が凸状、内面からの挿入用と思われる
671	石鍋 補修具	滑石	_	_	_	85g	88662	器壁部上面がわずかに凹状、外面からの挿入用と思われる 挿入部と器壁部上面境に孔

金属製品(第313図、写真283、第172表)

672~678は鉄製品である。672は釘である。頭を折り曲げている。673は刀子である。先端が欠損している。674は斧である。675は差しこみ部分に木質が残る鏃である。先端が欠損している。676は中央が厚くなる平面三角形の板に芯を刺したものである。三角形の板の裏面が接合をされていた様相を呈することから、蓋に付けられた摘みであろうか。677・678は同一個体と思われるが用途は不明である。679・680は銅製品である。679は断面が方形で弧を描く。用途は不明である。680は飾り金具と思われる。背面には突起が2箇所あり固定するためのものか。681~683は鉛製の鉄砲玉である。681は腐食が進み空洞ができている。684は「崇寧通宝」である。2箇所穿孔がある。

第172表 2層出土金属製品 観察表

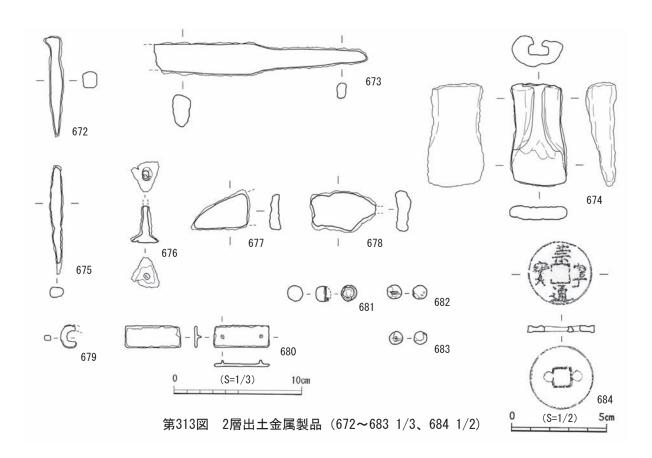
					•			
図版番号	器種	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	出土グリッド	備考
672	釘	鉄	80	11	14	17.16g	⑦8464	頭を折り曲げている
673	刀子	鉄	168	25.5	14	85g	①8058	先端が欠損
674	斧	鉄	82	44	24	105g	28456	
675	鏃	鉄	86	10.5	8	9.8g	①8056	先端が欠損
676	摘み?	鉄	34	22.5	13.5	4.53g	⑤8060	三角形の板の裏面が接合されている 蓋に付けられた摘み?
677	不明	鉄	47	27	9	15.56g	⑦8464	7と同一固体と思われるが用途は不明
678	不明	鉄	52.5	31	12	25.93g	78464	6と同一固体と思われるが用途は不明
679	不明	銅	18	5	4	2.01g	⑤8060	断面が方形で弧を描く 用途は不明
680	飾り金具	銅	44	17	5	9.66g	88460	背面に突起が2箇所、固定するためのものか
681	鉄砲玉	鉛	12	12	_	6.33g	⑤8060	腐食が進み空洞ができている
682	鉄砲玉	鉛	_	_	_	10g	⑤7860	
683	鉄砲玉	鉛	_	_	_	5g	⑤ 7860	
684	貨幣	銅	35	_	3.5	5.97g	⑧排土中	宋銭「崇寧通宝」 2箇所穿孔がある

文字資料 (第320図、写真290、第182・183表)

出土した文字資料については、共通土層第3層のものもあわせて264頁で詳述する。

石製キセルの火皿部分(第323図、写真292、第187表)

出土した石製キセルの火皿部分に付いては277頁で詳述する。



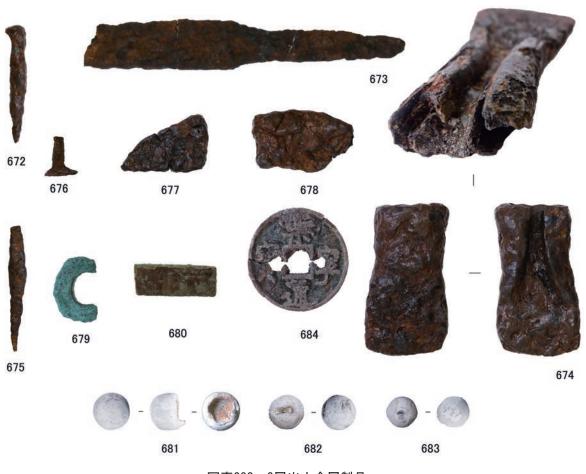


写真283 2層出土金属製品

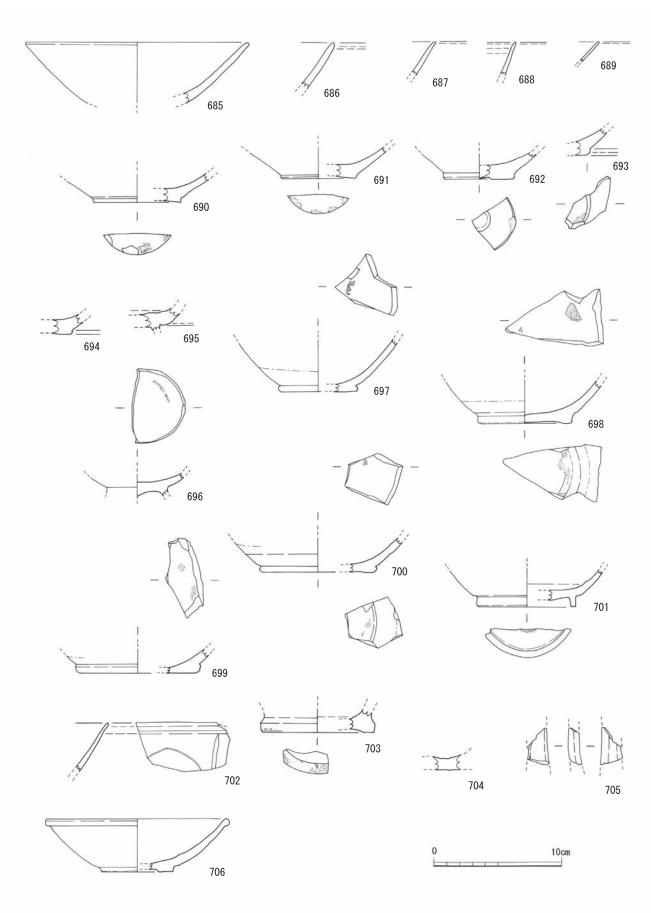
②共通土層3層(以下3層)出土遺物

貿易陶磁(第314図、写真284、第173表)

685~702は越州窯系青磁椀である。685~689は口縁部片である。690~694は I 類底部片で、全面施釉後蛇ノ目高台の畳付の釉薬を剥ぎ取り、重ね焼きの目跡が残る。見込には目跡は見られない。695・696は I 類の輪状高台を持つ底部片である。696の胎土は精良で釉薬の発色もよいが、見込みに目跡が見られる。697~700は越州窯系青磁椀 II 類底部片である。円盤状高台で体部下半は露胎である。701は越州窯系青磁椀III 類である。精良な胎土に濃いオリーブ色の釉が全面にかかる。高台内に目跡が付く。702は越州窯系青磁椀の体部~口縁部片である。灰褐色の薄い胎土にオリーブ色の釉が薄く掛かる。外面は箆押圧縦線で区画しその間に細線で蓮弁を描く。口縁部には輪花を持つ。703~705は水注もしくは瓶の部分である。灰白色で精良な胎土にオリーブ色の釉が掛かる。703・704は底部片で、703は高台部分に当たる。畳付には目跡が残る。705は把手である。外面に2本の沈線が入る。706は白磁椀 I 類の底部~口縁部片である。不純物を含まないきめの細かい白色の胎土に、わずかに青みを帯びた白色の釉が薄く掛かる。口縁には小さな玉縁が付き蛇ノ目高台畳付と高台内は露胎である。ローリングのためか器表は光沢を減じている。

第173表 3層出土貿易陶磁 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		調	放 E	色調		- 焼成	胎土	出土区グリッド	備考
凶似钳方	命性	DAIA	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	洗风	加工	山工をソリット	1用行
685	青磁 椀	口縁部~体部	(17.4)	(4.8)	_	_	_	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	黒色粒子	58058	越州窯系
686	青磁 椀	口縁部	_	(3.1)	_	_	_	灰色	灰オリープ色	良好	黒色粒子	57860	越州窯系
	青磁 椀	口縁部	_	(2.7)	_	_	_	にぶい黄色	にぶい黄色		黒色粒子		越州窯系
688	青磁 椀	口縁部	-	(2.7)	_	_	_	灰オリープ色	灰オリープ色		黒色粒子	58060	越州窯系
689	青磁 椀	口縁部	_	(1.6)	_	_	_	灰白色	灰白色		黒色粒子		越州窯系
	青磁 椀 Ⅰ類	底部	_	(2.3)	(6.7)	_		オリーブ黄色	オリーブ黄色	良好	黒色粒子		越州窯系 蛇ノ目高台の畳付の釉薬を剥ぎ取り、重ね焼きの目跡が残る
	青磁 椀 [類	底部	_	(2.5)	(5.7)	_			オリーブ黄色		黒色粒子		越州窯系 蛇ノ目高台の畳付の釉薬を剥ぎ取り、重ね焼きの目跡が残る
692	青磁 椀 [類	底部	-	(2.1)	(5.4)	_	_	オリーブ灰色	オリーブ灰色		黒色粒子	57860	越州窯系 蛇ノ目高台の畳付の釉薬を剥ぎ取り、重ね焼きの目跡が残る
693	青磁 椀 Ⅰ類	底部	-	(2.1)	-	-	_	灰黄色	灰黄色		黒色粒子	⑤ 7860	越州窯系 蛇ノ目高台の畳付の釉薬を剥ぎ取り、重ね焼きの目跡が残る
694	青磁 椀 [類	底部	_	(1.6)	_	_	_	灰黄色	灰黄色		黒色粒子	<u>\$</u> 7860	越州窯系 蛇ノ目高台の畳付の釉薬を剥ぎ取り、重ね焼きの目跡が残る
695	青磁 椀 [類	底部	-	(1.9)	-	_	_	にぶい黄色	にぶい黄色		黒色粒子 石英	57660	越州窯系 輪状高台
696	青磁 椀 [類	底部	-	(1.8)	-	_	_	灰オリープ色	灰オリープ色		精良 黒色粒子	78262	越州窯系 輪状高台 見込みに目跡
697	青磁 椀Ⅱ類	底部	-	(4.2)	(6)	_	_	灰オリーブ色	灰オリーブ色		黒色粒子	\$7860.8060	越州窯系 円盤状高台
698	青磁 椀Ⅱ類	底部	_	(3.7)	(7.4)	ヘラケズリ	_	灰オリーブ色	灰オリーブ色		黒色粒子 白色粒子		越州窯系 円盤状高台
699	青磁 椀Ⅱ類	底部	_	(1.9)	(9.2)	_	_	灰黄褐色	灰オリープ色		黒色粒子	57860	越州窯系 円盤状高台
700	青磁 椀Ⅱ類	底部	-	(2.7)	(8.6)	_	_	灰黄褐色	オリーブ黄色		黒色粒子	⑤ 7860	越州窯系 円盤状高台
701	青磁 椀Ⅲ類	底部	-	(3.0)	(7.5)	ヘラケズリ	_	黄褐色	黄褐色	良好	黒色粒子	38660	越州窯系 高台内に目跡
702	青磁 椀	体部~口縁部	-	(3.9)	_	ヘラケズリ	_	灰オリープ色	灰オリープ色		黒色粒子	<u>\$</u> 7860	越州窯系 外面は箆押圧縦線で区画しその間に蓮弁を描く 口縁部に輪花
703	水注もしくは瓶	底部	-	(1.8)	(8.8)	-	_	オリーブ色	オリーブ色		黒色粒子 白色粒子	⑤ 7860	畳付けに目跡
704	水注もしくは瓶	底部	_	(1.2)	_	_	_	オリーブ黄色	オリーブ黄色		長石 石英 やや粗 黒色粒子	⑤ 7860	
705	水注もしくは瓶	把手	_	(2.9)	_	_	_	オリーブ黄色	オリーブ黄色	良好	黒色粒子	57860	
706	白磁 椀 [類	底部~口縁部	(14.4)	(4.2)	(5.6)	ヘラケズリ	_	灰白色	灰白色	良好	精良 黒色粒子	38858	蛇/目高台



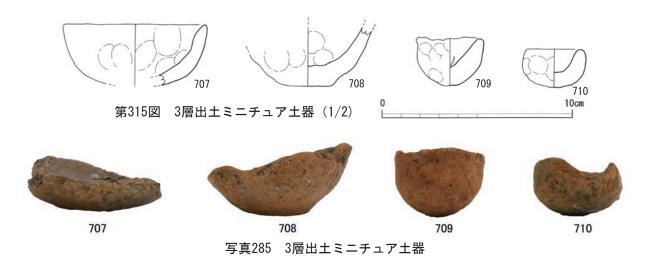
第314図 3層出土貿易陶磁(1/3)



写真284 3層出土貿易陶磁

土製品(第315図、写真285、第174表)

707~710はミニチュア土器である。手づくねのために内外面に指頭痕が残る。



第174表 3層出土ミニチュア土器 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)			整	色	調	焼成	胎土	出土区グリッド	備考
凶似钳与	167里	Db/liv	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面		加工	山工区グックト	順行
707	ミニチュア土器	口縁部~体部	(7.6)	3.2	_	指頭痕	指頭痕	橙色	にぶい橙色	良好	石英 赤色粒子 結晶片岩	⑤8060	手づくね
708	ミニチュア土器	底部~体部	_	(3.1)	2.2	指頭痕	指頭痕	橙色	橙色	良好	結晶片岩 長石 石英 角閃石	58060	手づくね
709	ミニチュア土器	口縁部~底部	3.6	2.6	0.3	指頭痕	指頭痕	橙色	橙色	良好	長石 赤色粒子 石英 角閃石	18256	手づくね
710	ミニチュア土器	口縁部~底部	3	2	0.4	指頭痕	指頭痕	にぶい橙色	橙色.	良好	長石 雲母 石英	(5)8060	手づくね

滑石製石鍋(第316図、写真286、第175表)

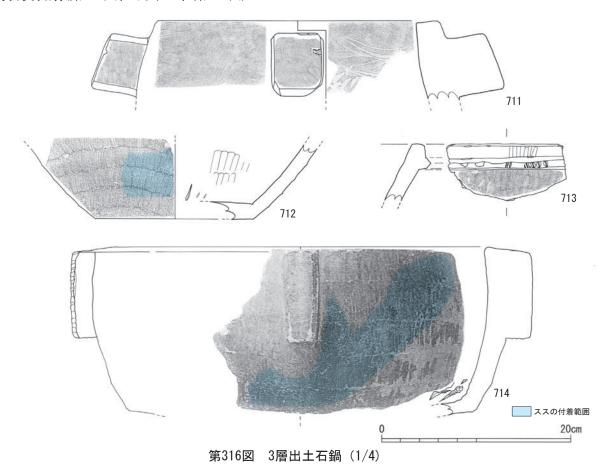




写真286 3層出土石鍋

711は灰白色の良質な滑石から作られており、がっしりとした把手が付く。712は体部片で、体部中位から上に煤が付着する。底部に切断痕が見られることから再利用の素材となったものと思われる復元底径16cm。713は短い鍔が付く石鍋である。口縁部は内傾する。体部両端が切断されていることから、この石鍋も再利用の素材となったものと思われる。復元口径30cm。714は把手が付く大型の石鍋である。

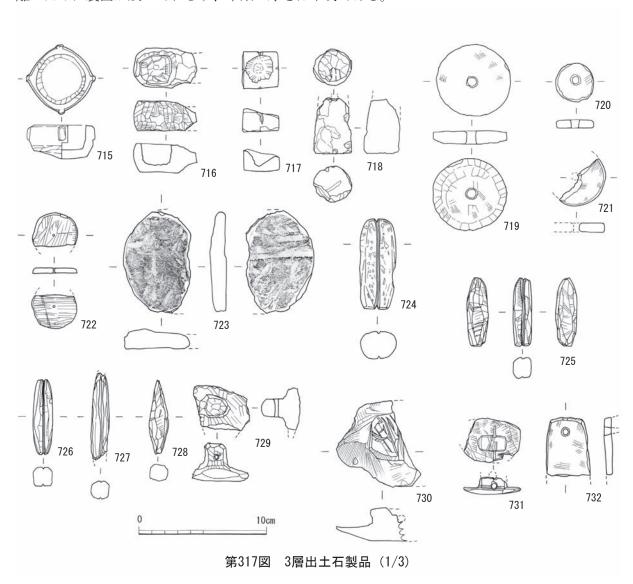
第175表 3層出土石鍋 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		iii	問整	f	色調	出土地区グリッド	備考
凶似钳与	有产作里	마까	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	山土地区グリンド	洲石
711	縦耳付き石鍋	口縁部	(29.4)	(8.4)	_	横位のケズリ		にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	38660	
712	石鍋	底部~体部	_	(7.5)	(16.0)	横位のケズリ	_	明褐灰色	明褐灰色	18056	外面に煤付着
713	鍔付き石鍋	口縁部	_	(6.0)	(30.0)	横位のケズリ	1	灰白色	灰白色	①8256	
714	縦耳付き石鍋	口縁部~底部	(42.8)	(17.7)		横位のケズリ	1	灰色	灰色	201208-49676	外面に煤付着

石製品(第317図、写真287、第176~178表)

715~731は滑石製品である。715はミニチュア石鍋である。縦耳が4箇所に付く。716はミニチュア柄杓である。柄の部分は欠損している。717は立方体の中央に凹を作り出しており、すべての側面の中心に溝が付く。向き合う溝は同じ位置に作られており、割付の線とも考えられる。縦耳の石鍋は方形の四隅を利用し作り出すことから、縦耳のミニチュア石鍋を作る初めの段階の未成品である可能性も考えたい。718は権である。上部が緩やかに窄まる円柱形で穿孔部分から欠損している。719~721は紡錘車である。719は、上面は水平に、下面はわずかに凸状に作り出している。720は孔が中心からずれており形もやや歪であるが孔が正円で真直ぐに開けられていることから、紡錘車であったものが2次加工により周囲を削られたものと判断した。721は緑がかった硬質の滑石を利用している。722はやや歪な円形の中心に直径1mmの孔を開けている。垂飾品とも考えられるが紐擦れの跡は見られない。723は円盤状の製品である。用途は不明。724~728は錘である。いずれも断面は方形を呈する。724~727は長軸上に1条の溝が巡る。728は中央短軸部分に浅い刻みが部分的に入る。729~731は石鍋の補修具である。729は器壁部上面が凸状を呈していることから内側から挿入をしたものと思われる。730・731は器壁部上面がほぼ水平である。どちらも孔が突起部最下位に開けられているが、731はさらにその上にも穿孔が見られることから2箇所の孔が開けられていたことが分かる。732は結晶片岩製の穿孔がある製品である。剥

離のために裏面が残っておらず、本来の厚さは不明である。



第176表 3層出土ミニチュア滑石製容器 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)		重量	調	整		色調	中土神区だいべい	備考
凶似钳写	60年	마기포	口径	器高	底径	里里	外面	内面	外面	内面	出土地区クリット	개 行
715	ミニチュア石鍋	完形	3.9	2.6	3.9	45.2g	横位のケズリ	_	暗灰黄色	黄灰色	201208-49676	縦耳が4箇所につく

第177表 3層出土石鍋補修具 観察表

図版番号	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	出土地区グリッド	備考
729	石鍋 補修具	滑石	45	33	30	37.2g	201208-22682	器壁部上面が凸状、内側からの挿入用と思われる
730	石鍋 補修具	滑石	68	56	12	78.5g	68466	器壁部上面がほぼ水平
731	石鍋 補修具	滑石	44	33	13	15g	68466	器壁部上面がほぼ水平



写真287 3層出土石製品

第178表 3層出土石製品 観察表

図版番号	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	出土地区グリッド	備考
716	ミニチュア柄杓	滑石	49	31	23	48.8g		柄の部分は欠損している
717	石鍋再加工品	滑石	28	28.5	18	22.8g	201208- 49876	縦耳ミニチュア石鍋を作る初めの段階の未製品である可能性
718	権	滑石	44	30	30	48g	⑤8060	穿孔部分から欠損している 紐痕が残る
719	紡錘車	滑石	58	56	9	57.3g	⑤8058	
720	紡錘車	滑石	30	30	6	9.64g	201208-49676	紡錘車であったものが二次加工により周囲を削られたもの
721	紡錘車	滑石	(45)	(45)	7	12.46g	201208-49876	緑がかった硬質の滑石を利用
722	滑石製品	滑石	26	35	4	7.1g	⑤8060	垂飾品とも考えられるが紐擦れの跡はない
723	滑石製品	滑石	80	51	15	85g	18256	円盤状の製品 用途不明
724	石錘	滑石	71.5	28	21	65g	28656	断面は方形 長軸上に1条の溝
725	石錘	滑石	54	14	16	25g	28658	断面は方形 長軸上に1条の溝
726	石錘	滑石	59	15	15	20g	201208-49876	断面は方形 長軸上に1条の溝
727	石錘	滑石	68	14	14	20g	201208-②東	断面は方形 長軸上に1条の溝
728	石錘	滑石	58	14.5	13	15g	201208- 22486	断面は方形 中央短軸部分に浅い刻みが部分的に入る
732	不明	結晶片岩	46	34	6	17.07g	201208-49876	穿孔有り 剥離のため裏面が残っておらず本来の厚さは不明

金属製品(第318図、写真288、第179表)

733~738は鉄製品である。733は鍬先である。734は刃部を持つ製品であるが種類は不明である。735~737は鏃である。735・736は雁股である。738は刀子である。直角に曲げられている。739~741は青銅製品である。739は箆状製品である。740は耳かき状を呈する。741は表面に精緻な毛彫りが施される。同一個体と思われる2点が出土した。



写真288 3層出土金属製品

第179表 3層出土金属製品 観察表

図版番号	器種	材質	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	出土区グリッド	備考
733	鍬先	鉄	129	48	22	230g	58060	
734	不明	鉄	135	38	17	110g	4 9058	刃部を持つ製品、種類は不明
735	鏃	鉄	146	46	7	40g	⑤7860	雁股
736	鏃	鉄	67	12	8	13.72g	38658	雁股
737	鏃	鉄	107	14.5	8	10.48g	⑤7860	
738	刀子	鉄	(延)81 (曲)51	15	5	8.35g	28458	直角に曲げられている
739	ヘラ状製品	鉛?	72.5	9.5	10	4.11g	201208-②	
740	耳かき状製品	青銅	47	3	2.5	1.47g	201208-@3284	
741	毛彫りされた板状製品	鉛?銅?	39	28	3	12.25g	201208-2	

文字資料 (第320図、写真290、第182・183表)

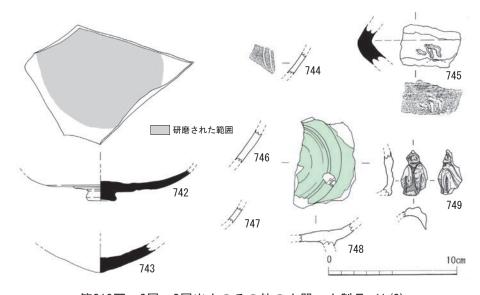
共通土層第3層出土の文字資料は、共通土層第2層のものと合わせて264頁で詳述する。

石带(巡方) (第321図、写真291、第184表)

共通土層第3層出土した石帯(巡方)は、共通土層第2層のものと合わせて267頁で詳述する。

③共通土層第2・第3層より出土したその他の土器・土製品(第319図、写真289、第180・181表)

742は杯蓋を利用した硯である。杯蓋は右回転のヘラ切りで切り離された後、調整はされずにボタン状の摘みが貼り付けられる。硯として使われた内面は滑らかに研磨されており墨痕も残る。④区9058グリッド第2層より出土。743は鉄鉢形須恵器である。外面は右回転のヘラケズリにより尖底部分の調整を行っている。内面はナデにより平滑に仕上げる。①区8256グリッド第2層より出土。744・745は線刻土器である。744は黒色土器A類もしくは土師器の椀の内面に焼成前に線刻されたものである。線は太く深い。⑤区7860グリッド第3層より出土。745は須恵器甕もしくは壷の肩部の線刻である。焼成前の線刻でこれも線は太く深い。破断面に線が残ることから線刻は下にも続いている。746・747は灰釉陶器である。灰白色の胎はざっくりとして微細な白色粒子や黒色粒子を含む。内面は露胎で外面には濃淡があるガラス質の緑色の釉が掛かる。瓶や壷など袋物の体部であろうか。746は⑤区7860グリッド第3層出土。747は⑤区7658グリッド第2層出土である。748は緑釉陶器椀底部である。精選された胎土で、硬質で赤褐色に焼成される。釉は鈍い緑色で薄く掛かり高台内は露胎である。高台は貼り付け高台で見込みには1条の沈線が巡り、目跡が残る。749は細部の描写が省略されている磁器製の人形である。型押しで作られ白色の胎土に褐釉が掛かり、内面と底部は露胎である。残存する右部分は、膨らみを持った衣のような表現がなされている。201208調査区③区2層出土。



第319図 2層・3層出土のその他の土器・土製品(1/3)



写真289 2層・3層出土のその他の土器・土製品

第180表 2層・3層出土のその他の土器 観察表

図版番号	器種	部位		法量(cm)			整	色	.調	焼成	胎土	出土区グリッド	備考
凶似钳写		마기꼬	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	沈八	加工	山工区グップト	順 行
742	転用硯	天井部	_	(1.9)	_	-	_	灰白色	灰白色	良好	精良	49058	須恵器 杯蓋を利用。内面が研磨により滑らかである。
743	鉄鉢形須恵器	底部	_	(2.3)	_	-	_	灰白色	灰白色	良好	白色粒子	18256	尖底部分に回転ヘラケズリ
744	土師器 碗	不明	_	(2.4)	_	-	_	橙色	橙色	良好	長石 角閃石	57860	線刻
745	須恵器甕or壺	肩部	_	(3.5)	_	-	_	灰白色	灰白色	良好	白色粒子 黒色粒子	58060	線刻
746	灰釉陶器	不明	_	(1.8)	_	-	_	暗オリーブ灰色	灰白色	良好	白色粒子	57860	
747	灰釉陶器	不明	_	(1.2)	-	-	_	暗オリーブ灰色	灰白色	良好	白色粒子	⑤ 7658	· ·
748	緑釉陶器 碗	底部		(1.8)	_		_	暗オリーブ灰色	暗オリーブ灰色	良好	精良 白色粒子	88660	

第181表 2層・3層出土のその他の土製品 観察表

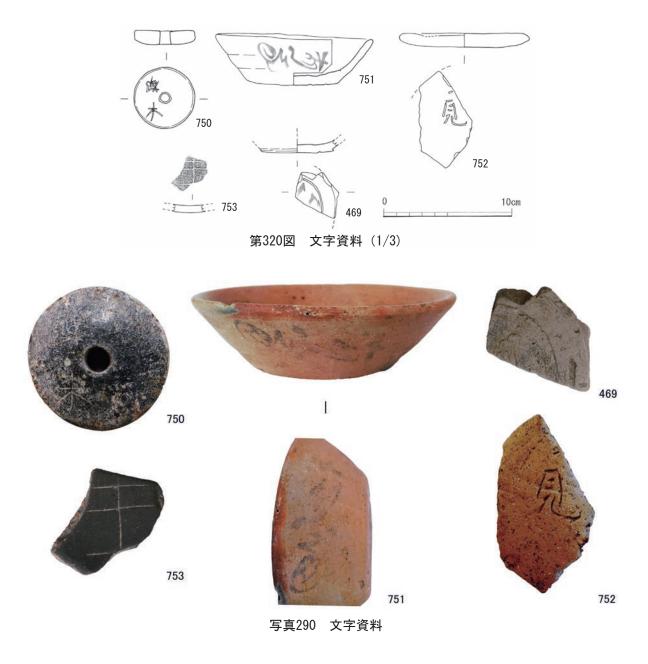
図版番号	器種	如什		法量(cm)		調	XX	1 1	語	体式	RA+	出土区ガロッド	農 表
凶似钳方	6年	部位	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	焼成	胎土	山工区ソソツト	佣 布
749	磁器製 人形	1/2残存?	_	(3.8)	_	_	_	にぶい黄色	灰白色	良好	黒色粒子	201208-3	

(3) 文字資料と石帯(巡方) および石製キセルの火皿部分

①文字資料 (第320図、写真290、第182表、183表)

750は滑石製の刻書紡錘車である。直径4.8cm、厚さ1.1cmを測る。中央の穿孔は比較的鋭利に穿たれており、孔径は上端で0.7cm、下端で0.9cm強である。TAK201202調査区の1区8256グリッド1層から出土した。1区からは古代の掘立柱建物など多数の遺構・遺物が出土しているが、出土層位から見て上流側の南東方向からの洪水等での流れ込みも想定される。北文字の配置は中央の孔を境にやや隅によって対称となっており、「木都」と釈読できる。

刻書紡錘車は関東地方に特異な古代の出土遺物(高島2006)であり、全国で130点の出土例が 見られる(高島2012)。九州内出土の類品は佐賀県小城市丁永遺跡(小城町松尾)2区出土の 「丁亥年六月十二日 亦□十万呂」と記銘されたもの(古庄・永田・前田・太田2010)のみであ る。石材は在地の片状蛇紋岩を用い、法量は4.58cm、厚さ0.75cmを測る。干支については共伴土



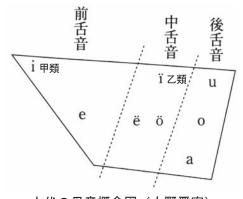
第182表 文字資料 観察表 1

図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量	出土区グリッド	備考
750	紡錘車	滑石	4.8	0.9	1.1	43. 1g	18256	線刻

第183表 文字資料 観察表 2

図版番号	器種	部位		法量(cm)		119	敷	Œ	刨	焼成	胎土	出土区グリッド	備考
凶似钳万	谷 俚	uhla	口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面	が以	加工	山工区ソリット	佣 行
751	土師器杯	完形	12.5	4.5	6.8	_	1	橙色	橙色	良好	石英 角閃石 長石	78464	有家の墨書銘
752	土師器皿	不明	_	(1.2)	_	_	_	橙色	橙色	良好	石英 金雲母 長石	201208-①	線刻文字
753	不明	不明	_	(2.7)	_	_	_	にぶい黄橙色	黒褐色	良好	石英 長石	57860	線刻文字
469	土師器 杯	底部	()	(1.0)	(5.7)	_	_	浅黄橙色	にぶい橙色	良好	角閃石 石英	88660	回転へラ切り 底部に墨書(文字は不明) SD13出土

器の編年から687年の年紀を示すものと想定されている。丁永遺跡も竹松遺跡と同じく、遺跡内ないし側を古代官道の西海道肥前路が通過していたことが想定されている。東国からの防人派遣と西海道肥前路の整備が7世紀終盤の段階に確実に遡ることを示唆する。663年の白村江の敗戦後の東アジア地域の政治的緊張を受けて、天武・持統期の軍国体制の下で北九州が緊迫した政治社会情勢にあったことを窺わせる。



上代8母音概念図(大野晋案)

竹松遺跡からの**750**の出土に関しても、東国防人の派遣との関係が想定される。**750**の製作(=刻書)年代の下限は、軍事制度上の防人の存続年代の問題に関わる。筑前以外の九州の防人は天平2年にいったん停廃される(『続日本紀』)が、必ずしも**750**の製作年代を7世紀後半から天平以前に限る必要はなく、残留防人によって8世紀後半以降に刻まれたとの見解(細井2016)も示されている。

製作年代の想定は上代特殊仮名遣いで表わされる上代八母音(上掲図を参照)の終焉時期及び地域差の問題にも関わる。「木」は上代特殊仮名遣いでは中舌母音のイ段乙類であるのに対して、「(彼)杵」はイ段甲類に属する。甲類乙類の文字表記の通用は平安時代に至って一般的となるため、「木」と「杵」の通用を想定するには、製作・刻書年代を8世紀後葉以降に置く必要がある。しかしながら、8世紀初頭から東国では、『万葉集』の東歌・防人歌に見るように二類は中舌母音化して混用されていたことにも留意すべきである(有坂1935・橋本進吉1966)。750の表記は肥前への防人派遣によってもたらされた音韻変化だろうか。長崎県各地の方言でも中舌母音の痕跡が見られるが(愛宕1974)、東国からの防人派遣によるものか、方言周圏論で説明つくものか、鹿児島・奄美との交流によるものかは不明である。古代の東国方言の影響によるかは別として、「木」(乙類)と「杵」(甲類)の表記の通用が8世紀初頭からの当地でのイ段の中舌母音化を反映するならば、750の年代の上限は丁永遺跡出土品に次ぐこととなる。

また「木」は同じ乙類の「城」に通じるとの見方も既に示されている(村川2015・細井2016)。その場合にも製作年代の上限は上代特殊仮名遣いの問題に関係なく7世紀末に上ることとなる。日本の古代国家にとって「城」とは朝鮮式山城のように堅固な守りを高地に固める単なる軍事防衛拠点のみを指すのではなかった。東北の多賀城や秋田城は台地部に置かれて行政上の

機能を兼ね備えていた(三上2005)。肥後の鞠智城も要害の高地には造営されず、むしろ行政上の機能が注目されている。北方社会に臨む拠点として大化3年(648)に、恐らくは現在の新潟市内に造営された越後の渟足柵(『日本書紀』)は初期越後国府としての側面も持ち、越後守威名大村は「越後城司」(威名大村骨蔵器銘文)とも称された(今泉1990)。八幡林官衙遺跡出土2号木簡の記載(和島村教育委員会1994)から、渟足柵は養老年間にも「沼垂城」と呼ばれ、八幡林官衙遺跡との間で上下に直属する官司の下達文書である解を授受する行政上の関係にあった(平川南1995)。九州においても、神崎郡家または切山駅と考えられる吉野ヶ里遺跡の志波屋四の坪地区出土の刻書(佐賀県教育委員会1992)や鴻臚館跡からも「城」の一字を記した土器の出土事例が見られる。従って、竹松遺跡の調査区の周囲に「城」と呼ばれる官衙施設が存在したことを示す特殊遺物としても750は位置づけられる。

刻書紡錘車は古代インドのマニ車のように車の呪術性に関係すると言われ(高島2012)、各地の出土事例では律令祭祀との関係が想定されている。刻まれた文字の有する呪術性もまた水辺での祭祀で意義を持ったと考えられる。祭祀遺物として文字の意味を一意に絞るよりは、その重層性を想定するべきであろう。「木」の字形は「水」に酷似しており、「水津」として律令制下の水陸交通の結節点として竹松遺跡が機能していたことを示す(注 2)。また「都」は単なる「津」の表音でなく、多数の官衙施設を有し、多数の郡雑任が働く郡家(竹内理三1951・森公章2009)としての求心性、都市性を示すもの(注 3)と考えられる。

751は外面に墨書を持つ古代の土師器杯である。口径12.5cm、底径6.8cm、器高4.5cmを測る。 やや歪みがある。TAK201202調査区の7区2層から出土した。土器の年代としては9世紀後半が 想定される。体部外面に横位で「有家」と記す。「有」は篆書風で、「家」は整った草書体である。他に竹松遺跡出土の墨書・刻書土器には体部外面横位に流麗な書体で記す事例はなく、墨書した目的や人間集団が異なる可能性がある(平川2000)。土器の外面に人名・地名を墨書する行為には、官衙における厨家の給食活動や律令祭祀との関係(高島2000)などが想定される。本資料は島原半島の有家地名(注4)が古代に遡ることを示すと共に、高来郡と彼杵郡の郡境を越えて郡家関連施設へ労働力の動員が行われていたことを示すものである(堀内2016)。

752はヘラ書きの刻書をもつ古代後期の土師器皿である。TAK1208調査区の1区2層から出土した。1区では3層から近世陶磁器などの出土が見られ、3層以上の層位からの出土遺物は二次堆積によるものと考えられる。摩滅により、口縁の立ち上がり形態は明らかではない。口縁部を欠損している可能性も考えられる。底部切り離しはヘラ切であり、大宰府編年に従えば、10世紀終わりから11世紀前半の時期の小皿と看做される。山本編年のX期に当たる(山本信夫1990)。ヘラ書きで底面に刻書を施す。「見」と読めるが、その上に残角のみ残る一字は不明である。「妙見」などの仏教的字句が想定される。「見」「□見」の刻書の類例としては時期はずれるが、8世紀前半の上岩田遺跡(福岡県小郡市)、8・9世紀の上神主・茂原官衙遺跡(栃木県)などの東西の官衙遺跡などに類例が見える。

753は刻書を有する土師器片である。器形は復元できない。刻書は「天」、または「王」と思われる。TAK201202調査区の5区7860グリッド3層から出土した。**469**はTAK201202調査区のSD34(8区SD06)から出土した墨書土器片である。遺構の項で報告済みである。底部に墨書が見えるが読

解できない。

なお、出土文字資料の釈読については以下に掲げる古代史研究者の助言を受けた。高島英之氏からは刻書紡錘車の歴史的位置付けについても多くの指導助言を頂いた。

永山修一(ラサール学院教諭・中学部長)・細井浩志(活水女子大教授)・木本雅康(長崎外国語大学教授)・森公章(東洋大学教授)・服部一隆(明治大学兼任講師)・高島英之(群馬県教委)・柴田博子(宮﨑産業能率大学教授)・石黒ひさ子(明治大学兼任講師)・堀江潔(佐世保高専准教授)・鈴木景二(富山大学教授)[順不同]

- (注1) 平川南氏(国立歴史民俗博物館館長) [調査当時]の釈読、調査指導による。
- (注2) 川尻秋生氏(早稲田大学文学学術院教授)のご教示による。
- (注3) 立平進氏 (元長崎国際大学教授・長崎県文化財保護審議会委員) の調査指導による。
- (注4) 文献上の「有家」の初出資料は貞和元年 (1345) 12月27日付足利直義下文案 (蜷川家文書・東京大学史料編纂所編纂1987 『大日本古文書 家わけ第二十一 蜷川家文書之三』所収)の「有家・有間両村」である。開田佐渡次郎遠員を肥前国各地の地頭職・預所職に安堵する旨を記す。

[参考文献]

愛宕八郎康隆 1974「肥前地方の中舌母音の痕跡現象」(『長崎大学教育学部人文科学研究報告』23)

有坂秀世 1957「奈良時代東国方言のチ・ツについて」『増補新版 国語音韻史の研究』三省堂(初出1935)

今泉隆雄 2015「古代東北城柵の城司制」『古代国家の東北辺境支配』吉川弘文館(初出1990)

佐賀県教育委員会 1992『吉野ヶ里』佐賀県文化財調査報告書第113集

高島英之 2000 「墨書土器村落祭祀論序説」 (『日本考古学』第9号・日本考古学協会)

2006「第2章 古代の墨書・刻書紡錘車」『古代東国地域史と出土文字資料』東京堂出版

2012『出土文字資料と古代の東国』東京堂出版

2014「紀年銘刻書紡錘車の基礎的研究」(吉村武彦編『日本古代の国家と王権・社会』塙書房)

竹内理三 2000「郡衙の構造」『律令制と貴族』(「竹内理三著作集」第3巻)角川書店(初出1951)

橋本進吉 1966『国語音韻史』岩波書店(橋本進吉博士著作集第6冊)

平川南 2000『墨書土器の研究』吉川弘文館

2014「八幡林官衙遺跡木簡と地方官衙論」『律令国郡里制の実像』上・吉川弘文館(初出1995)

細井浩志 2016「長崎県本土地域の古代史研究」(『9~11世紀における大村湾海域の展開 ―東アジア世界の中の竹松遺跡―』 平成28年度長崎県考古学会大会発表要旨集・基本資料集」2016所収)

堀内和宏 2016「肥前国彼杵郡・高来郡の歴史地理的特質と古代地方社会の労働力動員について〜大村市竹松遺跡の調査成果を踏ま えて〜」(『長崎県埋蔵文化財センター研究紀要』第6号)

三上喜孝 2013「城柵と文書行政」『日本古代の文字と地方社会』吉川弘文館(初出2005)

村川逸朗 2015「長崎県域等に於ける古代の烽ネットワーク復元に向けてのアプローチ」(『高野晋司氏追悼論文集』所収)

森公章 2009『地方木簡と郡家の機構』同成社

山本信夫 1990「統計上の土器 一歴史時代土師器の編年研究に寄せて一」(『乙益重隆先生古稀記念論文集 上代文化論集』所収) 和島村教育委員会 1994『八幡林遺跡』和島村埋蔵文化財調査報告書第3集

古庄・永田・前田・太田正和 2010『北小路遺跡1・2区 丁永遺跡1・2・4・5区』小城市文化財調査報告書第9集

②石帯(巡方) (第321図、写真291、第184表)

754・755は古代の石帯である。TAK201202・TAK201208調査区の双方の遺物包含層から1点ずつ出土した。いずれも黒色泥岩製の巡方である。古代の官人が政務の際着用する正装である東帯

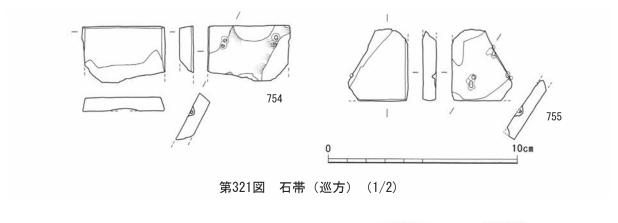




写真291 石帯(巡方)

第184表 石帯(巡方) 観察表

図版番号	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量	出土区グリッド	備考
754	石製巡方	黒色泥岩製	30.5	44	7	21g	⑤7858	暗灰色の石材 裏面には2箇所の潜り穴
755	石製巡方	黒色泥岩製	38	31	7.5	15g	201208-49876	暗灰色の石材 裏面には3箇所の潜り穴

(朝服)と共に身につける腰帯の装飾具である。石帯は金属製帯金具と合わせて銙帯と称される。養老衣服令5朝服条では、五位以上の官位を有する高位の官人は「金銀装腰帯」を身に着けるものと規定されるが、六位以下については革ベルトを示す「烏油腰帯」とのみ規定され、詳細は令文に見えない。全国各地の遺跡から銅製ないし石製の銙帯が多く出土することから、これらは国郡の地方官人など六位以下の官人が着用していたものと想定されている。金属製銙帯に次ぎ、8世紀後葉の出土例から確実な使用例がある(田中2003・網田1999)。なお、大宝令当初の服制には革帯使用の規定はなく、和銅4年(711)に開始されたと見られる(川尻1990)。慶雲の遺唐使の唐での見聞を踏まえたものと思われ、現存する養老衣服令にも腰帯に関する規定が取り込まれている。また唐制では、『唐会要』巻三十一「章服品第」で高宗(三代皇帝)代の上元元年(674)の制として、位階ごとの銙帯の材質に加えて数を定めた規定が見えるが、日本に継受されたかどうかは不明である。石帯1点のみが出土した集落遺跡の事例については、集落の住民が官位を有していたと見るよりは、石帯単品を帯から切り取って配られたものとの解釈(注1)も行われている。朝服を着用している国郡などの有位の官人が、公私に世話になった属僚の雑任層に対して下げ渡したとの推測が成立しよう。

8世紀末の桓武天皇の時代には、新たな銭貨(隆平通宝)の鋳造(注2)を理由として延暦十五年 (796) 年に金属製の銙帯の使用が禁止され(『日本後紀』延暦十五年十一月辛酉条)、平安時代には石帯に統一されたものと想定されている。五位以上の貴族に関しても前年の延暦十四

年 (795) に、参議以上の高官のみに白玉帯の使用を限定する命令が下されている (川尻 1990)。8世紀から恐らく四位クラス以上の高官の間でも珍奇な石材を使用した銙帯の使用が盛行していたことが窺える。

754はTAK201202調査区⑤区7858グリッドの土層ベルトから出土した。2・3層相当である。周囲の古代の遺構としては、西側の1区に掘立柱建物5棟、東側10mほどの位置に掘立柱建物SB7などがある。暗灰色で裏面に2ヶ所の潜り孔があり、ほぼ完形の1辺が約4.2cm(=1寸4分)、他1辺は3.0 cmほどが残存する。潜り孔に紐を通して革帯に固定するタイプである。後述の規格論による位階相当は正六位であり、石帯を着用する官位として最高ランクである。表185に見られるように、九州内の事例の中で集落遺跡での出土例は極めて限定的となるサイズである。竹松遺跡の官衙的な性格の強さを如実に表す。周辺に郡家政庁や諸官衙が分布することの決定的な証左の一つとなる。表面および側面は磨かれ、光沢を持つ。

755はTAK201208調査区④区北の9876グリッドの3層から出土した。近辺に古代の遺構はなく、遺物が集中している出土状況も見られない。直ぐ北側に溝状遺構SD01が位置し、洪水などで原位置が移動し、破損したものと考えられる。法量は残存部分で3.75×3.1cm程度である。残存する潜り孔の位置はやや偏っており、外鋲方式での着用を想定した製品と考えられる。穿孔の位置から想定される復元サイズは3.9cm程度である。石帯の分類について着用者の位階差を想定する説(松村恵司2002・阿部義平1976)と製作年代による形態変化を想定する説(田中広明2002・2003)があるが、前者の規格論に基づけば1寸3分=3.9cmの規格は従6位のそれに相当する。

形態変化説によれば、**754**と**755**とも垂孔が消滅した無孔の分類に属し、無孔は9世紀以降の 最終段階に属する。

管見の限りで、表185に九州内の石帯の出土遺跡一覧を掲げた。出典並びに各遺跡の性格と出土状況の詳細は表に委ねることとする。出土傾向は、竹松遺跡2011年度調査の報告書(堀内2017)で示した緑釉陶器の出土地集成と似た傾向を示す。出土遺跡は(ア)国府・郡家など地方官衙(イ)その関連遺跡、交通関係官衙、地方寺院(ウ)官道駅路沿い集落(エ)港湾、にほぼ類型化が可能である。

注意すべき点として、歴史地理学上明らかな駅家跡と周辺の遺跡から出土例はあまりない点が挙げられる。このことは日本古代の律令制の体系の下で駅家は官司ではなく、行政上特異に編成された公民が行う公的役務の場であったことと符合する。すなわち、養老厩牧令15駅各置長条などで規定されるように、駅戸は郡里の一般的な行政系列から切り離されており(注3)、国家的な交通掌握の要として国司直轄とされた特殊な行政区画であった。駅戸は一般集落から公民が周到な計画の下に逐次編戸された(永田英明1993・市大樹2015)。負担の大きさに配慮して、賦役令19舎人史生条により駅長は課役(調・庸・雑徭)が免除され、公的負担を負う成人男子である駅子は庸・雑徭が免除される。しかし駅長は官人ではなく、里長に対応する富裕な一般公民であった。駅長と同じように免課役とされる国府の医師や史生らが、内分番として選叙令14叙舎人史生条により考課及び叙位の対象となる事とは異なる。従って、身分官位に従った服装を身につけることが強制された律令制下の社会では、駅長も駅丁も朝服と石帯を身につけることが許される官位ある正規の官人としては扱われていなかったことになる。むしろ駅路から近隣の集落遺跡か

ら石帯の出土が見られる(ウ)の類型は、駅の所在する郡の行政が駅家の運営を補助する機能を 担っていたことに由来すると考えられる。

表185のように、長崎県内での石帯の出土例は5件に留まる。銅製銙帯の出土は未だ見られない。5件の内で、水先・仮宿遺跡の出土品は朝鮮王朝時代の下賜品であって大型で、年代が異なる。長崎市桜町遺跡に関しては出土状況に不審な点があり、熊本城三の丸跡出土品の場合と同じく、近世に既に好古学の収集品と化していた古代石帯が再埋没した可能性がある。膝行神貝塚は大村湾北西部に位置するが、11世紀中葉以前の遺物が出土しておらず、出土した滑石製石鍋も12世紀以降の鍔型製品のみである。膝行神貝塚出土品は石鍋と同じ滑石製品であり、12世紀以降の模倣品の可能性がある。典型的な律令制下の丸鞆に比べて器形も横長である。竹松遺跡の出土例について参考となるのは、高来郡家との関係が指摘される雲仙市十園遺跡13区SD01の出土品である。754と酷似した一寸四分(4.2cm)の大型規格品である。

- (注1) 2000年11月の奈良文化財研究所研究集会「銙帯をめぐる諸問題」総合討議での田中広明氏の指摘による。
- (注2) 新銭貨鋳造のための銅原料の確保の目的が一般に指摘されるが、再考の余地がある。隆平通宝は和同開珎・万年通宝・神功開宝の 三銭の流通を4年の内に全て停止して政府に回収し、鋳造しなおすことを政策的に目指したものである(森明彦2016・江草宣友 2009)。銅製銙帯の禁止は原料の銅を確保することよりは、全国各地に点在する鋳銭司の工房(栄原2011)が金属加工技術者を全 国的に確保することを主眼に置いていたと考えられる。回収政策そのものは未達成に終わったが、自然科学分析でも古代銭貨の中 で隆平通宝にのみ、旧銭回収と再鋳造の痕跡が見られるとされる(高橋照彦2012)。
- (注3) 延喜式段階では、兵部式86で国司および郡司の駅家専当制が規定されているが、承和五年(838)の太政官符以降のことである。 在地に影響力を有する地方豪族出身の郡司が国府の行政の下請け化していく過程の出来事であり(馬場基1996・市2017参照)、駅制が9世紀に郡固有の交通逓送機能に包摂されたわけではない。

[参考文献]

阿部義平 1976「銙帯と官位制について」『東北考古学の諸問題』東出版寧楽社

網田龍生 1999「熊本県から出土した銙具の集成と考察」(『先史学・考古学論究Ⅲ』龍田考古会・熊本)

市大樹 2017「日本古代駅制の法的特徴―唐制との比較を中心に―」塙書房(初出2015)

江草宣友 2009「延暦期における鋳銭司の停廃と再置―長岡遷都と関連して―」(『日本歴史』732号・日本歴史学会)

川尻秋生 2003「白玉腰帯考」『日本古代の格と資財帳』吉川弘文館(初出1990)

古代交通研究会編 2004『日本古代道路事典』八木書店

栄原永遠男 2011「鋳銭司の組織と生産体制」『日本古代銭貨研究』清文堂出版

関根真隆 1974『奈良朝服飾史の研究』吉川弘文館

高島英之 2002「文献史料からみた日本古代の銙帯」(奈良文化財研究所編『銙帯をめぐる諸問題』)

高橋照彦 2012「【書評】栄原永遠男著『古代銭貨研究』」(『市大日本史』15・大阪市立大学)

田中広明 2002「腰帯具の変遷と諸問題」(奈良文化財研究所編2002『銙帯をめぐる諸問題』)

2003『地方の豪族と古代の官人』柏書房

永田英明 2004「駅伝馬制経営の基本構造―駅戸の編成を中心に―」吉川弘文館(初出1993)

馬場基 1996「駅と伝と伝馬の構造」(『史学雑誌』105-3)

堀内和宏 2017「緑釉陶器」(『竹松遺跡 I』新幹線文化財調查事務所調査報告書第4集)

松村恵司 2002「銙帯金具の位階表示機能」(奈良文化財研究所編『銙帯をめぐる諸問題』)

森明彦 2016『日本古代貨幣制度史の研究』塙書房

第185表 九州内石帯出土遺跡一覧

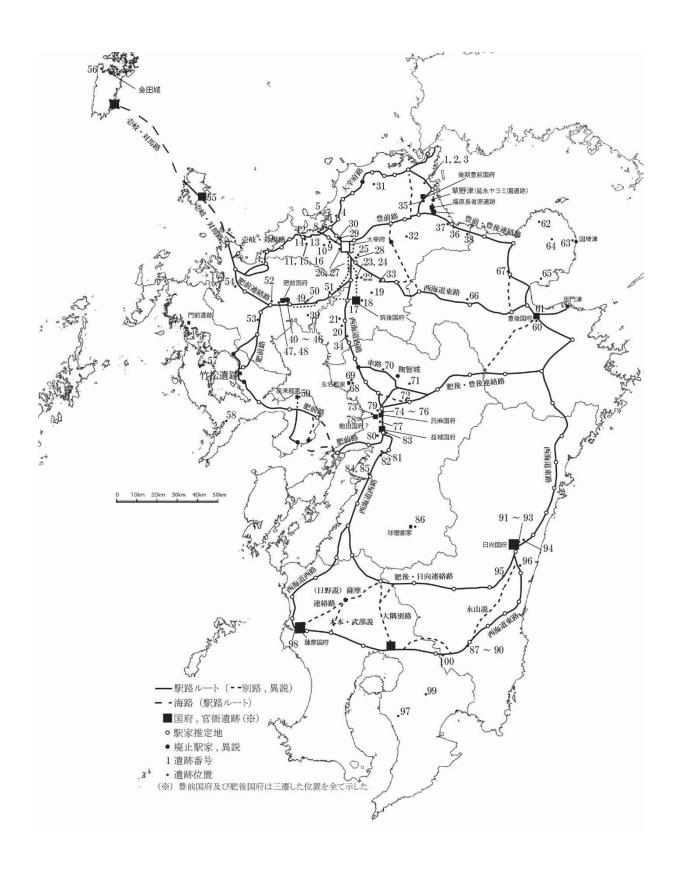
	遺跡名	所在地	遺跡種別	類型	調査原因	出土遺構·層位	部位など	石材	(程 <u></u> 章×氏音 × 配码) 喜兴	田田	シリーズ名	- 中数	拡載ページ	報告者	発行年	調査年	備考
-		福岡県北九州市小倉南区	#		公団住宅建	4a層	九鞆	1-44	推定3.1×推定 4.0×0.7	明本等から	北九州市埋蔵文化財調	年014年	p81,82,110,	fi 5 +		_	圃場整備、戦後の団地建設で撹乱を受ける
-	河町河直即	東貫2丁目	吹帐	D.	粒	闡	巡方	粘板岩	推定3.4×推定 3.4×0.6	(A)	查報告集	那214来	図版39	**************************************	2000		流れ込みか
2	高野遺跡	北九州市小倉南区高野町2 丁目10	丘陵·包含地	-Ç	長尾公園建設	来	巡方	安山岩	(2.2) × 3.0 × 0.6	高野遺跡	北九州市埋蔵文化財調 査報告集	第198集	p32,35,36,図 版27	木太久守	1997	1991~92 1	裏面に横方向の溝状の浅い加工がなされ、拓本あり。裏面に横方向の溝状の浅い加工がなされ、表面角に銀打ちり。裏面に二箇所の潜り孔があり、表面角に銀打ちのための穿孔あり。両者の関係不明
က	貴川遺跡	北九州市小倉南区大字貫 字下貫	集落?	Ţ	河川改修	包含層	巡方	安山岩(サス カイト)	3.15 × 3.5 × 0.65	貫川遺跡3	北九州市埋蔵文化財調 査報告集	第92集	p82,83.図版 27	前田義人	1990	1987~88	
l	多々良込田 遺跡 第3次	福岡県福岡市東区	官衙・集落?	Н	倉庫建設	SD04 SD17	九朝	不 明 明	2.7×4.4×0.8 2.1以上×1.8以 上×0.6	多々良込田遺跡エ	福岡市埋蔵文化財調査 報告書	第53集	p32,50	柳沢一男・福尾正彦	1980	1979	
4							九鞆九鞆	蛇紋岩 古銅輝石安 山岩	$2.6 \times 4.2 \times 0.6$ $2.85 \times 4.3 \times 0.7$							U)	SD4は第3次調査から連続。那津の運河と船着場か
+	多々良込田 遺跡第6次	福岡県福岡市東区	官衙・集落?	H	流通センター 建設	SD04	九鞆九鞆	蛇紋岩 白みがかった 淡い青色	2.85×4.4× 1.85以上×1.85 以上×0.7	多々良込田遺跡皿	福岡市埋蔵文化財調査 報告書	第121集	p112,113	山崎純男	1985	1983~ 1984	第3次調査の石帯の石材に同じか
							I I	不明									
LC.		4 6 四 回 6 四 上 申 区	油業年落	Н	小後間本	弘光, 句 學園	巡方	形 形 形	4.1 × 4.3 × 0.6 26 × 34 × 0.5	出場明明中の典	朝日新聞・海の中道遺跡		0888	2 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	1993		
1 '	$\overline{}$	帽		1	十 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神	7区pit100(遺構位置 不用)	巡方	漆黑色	4.0 × 3.9 × 0.7	箱崎遺跡第26次調査報告(2)	発掘調食美行委員会 福岡市埋蔵文化財調査 報告書	第853集	巻頭図版1	佐藤一郎	2005	2001 ~	7区に11世紀前半から中ごろの井戸や土坑多し。北宋前期の越州築書琺協が名く出土
9	箱崎遺跡第 64次		火 料 日 日	+	共同住宅建設	不明	巡方	不明	2.7以上×2.6以 上×0.6	箱崎43	福岡市埋蔵文化財調査報告	第1128集	p35	洪 田 豳	2011 2	0	一部のみ残存。穿孔あり
	博多遺跡群 築港線2次	福岡県福岡市博多区上呉 服町1番地	古代·中世市 街地	Н		皿面(14c.前半)下 皿B面下 IV面(11∼12世紀)下	三	青黒色 斑状 不明 白~淡緑色	2.5×3.6×0.6 3.1×3.3×0.6 2.47以上×3.4 ×0.6	博多(博多駅築港線工)	福岡市埋蔵文化財調査報告書(都市計画道路博多駅築港関係埋蔵文化財調査報告財調査報告	第184集	p223	力武卓治・大庭康時	1988	1984	4世紀前半
	博多遺跡群 築港4次	福岡県福岡市博多区御供所町	古代·中世市 街地	Н	都市計画道路	SP2712(検出層位不 明)	巡方	白色大理石	$2.1\times2.3\times0.4$	博多(博多駅築港線IV)	干Ш	第205集		松村道博	1989	1984~ 1986	
	書きまり		#######################################			本体部店屋町A·B区 SD2(SD5)	巡方	白色大理石	$2.1\times2.3\times0.4$	博多(高速鉄道関係調 査1)	福岡市埋蔵文化財調査 報告書(高速鉄道IV)	第105集	p85,86	騰雪泉	1984	1977~ 1978	12世紀前半以前成立の市街地区画溝 大量の土師皿、貿易陶磁伴出
	東多恩郎年 (高速鉄道)	福岡市博多区店屋町	は、十日の銀行	Н	地下鉄建設	本体部店屋町D-I- b区下層SK235	巡方	蛇紋岩	3.2 × 3.4 × 0.6	博多(高速鉄道関係調 査2)	福岡市埋蔵文化財調査 報告書(高速鉄道関係埋 蔵文化財調査報告V)	第126集	p105,107	折尾学·池崎·森本 朝子·林田憲三	1986	1978	奈良時代の包含層を12世紀の土坑が掘り込む 14 世紀前半廃絶の8号溝に切られる 直上に火葬頭骨 集石遺構
7	博多遺跡群 22次	福岡県福岡市博多区冷泉 町189他	古代·中世市 街地	Н	ビル建設	田屠(室町~江戸初 め)包含屠 M346(土坑?)	丸鞆 丸鞆(未	玉髄か安山岩か	2.7×2.8以上× 0.7 3.0×4.0×1.0	皿多斛	福岡市埋蔵文化財調査報告書	第118集	p30 掲載なし	松口喧嘩	1985	1983~84	V層検出(平安後半~鎌倉前半)の遺構出土「全 同サナ総準年度 1-11
	博多31次	博多区御供所町66-67	市街地	Н	ビル建設	SK01	斯	蛇紋岩(黒色)	$1.9 \times 2.9 \times 0.4$	博多 X	日上	第150集	p16	常松幹雄	1987	1986	当出土野 ボボル リアン 龍泉 案 青磁と共伴し、一括性に疑問
	博多遺跡群 80次	博多区冷泉町304-1	古代·中世市 街地	Н	博多町家ふ るさと館建設	層位不明 西2面(14~16c)	九鞆巡方	蛇紋岩かガラス質	2.4×1.8以上× 0.3 2.0以上×3.6× 0.4	19多割	福岡市埋蔵文化財調査 報告書	第448集	p106	古武学	1995	1993~94	近世遺物も混入 後世のものか
	博多遺跡群 85次	福岡県福岡市博多区店屋町37	古代·中世市 街地	Н	共同住宅建 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	B区第4面 C区第3面915号-916 号井戸重複部分(916 号出土力) C区第3面(12世紀) E-G区第3面下	た が が が が が が が が が が が が が	湯石 湯石 ○ ※ ※ 一 日 ○ ※ ※ 総 総 の の の の の の の の の の の の の の の の	1.6 × 3.2 × 0.6 1.0 × 1.8 × 0.5 3.7 × 4.1 × 0.7 1.2 × 2.0 × 0.5	博多57	福岡市埋蔵文化財調査報告書	第522集	p129~130	大庭康時	1997	1994~95	未製品 未製品。10号111世紀後半、916号112世紀後半 全報告。綠湖陶器(長門)、京都區)、超州黨青磁、高麗 青磁、韓葉型瓦器鄉位之出土 第4面の層厚は第7分布は部分的で、古代(8~12
	博多遺跡群 第115次	福岡市博多区店屋町33· 34·88	古代·中世市 街地	Н	開発(未 成?)	不明不明	九鞆九鞆	不明不明	不明不明	博多82	福岡市埋蔵文化財調査 報告書	第708集	掲載なし?	共口圏	2002	1999	85次調査区C区に隣接 古代の遺構はないが、後世 の遺構、包含層に多く遺物が混入「全国出土銙帯 集成」より
∞	鴻臚館第17	福岡市中央区域内福岡城内(旧平和台球場スタンド南	外交施設	~	中跡整備	SD1045 4層下層	九鞆	淡綠色	2.7 × 4.3 × 0.6	鴻臚館跡11	福岡市埋蔵文化財調査	第695集	p40,41	二騰雪泉	2001		2×3個の小孔あり 断面台形 ====================================
						!				湯醋館跡18	報口や四十四十二日間子	第1022集	考現区版 4,33,34	大庭康時	2009	一十	止教古書 SD10451年第 14組を勝てる上端幅20m、平坦面との比高4.2mもの堀
6	三宅廃寺	福岡市南区三宅字国府	寺院 跡	٨	住宅建設	包含層	巡力	十月	$4.0 \times 4.1 \times 0.35$	二七飛中光描調鱼報告 电	福岡中理威文化財調館 報告 報告	第50集	p70	渡辺和子	1979	1977≈ 1978	

福岡県福岡市南区柏原 得	作り	`		D-27/JIF.	中常	単化な二十	26×11×06		が困れ曲様やか野智林						七十年 经存货 医多种 医多种性 医多种性 医多种性 医多种性 医多种性 医多种性 医多种性
	退った。	~	五 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵 兵	R-24グリッド	た数	相	2.0×2.9×0.7	柏原遺跡群VI	個両に全般人に対明単報告	第191集	p228,229	口崎淮男	1988	1983	44年第25、米上、本を記事の名が1964年日、当事士器、唐二歩、初期越州窯青磁など出土
福岡市西区大字飯盛・吉武 古地内	古代官衙·集 落	+	圃場整備	検出画	巡方	黄白色	2.8以上×2.9以 ト×0.7	吉武遺跡群XIX	福岡市埋蔵文化財調査報告	第965集	p99,105,PL45	加藤良彦・横山邦継	2007	1985~86	第9次(圃場整備6次)縁釉陶器、円面硯、獣脚硯出土・製鉄に関連1 ナ宣術かと数年
福岡市西区拾六町 古	古代官衙?	₹.	今宿バイパス 建設	不明	巡方	本明	2.8以上×3.5以 上×0.6	福岡市西区大字拾六町所在湯約遺跡の調査	今宿バイバス関係埋蔵 文化財調査報告	第4集	p153,155.図 版93	上野精志(調査:西 谷正ほか)	1976	1971~73	
	古代官衙	F-	集合住宅建 設・範囲確 認調査・	SD01(1号溝)	巡方	蛇紋岩	3.5×不明×0.5	胎	福岡市埋蔵文化財調査 報告	第155集	p84,89,PL29	- 洪縣 #	1987	1976	第51次調査区に接続。SD1は幅6~8.9m、深さ06~1.6mの擂鉢状ないし逆様子形状で、弥生~平安の遺物が出土
福岡市西区野方1丁目517 引 -3外	弥生後期集 落	6 54	分譲住宅建	包含圖	蛇属?	湯石	3, 2以上×2.9 ×0.5	野方久保遺跡3	福岡市埋蔵文化財調査報告	第438集	p26,28	小林義彦	1995	1992	古代の遺物ではない可能性あり
福岡県福岡市早良区東部 集	集落·埋葬遺 構	7	県営圃場整 備	16区(農道部)表土	蛇尾	黑色安山岩	4.1 × 7.0 × 0.8	入部四	福岡市埋蔵文化財調査 報告	第485集	p18	長家伸	1996	1992	
福岡県福岡市早良区 管	官衙?荘園 管理施設?	7	県営 圃場整 備	包含層(詳細不明)	九騎	黑色系	2.6×4.1×0.8	入部皿	福岡市埋蔵文化財調査報告	第310集	未掲載	長家伸 編	1992	1990∼ 1991	4区「53×72mの東西様長舎SB1003などから成る コの字配置の官衙的建物あるも、時代は12世紀中ごろに下るか
福岡県久留米市合川町字				SD4-4埋土	九鞆		2.3以上×3.3以 上×0.65								3ヶ所潜り孔。調査区内(出土状況不明)から円面現 出土
		ma	個人住宅建設(国庫・県	SD4-4西側包含層	九鞆	mate 1	2.15×3.3以上 ×0.8	1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1	久留米市文化財調査報	# 0 #	p52,53.図版	###	9		総柱の倉庫2棟あり。東地区での追加調査事例は少なく、SD4の性格は不明。3ヶ所潜り孔
福岡県久留米市合川町字三反野畑	鮔	<u>F</u>	費補助緊急発掘	探集品	巡力		3.2以上×3.7以 上×0.7	死後当府跡(二)	神	来7.1	21	能成石	9/6	4/8	4ケ所潜り孔。北側阿弥陀地区北方には8-9世紀の 上期国体が立地。阿弥陀地区南方・三反野地区に は国衛上扇の所在が推定され、三反野地区西側を 西海道西路が通過(松村一良2009)
福岡県久留米市	府·周辺官 衙		宅地搬入路 造成	SB3701掘り方	九輔	未製品 滑石	5.5×7.2×1.3	筑後国府跡·国分寺跡 平成元年度発掘調査概 要	久留米市文化財調査報 告書	第62集	未報告?	松村一良・水原道範	1990	1989	[「全国出土海等集成「江(BSX)開海之子合が、鐵構 養导かい85次上別,われる。第59集で前产年間適宜の 東半部のみ報告。開章区内に7世紀後半の先行官 情務の南北集85389年339的/建5、「期の古宮国 府の南陸付近の相当か。
	御井郡家・ 寺院・	~	医大型	表類	巡力	黑色頁岩	4.1 × 4.2 × 0.85	東部土地区画整理事業 関係埋蔵文化財調査報 告第4集	久留米市文化財調查報 告書	第43集	6d	園井正隆 大石昇	1985	1984	図示なし。本文で出土事実に言及するのみ。データ は「全国出土銙帯集成」より
福岡県久留米市(旧浮羽 平郡)田主丸町八幡	平安~近世無無落	4	校舎建設	SK272(流れ込み?)	九鞆	石英(紫水晶)	2.5 × 3.8 × 0.5	久留米市埋蔵文化財調 査集報‴	久留米市文化財調査報 告書	第241集	p53,57.図版 21	江島伸彦	2006	2004	土師器皿、瓦器細片など出土。三つの潜り孔を持ち、上の1つを再加工。
福岡県筑後市大字志字西 田	集落	4	排水路新設	泰士	九鞆	真岩	2.75×復元4.3 : ×0.8	筑後西部第2地区遺跡 群(MI)	筑後市文化財調査報告 書	第51集	p41,42,PL44	小林勇作	2003	1998	
若菜字	集落	٠ +	サザンクス筑 1 後建設	区SD0001(東西溝) 田層	巡方	不明	$3.5 \times 3.75 \times 0.6$	筑後市内遺跡群X皿	筑後市文化財調査報告 書	第90集	p73,93,129	小林勇作-上村英士 (調査担当永見秀	2010	1992∼ 1993	第1次調査。完形。SD0001の皿層は西岸からの流 土堆積
福岡県小郡市井上	寺院跡	* +	文化財活用・ 国庫補助	第4トレンチ遺構面	巡方	綠灰色	$3.3\times3.3\times0.65$	井上廃寺1	小郡市文化財調査報告 書	第122集	p29.図版19	二茶国工	1998	1994	上岩田遺跡の西北西の同一台地上に位置
福岡県小郡市小郡字正尻	集落	4	\vdash	A地区大溝2中層下 面	九鞆	白色大理石	2.7×4.5以上× 0.7	小郡市所在 小郡正尻 遺跡の調査	九州横断自動車道関係 埋蔵文化財調査報告	第7集	p47,48.図版 13	本下修 井上裕弘 小池史哲	1986	1983~85	福岡県教育委員会調査。石帯考察あり
福岡県小郡市上岩田	明	~		94号掘立柱建物 SD43上層	九騎	克 数 岩		上岩田遺跡調査概報	小郡市文化財調査報告 書	第142集	p32	中島達也・柏原孝俊	2000	1995~98	
福岡県筑紫野市山家	٥.	٥.	٠	柱穴周辺	丸鞆	碧正	$2.8 \times 3.7 \times 0.5$		月刊文化財発掘出土情	1月号			1994		未報告か 「全国出土銙帯集成」より
福岡県筑紫野市大字杉塚	掛	Ţ.	高速道路建 設	8号土坑	巡方	不明	4.0×4.1×不明	福岡県筑紫野市所在剣 塚遺跡群の調査	九州縱貫自動車道関係 埋蔵文化財調査報告	XXIV (第24集)	p116,PL64	中間研志	1978	1973~74	福岡県教育委員会調査 弥生集落
福岡県筑紫野市大字杉塚	神院野	-C IW	家屋塘築(国 庫補助)	南側中央部礎石脇	九鞆	不遇	2.3 × 3.6 × 0.7	杉塚廃寺	筑紫野市文化財調査報 告書	第4集	p14,図版6	山村淳彦 奥村俊 久 石松好雄	1980	1979	
福岡県筑紫野市岡田	島道	1	区画整理	土坑	九鞆	不明	$3.7\times3.85\times0.55$	岡田地区遺跡群2	筑紫野市文化財調査報 告書	第56集	p144,145,PL4 1	小鹿野亮	1998	1994~97	
福岡県大野城市山田3- 201-5ほか	業	¿4	県道建設	4区 SD4	九鞆	黄緑色蛇紋岩	3.35 × 2.35 × 0.5	御笠の森遺跡 I 第9 次調査(1)	大野城市文化財調查報 告書	第63集	p135,136,165 ,図版69	平島義孝・林潤也	2004	2002	SD4は1辺38mの13世紀の方形区画溝。同時期の 掘立柱建物6棟検出。西海道駅路水城東門ルート沿 い
福岡県春日市字坂本	ı	ţ.	ı	ı	九鞆	不明	$2.2\times3.6\times0.7$	西谷正「九州出土の銙 帯・石帯地名表」	人類史研究	9号	1	西谷正	1997	1	「全国出土銙帯集成」より
	I	ウゥ	I	表探	九鞆	硅岩	2.8 × 4.4 × 0.7	宮田町誌	宮田町	粉	p267	大曲秀吉	1978	ı	官道別ルートの鞍手道と関係か?
	古代墓地·集 落·居館	ウ	農業基盤整備事業	3区	九鞆	蛇紋岩	$4.4 \times 3.1 \times 0.75$	中元寺遺跡群I	添田町埋蔵文化財報告 書	第7集	口給 p212,216,265	岩本教之	2009	$2004 \sim 2005$	潜り孔3つ
福岡県朝倉郡朝倉町大字 7円 7円	無	1	高速道路建	土坑P486	巡方	灰黒色真岩	40×41×06	地景田本	九州横断自動車道関係	端40 律	-100	中田サ	0007		李 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·

福岡県教育委員会調査。西海道西路が近接。西谷 正が調査総括を執筆	最低限の遺構・遺物実測図を提示し、本文は概要報告のみ	主要地方道椎田勝山線関係埋蔵文化財調査報告	福岡県教育委員会調査。110棟の建物跡あり。遺跡 の北方に200mに駅路と築城駅の所在を比定		佐賀県佐賀地区河川改修事務所発行	龍泉窯青磁1類、東播系須恵器など共伴		第7次調査 政庁西側の遺構分布を調査	II 区南側のL字配置の官衙的掘立建物(国司館?) に北側の東西列小倉庫群が相対する 低湿地を東 西にはさんだ惣座遺跡に倉庫域を想定	無孔 太孔	戊」より	肥前国庁から南東700m 官道跡検出	九州綜合文化研究所調査。1880年調査では弥生時代の遺構・遺物と共に平安前期の土師器が満SD101から出土。古代西海道肥前路ルードニ近接	肥前国府と嘉瀬川をはさんだ対岸部。西側の西山田三本松A遺跡について居館・倉庫群の可能性を報告またまた。 アルカの田 地名・山本地	始ら指揮。「出力限、自然の因」の「人」版)では業落、首係連隊。 2010 (14 名詞本を東国に維節する最大幅4mの大溝で、20304は北側20mほどの距離で平行する艦1mほどの区画溝	「全国出土銙帯集成」より。刊行予定の総括報告書 古代官衙編に掲載予定か	報告書未刊。青銅製丸鞆も出土。官道から150~200 mに位置(古代地方官衙関係遺跡DB)。日ノ隈山の 烽の管理施設か?	西海道肥前路南路の切山駅に近接	55と酷似。中世千葉氏の拠点。二の丸部分。混入? 白磁IV類も出土し、古代から城として使用。	敷石道路状のSX701の実測図あるも、年代不明	100m東海のAE、5度なが「広」大プル「なみなど の整書須藤器15点。2区・6区から10世紀後半~13 世紀の多量の貿易開催出、西海道即前維維路 電彩最別の交点の干々質古圏遺跡の3km上消に位 普楽事	52出土品と酷似。瓦出土 郡家周辺の草堂を想定	朝鮮王朝時代の下賜品ないし交易品の可能性あり。 川口洋平2012「水崎仮宿遺跡出土の瑪瑙帯について(再論)』「西海考古』第8号で考察	古代の石帯との関係は不明。寿古遺跡・竹松遺跡出 土品に酷似した滑石製権も出土	旧市立長崎高校詳細な出土状況不明 近世の収集 品が流れ込みか
1972	1997~98	1998	1989	2000		2003	1993~94	1982	1982	$2002 \sim 2004$			1950		1986 1986		1992~94		2003∼ 2004	1982		1995	2000	2004	2000
1977	2011	2001	1992	2010	1984	2006	1990	1985	1990	2004		1995	1951		1996		1996	1988	2010	1986	1981	1996	2001	2005	2001
山本信夫 関時彦 木川雅樹 高田弘 信 馬田弘稔 佐土 原祐昌 杉野悦郎	中原博	小池史哲,飛野博文	小田和利	棚田昭仁		角洋一郎	田中掲二	七田忠昭	田平徳栄	松本隆昌		- 1	松尾禎作-七田忠志 西田和己	田平徳栄 (現場担当:天本洋			桑原幸則		古庄秀樹	原田保則	森田孝志	世末ロ川	计批口三	本田秀樹	计 世世 三
p256∼ 258,PL66	巻頭図版 2,p9,62,79	未掲載?	p369,370			p110,111	p39,41,図版16	p97,98,PL46	p318,PL123	p84				7 10 000	9281,282,PL4 8		p42		p23,24,32,39	p200,209	p76,77,PL21	p33,図版16	p30~32	p19.図版7	p14,21
XIV(第 14集)	第38集	第161集	第8集中 巻	第27集	1	第3集	第10集	第78集	第96集	第71集		第30集	第10集 第63集		第128集		-	第3集	第11集	第15集	第60集	第1集	第1集	第2集	第162集
九州縱貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告	行橋市文化財調査報告 書	福岡県埋蔵文化財調査報告書	権田バイバス関係埋蔵 文化財調査報告	豐前市文化財報告書	佐賀江川激甚災害対策 特別緊急工事に係る埋 蔵文化財発掘調査報告	佐賀市埋蔵文化財調査 報告書	大和町文化財調査報告 書	佐賀県文化財調査報告 書	佐賀県文化財調査報告 書(九州横断道11)	大和町文化財調査報告 書		大和町文化財調査報告	佐賀県史蹟名称天然記 念物調査報告 佐賀県文化財調査報告 書	佐賀県文化財調査報告 書	(九州横断自動車道関係 埋蔵文化財発掘調査報 告書19)		佐賀県文化財調査年報	北茂安町文化財調査報告書	小城市文化財調査報告 書	武雄市文化財調査報告 書	佐賀県文化財調査報告 書	石田町文化財調査報告書	美津島町文化財保護協 会調查報告書	西彼町文化財調査報告書	長崎県文化財調査報告書
福岡県山門郡瀬高町所 在大道端遺跡の調査	高来小月堂遺跡·高来 井正丸遺跡·高来殿屋 敷遺跡	越路貴船遺跡	福岡県築上郡築城町所 在赤幡森ヶ坪遺跡の調査	久路土鐘鑄田遺跡·久 路土芝掛遺跡·久路土 高松遺跡	蓮池上天神遺跡	藤木三本杉遺跡 I	本村籍遺跡·於保三本 松遺跡	肥前国府跡皿	物座遺跡	東古賀遺跡1	未報告?	鍵尼遺跡	久留間遺跡調査概報 久留間カ≅塚遺跡	西山田二本松遺跡	(四山田—◆松鴻縣A 区·西山田三本松A遺 跡·西山田三本松B遺 跡)	未報告?	1994年度	中津隈干飯遺跡	千葉城跡·妙見遺跡確 認調查報告書	施票しなな	押川遺跡·座土遺跡·前 田原遺跡	棒遺跡	水先·仮宿遺跡	膝行神貝塚	桜町遺跡
4.3×不明×0.7	2.85 × 4.5 × 0.9	ç.	2.7 × 4.2 × 0.7		3.2 × 3.5 × 0.6	$2.5\times3.6\times0.6$	$2.5\times4.0\times0.7$	$3.3 \times 3.43 \times 0.63$	2.5 × 4.2 × 0.5	4.5×4.0×0.7	$3.4 \times 4.0 \times 0.6$	$2.9 \times 4.3 \times 0.8$	2.3 × 3.5 × 0.55	2.4 × 3.4 × 0.7	3.7×3.7以上× 0.6	$3.3\times3.6\times0.7$	4.1 × 4.25 × 0.8	1.8以上×1.8以 上×0.7	$2.4\times1.6\times0.5$	3.48以上×3.79 ×0.73	3.1 × 3.5 × 0.65	$2.4\times1.6\times0.5$	3.8 × 4.7 × 1.0	2.7以上×3.5以 上×0.9	$2.2 \times 3.5 \times 0.6$
是是		緑泥片岩OR ガラス質	粘板岩 暗線 色		蛇紋岩系	黑色	蛇紋岩	密維	粘板岩	蛇紋岩系	蛇紋岩	蛇紋岩系	粘板岩	暗灰色に白 色の樹枝状 岩脈	蛇紋岩		平明		五英	アーコーズ砂 岩		石英	熙雏	中宗	不明
蛇属	九鞆	九鞆	九鞆		巡方	九鞆	九鞠	巡方	九鞆	巡方 数数	巡方	九鞆	九鞆	九鞆	蛇尾	巡方	巡方	巡方	九鞆	巡方		九鞆	楕円状	丸鞆状 (不明)	丸鞆
B区1号谦	包含層	ç.	土壙		井戸跡SE004	3区 井戸SE3122	井戸側の小土壙	QC地区35調査区 SD128	小土坑(田区北側)	C区170号井戸 D区303号藩	井戸跡SE400	土壙SK945	包含層(竪穴住居か)	II区满SD304	II区端SD101	墳丘墓から東南300m の水田?	不明	井戸SE201付近の検 出面	03-08トレンチ	不明遺構(敷石道 路?)SX701	1区南側	A-6区皿層	不明	表土等	Ⅵ層(縄文~16世紀)
高速道路建設	県営圃場整 備事業	道路建設	国道バイパス 建設	県営圃場整 備	河川整備	区画整理	土地改良事業	史跡整備の ため遺構範 囲確認	高速道路IC 建設	区画整理		区画整理	土取りの際に 緊急発掘	非相杂丰丰	到	史跡整備	機材センター 造成		重要遺跡確 認調査	河川改修	農業基盤整 備事業	河川改修	緊急雇用対 策事業	住宅建設(未 成)	高校校地売 却
Ð		7	7		Ð	₩ <u></u>	7	7	Α	7	7	7	Ð	164	٨	4	+		7.	Ð	٨	7	ç.	H	Ç-
条里・寺院と 関わり深い 集落	古代·中世集 落	集落遺跡	集落遺跡		0.	古代·中世集 溶	脚	国府	国府周辺官	_	烣		弥生集落	古代無務(編	族居館・)・ 官衙跡	1 古代官衙	『官衙か居宅		中世城郭ら	集落遺跡	自御う	台地上	海岸集落	貝塚·古代後 期遺物包蔵	市街地
福岡県山門郡瀬高町大草	福岡県行橋市大字高来井 正丸435	福岡県築上郡権田町(現築上町)大字越路字貴船	福岡県築上郡築城町(現築上町)	福岡県豊前市久路土		佐賀県佐賀市兵庫町大字 藤木	佐賀県佐賀郡(現佐賀市) 大和町池田	佐賀県佐賀郡(現佐賀市) 大和町久池井惣座	佐賀県佐賀郡(現佐賀市) 大和町大字久池井	佐賀県佐賀市大和町大字 久池井字四本柳/字四本杉	大和町大字久池井	同上大和町大字尼寺	大和町大字川上字久留間			佐賀県神埼郡三田川町(現 神埼市)	佐賀県神埼郡神埼町(現神 埼市)大字城原字熊谷	佐賀県三養基郡北茂安町 (現みやき町)中津隈	佐賀県小城市小城町/三日 月町	佐賀県武雄市橋町大字大 日	佐賀県東松浦郡北波多村 (現唐津市)大字山彦字座 主	壱岐市(旧石田町)池田東 触672-2	長崎県対馬市美津島町尾 崎字仮宿	長崎県西彼杵郡(現西海市)西彼町白崎郷奥河内	長崎県長崎市栄町2-33
大道端遺跡	高来井正丸 遺跡	越路貴船遺跡	赤幡森/坪 遺跡	久路土鐘鐘 田遺跡	離治	藤木三本杉遺跡		肥前国府跡	久池井B遺 跡	東古賀遺跡	Н	鍵尼遺跡	人留間力ミ塚 遺跡	+ I E +	BHHI 松B遍路	吉野ケ里遺 跡	熊谷遺跡	中津陽十飯遺跡	千葉城遺跡	は いっち に 連郎	座主遺跡	棒遺跡	水崎·仮宿遺跡	(#ソメチョ 膝行神貝塚	松町遺跡
34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47		48	49	20	51	52	53	54	22	56	57	58

	概要報告IIになし 大分郡家「全国出土銙帯集成」 より	5 中世貿易陶磁と共伴	「全国出土銙帯集成」より	本簡出土。国埼郡家推定地。国埼津と宇佐神宮領 社園との関係など広範に考察される	プロイの遺構、遺物なし。混入か 3	90 8世紀末~9世紀前半の官衙と報告		詳細十明 「全国出工鈴帯集成」より。安心院盆地の[15]7年央	他に編製が新、青銅製巡方(大溝・船着場状遺構4 20038上層)が出土。加区に官衙的方規格配置の掘 立 土柱建物群あり。円面硯、転用硯、水滴などの筆記 具出土。五名郡等で		→ 報告書未刊。SB1は3間×2間の東面も庇の可能性 → あり。東側で円面硯も出土。27様以上の規則的配置 の据立柱建物出土		2×3間の三面広建物。周囲から白磁や初期越外 窯、豊倉土器など出土 9世紀後半に作られた合志 郡の郡家別院(V区)、正倉別院(II区)、里長の「里 寒 (ママ)?	濃緑色の同一原石を加工。網田1999でも実測図等 掲載。硯・銅碗・石製権・土馬など出土。掘立柱建物 はなし。飽田郡水門郷と推定。			水前寺駅嚢(旧国鉄用地)。西海道西路駅路から東 こ150m。概要報告のみ		异		~ 瓦塔、宋銭、貿易磁器、滑石製石鍋など出土。「全国 1 出土銙帯集成」より		第13次調査区発掘調査報告書 6巨大総柱建物(6		9世紀の土師器が調査区付近で表採される		「全国出土銙帯集成」より	未報告の調査。近隣遺跡の報告書で言及。古代の 連様な出な
2000∼ 2003		2005		1999~ 2000	1992∼ 1993	1988,90			1997∼ 2000	2004	1985∼ 1986	不明	1983					1999			1990∼ 1991		~6661	-2	_			1985
2004		2008		氰 2002	1996	1991	Ц		2004	2010	1998	1996	1998	1992	1000	266		2000	1999	1993	1993	1995	7000		1999	1969	1985	1986
竹中(野澤)哲朗	坪根伸也など	高橋信武		永松みゆき・飯沼賢 司・西別府元日・舘 野和巳	綿町俊一	栗田勝弘			坂田和弘	坂口圭太郎	兴田组	鈴木喬・大田幸博	古森政次	網田龍生				→ 星雄一			磯野雄二		日 4 日 3 日 8	亚田一相, 有仓义;				松本健郎
卷頭図版 2,p59		p247,257,289		p29,33,40	p92,93	巻頭,p75,83			p315~ 317,523~ 525,□絵	p92,110,PL21		6d	p15,82					p91		未掲載?	未掲載?		p358,359,405 ~409(自然科	学分 析),458,459				p4
第4集	第48集?	第24集		第26集	第93集	第83集			第218集	第253集	Vol.50-6	第3集	第139集	号数なし	回 (c ()	ξ 1		無の	第2号	号数なし	第129集	第1号	山 大	も数々し	第2号	号数なし	熊本の美 術展10回	第79集
国見町文化財調査報告書	大分市文化財発掘調査 報告書?	大分県教育庁埋蔵文化 財センター調査報告書		大分県国東町文化財調 査報告書	大分県文化財調査報告書	大分県文化財調査報告書			熊本県文化財調査報告	熊本県文化財調査報告	古代文化	旭志村文化財調査報告	熊本県文化財調査報告	熊本市教育委員会	能卡士粉套米昌企	熙 个中教月玄具 玄		熊本市教育委員会	熊本市教育委員会	熊本市教育委員会	熊本県文化財調査報告	熊本市教育委員会	张 木 木 券 杏 米 品 今	熊 个 巾 软 月 安 貝 云	熊本市教育委員会	宇土市教育委員会	熊本県美術館	熊本県文化財調査報告
塩煎園十	下郡遺跡群工?	豊後府内9	未報告?	飯塚遺跡	横手遺跡群発掘調査報 告書	会下遺跡 的場2号墳 伊豫野原遺跡	П		柳町遺跡エ	小園遺跡	熊本県鹿本町御宇田遺 跡群の官衙遺構	亀ケ城跡	楠木遺跡	上高橋高田遺跡 第1 次調査発掘調査概報	能大木小小叶钿本作却	飛 全中人 しめ 副重 牛牧		熊本市文化財調査年報	熊本市文化財調査年報	神水遺跡エ?	御幸木部古屋敷遺跡 I	熊本市文化財調査年報	□ 核卵++-	— 本 小 退 助 II		境目西原遺跡 調査概 報	肥後の古代の美	七ツ江カキワラ貝塚・竹 ,エョ !!
$4.2\times4.0\times0.75$? × 2.7 × 0.8	i	(2.1)×(2.1)× 0.5	3.8×1.7以上× 0.8	3.5×1.9以上× 0.6	$3.8 \times 3.95 \times 9.6$		4.0 × 3.0 × 0.3	4.1 × 4.3 × 0.9	4.1×4.25以上 ×0.75	2.7 × 4.2 × 0.7	5.8 × 6.4 × 0.6	2.2×3.5×不明 3.3×2.2以上× 3.3×3.65×	$3.13 \times 3.4 \times 0.63$	$4.15 \times 4.3 \times 0.71$	2.0以上×2.6以 上×0.2	3.9以上×4.3× 0.8	1.8以上×3.0以 上×0.65	2.6以上×4.0以 上×0.65	1.9以上×1.5以 上×0.7	不明×不明× 0.8	1.65以上×復 元4.0×0.57	復元2.9×復元 4.7×0.77	$3.75 \times 3.9 \times 0.88$	2.9×2.2以上× 0.9	$2.3\times3.3\times0.65$	不明
真岩		不明	i	綠泥片岩	サヌカイト	蛇紋岩	蛇紋岩	青瑪瑙	石灰岩質凝 灰岩	蛇紋岩	黒色 硬質	綠色凝灰岩	結晶質石灰 岩	軟玉 蛇紋岩 蛇紋岩	緑色 翡翠	黑灰色珪質 頁岩	チャート	7+4-h	黑色珪質頁 岩	黒色珪質粘 板岩	灰白色	黑曜石	珪化流紋岩 黒色塗布	綠色	濃緑色碧玉	白色 瑪瑙?	大理石	不明
巡方	巡方	九鞆	巡方	巡方	巡方	巡方	巡方		出	巡方	巡方	九鞆	巡方	点 派 为 为	巡方	巡方	巡方	巡方	北朝	巡方	九鞆	鉈尾	丸鞆	九鞆	巡方	九鞆	九鞆	九騎
13区SD01埋土	木棺墓	1	i	上墨田	1-2区石垣内	表土及び包含層			™区 包含層V層	16号竪穴建物	第11区 南面庇建物 SB1 南東隅傍	台地北の低地道路盛 り土(土取りで移 動?)	W⊠SB39	洪水跡(表土)	竪穴住居跡	包含層	包含層	包含層	(6 中中) 解	包小層	包含層	图号码	44号土坑(中世)	H-13グリッドIV層	表土層	搅乱層	包含層	不明
围場整備	区画整理	道路建設確 認調査	ė	文化施設建設	県道建設	大分空港道 路建設			玉名バイパス 建設	九州新幹線 建設	圃場整備事 業	道路路肩か ら表面採取 (土壙?)	囲場整備事 業				井同在安建	日報			河川改修		放送局局舎	建設	史跡整備?			県営圃場整
<u>~</u>	<u>۸</u>	<i>L</i> 5	¢.	T	(r.	7	Ţ	ر.	-A □	+	7	#≡	<u>—</u>	Н		屽			7	7	τ?		٨		Ç-			集つら
高来郡家関係	大分郡家か	豊後国府か 大分郡家	ė	莊所·港湾 連施設] 中世製鉄遺跡 跡	回倒り		対復駅家か 倉院	弥生集落·古 代官衙	弥生~中世 集落	山鹿郡家正 加	倉庫?末端 官衙?	古代集落· 衙遺跡								古代後期·中 世集落	古代官衙	十八十八年		古代寺院 跡?) 弥生・古代集 蒸っ
雲仙市国見町馬場名字十園	大分県大分市下郡	大分県大分市六坊北町	大分県西国東郡香々地町 (現豊後高田市)上香々地	大分県東国東郡国東町(現 国東市)大字鶴川	大分県東国東郡国東町(現 国東市)横手	大分県速見郡日出町会下	大分県玖珠郡玖珠町	大分県宇佐市安心院町下毛	熊本県玉名市大宇河崎	熊本県玉名市石貫	熊本県鹿本郡鹿本町(現山 鹿市)大字御宇田	熊本県菊池郡(現菊池市) 旭志村湯舟	熊本県菊池郡菊陽町(現菊 池市)大字久保田字楠木	熊本県熊本市(西区)上高 橋町	熊本県熊本市(中央区)大	江·渡鹿		派子光派子二(十人日)30 前寺1丁目296-5	熊本県熊本市(中央区)水 前寺公園	熊本県熊本市神水本町等	熊本市御幸木町	熊本県熊本市二本木	+ + + + * *		熊本県熊本市本丸	熊本県宇土市境目町西原	熊本県下益城郡小川町(現年城市)大字南小野字田中	熊本県宇城市(旧下益城郡) 引水川町南小町中田
超票圖十 69	60 下郡遺跡群	61 中世大友府 内町跡 第55	62 信重遺跡	63 飯塚遺跡	64 陽弓遺跡	65 会下遺跡	原田遺跡	67 三口田遺跡	68 柳町遺跡	69 小園遺跡	70 御宇田妙見遺跡	71 湯舟原(亀ケ 城近接)	72 楠木遺跡	73 上高橋画田 福野	大江遺跡群 32次調査	同39次調査	74 十二 非路 非	第58次調査	75 陣山廃寺跡	76 神水遺跡	77 御幸木部古屋敷遺跡	二本木遺跡群第8次	78 二本木遺跡	群第13次	79 熊本城三の 丸跡	80 境目西原遺跡	81 田中遺跡	82 小野立田遺跡

輪状の穿孔三つ。古墳後期の住居群に続き、8世紀 中東から9世紀後葉の竪穴住居25棟出土。益城国 府と関係が推定されるが、二本木官街の盛期にも重 なる	基礎部分のみトレンチ状に調査。遺構配置など不明。現場調査は九州文化財研究所担当	綠釉陶器出土。 片野駅推定地に近接			裏面に3ヶ所の潜り孔があり、間にハリ金が付着し残 存 重量17.8g	亀田博分類F類 近くIニ四面庇建物SB2、二面庇建物SB3あり 西海道大隅路沿い		国府推定地東端台地際			日向国府の位置する西都原台地から一ツ瀬川対岸 の新田原台地縁辺。S8097は竪穴建物S8090(古墳 ~古代)を切る。小規模竪穴建物か?	幅2m、残存深80cmの逆台形の溝。遺物は古代中 山间處方特、層位的な別と上げなし。5世紀半ば 「TK208並行)を中心とする時期の竪穴建物SA13を 切る。貿易陶磁の細分類報告あり。	日向国府跡(寺崎遺跡他)の約5km真南	鹿児島県遺跡分布地図(オンライン版)では早山遺跡に統合?	遺構集中部除き、橋脚部分のみの調査 23棟の古代竪穴建物、南庇付の2×3間以上の掘立柱建物あ	報告書刊行時点で紛矢		平安期の掘立柱建物16棟、墨書土器105点出土 古 代の牧の可能性と高篠経由の官道支路の可能性を 報告者は指摘
2005~ 中 2008 府 な	2008 基	2003 線		1992	1993 裏	1999~ 亀 2000 物	2001∼ 2003	1992∼ 国. 1993			2003~ B	1994 住 (T	1996∼ 1997	州 齿	1999~ (本)	2003 報	2003	2000 代
2013	2009	2010	1995	1993	1994	2004	2008	1993	1997	1997	2008	1999	2000	1986	2005	2004	2005	2004
馬場正弘	吉永明·山内淳司	長谷部善一·高田英 樹	鶴嶋俊彦	莱畑光博	重永卓爾·下田代清 海	莱畑光博	下田代清海	長津宗重	西谷正	西谷正	藤木聡	松林豊樹 (陶磁器分類:山本 信夫)	川崎辰日	山口俊博·宮田栄 二·成尾英仁	国田米二	清水 周 作· 加 恒 革 樹		山崎克之・松田朝由
p202,203,444	p48,61,71,10 1	p82,83,94		p29,30	p41,45	p58,60,122	p35,37,202	p18			p42,280,図版 157,図面181	p141,151,208	p36,43,84		p286,290,291			p378,399.図 版70
第291集	第39集	第254集	ı	第24集	第29集	第62集	第86集	I 平成4 年度	66	음6	第173集	第15集	第29集	第4集	80	第34集	第41集	71
熊本県文化財調査報告	八代市文化財調査報告書	熊本県文化財調査報告	須恵村	都城市文化財調査報告書	都城市文化財調査報告書	都城市文化財調査報告書	都城市文化財調査報告書	宮崎県教育委員会	人類史研究	人類史研究	宮崎県埋蔵文化財セン ター発掘調査報告書	宮崎県埋蔵文化財セン ター発掘調査報告書	宮崎県埋蔵文化財セン ター発掘調査報告書	鹿屋市埋蔵文化財調査 報告書	鹿児島県立埋蔵文化財 センター発掘調査報告書	大隅町埋蔵文化財祭掘	調査報告書	鹿児島県立埋蔵文化財 センター発掘調査報告書
中山錦川遺跡	福正寺遺跡	八代平野干拓遺跡群· 宮地小畑遺跡·宮地観 行寺遺跡群	須恵村誌	並未添遺跡	二夕元遺跡	馬渡遺跡	加治屋B遺跡(平安時 代~近世編)	国衙·郡衙·古寺跡等範 囲確認調査報告書	西谷正「九州出土の銙	带·石帯地名表」	宮ノ東遺跡	西下本庄遺跡	烟栗职田士	郷票 場の屋・郷原町	大島遺跡	大津田城跡1	広津田城跡2	九養岡遺跡·踊場遺跡· 高篠遺跡
1.2 × 1.9 × 0.3	$2.3\times3.5\times0.6$	3.3以上×5.5× 1.0		2.65 × 4.1 × 0.65	$2.8\times4.4\times0.8$	5.6×復元8.3× 0.65	$4.4 \times 4.1 \times 0.7$	4.0×不明×0.5	$4.1 \times 4.2 \times 0.8$	$4.3 \times 6.9 \times 0.6$	復元2.8×復元 4.0×0.7	3.0×3.1以上× 0.6~0.4	$3.8\times4.0\times0.5$		(2.85) × 2.5 × 0.8	2.8 × 3.2 × 0.5		3.2 × 3.2 × 0.6
ホルンフェルス	本明	砂岩		黒色	真岩	淡い緑色	黑色頁岩	蛇紋岩系	熙딸甲		黑色頁岩	頁岩 淡いピ ンク色	石灰岩系		黑色頁岩	配紋石		蛇紋岩 黒色 塗布?
九鞆	丸鞆未 製品	巡方?		蜂 ¥	蜂 ¥	蜂 ¥	巡方	巡方	巡方	蛇属	九勒	巡方?	巡方		九鞆	光劑		巡方
B区表土	B26	不明		B区溝SD27	屋─8区IV層	H-8区包含層	G-16区5層	B地区T2 攪乱坑	古墓から		A区北C6グリッド10c 前葉の土坑S8097(第 一一検出面)埋土	東西溝SE5	™層(古代包含層)		8区皿層(古代包含 層)	小 題		I-6グリッドIVa層 (縄 文晩期~古代包含 層)
県道建設	中学校校舎 建設	九州新幹線 建設		工業団地建 設	大規模店舗 建設	農業基盤整 備事業	農業基盤整 備事業	確認調査			東九州自動 車道建設	本圧高校グ ランド造成	東九州自動車道建設		九州新幹線建設	1	可通整備	東九州自動 車道建設
4		4.5		Ð	+	7	7?	7	7		43	- 4	Ţ		7	_	٠.	7
古墳~古代 無務	¢.	古墳~古代 集落·散布地		古代~近世 道路·中世集	古墳·平安集 落	平安居宅	平安集落? 官衙?	日向国府	日向国分尼		編文~近世 集落	古墳集落·古 代中世居館	古代の畠跡		古代集落	编核·中中版	站	古代末端官 衙?集落?
熊本県上益城郡甲佐町大 字中山字錦川/下益城郡城 南町(現熊本市)陣内字花 立	熊本県八代市宮地町宇福 正寺	熊本県八代市宮地町字小 畑348ほか14筆	熊本県球磨郡上村(現あさ ぎり町)西小原	宮崎県都城市高木町	宮崎県都城市志比田町 3741他	宮崎県都城市養原町字馬渡	宮崎県都城市南横市町	宮崎県西都市大字妻字上妻	西都市大字三宅字毘沙門	宮崎県西都市穂北	宮崎県西都市大字岡富字 宮/東ほか	宫崎県東諸県郡国富町大 字本庄字西下本庄	宮崎県宮崎郡佐土原町(現 宮崎市)大字上田島字平田	鹿児島県鹿屋市花岡町宮 の脇	鹿児島県川内市東大小路 町9番付近	康児島県曽於市大隅町月	野広津田	鹿児島県曽於市財部町南 侯
中山錦川	福正寺遺跡	宮地小畑 遺跡	西小原遺跡	並木添遺跡	二夕元遺跡	馬渡遺跡	加治屋B遺跡	上妻B地区 遺跡	諏訪遺跡	穂北遺跡	宮の東遺跡	西下本庄遺跡	超票即田本	宮の臨遺跡	大島通野	広津田城跡	齿蛔	高篠遺跡
83	84	82	98	87	88	89	90	91	92	93	94	92	96	97	98		88	100



第322図 九州内石帯出土遺跡分布図

③石製煙管火皿

756は石製煙管の雁首の火皿である。滑石製で円筒形に加工し、火皿部分を上から、小口を横から穿孔して製作している。円筒形に削った後、回転させながら側面を丁寧に磨いて仕上げている。201208大調査区2084グリッドの2層から出土している。この石製煙管は琉球諸島で特徴的にみられるものであるとされてきたが、県内の出土例を調べてみると第186表の通り、竹松遺跡で出土したものと合わせ9点の出土が確認された(第186表)。琉球諸島での出土状況は首里・那覇では稀で、北部・南部・宮古島での出土が多い。形状は釣鐘形と柱状形に分けられている。

琉球諸島で使用された煙管の種類は石質のもの、瓦質のもの、無釉陶器、施釉陶器、金属製とあり、石質のもの、瓦質のもの、無釉陶器が古く、その後にオーバーラップする形で施釉陶器、金属製へと移行すると考えられている。石質のものの年代をみると住屋遺跡(平良市教育委員会1983)から15世紀後半から17世紀前半の地層より出土しているのが参考となる。材質は泥岩・砂岩系のものである。火皿の内径は殆ど約1.3cm前後に収まる。

県内出土のものをみると形状は釣鐘形と柱状形があり、材質はほぼ滑石製である。年代は出土 土層や遺構からわかるものでみると17世紀初期から18世紀後半となり、琉球諸島の出土状況より 遅れることとなる。外形の大きさには大小があるが火皿の内径は琉球諸島のものと同じく約1.3 cm前後となる。

これらのことから今回出土した石製煙管も含め県内で出土しているパイプ状の石製煙管の火皿部分は、生産地は不明であるが沖縄本島を中心とした琉球諸島から伝えられたものと考えられる。

さて、煙管は喫煙の道具であるので、喫煙も含め煙管の概観をみていく。喫煙の習俗は紀元前10世紀頃のマヤ文明から始まったとされ、その後、アメリカ先住民の間で行われていた。大航海時代となりヨーロッパに広がり、そこから15世紀から16世紀にかけて世界へと広まっていった。日本では16世紀中ごろポルトガルおよびスペインの船員から伝えられたとされる。1602年の『琉球往来』、1607年の『坂上池院日記』、1612年の「イエズス会士コウロスの有馬のセミナリオからローマへの書簡」に煙管を使い喫煙する記録があることから17世紀初頭には喫煙が広がっていたものと思われる。煙管(キセル)の語源であるがポルトガル語で吸う物、que(キ)solver(ソルベール)からではないかと考えられている。日本での煙管の出現は16世紀末から17世紀初頭とみられ、最古の出土例は長崎の興善町遺跡の八尾宅からのものであり、1580から1600年代のものと見られる。日本における煙管の雁首の形態の変化をみると火皿が大振りで脂返しの湾曲が大きいものから火皿が小型化し脂返しの湾曲も小さくなっていく。これは、煙草の葉の刻み方が

第186表 県内石製煙管火皿出土一覧表

遺跡名	所在地	材質	柱状形	出土遺構·層位	時期	報告書
寿古遺跡	大村市寿古	滑石	柱状形	記載無し	記載無し	「寿古遺跡」大村市文化財調査報告第15集1990
オロ恩助	八竹巾折口	/H"LI	111/11/	山梨木()	心戦無し	「寿古遺跡」大村市文化財保護協会1992
炉粕町遺跡	長崎市炉粕町30	滑石	柱状形	SD1 Ⅲ層	18C.初頭	「長崎奉行所跡 炉粕町遺跡」長崎県文化財調査報告書第177集2004
- 万伯則 退财	区間川が和町30	用扣	111/10	301 単層	100.忉頭	「長崎奉行所跡 岩原目付屋敷跡 炉粕町遺跡」長崎県文化財調査報告書第183集2005
膝行神貝塚	西彼町白崎郷奥河内	滑石	釣鐘形	表土等	近世?	「膝行神貝塚」西彼町文化財調査報告書第2集2005
黒丸遺跡	大村市沖田町216番1	滑石	柱状形	記載無し	記載無し	「大村市市内遺跡発掘調査概報7」大村市文化財調査報告書第38集2015
黒丸遺跡	大村市沖田町216番1	滑石	柱状形	記載無し	記載無し	「大村市市内遺跡発掘調査概報7」大村市文化財調査報告書第38集2016
早岐瀬戸遺跡	佐世保市早岐2丁目	滑石	柱状形	第6次調査B区 S2(礎石設置に伴なうピット内)	宝暦8年(1758)~幕末期	未刊行
勝山町遺跡	長崎市勝山町30番1号	軟質の石	柱状形	17C.初期の地層	17C.初期	「勝山町遺跡」長崎市教育委員会2003

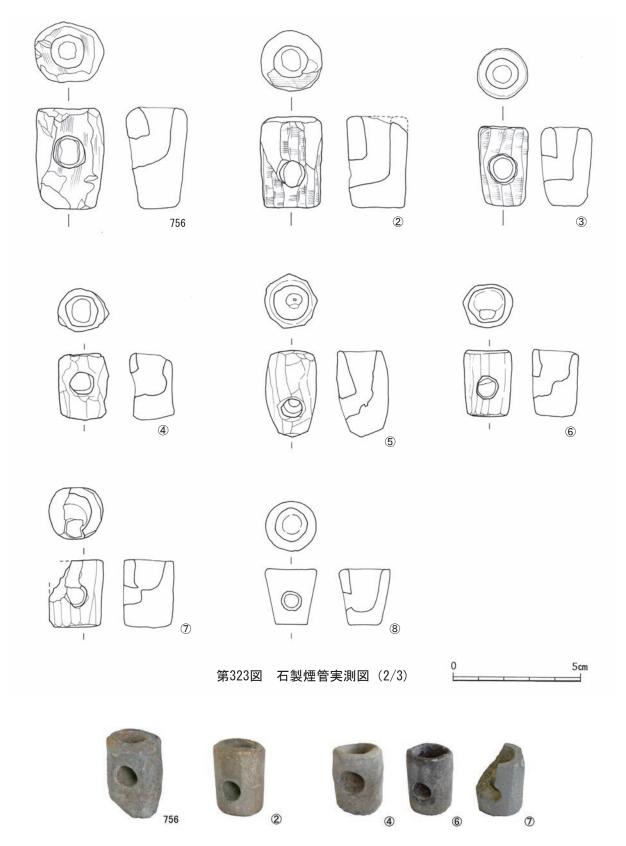


写真292 石製煙管火皿

第187表 煙管観察表

図版番号	出土遺跡	高さ(cm)	最大径(cm)	火皿内径(cm)	重量(g)
756	竹松遺跡(2012年度)	4	2.7	1.3	37.9
2	竹松遺跡(2014年度)	3.6	2.4	1.3	33.5
3	早岐瀬戸遺跡	3.1	2	1.3	
4	寿古遺跡	2.4	1.8	1.2	
(5)	膝行神貝塚	3.1	1.9	1.2	
6	黒丸遺跡	2.4	1.7	1.3	
7	黒丸遺跡	2.4	1.9	1.1	
8	勝山町遺跡	2.2	2	1.3	

[参考文献]

石井 龍太 「琉球の喫煙文化」『南島研究』第50号 2009

石井 龍太 「琉球諸島出土キセルの基礎的研究」『東京大学考古学研究室紀要』第25号 2011

島 弘 「沖縄諸島出土の煙管について」『シンポジウム VOCと日蘭交流-VOC遺跡の調査と嗜好品- 発表要旨』たばこと 塩の博物館、江戸遺跡研究会 2010

古泉 弘 「日本考古学と煙管の研究史」『シンポジウム VOCと日蘭交流-VOC遺跡の調査と嗜好品- 発表要旨』たばこと塩の博物館、江戸遺跡研究会 2010

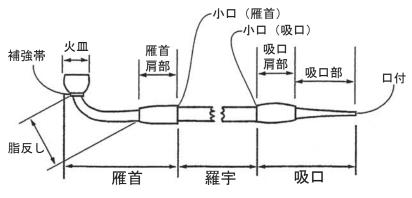
※たばこと塩の博物館 主任学芸員谷田有史氏より石製煙管についてのご教授をいただいた。また上記『シンポジウム VOCと日 蘭交流-VOC遺跡の調査と嗜好品- 発表要旨』たばこと塩の博物館、江戸遺跡研究会 2010も提供していただいた。

※第323図 ④~⑧は上記表186の各報告書の図面より作成した。

※早岐瀬戸遺跡出土のキセルについては佐世保市教育委員会の松尾秀昭・溝上隼弘両氏から資料の提供を頂いた。

補

浦田は、竹松遺跡出土の滑石製不明製品(第323図756・②)について類例を調べ、沖縄県で確認されている類似の遺物が煙管であることからこれらも煙管であると考え、石井氏、谷田氏へ問い合わせを行い今回煙管として報告するにいたった。浦田は本報告書「③石製煙管雁首」脱稿後異動となったが、その後新たに資料を確認したことから浦田の集成に追加する。(第325図、第188~190表)



第324図 キセルの部分名称

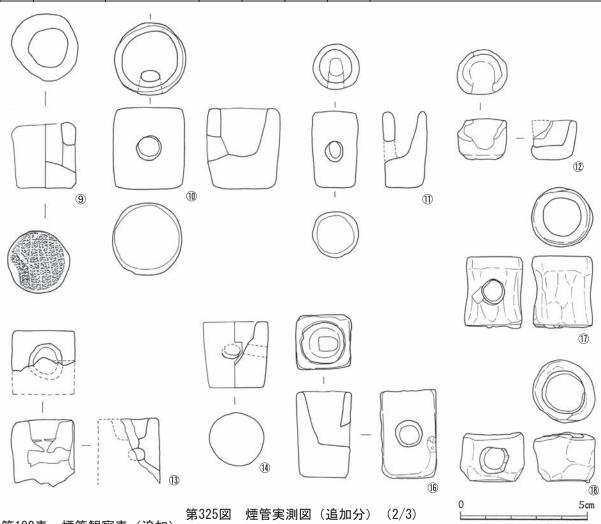
(石井 龍太「琉球諸島出土キセルの基礎的研究」『東京大学考古学研究室紀要』第25号 2011より)

第188表 県内出土石製煙管火皿一覧 (浦田作成「第186表」に追加)

	遺跡名	所在地	材質	形状	出土地·層位	時期	報告書
9	炉粕町遺跡	※浦田作成の出土地一覧	表への記載	はあるが(第	[186表]、実	測図が掲載	されていなかったため掲載
10	野中遺跡	東彼杵郡東彼杵町瀬戸郷	滑石	円柱状	表採集	記載無し	「野中基地·野中遺跡」『九州横斯自動車建設に伴予埋藏文化財緊急免据調査報告書切』長崎県文化財調査報告書第93集1889
11)	小薗城跡	東彼杵郡東彼杵町瀬戸郷	滑石	円柱状	記載無し	記載無し	「4小菌城跡」『九州横断自動車建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書電』長崎県文化財調査報告書第99集1991
(12)	沖城跡	諫早市仲沖町·幸町	蛇紋岩	円柱状	D2 II	記載無し	「沖城跡」諫早市文化財調査報告書第14集2000
(13)	沖城跡	諫早市仲沖町·幸町	蛇紋岩	方柱状	C9Ⅲ	記載無し	「沖城跡」諫早市文化財調査報告書第14集2000
(14)	竹辺C遺跡	佐世保市竹辺町	滑石	円柱状	23号溝	近世	「竹辺C遺跡 竹辺D遺跡」長崎県佐世保文化財調査事務所調査報告書第3集2008
15)	上野町遺跡	諫早市上野町	滑石	円柱状	記載無し	記載無し	「上野町遺跡1127,11259地点」諫早市文化財調査報告書第23集2009

第189表 長崎県および周辺出土陶製・土製煙管火皿表

		遺跡名	所在地	材質	形状	出土地·層位	時期	報告書
	16	栄町遺跡	長崎市栄町	土製品	方柱状	C-3 Ⅲ層	近世	「栄町遺跡」長崎県埋蔵文化財調査報告書第162集2001
ſ	17)	山辺田遺跡	佐賀県有田町黒牟田	陶製	円柱状	記載無し	1600年代~10年代	「山辺田遺跡」有田町教育委員会2017
ſ	18	山辺田遺跡	佐賀県有田町黒牟田	陶製	円柱状	記載無し	1600年代~10年代	「山辺田遺跡」有田町教育委員会2017



第190表 煙管観察表(追加)

731005	人 在日就办证	(<u>Æ</u> ////							
番号	出土遺跡	形状			法量(cm)			重量(g)	材質
留写	出土退跡	75-1X	高さ	最大幅	最大厚	火皿内経	側面孔径	里里(g)	竹貝
9	炉粕町遺跡	円柱	2.5	2.6	2.6	1.5	1.2	不明	石
10	野中遺跡	円柱	2.9	2.5	2.5	2.1	0.9	24.8	緑灰色滑石
11)	小薗城跡	円柱	3.1	1.9	1.9	1.3	0.9	不明	滑石
12	沖城跡	円柱	1.4	1.9	1.8	1.85	0.8		蛇紋岩
13)	沖城跡	方柱	(2.6)	2.4	(1.6)	1.2	(0.5)		蛇紋岩
(14)	竹辺C遺跡	円柱	2.6	2.6	1.4	1.0	(8.0)	23.0	滑石
(15)	上野町遺跡	円柱		実測	図・計測表オ	「掲載のため	に欠番		滑石
16)	栄町遺跡	方柱	3.3	2.2	2.2	1.7	1	不明	土製
17)	山辺田遺跡	円柱	2.7	2.4	2.4	1.5	0.9	不明	陶製
(18)	山辺田遺跡	円柱	1.8	2.4	2.4	1.7	0.9	不明	陶製

④金属製品X線写真資料

竹松遺跡の調査では、出土した金属製品すべてを県の埋蔵文化財センターに持ち込み保存処理 を依頼している。その際センターでは処理前の写真と透過X線写真、処理後の写真を処理過程の 資料として記録保存している。そこで、今回報告をした金属製品についてX線写真データを報告 したい。



写真293 金属製品 X 線写真-1

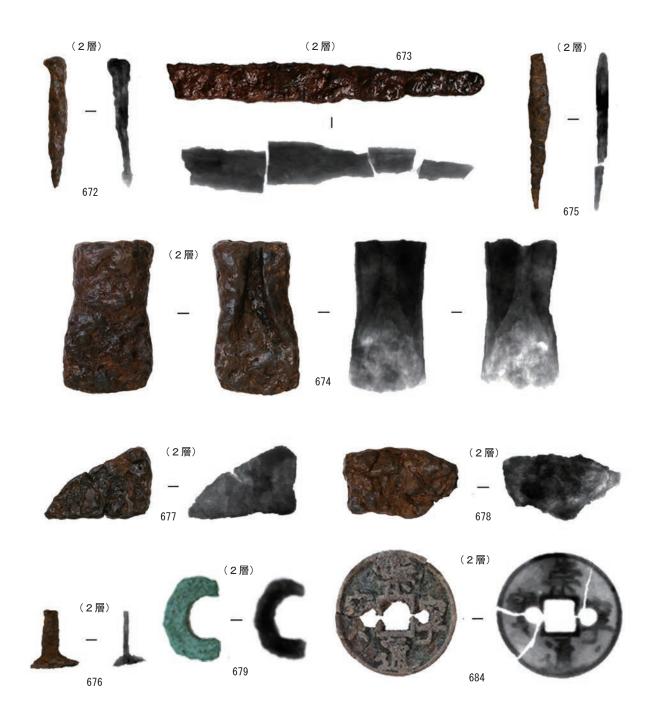


写真294 金属製品 X 線写真-2

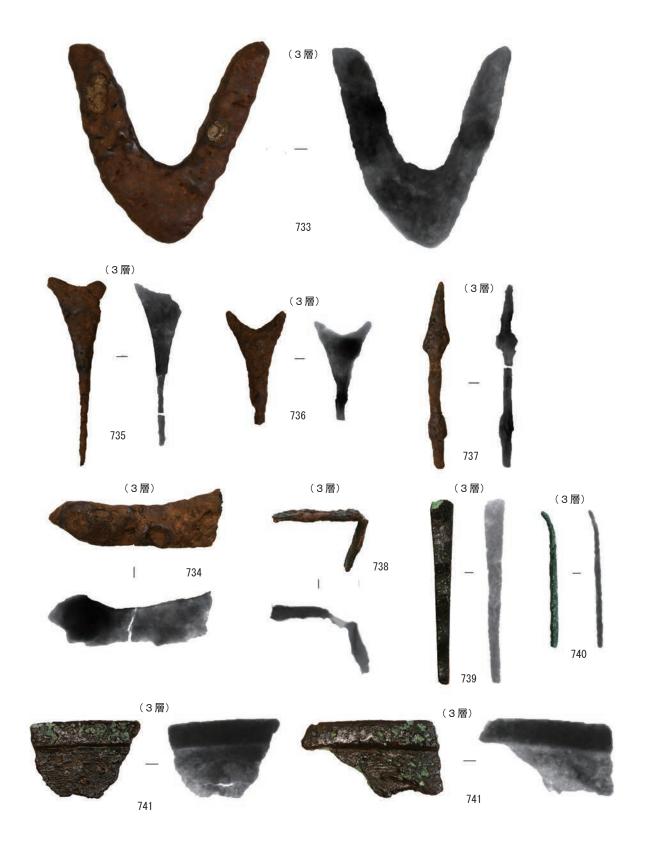


写真295 金属製品 X 線写真-3

(4) まとめ

①竪穴建物跡からの遺物出土状況について

第1表 201202調査区から検出した 竪穴建物の残存壁高(最大)

遺構番号	小調査区	壁高(cm)
SC1	2	30
SC3	5	30
SC4 SC5	⑤	8
SC5	⑤	8
SC6 SC7	⑤	3
SC7	⑤	3
SC8	⑤	12

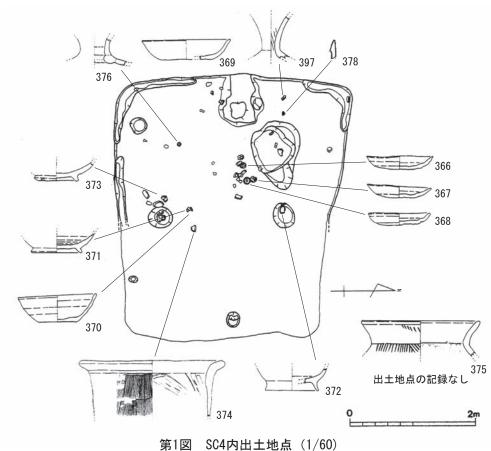
竪穴建物跡は全部で7棟検出した。そのうち6棟は小調査区⑤区で検出している。本文でも述べたように、小調査区⑤区は後世に大きく削平されている。第1表は竪穴建物の残存壁高の一覧表である。この表からも削平の大きさが窺える。

この竪穴建物跡から出土した遺物であるが、残存壁高が3cmのSC6、SC7は出土遺物数も少ない。SC3、SC4、SC5は深く構築されていたため、残存高の数値も大きく、出土

した遺物数も多い。削平が少なければさらに多くの遺物を見ることができたことと思われる。

これらの遺構から出土した遺物の内容であるが、土師器が中心でそれに須恵器、黒色土器を伴い貿易陶磁は伴わない。遺物の年代は、杯や椀は9世紀代に時期がほぼまとまっていたが、SC4の場合は11世紀前半と時代が下る遺物が複数点入っていた。遺構の年代を決定するにあったっては、遺構が埋没する段階で遺構の年代よりも古い遺物が混入することは普通に見られることであることから、床面に近い遺物の中で最も新しい遺物を遺構の廃絶年代を決定する一つの材料と考える。SC4では11世紀前半にまとまる遺物が4点出土している。つまり、この考え方に従うとSC4の年代は11世紀前半となる。そこで、SC4の遺物の出土状況を見てみたい(第1図)。

遺物の出土が見られない東半分は遺構を確認できずに掘り下げてしまった部分である。遺物の



出土を記録できた 西側で見ると、全 体に散らばって出 土している遺物の 中で、中央近くに 集中している遺物 がある。その中の3 点が他の遺物より も時代が下る土師 器皿3点である。こ の出土状況から、 これら3点の土師器 皿は、調査時点で は確認できなかっ たSC4の埋没後に掘 り込まれた後世の 遺構に伴う遺物の 可能性があると判

断した。これら小皿と同時期のものと思われる黒色土器椀(373)やSC03から出土した土師器小皿(354)もこの時期の遺構に伴う混入品と考えたい。

以上のことから小調査区⑤区に集中する竪穴建物は、SC4も含めて建て替えが行われながら8世紀後半から9世紀後半まで存続した建物群であると思われる。竪穴建物の中にはカマドが残る建物が2棟あったが、カマドの位置が北と東であり揃っていない。また、カマドを伴わない建物もあり竪穴建物の多様性が見られる。

②201202調査区における遺跡の消長について

第2表 201202調査区における地区ごとの 越窯系青磁出土点数

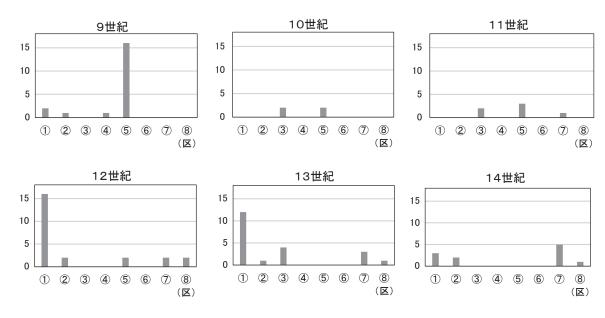
小調査区	1	2	3	4	(5)	6	8
出土点数	0	0	5	1	61	2	3

第2表は201202調査区の各小調査区から出土した 越州窯系青磁片 I・II 類の総数である。越州窯系青 磁 I・II 類は8世紀末~10世紀中頃の標識磁器であ る(註1)。以前は出土する遺跡数も少なく官にか

かわる施設に伴う特殊な遺物とみられていたが、近年では出土する遺跡数も増えてきた。しかし、官に関わる施設を含め一般的な集落では見られない特殊な遺物といえる。

201202調査区の調査では、総数72点の越州窯系青磁片 $I \cdot II$ 類が出土した。表を見ると⑤区が他地区と比べると突出して多いことが分かる。小調査区⑤区から越州窯系青磁片 $I \cdot II$ 類が多く出土していることは、調査時から気になっていたのであるが、これほどの数と他地区との違いが分かり驚いている。

第2図は時期(世紀)ごとの小調査区別遺構数である。時期が確認できたすべての遺構を対象にした。また、世紀がまたがる遺構については新しい方でカウントを行った。このグラフから分かることは



第2図 時期(世紀)ごとの小調査区別遺構数 (世紀がまたがる場合は新しい方でカウントを行った)

- ・7世紀、8世紀の遺構はない
- ・9世紀の遺構は小調査区⑤区に集中する
- ・10・11世紀は遺構数が減少する。
- ・12世紀は小調査区①区で遺構数が急に増える
- ・13世紀も小調査区①区の遺構数は他地区より多いが、前と比べると遺構数は減じる
- ・14世紀は遺構数の多さが際立つ小調査区は見られず、前に数を減じてきた小調査区①区においてはさらに遺構数が減る
- 15世紀、16世紀の遺構はない

世紀も続く。

以上から、201202調査区では古代前期の遺構が見られず、律令制の開始期に伴う遺構はないといえる。

しかし、9世紀(平安時代前期)になると小調査区⑤区において遺構数が急に増えることから、この時期に小調査区⑥区において活発な活動が行われたことが窺える。小調査区⑥区東側の調査区域外は2014年度に調査を行ったが、小穴や土坑は確認できたものの遺構数は特筆するほどの数ではなく、出土した遺物の量も小調査区⑥区と比べると少なかった(詳細については2018年度刊行予定のTAK201405調査区で報告予定)。このことから、9世紀に小調査区⑥区で見られる活動は東へは広がらず、小調査区⑥区内で収まったものと思われる。さらに、越州窯系青磁片の出土数の多さからこの活発な活動は、郡衙に関わる施設に伴うものと思われる。石帯(754)が⑤区から出土していることもこの考えを補強できよう。以上から、9世紀には⑥区の中の狭い範囲において官に関わる活動が盛んに行われたものと思われるが、その内容については不明である。

また、同時期に存在した竪穴建物がどう関わってくるのか、この点についても不明である。 10世紀になると⑤区での活動はおさまり201202調査区全体においても低迷する。この状況は11

12世紀になると①区の遺構数が急に増加する。この傾向は13世紀も続き、201202調査区において①区は華やいだ場所になったものと思われる。出土する遺物も瀬戸産灰釉小皿(563)、おろし皿(589、590、591)など遠隔地から運ばれてきた品物も見られる。

しかしこの華やかさにも14世紀には影が差し始める。そして続く15世紀には該当する遺構がまったく見られなくなる。このことは201202調査区において14世紀以降の遺物が極端に減ることからも窺える。

TAK201202調査区では2度活動のピークが見られた。隆盛し衰退するその理由については竹松遺跡全体の動向を見ながら考える必要がある。

③TAK201202調査区における水の管理について

竹松遺跡の南は1kmで大村湾に至るが、その間は水田が広がっている。その水田に引かれる水は遺跡の東を流れる郡川から引き込まれている。現在、201202調査区では上流でくみ上げられた水が4本の水路を通り下流の水田を潤している。

201202調査区では小調査区③区⑧区を中心に多くの流路を確認した。流路はすべて標高の高い東方から西方へ向けて流れている。これらの流路は形状から2つのグループに分けることができる。1つ目は、断面が皿状を呈するもので、幅が一定ではなく緩やかに広がったり狭くなる一群



写真296 遺跡内を流れる水路

(SD10、SD11、SD12)。2つ目は断面がコの字状を呈するもので、幅は大きく変わらないと思われ、石列を伴うものも見られる一群(SD6、SD7、SD8、SD31)である。前者は自然流路で、後者は人の手による水路である。これらの流路を時期別に色分けをしたものが第3図である。自然流路は12世紀まで小調査区③区、⑧区の中央を流れており、これが13世紀になると水路となり小調査区の端へ整理されていった。

SD16について触れたい、SD16からは時期が分かる遺物として8世紀代と思われる甕のみが出土している。しかし、断面の形状、遺構の位置から考えると13世紀以降に作られた水路と考えられる。

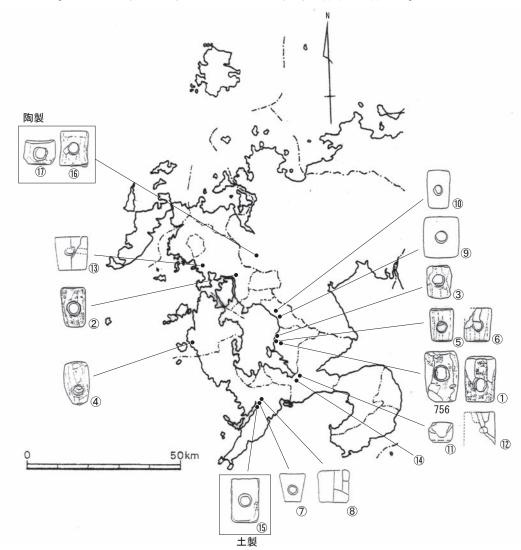
13世紀以降の水路が現在流れる水路の傍から検出されたことから、現在見られる水路網は13世紀に形作られ、下流の水田地の開発もこの時期に活発に行われたことが想起できる。自然の流れを利用した水田耕作から、人が水を管理する水田への転換は、この地の人々に大きな収穫をもたらしたに違いない。

遺跡の消長で述べたように、12世紀~13世紀は小調査区①区が賑わった時期である。また201202調査区の調査で初めて確認し201405調査区で報告する予定の区画溝も12世紀には存在している。また201504調査区からは11世紀後半の大型掘立柱建物跡が検出されている(報告は2018年度予定)。これらの出来事と水路の掘削との関係も今後考えていかなければならない。



④石製キセル煙管について

石製煙管については、長崎県内において煙管と報告された例は3点(沖城跡2点、炉粕町遺跡1点)である。他は、用途は明記されずに報告されていた。私もずいぶん以前に初めて竹辺遺跡出土品を見て以来気にはなっていた滑石製品の一つであったが、それ以上の調査研究をすることもなく浦田氏からの情報提供があるまでは用途不明遺物としての認識であった。また、用途不明の滑石製品は古代末~中世にかけて多く出土することから、この遺物も当該期の所産であるという先入観があった。用途と時代が明確になったことで長年の疑問が晴れた。



第4図 長崎県及び周辺の石製煙管出土遺跡分布図 (1/1,250,000)

第4図は長崎県内の石製キセル出土遺跡の分布図である。石製キセルは浦田報告にあるように 17世紀初頭には記録があることから、県内の使用時期もほぼ同じ時期であろう。また、沖縄を通 して伝わったことは十分考えられる。また、素材は⑦を除き滑石であることから、滑石生産地の 西彼杵半島に近い所に分布することは言えよう。当時の領主別の出土を見ると、大村領9点。諫 早領2点、松浦領2点となる。

沖縄から本土への移入が中国人や南蛮人であった場合は、カトリックに帰依した大村純忠・善前親子の領地から最多の9点が出土しているのはうまく合致するのであるが、有馬晴信の領地か

らは出土がなく、南蛮貿易を盛んに行った平戸がある松浦領からは2点で、平戸港周辺からの出 土がないのは理由と合致しない。やはり、西彼杵半島周辺や海を隔てた大村湾沿岸の人々など歴



V 範囲確認調査

1 TAK201202調査区の範囲確認調査

- · 調査主体 長崎県教育委員会
- ・調査担当 長崎県埋蔵文化財センター文化財保護主事 川畑敏則、文化財調査員 宮武直人、同 今西亮太
- ·調査期間 平成23年7月4日(月)~同年9月8日(木)
- ·調査面積 257 m²
- ・調査概要 調査は公共座標に合わせて20m×20mの方眼を組み、交点に2m×2mの試掘坑を 55箇所設定した。対象地にはまだ未買収地が残っており、買収地のみに試掘坑を 設定した。路線部分に設定したTP50~53以外は保守基地(のちに車両基地)に設 定した。なおTP11、TP14、TP49は、深い部分の土層堆積状況を確認するため に、試掘坑4m×4mに拡張し、機械による掘削を行った。
- ・土層 土層の堆積状況はTP18やTP23以北と南で変わる。北側の土層は1層が表土(耕作土)、2層は明黄褐色粘質土で粘性の強弱でさらに2層に分割した。4層も暗褐色粘質土で、3、4層から古代から中世までの遺物の出土が見られた。5層は褐色粘性砂質土で縄文時代の遺物が少量ではあるが出土した。6層は暗褐色砂質土、7層は砂利混じりの褐色砂層となる。南側の土層は、1層が表土(耕作土)、2層は褐色土の床土、3層は黒褐色粘質土、4層は黒色土、5層は黒色砂質土、6層は褐色礫層である。遺物の検出は3層から5層で見られた。

• 遺構 • 遺物

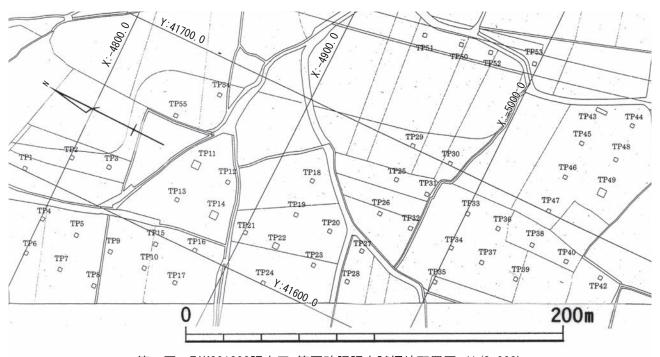
遺構はTP1からTP17の多くの試掘坑で古代末から中世のものと見られるピットを検出した。遺物は調査区の北側では3・4層、南側では3~5層で弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器が出土し、北側の5・6層、南側の6層上面から縄文時代の土器や石器が出土した。

・結果 今回の調査の結果、調査区の南西側は、耕作面を造成するためと思われる削平が大きく、遺物の包含層も薄く、すぐに扇状地礫層となる。同区域を除く範囲は縄文時代から中世までの遺構・遺物の包含地であることが確認された。

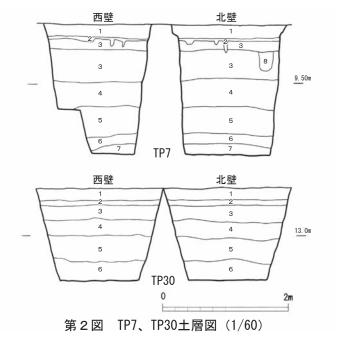
2 TAK201208調査区の範囲確認調査

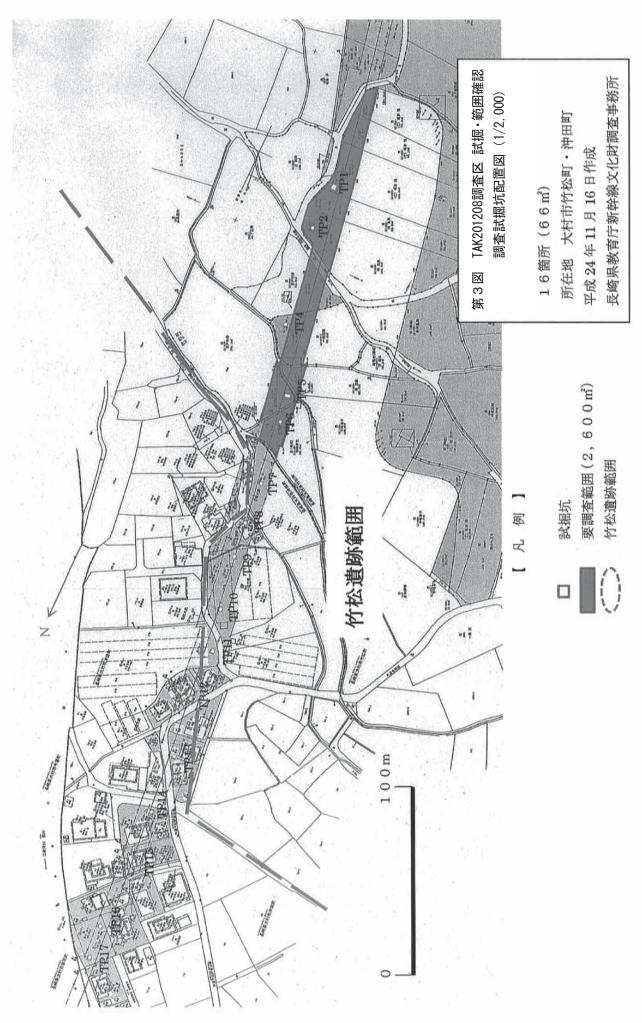
- · 調査主体 長崎県教育委員会
- ·調查担当 長崎県教育庁新幹線文化財調查事務所 係長 村川逸朗、文化財保護主事 山梨千晶
- 調査期間 平成24年10月30日(火)~平成24年11月9日(金)
- ・調査面積 $6.6 \,\mathrm{m}^2$ ($2 \,\mathrm{m} \times 2 \,\mathrm{m}$ 等)の試掘坑を遺跡内の範囲確認のため $1.0 \,\mathrm{箇所}$ 、遺跡範囲外の試掘調査を $6 \,\mathrm{箇所}$ の計 $1.6 \,\mathrm{箇所}$ を実施した。その中で $1 \,\mathrm{箇所}$ は深掘りを行ったので $2 \,\mathrm{m} \times 3 \,\mathrm{m}$ の規模になった。

- ・調査概要 TP1~TP7の範囲の中で住居跡等の柱穴や、縄文時代晩期土器数点と、弥生土器が黒褐色土(南部共通土層Ⅲ層)から出土した。また、黒褐色土層の上位及び黒褐色土層の上層から、須恵器、中国製輸入陶磁器等も出土した。縄文早期の押型文土器も表面採集されている。
- ・調査結果 TP1~7の範囲(1,977㎡)で縄文晩期土器や、弥生後期の土器等を確認した。また、柱穴等の遺構も確認しており、この範囲での遺構・遺物の保存状態は良好である。上記以外のTP8~17では遺構が認められず、遺物も少量しか出土しない。その少ない遺物も耕作土直下の黄褐色土層や、灰黒色土層から近世陶磁器や中国製輸入陶磁器、弥生土器の細片等が混在しており、攪乱層としか捉えられない。このような状況から工事着工に支障はなかった。



第1図 TAK201202調査区 範囲確認調査試掘坑配置図 (1/2,000)





竹松遺跡出土湖州六花鏡の鉛同位体比分析結果

国立歴史民俗博物館 齋藤努

竹松遺跡出土湖州六花鏡の鉛同位体比分析結果

国立歴史民俗博物館 齋藤努

1. はじめに

長崎県教育庁より依頼のあった竹松遺跡出土湖州六花鏡について、表面電離型質量分析法による鉛同位体比分析を行った。

2. 資料

分析対象としたのは、九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)埋蔵文化財発掘調査に伴って竹松遺跡から出土した中国宋代の湖州六花鏡である。

3. 分析方法

刃を使い捨てにするマイクロナイフを使って表面から錆粉末を採取し、鉛同位体比分析用の試料とした。試料から、高周波加熱分離法で鉛を単離して硝酸溶液とし、鉛 200ng 相当量の試料溶液を分取して、リン酸・シリカゲルとともにレニウム・シングル・フィラメント上に塗布した。表面電離型質量分析装置(Finnigan MAT 262)を用いて、フィラメント温度 1200℃で鉛同位体比を測定した(齋藤、2001;齋藤ら、2002)。

なお、資料はパラロイドB72のアセトン溶液で保存処理済みであったので、表層の保存処理剤部分を剥がし、その下層から分析試料を採取した。その後、試料採取部に保存処理剤を再度浸透させるために、エタノールを使用して試料採取部周辺をやや広く拭った。

4. 分析結果

鉛同位体比分析の結果を表1に示した。馬淵・平尾は弥生時代から平安時代までの多くの青銅器について鉛同位体比のデータを蓄積した結果、その変遷を下記のようにグループ分けできると報告している(馬淵・平尾、1982、1983、1987)。

A: 弥生時代に将来された前漢鏡が示す数値の領域で、華北の鉛。弥生時代の国産青銅器の多くがここに入る。

B:後漢・三国時代の舶載鏡が示す数値の領域で、華中~華南の鉛。古墳出土の青銅鏡の大部分はここに入る。

C:日本産の鉛鉱石の領域。

D: 多鈕細文鏡や細形銅剣など、弥生時代に将来された朝鮮半島系遺物が位置するライン。

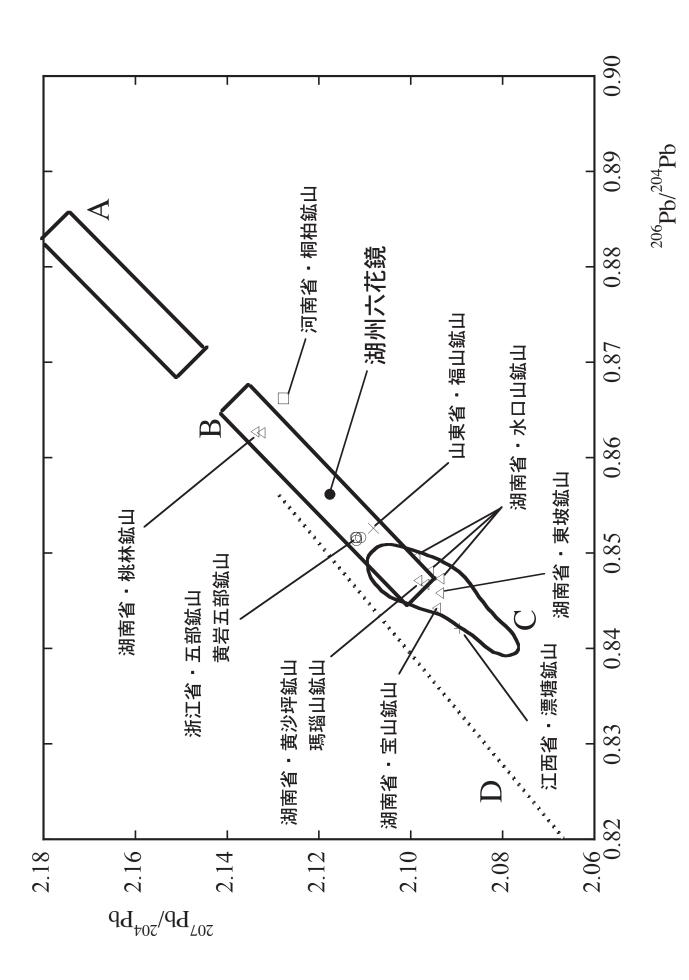
本資料は中世のものであるので、これらのグループとは直接結びつかない。しかし、データの位置づけを考察するのに役立つため、測定結果はこれらの領域とともに図示している。測定結果の表示には通常 207Pb/206Pb 比と 208Pb/206Pb 比の関係 (a 式図) が使用されることが多く、それだけで識別が困難な場合などには、必要に応じて 206Pb/204Pb 比と 207Pb/204Pb 比の関係 (b 式図) が併用される。本報告では、中国の鉱山のデータと比較して総合的に判断する必要があるため、両方の図を用いた。

分析結果を表1および図1に示した。また、表2と図1中に、関連すると思われる周辺

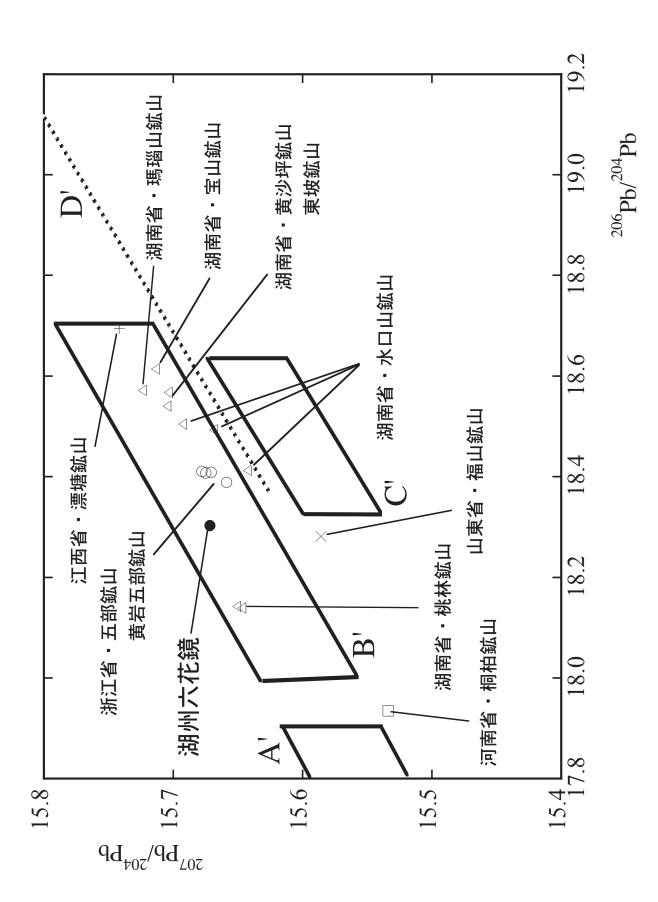
地域で、これまでに分析値が報告されている鉱山(馬淵・平尾、1987;馬淵、2011)の鉛同位体比を、参考のために示してある。図1でわかる通り、湖州六花鏡の同位体比値は a 式図、b 式図ともにB 領域の中にあり、中国の華中~華南産の原料が使われていると推定できる。また周辺地域にある鉱山の中で比較的近いデータを示すものとしては、浙江省のものがある。数値が一致しているわけではないので、この鉱山が原料の産地であるとはいえない。しかし、少なくとも、この資料の原料は、このような数値傾向を示す地域の鉱山から得られたものと考えてよいであろう。したがって、鏡が湖州(浙江省)で製作されたものであるとするならば、そこからさほど遠くない場所で産出した原料が使用されているとしても矛盾はしない。

参考文献

- 齋藤努(2001)「日本の銭貨の鉛同位体比分析」『国立歴史民俗博物館研究報告』86、pp.65-129.
- 齋藤努、高橋照彦、西川裕一(2002)「古代銭貨に関する理化学的研究 -「皇朝十二銭」の鉛同位体比分析および金属組成分析-」『IMES Discussion Paper』No.2002-J-30、日本銀行金融研究所.
- 馬淵久夫(2011)「漢式鏡の化学的研究(2)-鉛同位体比の「前漢鏡タイプ」から「後漢鏡タイプ」への移行について-」『考古学と自然科学』62、pp.43-63
- 馬淵久夫、平尾良光 (1982) 「鉛同位体比からみた銅鐸の原料」 『考古学雑誌』 68 (1)、pp.42-62.
- 馬淵久夫、平尾良光(1983)「鉛同位体比による漢式鏡の研究(二)」『MUSEUM』382、pp.16-26.
- 馬淵久夫、平尾良光 (1987) 「東アジア鉛鉱石の鉛同位体比-青銅器との関連を中心に-」 『考古学雑誌』 73 (2)、pp.199-245.



竹松遺跡出土湖州六花鏡の鉛同位体比測定結果(a式図) <u>巡</u> 2



竹松遺跡出土湖州六花鏡の鉛同位体比測定結果 (b 式図) 巡 し ひ

表 1 竹松遺跡出土湖州六花鏡の鉛同位体比測定結果

資料名	分析番号	²⁰⁷ Pb/ ²⁰⁶ Pb	²⁰⁸ Pb/ ²⁰⁶ Pb	²⁰⁶ Pb/ ²⁰⁴ Pb	²⁰⁷ Pb/ ²⁰⁴ Pb	²⁰⁸ Pb/ ²⁰⁴ Pb
湖州六花鏡	B11601	0.8561	2.1172	18.298	15.664	38.740

表 2 中国南東部鉱山の鉛同位体比(馬淵・平尾、1987;馬淵、2011)

省	鉱山	²⁰⁷ Pb/ ²⁰⁶ Pb	²⁰⁸ Pb/ ²⁰⁶ Pb	²⁰⁶ Pb/ ²⁰⁴ Pb	²⁰⁷ Pb/ ²⁰⁴ Pb	²⁰⁸ Pb/ ²⁰⁴ Pb
山東省	福山	0.8526	2.1082	18.281	15.586	38.540
河南省	桐柏	0.8662	2.1278	17.934	15.534	38.160
浙江省	五部	0.8516	2.1110	18.388	15.659	38.817
浙江省	五部	0.8513	2.1119	18.408	15.671	38.876
浙江省	黄岩五部	0.8516	2.1119	18.407	15.675	38.874
浙江省	黄岩五部	0.8516	2.1121	18.410	15.678	38.884
江西省	漂塘	0.8421	2.0894	18.694	15.742	39.059
湖南省	水口山	0.8496	2.0989	18.412	15.643	38.645
湖南省	水口山	0.8481	2.0960	18.504	15.693	38.784
湖南省	水口山	0.8473	2.0937	18.493	15.669	38.719
湖南省	東坡	0.8458	2.0938	18.567	15.704	38.876
湖南省	黄沙坪	0.8471	2.0985	18.540	15.705	38.906
湖南省	宝山	0.8442	2.0945	18.614	15.714	38.987
湖南省	瑪瑙山	0.8467	2.0970	18.571	15.724	38.943
湖南省	桃林	0.8627	2.1340	18.142	15.651	38.715
湖南省	桃林	0.8626	2.1327	18.139	15.647	38.685

自然科学分析調査報告書

長崎県教育庁新幹線文化財調査事務所 竹松遺跡 (TAK201202調査区)

株式会社 古環境研究所

Ⅲ. リン・カルシウム分析

1. はじめに

土壌中に含まれるリンやカルシウムの起源としては、土壌の母材、動物遺体、植物遺体などがあり、遺跡の生活面や遺構内には遺体、排泄物、代謝物、食物残渣、燃料灰などに由来するリンやカルシウムが蓄積している。人骨など動物の骨はリン酸カルシウムが主成分であるが、貝殻や石灰石は炭酸カルシウムが主成分であり、リンはほとんど含まれていない。カルシウムは一般に水に溶解しやすいが、リンは土壌中の鉄やアルミニウムと強く結合して難溶性の化合物となるため、土壌中における保存性が高い(竹追、1993)。このようなリンやカルシウムの性質を利用して、墓状遺構などにおける生物遺体(人骨など)の確認および生活面や遺構面の確認などが試みられている。

2. 試料

分析試料は、以下に示すNo.12とNo.13の2点である。

No.12: ①-8054 ST1 (完形の白磁碗が出土しており墓と思われる)

No.13: ①-8054 (No.12の比較試料)

3. 分析方法

エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置 (XGT-5000Type II) を用いて、元素の同定およびファンダメンタルパラメータ法 (FP法) による定量分析を行った。試料の処理法は次のとおりである。

- 1) 試料を絶乾 (105℃・24時間)
- 2) 試料を粉砕して塩化ビニール製リング枠に入れ、圧力20t/cmでプレスして錠剤試料を作成
- 3) 測定時間500秒、照射径100 μm、電圧50kV、試料室内真空の条件で測定

今回の分析では、まず元素マッピング分析による元素の分布図からリン (P) の輝度の高い箇所を選び、各試料ごとに5ポイント (a~e) についてポイント分析を行った。

4. 分析結果

表 2 に蛍光 X 線分析結果、図 1 にリン(P_2O_5)とカルシウム(CaO)の含量、写真図版に元素マッピング図とポイント分析の箇所を示す。定量分析結果は、慣例により代表的な酸化物名で表記した。

5. 考察

一般に、未耕作地の土壌中におけるリン酸含量は0.5%以下であり、耕作地では1.0%程度である。農耕地では施肥による影響が大きく、目的とする試料の分析結果のみから遺構・遺物内における生物遺体の存在を確認するのは困難である。このため、比較試料(遺物・遺構外の試料)との対比を行う必要がある。

分析の結果、No.12ではリン (P_2O_5) の含量が1.0%を超えるポイントが多く認められた。とくにポイントa ではリンの含量が17.5%とかなり高い値であり、カルシウム (CaO) の含量も19.6%とかなり高い値である。 No.13 (比較試料) でもリンの含量が1.0%を超えるポイントが多く認められたが、リン含量の最大値はポイントcの7.1%、カルシウム含量の最大値はポイントcの6.9%であり、No.12のポイントaよりも明らかに低くなっている。

人骨などの動物の骨は、主成分がリン酸カルシウムであり、リンに対するカルシウムの割合は約2.0である

が、No.12のポイントaではこの値が約1.1と比較的低くなっている。カルシウムは一般に溶解性が大きいことから(竹追、1993)、土壌中で拡散・移動した可能性も考えられる。

以上のことから、 $N_0.12$ (①-8054 SK15)については、リンやカルシウムを多く含む人骨などの生物遺体が存在していた可能性が高いと考えられる。また、 $N_0.13$ (比較試料)でもリン・カルシウムの含量が比較的高い箇所が認められることから、その由来についても注目する必要があると考えられる。

墓遺構や貯蔵穴の分析では、リンやカルシウムの分布が平面的および層位的に大きく偏る傾向があることから、生物遺体等が存在したと思われる部分を中心に、より多くの試料について検討を行うことが望まれる。

文献

竹追 紘(1993) リン分析法. 第四紀試料分析法 2, 研究対象別分析法. 日本第四紀学会編. 東京大学出版会, p. 38-45.

藤根久・佐々木由香・中村賢太郎 (2008) 蛍光 X 線装置を用いた元素マッピングによるリン・カルシウム分析. 日本文化財科学会第25回大会研究発表要旨集, p. 108-109.

表2 竹松遺跡における蛍光X線分析結果単位:wt%

試料No.		MgO	$A1_{2}0_{3}$	SiO_2	P_2O_5	SO ₃	K_20	Ca0	$Ti0_2$	MnO_2	Fe_20_3	Rb_20	$_{ m Sr0}$	Y_2O_3	$Zr0_2$
	а	0.12	13.83	41.96	17.45	0.12	1.20	19, 59	0.70	0.07	4.86	0.01	0.04	0.02	0.04
	P	0.85	19.30	63.75	08.0	0.30	1.97	2. 29	0.86	0.09	9.68	0.02	0.04	0.01	0.04
12	၁	0.85	16.52	63. 73	4.94	0.21	1.20	7.51	0.78	0.03	4.15	0.01	0.03	0.01	0.03
	р	0.85	19.65	62.84	3.80	0.24	2.16	5.01	96 .0	0.04	4.35	0.01	0.04	0.01	0.04
•	ө	2. 22	17.82	53.12	1.04	0.26	0.94	1.46	0.99	0.83	21. 22	0.01	0.04	0.01	0.04
	а	0.04	18.49	65.70	1.96	0.16	1.84	2.57	1.00	0.05	8.08	0.02	0.03	0.01	0.04
	q	0.50	18.72	58.24	5.44	0.23	1.47	5.40	0.93	0.27	8. 71	0.01	0.04	0.01	0.04
13	ပ	0.00	20.11	56. 22	7.12	0.26	1.31	6.92	1.01	0.22	6.71	0.02	0.04	0.01	0.06
	p	0.76	20.81	61.71	0.74	0.23	1.34	1.81	1.91	0.18	10.40	0.01	0.04	0.01	0.04
	Ф	0.76	19.08	60.94	5.06	0.15	1.14	4.88	1.30	0.09	6.51	0.02	0.02	00.00	0.04

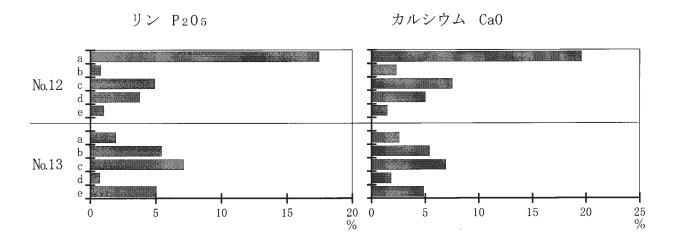
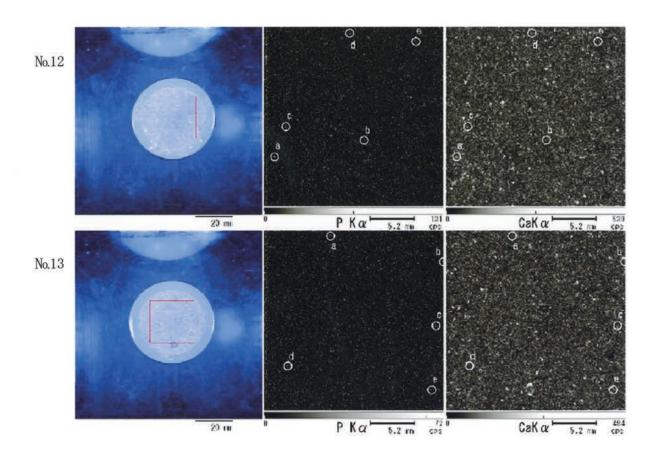


図1 竹松遺跡におけるリン・カルシウム含量



プレス試料と元素マッピング図およびポイント分析箇所

竹松遺跡出土湖州六花鏡 鏡面の分析

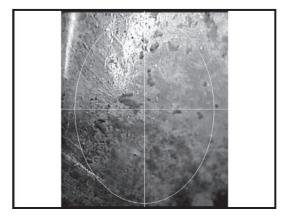
長崎県埋蔵文化財センター 片多雅樹

竹松遺跡出土『湖州六花鏡』

[測定条件]

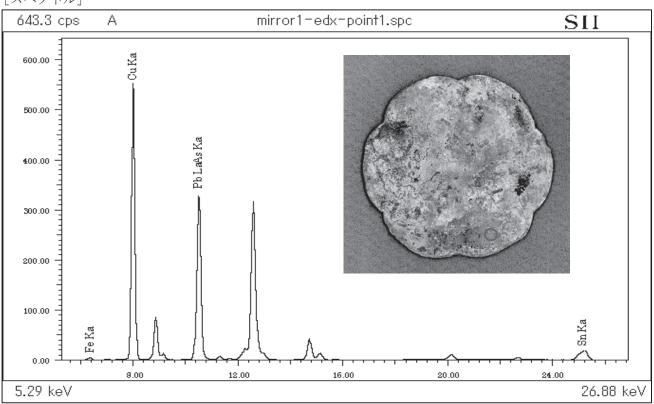
Service Lightly Feet	GE 1 1 2 0 0 1 1 1 1
測定装置	SEA1200VX
測定時間 (秒)	100
有効時間(秒)	68
試料室雰囲気	大気
コリメータ	φ 8.0mm
励起電圧(kV)	50
管電流 (μ A)	77
フィルタ	Pb用
マイラー	カバー
ピーキングタイム	8.0usec
コメント	

[試料像]



視野: [X Y]15.00 11.00 (mm)

[スペクトル]



[結果]

Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	ROI(keV)
26	Fe	鉄	Кα	43.117	6.25- 6.55
29	Cu	銅	Кα	4526.206	7.87- 8.21
33	As	ヒ素	Кα	3171.775	10.35-10.72
50	Sn	スズ	Кα	351.604	24.93-25.46
82	Pb	鉛	Lα	3171.456	10.36-10.73

図 版



写真 1 掘削前の草刈作業



写真 2 掘削作業①



写真3 掘削作業②



写真 4 掘削作業③



写真 5 掘削作業④



写真6 掘削作業⑤



写真7 遺構検出作業①



写真8 遺構検出作業②



写真9 遺構検出作業③



写真10 遺構掘削作業



写真11 調査員による出土遺物 の説明①



写真12 調査員による検出遺構 の説明②

TAK201208調査区 作業風景



写真13 重機による表土剥ぎ



写真14 調査風景(遠景)



写真15 掘削作業①



写真16 掘削作業②



写真17 トレンチ掘削作業



写真18 掘削作業③



写真19 掘削作業④



写真20 遺構掘削作業①



写真21 遺構掘削作業②



写真22 鏡取り上げ作業

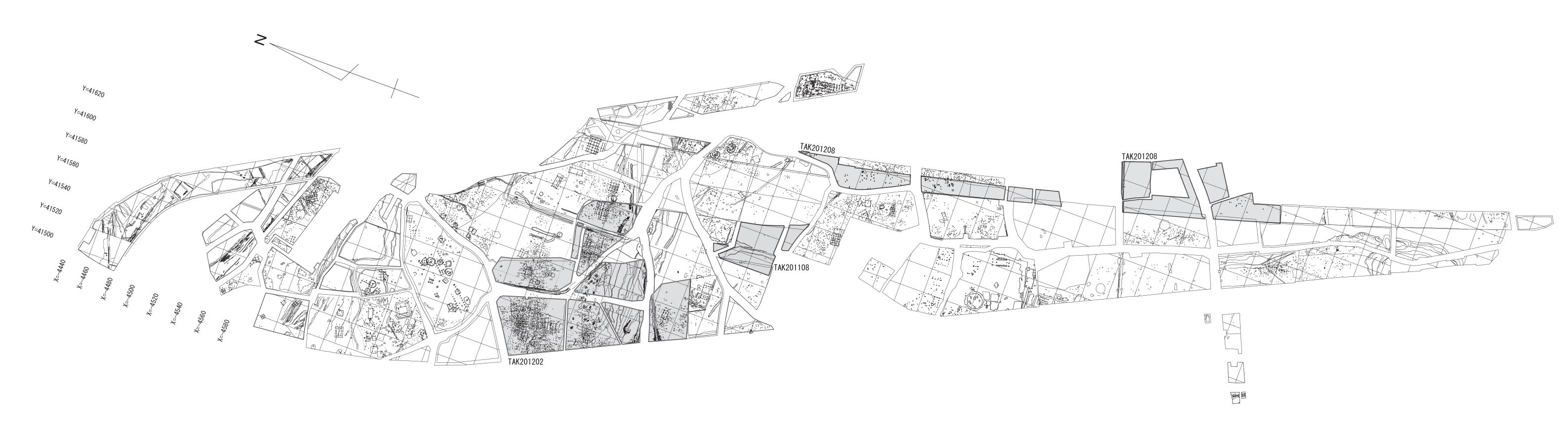


写真23 小学生の体験発掘



写真24 小学生の調査見学

TAK201202調査区 作業風景



報告書抄録

ふりがな	たけまっ	ついせき	に							
書 名	竹松遺	跡Ⅱ								
副書名	九州新	幹線西九	州ルー	ト(長	崎ルー	ート)建	設に伴う埋蔵	(文化)	財発掘	調査報告書
巻次	V									
シリーズ名	新幹線	文化財調	查事務	折調査	報告	書				
シリーズ番号	第5集									
編著者名	川畑敏	則・中川	潤次・「	中尾篤	志・言	古門雅高	·杉原敦史·	浦田和	和彦・	堀内和宏
編集機関	長崎県	教育委員	会							
所 在 地	₹850-8	8570 長	崎県長崎	崎市江	戸町	2番13号	TEL095-82	4-1111	L	
発行年月	西暦20	17年11月	30日							
が収遺跡名	かがな	コ	ード		北緯	東経	調査期間	調査	面積	調査原因
		市町村	遺跡番	号	0 / //	0 / //			m²	
たけまついせき 竹松遺跡	長崎県	42205	086	;	32°	129°	20120518~	16, 3	300 m²	九州新幹線
	大村市				57′	56'	20170315			西九州ルー
	竹松町				15"	45''				ト(長崎ル
	1021番	021番								ート)に係
	地他									る車両基地、
										路線建設
所収遺跡名	種別	主な明		主	な遺標	生 与 ———————————————————————————————————	主な遺物		牛	持記事項
竹松遺跡	包含地	縄文早	·期 				縄文土器・石	5器		
		76 / 1. ///	#11 7	L-1-						
		弥生後	:期 石/	棺墓						
		古墳	土	片			管玉			
		口垻	 	りし						
		古代	竪	穴建物	跡					
				- 1.4						
		古代末	:~ 据:	立柱建	物跡					
		中世	鍛	冶遺構	、柵 夠	列				
			集	石遺構	i.					

新幹線文化財調査事務所調査報告書 第5集 九州新幹線西九州ルート (長崎ルート) 建設に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書V

竹 松 遺 跡 Ⅱ

平成29(2017)年11月発行

発行者 長崎県教育委員会

〒850-8570 長崎市江戸町2番13号

TEL 0 9 5 - 8 2 4 - 1 1 1 1

印刷所 株式会社 つじ印刷

長崎県大村市荒平町1472-1

 $\mathtt{TEL} \; 0 \; 9 \; 5 \; 7 - 5 \; 2 - 3 \; 2 \; 3 \; 0$